

第2編 上原Ⅲ遺跡

第1章 既往の調査

これまで上原Ⅲ遺跡では、今回の土地改良事業に伴う発掘調査を行なうに当たり発掘調査範囲を確定するための試掘調査が実施されたのみであり、本調査は今回が最初の発掘調査事例である。試掘調査の結果、平安時代の土坑や遺物包含層、羽口・鉄滓といった製鉄関連の遺物が確認され、土地改良事業予定地の削平される箇所で本調査が行なわれることとなった。土地改良事業予定地内を高原道路予定地が東西方向に横断しており、その予定地が別事業による発掘調査予定地となっている。既往の調査ではないが、西側約1／3が事業団によって平成25年度に発掘調査が実施され、東側約2／3が平成27年度以降に発掘調査予定となっている。

第2章 調査の経過

上原Ⅲ遺跡の発掘調査は、平成23年5月20日から開始し、同年10月6日に終了した。5月20日、発掘調査地点の地権者に発掘調査開始の挨拶に伺った。5月24日、発掘調査地内に伐採した杉などの切株が残っていたため、抜根作業を行なった。5月27日、1区調査区から表土（耕作土とそれ以下の土）の掘削作業を開始する。

6月6日、1区調査区の耕作土の掘削が終了し、2区調査区の耕作土掘削を開始する。6月7日、2区調査区の耕作土掘削が終了し、そのまま2区調査区の遺構確認面までの掘削を開始する。6月9日、上原Ⅱ遺跡の表土掘削が終了したので、その重機を使用して1区調査区の遺構確認面までの掘削を開始する。6月20日、2区調査区の遺構確認面までの掘削が終了した。6月24日、1区調査区の遺構確認面までの掘削が終了した。6月27日、1区調査区の遺構確認作業を開始する。

7月11日、2区調査区の遺構精査を優先させるため1区調査区の遺構確認作業を中断し、2区調査区の遺構確認作業を開始する。7月15日、2区調査区の表土掘削が不十分であったため重機による表土掘削を再度行った。7月16日、中断していた1区調査区の遺構確認作業を再開する。7月26日、2区調査区の表土再掘削が終了し、遺構精査を開始する。7月28日、1区調査区東部で重機による表土再掘削を開始する。

8月1日、1区調査区の表土再掘削が終了した。8月4日、1区調査区の遺構確認作業が終了し、竪穴住居跡の精査を開始する。8月19日、SI12（鍛冶工房跡）の遺構精査を開始する。

9月5日、1区調査区の土坑の精査を開始する。9月10日、地元住民を対象とした現地説明会を上原Ⅱ遺跡と合わせて開催した。9月28日、空中写真撮影を行なう。

10月6日、発掘調査が終了し、調査道具などの撤収作業を行う。10月7日、発掘調査地点の引き渡しについて協議を行なった。

平成24年4月、調査区際で法面を残していた場所の遺構にかかる部分について、追加調査を実施した。

第3章 基本層序

今回の発掘調査の基本層序は、第73～80図のA地点、B地点の2か所で確認した。A地点は1区調査区西壁南端部の土層である。B地点は2区調査区東壁北端部の土層である。全部で四層あり、細分される層もある。

第I層 黒褐色土

表土である。粘性は弱く、しまりはある。礫（φ3～5cm）を多く含んでいる。試掘調査44～50トレンチの1層に相当する（長野原教育委員会2008、以下同じ）。

第II層 黒色土

粘性はややあり、しまりはあるところと弱いところがある。白色粒・礫（φ3cm）を微量含む。やや灰色味を帯びており、試掘調査48トレンチの2層を細分したものである。



第71図 調査区位置図(1/2,500)

704.0m → ——————
693.0m → ——————

第Ⅱ₁層 黒色土

粘性は弱く、しまりはある。白色粒・礫（拳大）を微量含む。試掘調査44～48トレンチの2層を細分したものである。

第Ⅱ₂層 黒褐色土

粘性は弱く、しまりはある。白色粒・橙色粒を微量含む。試掘調査44～48トレンチの2層を細分したものである。

第Ⅱ₃層 黒色土

粘性は弱く、しまりはある。白色粒を少量含む。試掘調査44～48トレンチの2層を細分したものである。

第Ⅲ₁層 黒色土

粘性はあるが、弱い場所もある。しまりはある。白色粒少量含み、白色粒（φ5mm）・礫（φ1cm）・橙色粒を微量含む。この層の上面で遺構を確認した。試掘調査45～48トレンチ3層、49・50トレンチ2層に相当し、それを細分したものである。

第Ⅲ₂層 黒色土

粘性・しまりともある。白色粒・橙色粒（φ3mm）を少量含み、白色粒（φ1cm）・礫（φ3cm）を微量含む。試掘調査45～48トレンチ3層、49・50トレンチ2層に相当し、それを細分したものである。

第Ⅲ₃層 黒色土

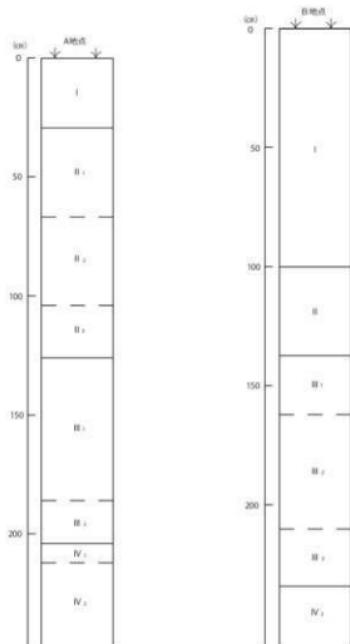
粘性はややあり、しまりはある。礫（拳大）を少量含み、白色粒（φ5mm）・礫（人頭大）・橙色粒を微量含む。試掘調査45～48トレンチ3層、49・50トレンチ2層に相当し、それを細分したものである。

第Ⅳ₁層 褐色土

いわゆる関東ローム層である。粘性は弱く、しまりはある。礫（φ3cm）を微量含む。

第Ⅳ₂層 黄褐色土

いわゆる関東ローム層である。粘性は弱く、しまりはある。礫（拳大・φ1cm）を少量含む。

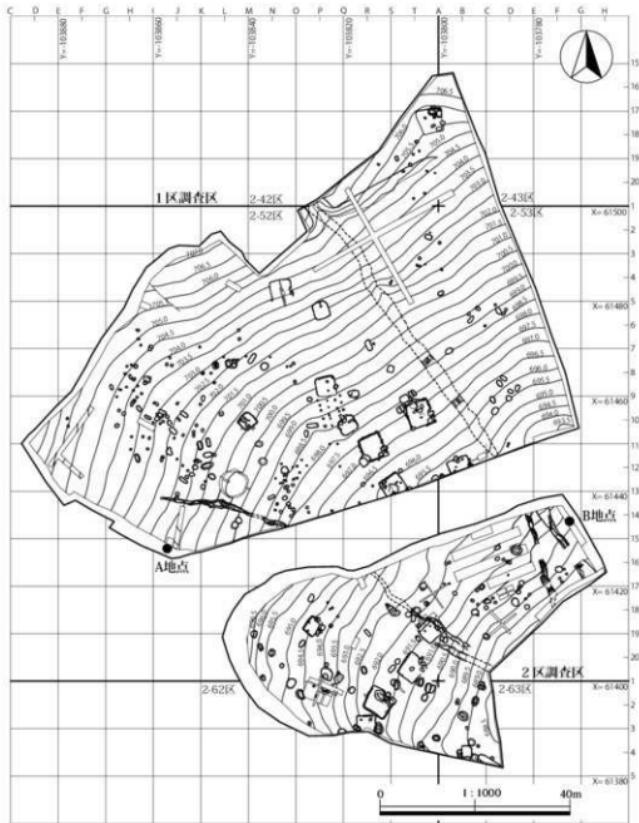


第72図 基本土層柱状図(1/20)

第4章 検出された遺構と遺物

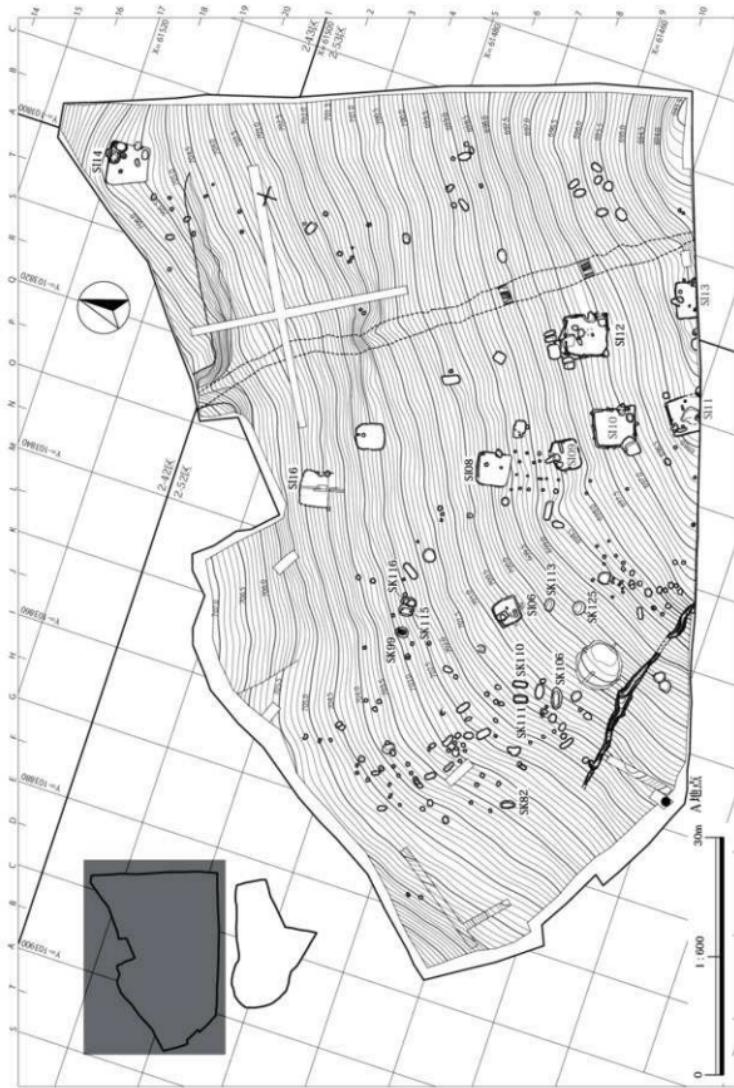
第1節 遺跡の概要

上原Ⅲ遺跡は、群馬県吾妻郡長野原町大字林字上原に所在する平安時代の集落跡を主体とした複合遺跡である。吾妻川左岸の最上位段丘面上に立地している。この最上位段丘面はほぼ三角形状を呈しているが、北西辺のほぼ中央が約300×250mの方形状に張り出しており、本遺跡はこの張り出し部に位置している。張り出し部のほぼ中央を王城山から流れる押手沢が南流し、沢の西側が本遺跡、東側が上原Ⅱ遺跡である。本遺跡の西側・北側は王城山山麓が間近に迫り、東側は押手沢が流れている。南側は傾斜がきつくなり、一段低い平坦



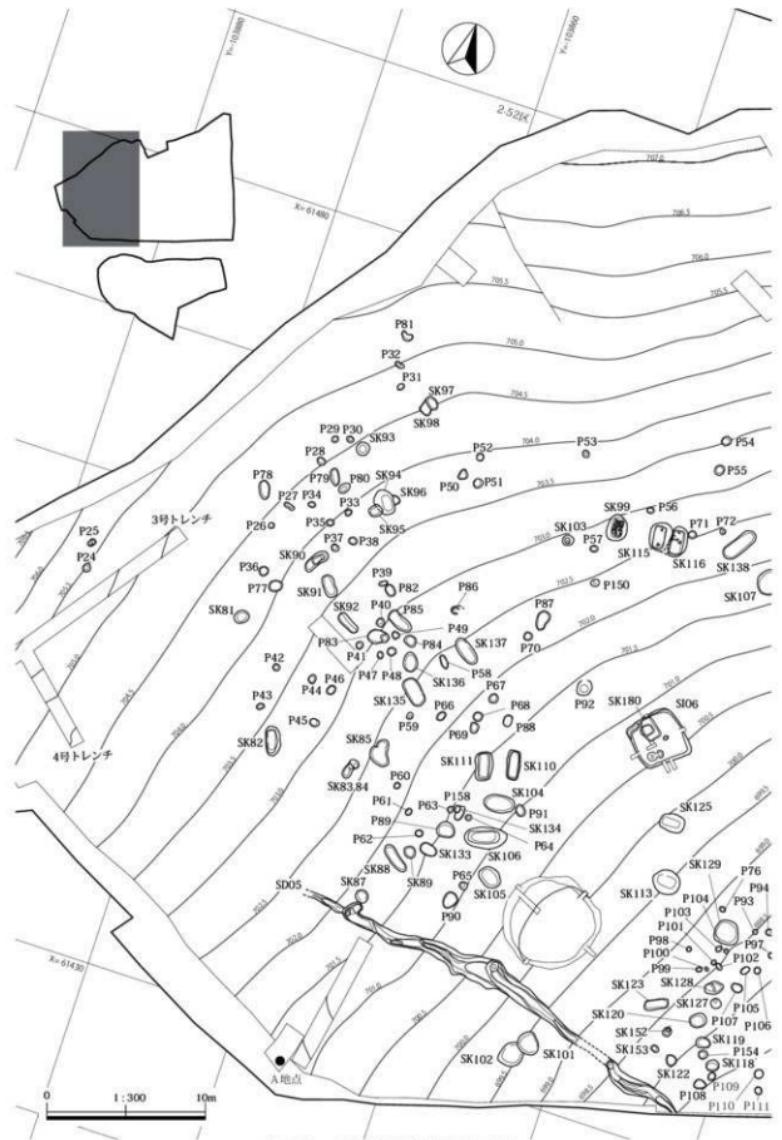
第73図 調査区全体図(1/1,000)

第74图 1区调查区全图(1:600)

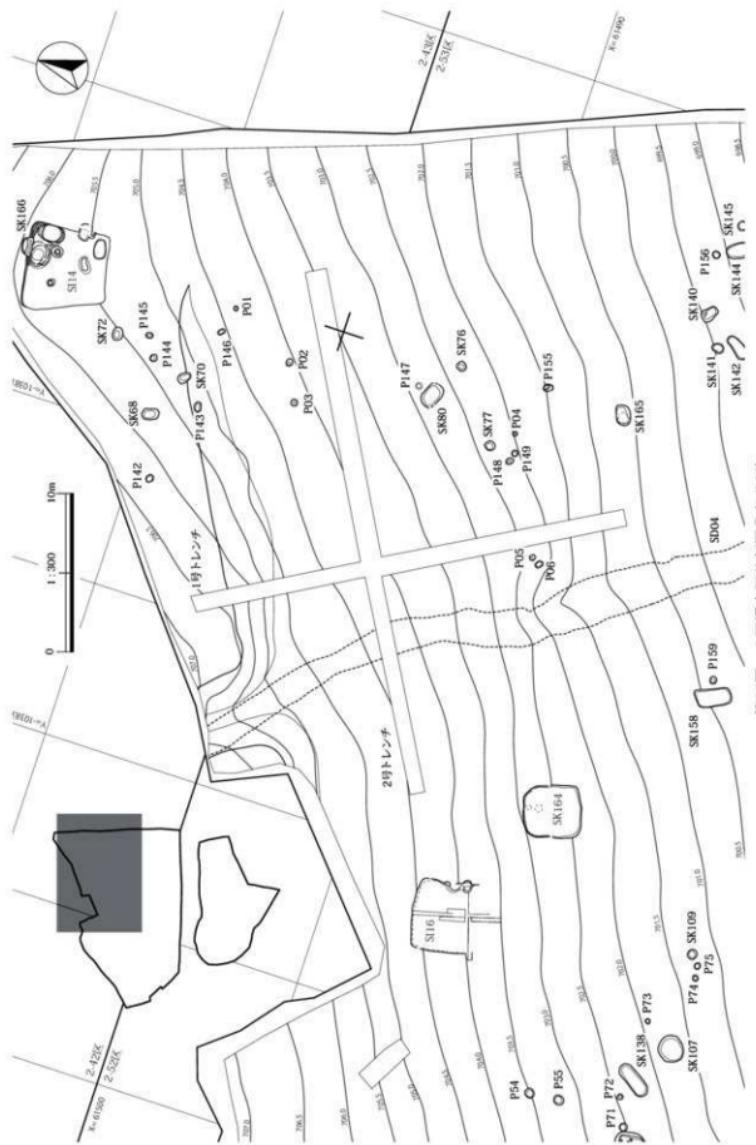


第75图 2区调查区全体图(1/600)

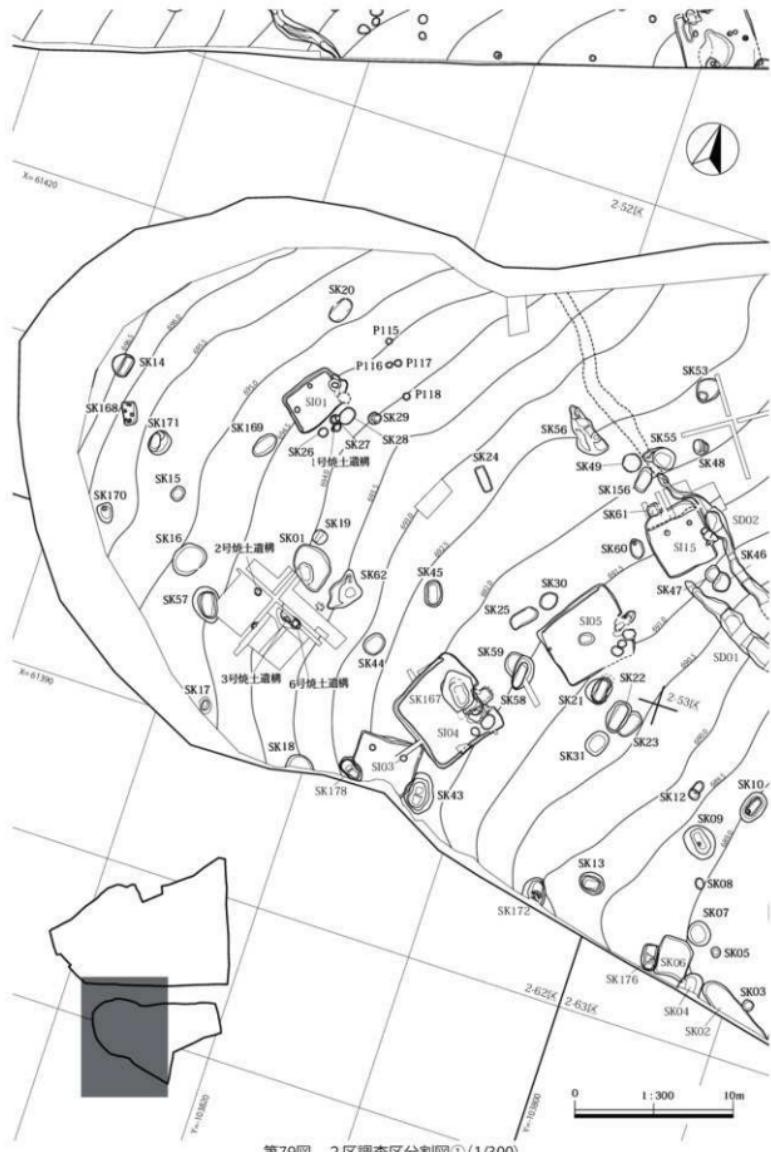


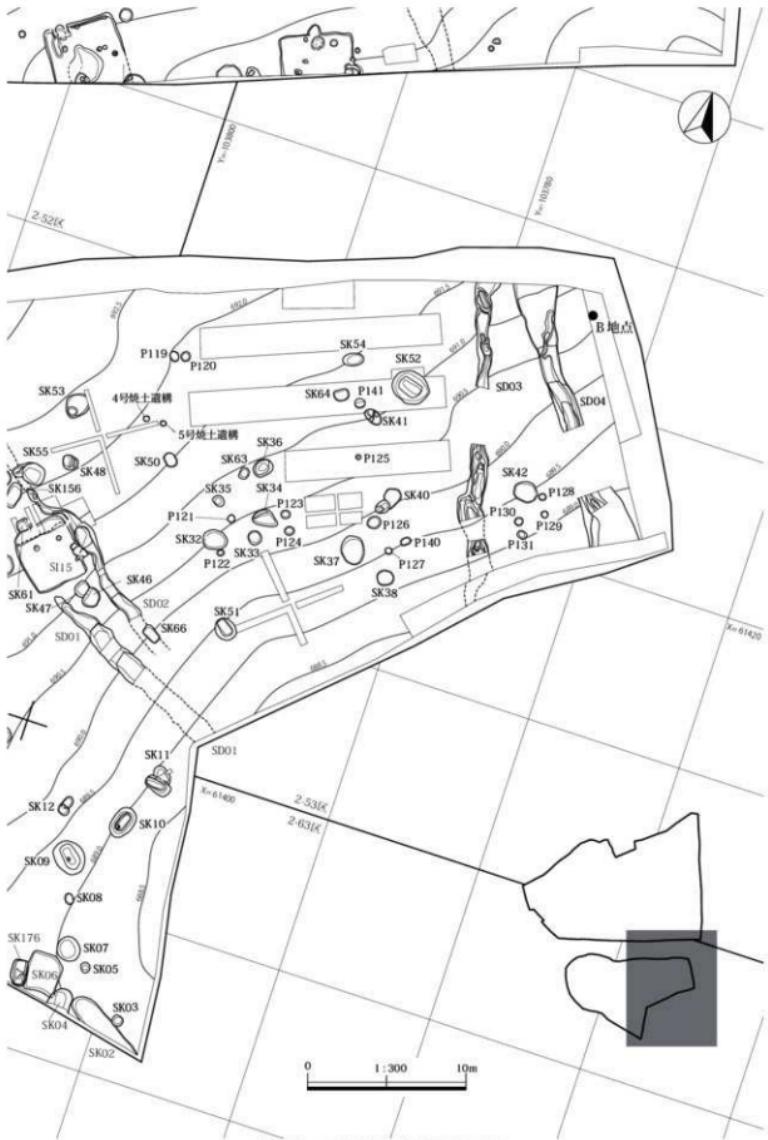


第76図 1区調査区分割図①(1/300)



第77图 1区調査区分割図②(1/300)





第80図 2区調査区分割図②(1/300)

面へ至る。現況は畠地の休耕地である。北西から南東方向に向かって低くなる傾斜地で、標高は 688.5 m～707.0 m である。

今回の発掘調査は上原Ⅲ遺跡の第 1 次調査にあたる。調査範囲は遺跡範囲の西側約 2/3 に位置し、大字林字上原 1266 外 15 筆に所在する。発掘調査範囲の中央やや南よりに東北東～西南西方向に走る高原道路建設予定地がある。高原道路予定地は別事業で発掘調査が行われることになっており、今回の発掘調査範囲からは除外されている。そのため、発掘調査地は高原道路予定地の北側と南側の 2 か所に分かれ、北側を 1 区調査区、南側を 2 区調査区とした。1 区調査区・2 区調査区ともに東西両側ではローム層が確認されたが、中央部で何か所か深掘りを入れてみたところローム層は確認できなかった。このことから、発掘調査区の東西ほぼ中央部に埋没谷があることが確認された。

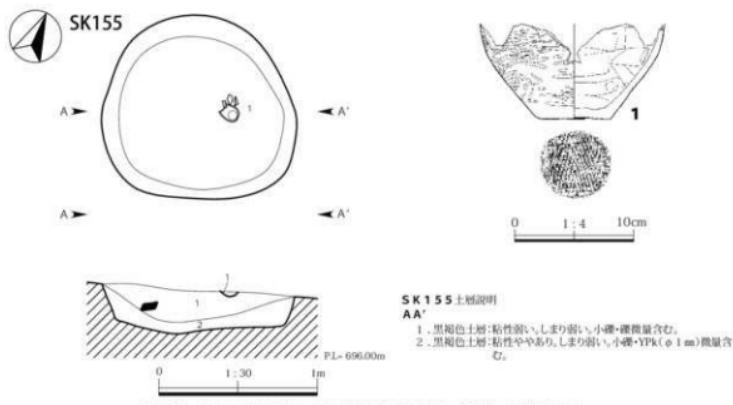
今回の発掘調査で確認された遺構は、弥生時代の土坑 1 基、平安時代の鍛冶工房跡 1 軒、竪穴住居跡 13 軒、竪穴状遺構 1 軒、焼土遺構 6 基、陥し穴 29 基、土坑 11 基、近世の溝跡（流路跡）5 条、土壤墓 1 基、時期不明の土坑 116 基、ピット 154 基である。それ以外に S102・07、P 132～135 は竪穴住居跡・ピットと想定し調査を行なったが、遺構ではないと判断したため欠番とした。SK39・65・67・69・71・73～75・78・79・100・121・124・126・131・139・143・147・157・159・161 は土坑として調査を行なったが、整理調査を行なった結果ピットと判断し遺構名を振り替えたため欠番とした。出土した遺物の種類は、繩文土器、弥生土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、陶磁器、鍛冶関連遺物、鉄製品、古錢、石器で、その数量はテンバコで 26 箱分であった。

第 2 節 弥生時代の遺構と遺物

（1）土坑

SK155（第 81 図／PL 21・35）

位置 2-53 区 C-9 グリッド（1 区調査区南東部）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸 122cm、短軸 117cm、確認面からの深さ 23cm を測る。**主軸方位** N-65°-E。**壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 中央に向かって緩やかに傾斜する。**遺物** 上層から弥生土器が出土している。**備考** 上層からではあるが出土した遺物から、本遺構の帰属時期は弥生時代中期と考えられる。



第3節 平安時代の遺構と遺物

(1) 錫冶工房跡

SI12 (第82~98図/P.L.22・35・36)

位置 2-52区S・T-9・10グリッド(1区調査区中央部南側)。重複関係なし。遺存状態 北壁の一部が近世以降と考えられるヤックラに壊されているものの、概ね良好である。**覆土** 黒色土が基調で、鍛造剥片を多量に含む、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は北壁の一部が壊されているが、隅丸方形を呈する。主軸は5.62m、副軸は5.98m、確認面からの深さは最深37cm、床面積は25.60m²を測る。**主軸方位** N-89°-E **壁・壁溝** 壁高は東・西壁で37~45cm、北壁で40cmを測り、ほぼ垂直に立ち上がる。南壁は残存していない。壁溝は全ての壁面で確認されたが、全周はしていない。溝幅は12~21cm、床面からの深さは7cmを測る。**床面** 直床式であるが、貼床や踏み織りは確認されなかった。**柱穴** P1~P15まで確認され、P14・P15は掘り方で確認された。平面形はP1・P2・P4・P5が梢円形を呈し、その他は小型の円形を主体とする。P6~P13は壁際に位置し、深さもあることから壁柱穴と考えられる。それぞれの規模は第11表に記載する。

カマド 東壁のほぼ中 第11表 SI12ビット計測表

央に位置し、遺存状態は良好である。全長は139cm、最大幅は167cmを測る。

火床面は18cm掘り込まれ、焼土部分は12cmの厚さを有する。地山の黒色土で外形を造り、支持材に自然石、

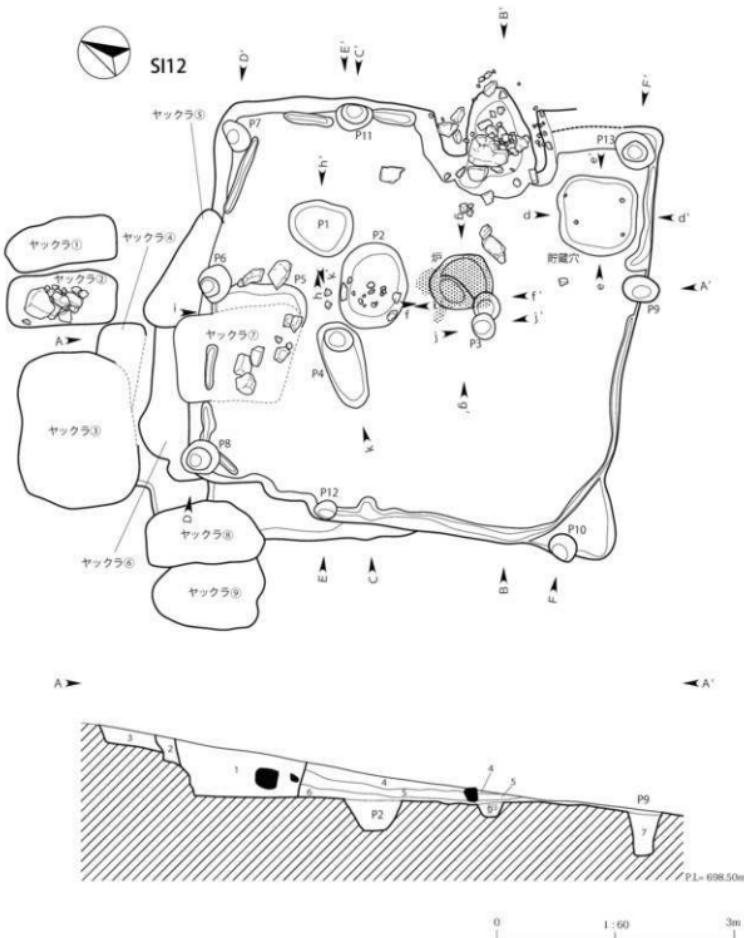
切石の両方が使用されていた。**その他の施設** 南東隅部で貯蔵穴1基が確認された。平面形は隅丸方形を呈し、規模は長軸101cm、短軸100cm、床面からの深さは21cmを測る。

遺物検出状況 中央部の床面から浮いた位置で多く出土しているが、第93図6はP13覆土から出土した。本遺構の埋没過程に堆積したものと考えられる。また、鍛冶の燃料として使用されたと考えられる炭化物が少量出土した。第87図1で樹種同定分析、放射性炭素年代測定分析を行なった(第8編自然科学分析)。

遺物 出土遺物のうち、土師器4点、須恵器23点、灰釉陶器1点を図示し得た。その内12点が墨書き土器であるほか、土師器では小型のクロコ彫が出土している。

鍛冶関連遺構 本遺構は、当初竪穴住居跡を想定して調査を開始したが、覆土中から鉄滓類が多数出土したため注意していた所、鍛造剥片が見つかったため鍛冶に伴う遺構と判断した。設定していた土層観察ベルトを基準に50cm四方のグリッドを設定し、カマドを正面に見て南北方向に北からA~L、東西方向に東から1~14に振り分け、交差するマスをA-1、B-2グリッドなどと呼称した。点あげを行わなかつた鍛冶関連遺物及び土器類はグリッド毎に取り上げを行なった。また、床上5cmの堆積土はグリッド毎に採取し、覆土中の粒状滓・鍛造剥片などの微細遺物の抽出作業および計量・統計処理を行なった(第90~92図)。粒状滓・鍛造剥片とともに4mm以下の小型のものは竪穴のほぼ全域に分布し、4.1mm以上の大型のものは竪穴の中央付近北寄りに分布している状況が確認された。竪穴のほぼ中央部の床面で、鍛冶炉の痕跡が確認された。皿状に掘り込んだところをぶい黄褐色土で埋めており、被熱によりわずかに橙色に変色していた。被熱による変色が弱いことから、ぶい黄褐色土の上にさらに粘土を盛って鍛冶炉を構築し、操業終了後に炉を壊していく可能性が考えられる。鍛冶炉跡の北側にP2があり、底面付近から楕円形鍛冶滓や鉄塊系遺物、粘土質溶解物が出土している。工房の廃絶時に投棄されたものであろうか。鍛冶炉の南東側には金床と考えられる石がある。四角柱状の切石で、4面が被熱していると見られる。出土時に上面が傾いていたため原位置から動いている可能性がある。

鍛冶関連遺物 本遺構から出土した鍛冶関連遺物は、羽口・楕円形鍛冶滓・鍛冶滓・粘土



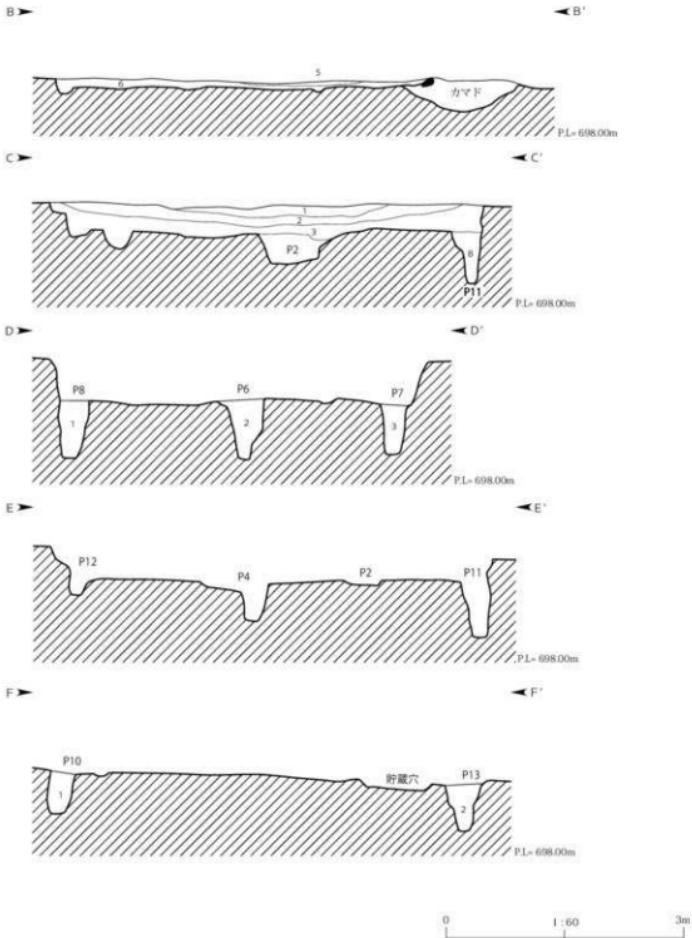
SI12 土層説明

AA'-BB'-CC'

1. 黒褐色土層・粘性弱い・しまりあり・礫(人頭大・拳大)・白色粒(φ 5mm)・少量含む・礫(φ 3cm)・白色粒・YPk粒微量含む。(ヤックラ⑦)
2. 黒褐色土層・粘性弱い・しまりあり・礫(φ 1cm)・白色粒(φ 1cm)・YPk粒微量含む。(ヤックラ⑥)
3. 黒褐色土層・粘性弱い・しまりあり・白色粒(φ 5mm)・少量含む・礫(φ 1cm)・YPk粒微量含む。(ヤックラ④)
4. 黒色土層・粘性弱い・しまりあり・白色粒(φ 5mm)・YPk粒微量含む。(ヤックラ⑤)
5. 黑褐色土層・粘性弱い・しまりあり・白色粒(φ 5mm)・白色粒(φ 3cm)・少量含む・白色粒(φ 5mm)・YPk粒・礫(拳大)微量含む。
6. 黑褐色土層・粘性弱い・しまりあり・白色粒(φ 5mm)・YPk粒微量含む・少量化含む・炭化粒(粒・φ 5mm)・白色粒(φ 5mm)・YPk(φ 3mm・拳大)微量含む。(ヤックラ②)

7. 黑褐色土層・粘性やや弱い・しまりあり・炭化粒・白色粒・YPk 微量含む。(P9)
8. 黑褐色土層・粘性やや弱い・しまりやや弱い・礫(φ 3~5cm)・少量含む・粘土粒微量含む。(P11)

第82図 SI12実測図①(1/60)



S112ピット土壤説明

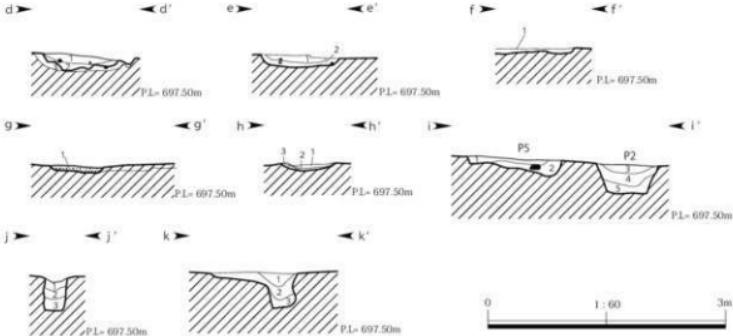
D D' P 6~8

1. 岩褐色土層：粘性あり、しまり弱い、茶褐色土塊($\phi 5\text{ cm}$)少量含む。(P8)
2. 黒褐色土層：粘性あり、しまり弱い、炭化粒($\phi 1\text{ cm}$)・礫($\phi 3\sim 5\text{ cm}$)多量含む、白色粒微量含む。(P6)
3. 黑褐色土層：粘性やあり、しまり弱い、礫($\phi 1\text{ cm}$)少量含む、純土・白色粒微量含む。(P7)

F F' P 10~13

1. 黑褐色土層：粘性弱い、しまりやあり、ロームブロック($\phi 5\text{ mm}$)・炭化粒・白色粒微量含む。(P10)
2. 黑褐色土層：粘性弱い、しまりあり、ロームブロック($\phi 1\text{ cm}$)・純土・炭化粒・白色粒($\phi 5\text{ mm}$)微量含む。(P13)

第83図 S112実測図②(1/60)

**S112 脊縫穴断面図****d-d' e-e'**

- 黒褐色土層: 黏性弱い。しまりあり。炭化物($\phi 5\text{ mm}$)少量含む。ローム粒・堆土・白色粒($\phi 3\text{ mm}$)微量含む。
- 黒褐色土層: 黏性弱い。しまりあり。ローム粒少量含む。白色粒・YPk($\phi 5\text{ mm}$)微量含む。
- 黒褐色土層: 黏性弱い。しまりあり。ロームブロック($\phi 5\text{ cm}$)少量含む。ローム粒・白色粒($\phi 5\text{ mm}$)・YPk($\phi 5\text{ mm}$)微量含む。

S112 g 土層説明**f-f' g-g'**

- ふるく黒褐色土層: 黏性弱い。しまりあり。纏($\phi 1\text{ cm}$)少量含む。西側上面に堆土・白色粒($\phi 5\text{ mm}$ 粒)・YPk粒微量含む。

S112 ピット土層説明**h-h' P1**

- 黒褐色土層: 黏性弱い。しまりあり。ローム粒・堆土・白色粒($\phi 5\text{ mm}$)微量含む。
- 暗褐色土層: 黏性弱い。しまりあり。ローム粒多量含む。ロームブロック($\phi 3\text{ cm}$)少量含む。纏($\phi 3\text{ cm}$)・YPk($\phi 1\text{ cm}$)微量含む。
- 黒褐色土層: 黏性弱い。しまりあり。炭化物($\phi 5\text{ mm}$)・堆土・白色粒($\phi 5\text{ mm}$)微量含む。

3. 黑褐色土層: 黏性弱い。しまりあり。白色粒少量含む。炭化物・白色粒($\phi 5\text{ mm}$)微量含む。

i-i' P2

- 黒褐色土層: 黏性弱い。しまり弱い。堆土粒・白色粒・YPk粒微量含む。
- 黒褐色土層: 黏性弱い。しまり弱い。白色粒多量含む。白色粒($\phi 1\text{ cm}$)・YPk($\phi 1\text{ cm}$)少量含む。(以上P2)
- 黒褐色土層: 黏性弱い。しまり弱い。白色粒少量含む。炭化物・白色粒($\phi 5\text{ mm}$)微量含む。
- 黒褐色土層: 黏性弱い。しまり弱い。堆土・YPk粒・跳躍($\phi 1\text{ cm}$)微量含む。(以上P2)

j-j' P3

- 黒褐色土層: 黏性弱い。しまり弱い。堆土・白色粒($\phi 5\text{ mm}$ 粒)・織造剖面微量含む。
- 黒褐色土層: 黏性弱い。しまり弱い。白色粒($\phi 1\text{ cm}$)・YPk粒微量含む。
- 黒褐色土層: 黏性弱い。しまり弱い。堆土・白色粒($\phi 5\text{ mm}$)微量含む。

k-k' P4

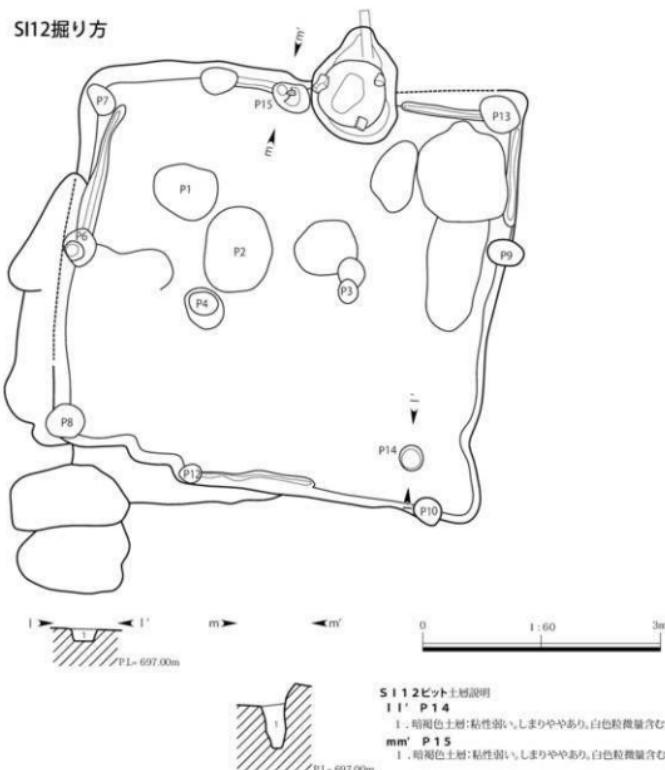
- 黒褐色土層: 黏性弱い。しまり弱い。炭化物($\phi 5\text{ mm}$)少量含む。堆土・白色粒($\phi 1\text{ cm}$)・織造剖面微量含む。
- 黒褐色土層: 黏性弱い。しまり弱い。炭化物($\phi 1\text{ cm}$)・白色粒・YPk粒微量含む。
- 黒褐色土層: 黏性弱い。しまり弱い。堆土・白色粒($\phi 5\text{ mm}$)微量含む。YPk粒ごく微量含む。

第84図 S112実測図①(1/60)

質溶解物・鍛造剥片・粒状津・鉄塊系遺物・鉄製品で、総量は 12963.5 g である。出土した鉄滓類は楔形鍛治滓や鍛治滓などの鍛冶工程で生じるもので、炉内滓や流動滓、炉壁などの製鉄工程で生じるのは見られなかった。楔形鍛治滓は 84 点、5769.6 g 出土した。重さで特大(1001 g 以上)、大(501 ~ 1000 g)、中(251 ~ 500 g)、小(125 ~ 250 g)、極小(125 g 未満)に区分し、その内の 21 点を図示し得、中 1 点、小 2 点、極小 1 点の計 4 点で自然科学分析を行うこととした(第 8 編自然科学分析、以下同じ)。鍛治滓は 12 点、206.0 g 出土したが、図示し得るものはなかった。粘土質溶解物は 33 点、460.2 g 出土し、その内 1 点を図示し得た。鉄塊系遺物は 8 点、260.7 g 出土し、その内 3 点を図示し得、1 点自然科学分析を行うこととした。羽口は全部で 33 点、3954.3 g 出土し、その内の 10 点を図示し得た。いずれも先端部が平坦になっており、水平に近い角度で設置する鍛冶用の羽口と考えられる。表面にはヘラナデといった目立った調整痕は確認されず、ナデ調整であった。第 95 図 32 は基部がラッパ状に広がるもの、同図 35 は頸部に楔形鍛治滓が付着しているものである。同図 36 は両端部が準化したものである。繰り返し使用し、片側からはもうこれ以上使用できなくなつたときに引っくり返して使用したものと考えられる。第 96 図 41 は未成品と考えられる。焼成

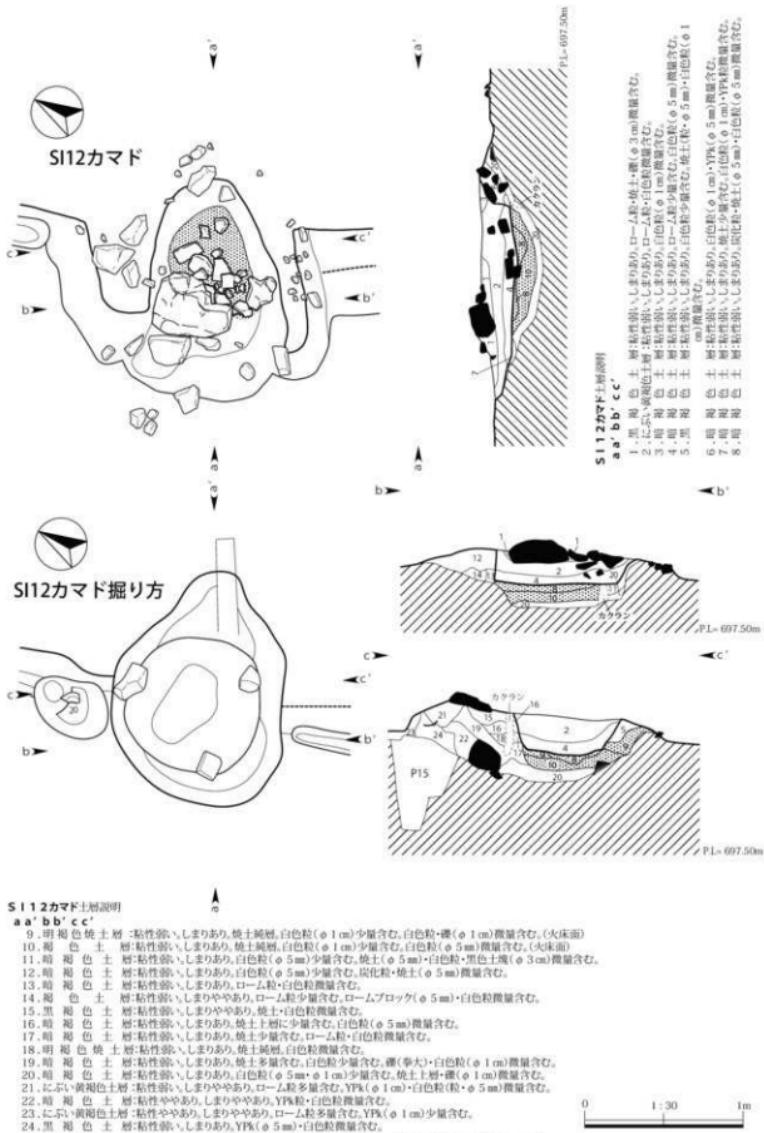


SI12掘り方

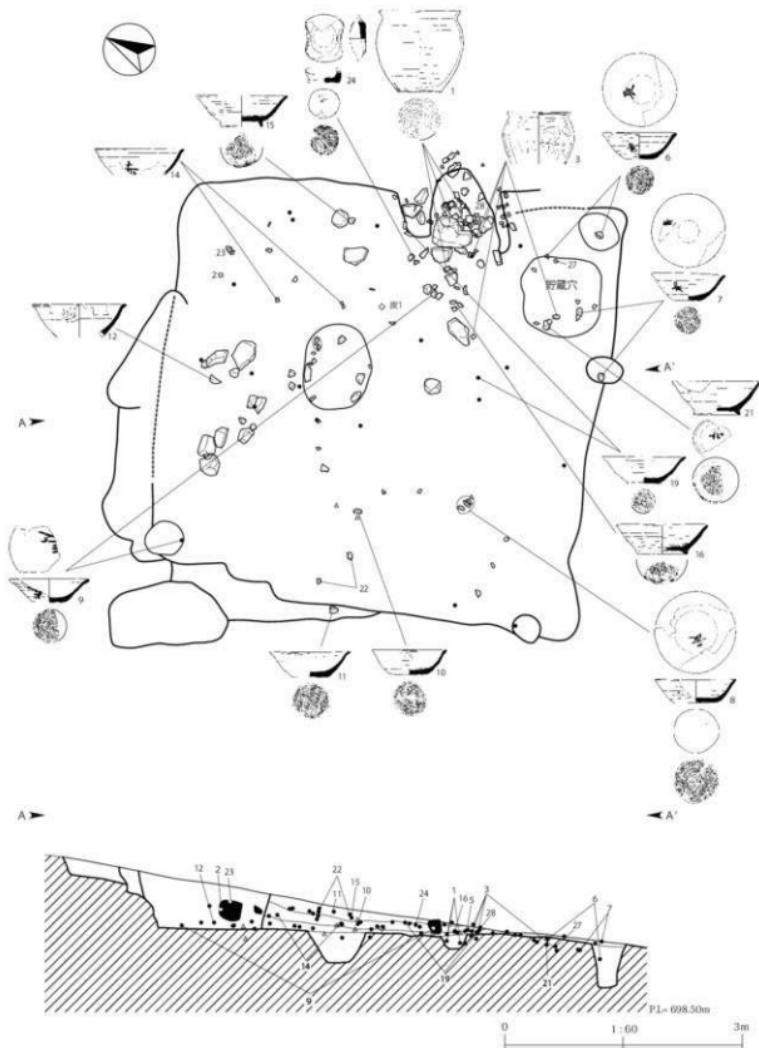


第85図 SI12掘り方実測図(1/60)

を受けていないため非常に脆く、胎土は明黄褐色である。残存状況から、製作工程は粘土で円柱を作り、通風部を割り貫いて作ると考えられる。鉄製品は7点出土し、3点図示し得た。第94図30は鉄製品が溶げて固まつたもののように見える。再加工をしていた可能性が考えられる。 備考 本遺構は、鍛冶炉が確認されたこと、楕円形鍛冶津などの鍛冶関連遺物が出土していることから、カマドを有する鍛冶工房跡と判断した。鍛冶工房跡の窓穴から出土した遺物に製鐵工程で生じる鉄滓類が含まれていないことから、本遺構の近くでは製鐵遺構が存在していないかと考えられ、材料となる鉄は少し離れた場所から持ち込まれたものと考えられる。楕円形鍛冶津を分析した結果、高純度鉄素材から鉄器を製作する鍛錬鍛冶が行なわれていたと想定されたほか、脱炭作業を行なった可能性を示す鉄滓も確認された。鍛冶炉1基に対し羽口や楕円形鍛冶津の出土点数が多いこと、羽口の両端を使用するほど繰り返し使用していたことなどから、長期間にわたって操業された鍛冶工房であったと考えられる。微細遺物が建物跡全域から出土している、羽口や楕円形鍛冶津が多量に出土しているという状況は、操業時に作業の邪魔にならないよう建物の外に捨てていたものが、鍛冶工房が廃絶された後に土砂とともに

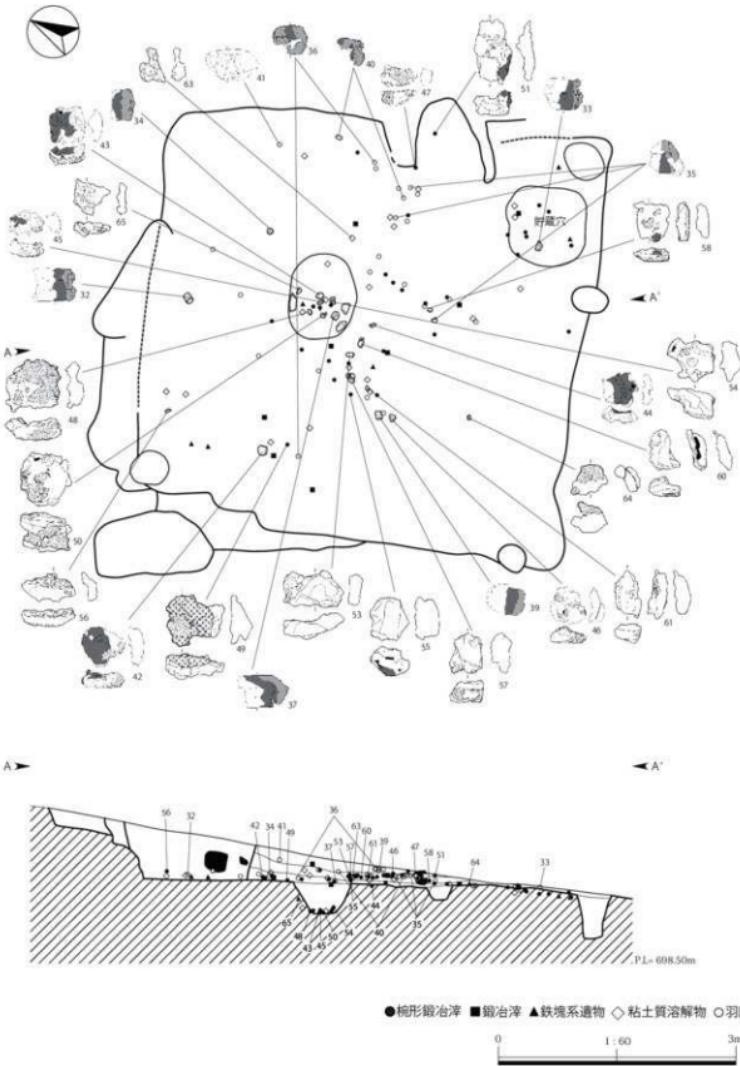


第86図 SI12カマド・カマド掘り方実測図(1/30)



第87図 SI12遺物出土状況図(1/60)

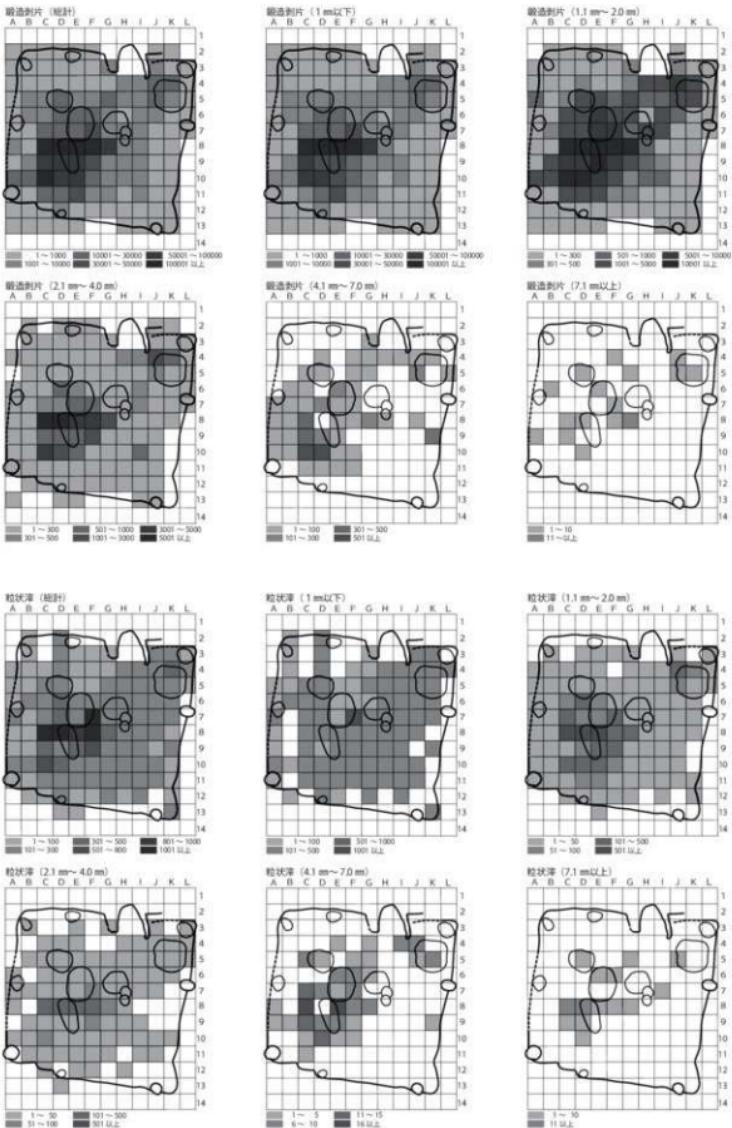
に建物跡に流れ込んだものと考えられる。出土した遺物から、本遺構の帰属時期は9世紀後半～10世紀前半と考えられる。



第88図 SI12鍛冶関連遺物出土状況図(1/60)

		S112 銅冶工房													
		梯形鑄治渾(中)						梯形鑄治渾(小)							
羽 口		梯形鑄治渾(大)			梯形鑄治渾(極小)			梯形鑄治渾(極小)			粘土質溶解物			鐵塊系遺物	
		分析資料4	分析資料3	分析資料2	分析資料1	分析資料4	分析資料3	分析資料2	分析資料1	分析資料4	分析資料3	分析資料2	分析資料1	分析資料8	分析資料7
32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47
39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54
46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61
42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57
分析	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	2
														1	1

第89圖 S112-1 梯形鑄模周邊冶陶遺物構成圖



第90図 SI12出土粒状渦・鋸造削片分布図

出土鍛造剥片・計測値

類	大きさ	総重量	個体数	1個の重量
1	7.1mm以上	28.65 g	287	0.0998 g
2	4.1～7.0mm	165.40 g	3,906	0.0423 g
3	2.1～4.0mm	646.85 g	48,022	0.0135 g
4	1.1～2.0mm	690.00 g	306,667	0.0023 g
5	1.1mm以下	458.85 g	1,390,606	0.0003 g
	合計	1989.75 g	1,749,487	0.0011 g

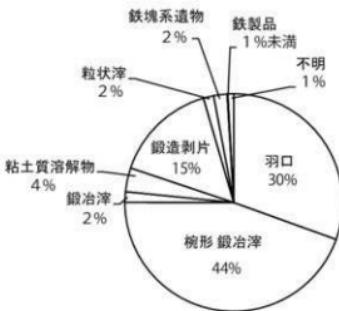
出土粒状滓・計測値

類	大きさ	総重量	個体数	1個の重量
1	7.1mm以上	41.10 g	206	0.1995 g
2	4.1～7.0mm	37.30 g	309	0.1207 g
3	2.1～4.0mm	78.95 g	2,037	0.0388 g
4	1.1～2.0mm	29.20 g	6,667	0.0043 g
5	1.1mm以下	11.20 g	12,444	0.0009 g
	合計	197.75 g	21,663	0.0115 g

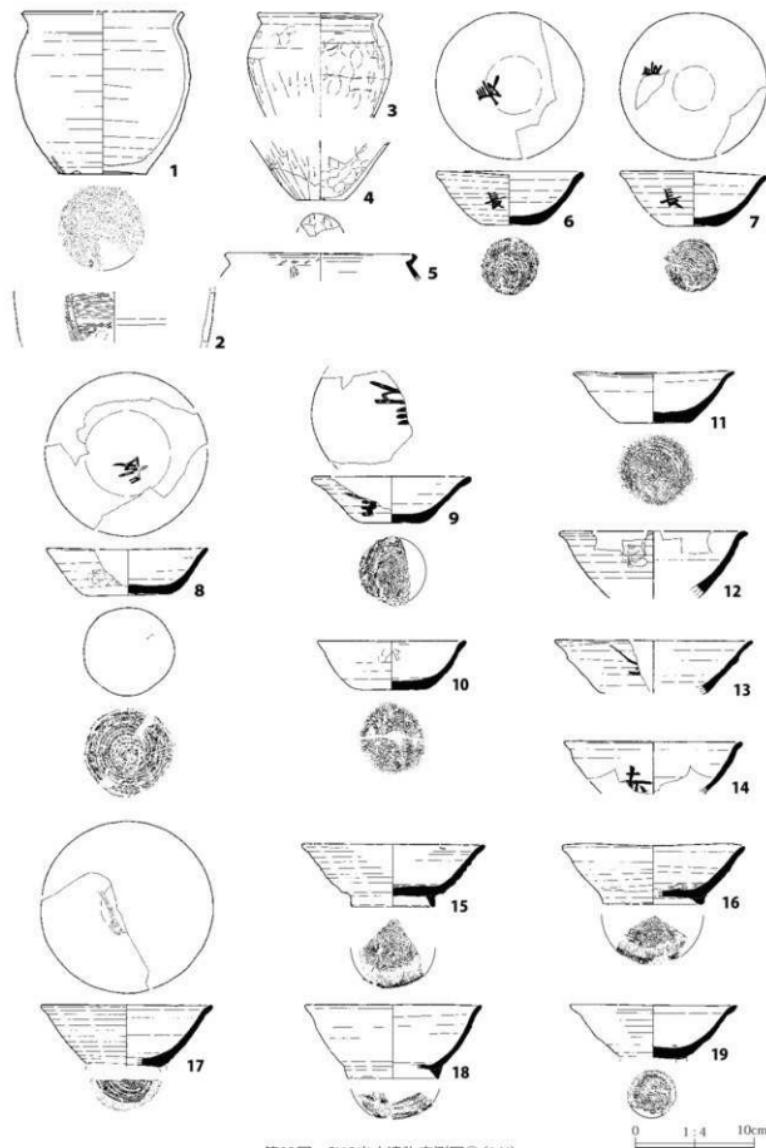
第91図 SI12鍛冶工房 出土鍛造剥片・粒状滓計測表

SI12鍛冶工房 鍛冶関連遺物出土量

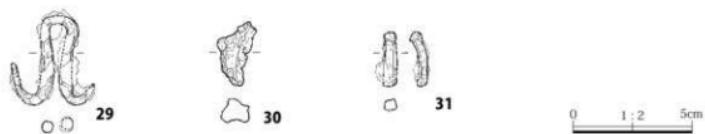
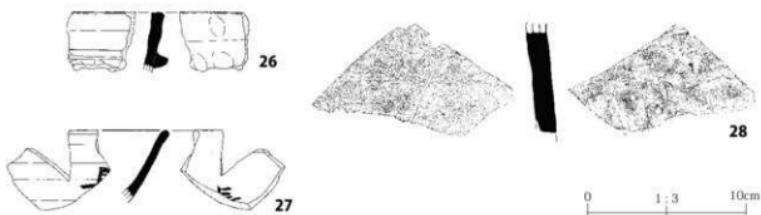
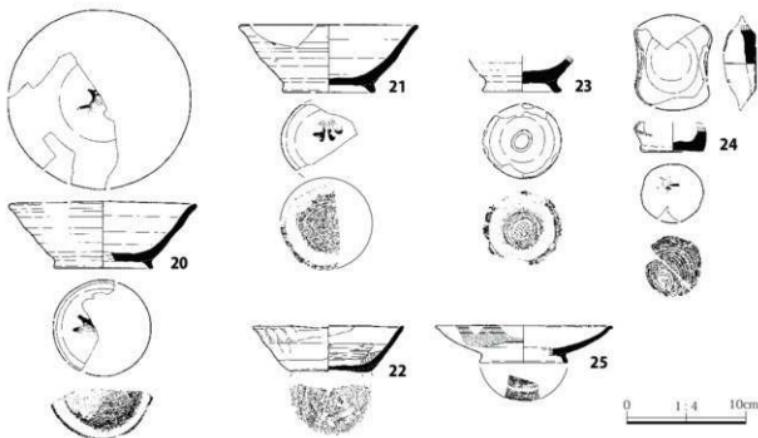
遺物名	重量
羽口	3954.3 g
楕形鍛冶滓（中）	1304.2 g
楕形鍛冶滓（小）	2537.5 g
楕形鍛冶滓（極小）	1927.9 g
鍛冶滓	206.0 g
粘土質溶解物	460.2 g
鍛造剥片	1989.75 g
粒状滓	197.75 g
鉄塊系遺物	260.7 g
鉄製品	12.3 g
不明	112.9 g
合計	12963.5 g



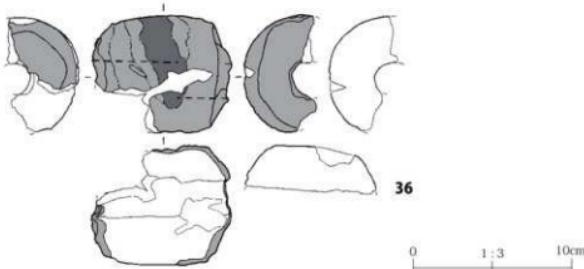
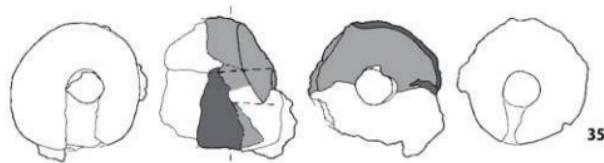
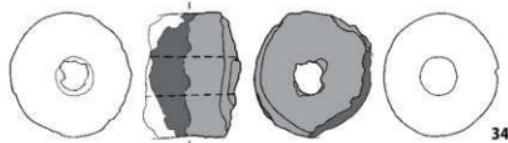
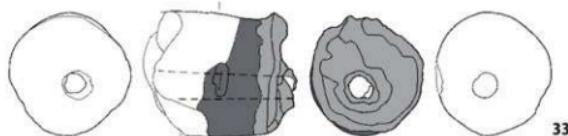
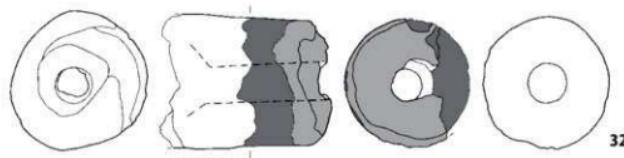
第92図 SI12鍛冶工房 鍛冶関連遺物重量一覧表・割合表



第93図 SI12出土遺物実測図①(1/4)

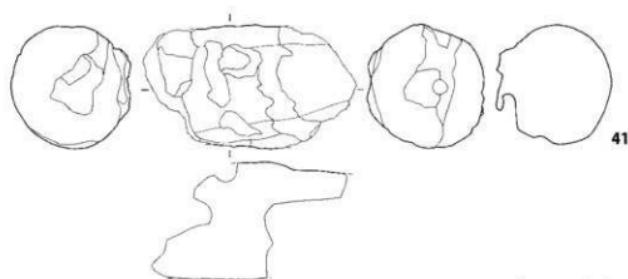
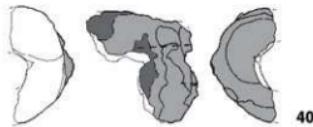
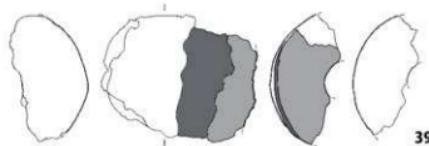
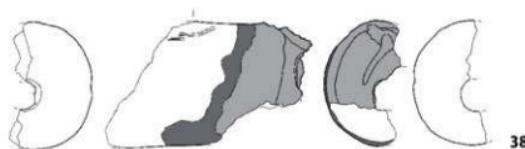
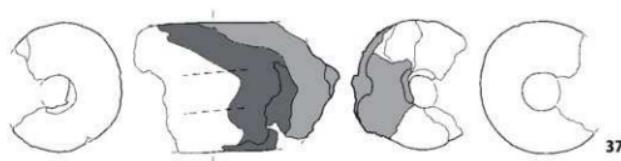


第94図 SI12出土遺物実測図②(1/2・1/3・1/4)



0 1:3 10cm

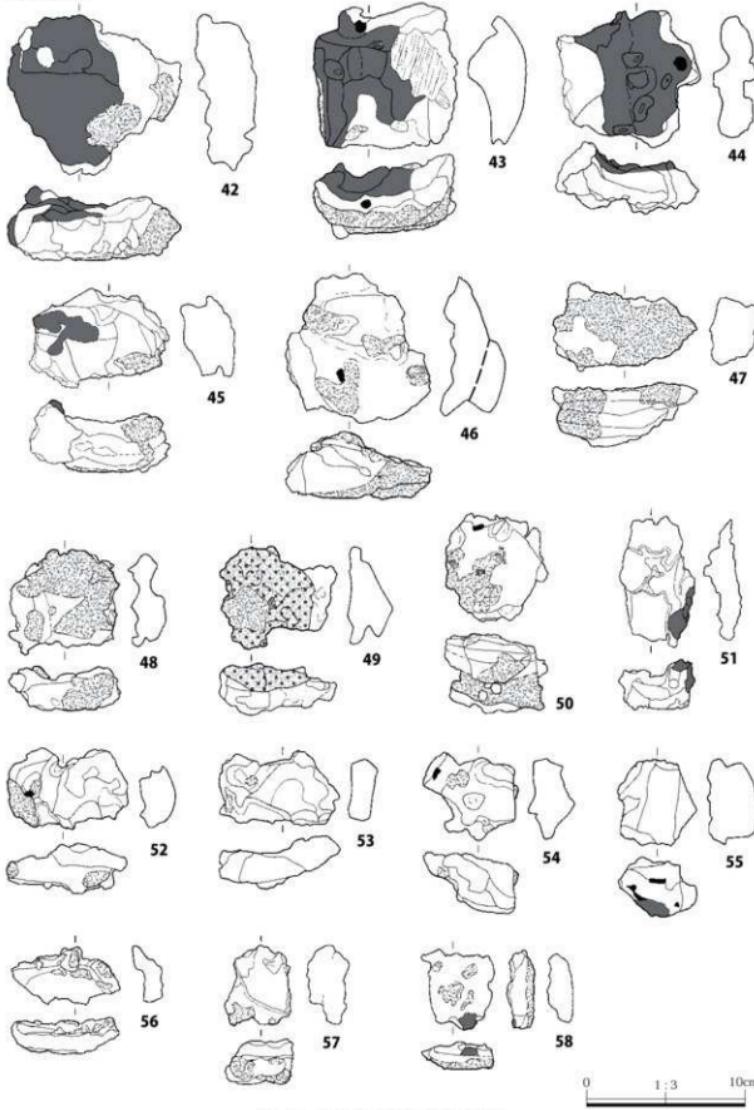
第95図 SI12出土遺物実測図③(1/3)



0 1:3 10cm

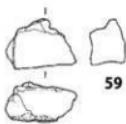
第96図 SI12出土遺物実測図④(1/3)

楔形鍛冶滓

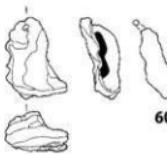


第97図 SI12出土遺物実測図⑤(1/3)

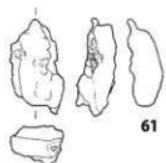
楕円形鍛冶滓



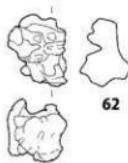
59



60

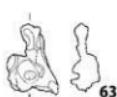


61



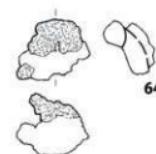
62

粘土質溶解物

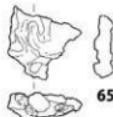


63

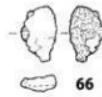
鉄塊系遺物



64



65



66



第98図 SI12出土遺物実測図⑥(1/3)

(2) 積穴住居跡

SI01 (第99・100図／PL 22・37)

位置 2-52区O-18・19グリッド(2区調査区西部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 東壁が削平されほとんど残っていない。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は楕円長方形を呈する。主軸は4.23m、副軸は2.92m、確認面からの深さは最深32cm、床面積は8.16m²を測る。 **主軸方位** N-33°-E **壁・壁溝** 壁高は西壁で39cm、南壁で19cmを測り、ともにやや外傾して立ち上がる。壁溝は西壁・南壁と北壁の西側一部で確認された。溝幅は15~26cm、床面からの深さは9cmを測る。 **床面** 直床式であるが、貼床や踏み締りは確認されなかった。中央部がわずかに高いものの、概ね平坦である。

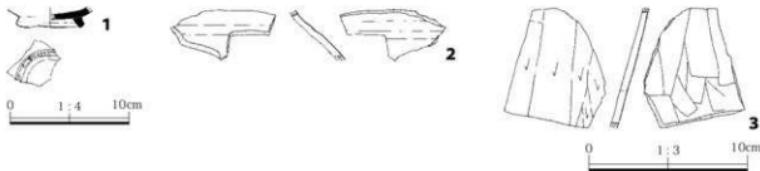
柱穴 4基確認され、P 3・P 4は掘り方で確認された。P 1・P 2は円形、P 3・P 4は楕円形を呈する。P 1・P 2は壁際に位置することから壁柱穴と考えられる。P 4は床下土坑である。それぞれの規模は第12表に記載する。 **カマド** 北東隅部に位置する。削平を受け第12表 SI01ビット計測表

	P 1	P 2	P 3	P 4
長軸長(cm)	38	30	46	97
短軸長(cm)	38	27	33	62
深さ(cm)	17	47	22	24

その他の施設 柱穴の項で触れたが、床下土坑1基(P 4)が確認された。 **遺物検出状況** 西壁・南壁・北壁際からまばらに出土している。 **遺物** 出土遺物のうち、土師器2点、灰釉陶器1点を図示した。 **備考** 約4.2×2.9mの中型の積穴住居跡である。破片遺物であるが、出土遺物から本遺構の帰属時期は9世紀後半~10世紀前半と考えられる。



第99図 SI01実測図・掘り方(1/60)・カマド掘り方実測図(1/30)



第100図 SI01出土遺物実測図(1/3・1/4)

SI03 (第101図／PL 23)

位置 2-62区Q・R-1・2・3グリッド(2区調査区中央部南壁際)。 **重複関係** SK43・178と重複し、本遺構はSK178より古く、SK43よりも新しい。 **遺存状態** 南側1/3が調査区外であるが、概ね良好である。

覆土 黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 南側が調査区外にあるため全容は不明であるが、隅丸方形を呈すると考えられる。主軸は4.04m、副軸は3.63m以上、確認面からの深さは最深40cm、床面積は7.50m²以上を測る。 **主軸方位** N-90° **壁・壁溝** 壁高は東壁で39cm、西壁で16cmを測り、ともに外傾して立ち上がる。壁溝は確認されなかった。 **床面** 直床式であるが、貼床や踏み締りは確認されなかった。東側および北側に向かって緩やかに傾斜している。 **柱穴** P1～P8まで確認され、P3～P8は掘り方で確認された。平面形は円形が主体であるが、P3は不整円形を呈する。P1とP4が重複し、P2とP8が隣接している。位置的に主柱穴と考えられ、建て替えが想定される。それぞれの規模は、第13表に記載する。

カマド 確認されていない 第13表 SI03 ピット計測表

い。 その他の施設 確認されていない。 遺物検出 状況 出土していない。	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7	P 8
長軸長(cm)	41	42	57	41	31	28	68	42
短軸長(cm)	39	40	47	40	29	26	51	39
深さ(cm)	14	18	20	28	10	19	64	16

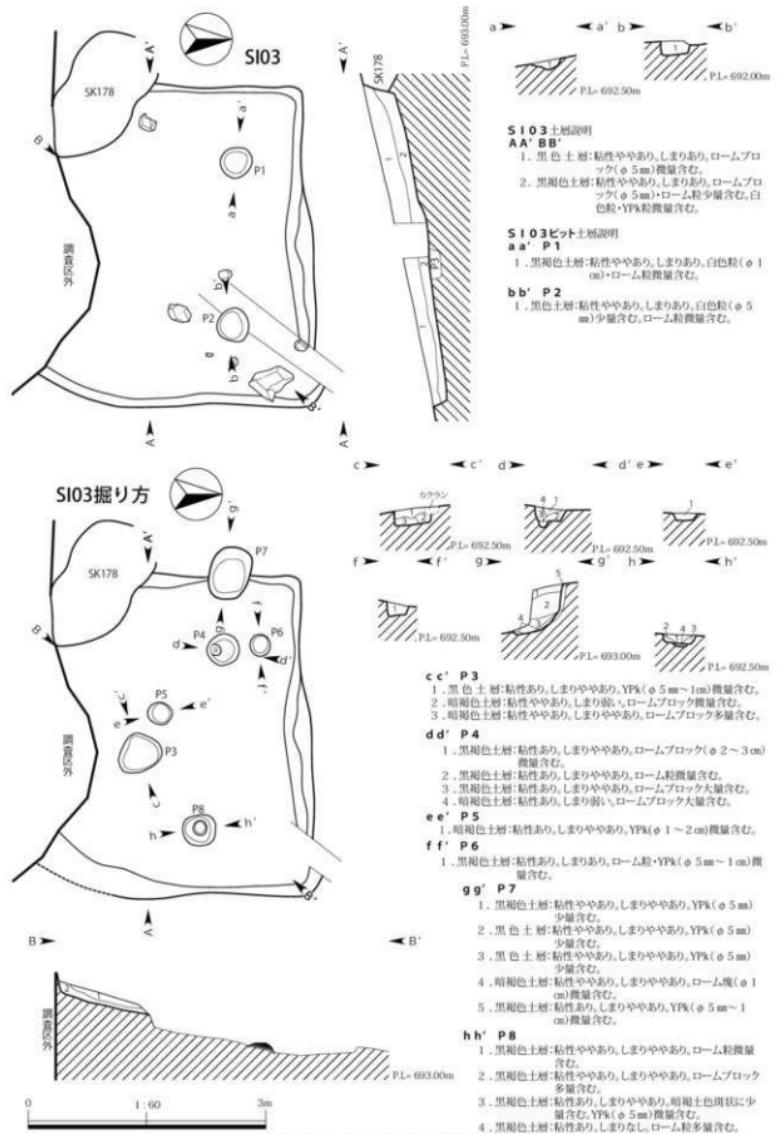
遺物 なし。 **備考** 北壁・東壁にカマドがないが、南壁が調査区外にありカマドがある可能性があることから、一辺約4mと想定される中型の竪穴住居跡と考える。床面が傾斜し、遺物も出土していないことから竪穴状遺構の可能性も考えられる。遺物が出土していないため時期の特定は困難であるが、本遺構の帰属時期は周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半を想定している。

SI04 (第102～106図／PL 23・25・37)

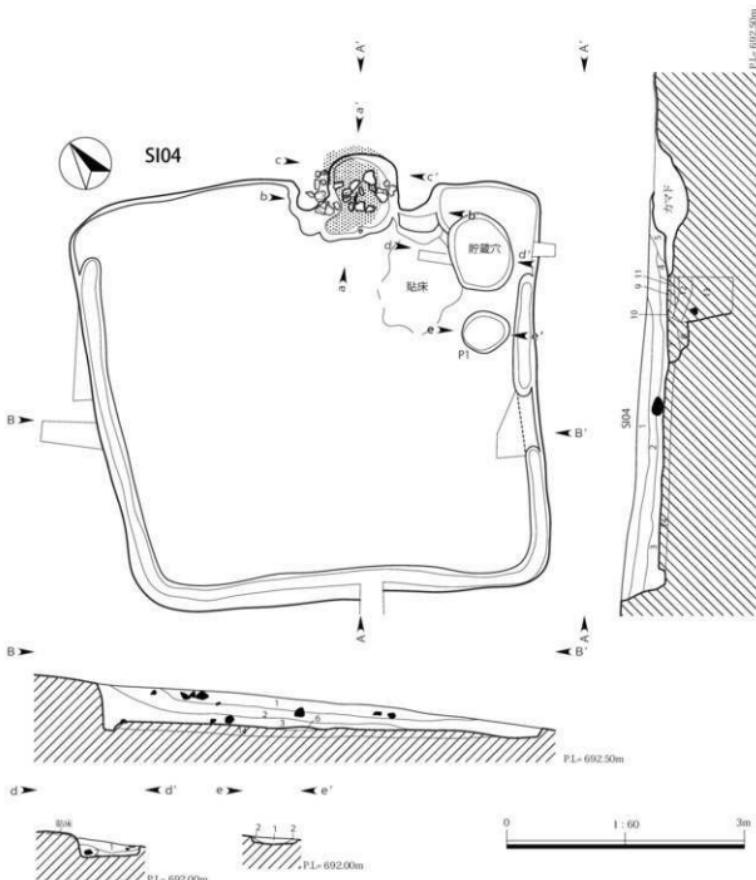
位置 2-62区Q・R-1・2・S-1グリッド(2区調査区中央部南側)。 **重複関係** SK167と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒色土が基調であるが、下層で黒褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は北側がやや広がる隅丸方形を呈する。主軸は5.37m、副軸は5.93m、確認面からの深さは最深46cm、床面積は24.05m²を測る。 **主軸方位** N-39° **壁・壁溝** 壁高は西・南壁が55～59cm、東壁が13cmを測り、いずれも外傾して立ち上がる。壁溝は北側を除いた東・西壁と南壁で確認された。溝幅は16～28cm、床面からの深さは9～13cmを測る。 **床面** 直床式で、一部で貼床が確認された。概ね平坦である。 **柱穴** P1～P17まで確認され、P1以外は掘り方で確認さ

第14表 SI04 ピット計測表

	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7	P 8	P 9
長軸長(cm)	62	53	30	45	26	32	26	33	40
短軸長(cm)	53	48	26	38	22	32	26	28	38
深さ(cm)	7	19	13	45	9	17	21	10	13
	P10	P11	P12	P13	P14	P15	P16	P17	
長軸長(cm)	29	28	31	37	30	33	33	42	
短軸長(cm)	28	23	24	32	25	32	32	35	
深さ(cm)	14	15	18	37	15	12	9	18	



第101図 SI03・掘り方実測図(1/60)



S I 0 4 土壌説明

AA' BB'

1. 黒褐色土層: 粘性ややあり、しまりあり、焼土粒多量含む、炭化粒・礫(拳大)少量含む、ローム粒微量含む。
2. 黒褐色土層: 粘性あり、しまりややあり、ローム粒・炭化粒(φ 5cm)・礫(φ 5cm)微量含む。
3. 黒褐色土層: 粘性ややあり、礫(拳大)多量含む、ローム粒・炭化粒・礫(人頭大)少量含む。
4. 黑褐色土層: 粘性ややあり、しまりややあり、炭化粒(φ 1cm)・焼土粒・礫(拳大)微量含む。
5. 黑褐色土層: 粘性あり、しまりややあり、焼土粒少量含む、炭化粒微量含む。
6. 黑褐色土層: 粘性あり、しまりややあり、ローム粒・炭化粒微量含む。

S I 0 4 肝臓穴・ピット土層説明

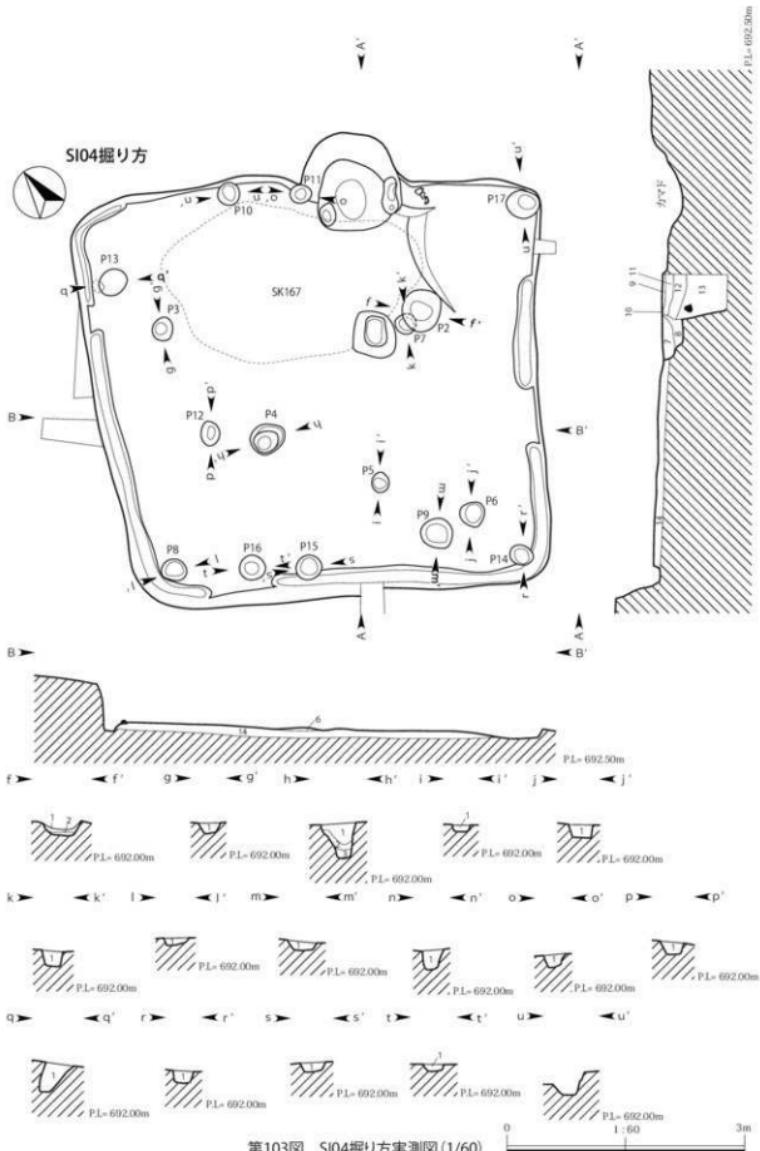
d d' 肝臓穴

1. 黒褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、炭化粒(φ 5mm)・白色粒・YPK(φ 5mm)微量含む。
2. 黑褐色土層: 粘性ややあり、しまりあり、ローム粒少量含む、焼土粒・礫(拳大)微量含む。

e e' P 1

1. 黑褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、ローム粒多量含む、ローム・ブロック(φ 1cm)・炭化粒(φ 1cm)・焼土粒微量含む。
2. 黑褐色土層: 粘性ややあり、しまりあり、ローム粒・白色粒(φ 5mm)微量含む。

第102図 SI04実測図(1/60)



S104 土層説明

A' A' BB'

7. 黒褐色土層: 粘性あり。しまりあり。ローム粒少量含む。ロームブロック($\phi 2 \sim 3\text{cm}$)微量含む。
8. 黒褐色土層: 粘性あり。しまり弱い。則明色灰石少量含む。礫微量含む。
9. 黒褐色土層: 粘性あり。しまり弱い。則褐色土粒 \cdot YPk($\phi 5\text{mm} \sim 1\text{cm}$)少量含む。ローム粒微量含む。
10. 黒色土層: 粘性あり。しまり弱い。炭化粒($\phi 5\text{mm}$) \cdot YPk($\phi 1\text{cm}$)少量含む。小礫微量含む。
11. 黒色土層: 粘性あり。しまり弱い。炭化粒($\phi 5\text{mm} \sim 1\text{cm}$)多量含む。炭化粒($\phi 1 \sim 2\text{cm}$)少量含む。微量微量含む。
12. 黑褐色土層: 粘性あり。しまり弱い。炭化粒($\phi 1 \sim 2\text{cm}$) \cdot YPk($\phi 1\text{cm}$) \cdot 礫(掌大)少量含む。
13. 黑褐色土層: 粘性あり。しまり弱い。礫 \cdot YPk($\phi 5\text{mm}$)少量含む。(以上SK167)
14. 黑褐色土層: 粘性あり。しまりややあり。ローム粒大量含む。炭化粒($\phi 5\text{mm} \sim 1\text{cm}$) \cdot YPk($\phi 5\text{mm}$)少量含む。

S104c ドット土層説明

ff' P2

1. 喀褐色土層: 粘性あり。しまりあり。ローム粒 \cdot YPk($\phi 1\text{cm}$)少量含む。
2. 白色粒($\phi 5\text{mm}$)微量含む。
2. 黑色土層: 粘性弱い。しまりあり。白色粒微量含む。

gg' P3

1. 黑褐色土層: 粘性あり。しまりあり。小礫 \cdot YPk($\phi 1\text{cm}$)微量含む。

hh' P4

1. 黑褐色土層: 粘性あり。しまりややあり。炭化粒微量多量に含む。YPk($\phi 1 \sim 2\text{cm}$)少量含む。
2. 黑褐色土層: 粘性弱い。しまりなし。ローム粒 \cdot 炭化粒($\phi 2 \sim 3\text{cm}$)少量含む。
3. 黑褐色土層: 粘性あり。しまりなし。小礫多量含む。ローム粒少量含む。

ii' P5

1. 黑褐色土層: 粘性弱く質土しまりあり。YPk($\phi 5\text{mm}$)微量含む。

jj' P6

1. 黑褐色土層: 粘性あり。しまりややあり。YPk($\phi 5\text{mm}$)少量含む。

kk' P7

1. 黑褐色土層: 粘性ややあり。しまりややあり。YPk($\phi 2 \sim 3\text{cm}$)少量含む。

ll' mm' P8'9

1. 黑褐色土層: 粘性ややあり。しまりややあり。

nn' P10

1. 喀褐色土層: 粘性ややあり。しまり弱い。

oo' P11

1. 黑褐色土層: 粘性ややあり。しまり弱い。小礫多量含む。

pp' P12

1. 黑褐色土層: 粘性ややあり。しまりややあり。YPk($\phi 1 \sim 2\text{cm}$)少量含む。

qq' P13

1. 喀褐色土層: 粘性あり。しまりややあり。小礫微量含む。

rr' P14

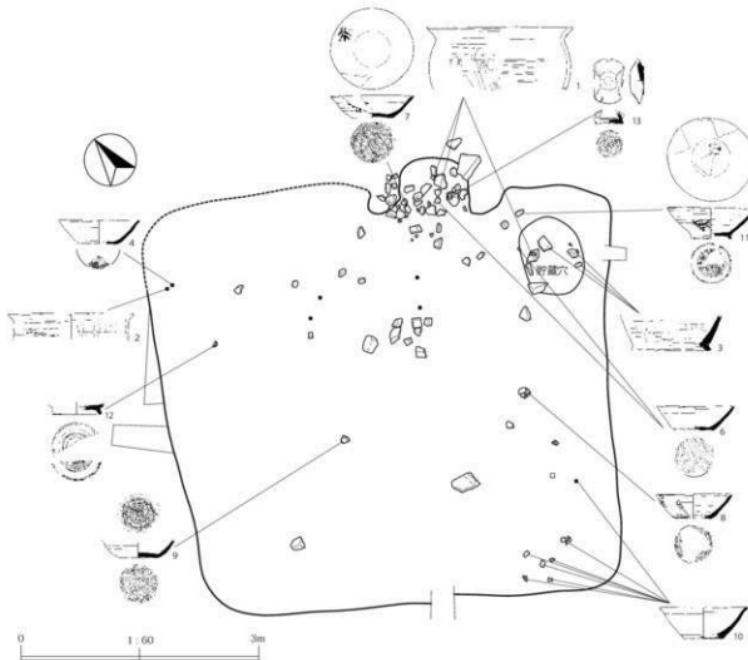
1. 黑褐色土層: 粘性あり。しまりややあり。ロームブロック($\phi 1\text{cm}$)微量含む。

ss' P15

1. 黑褐色土層: 粘性あり。しまりややあり。ローム粒少量含む。

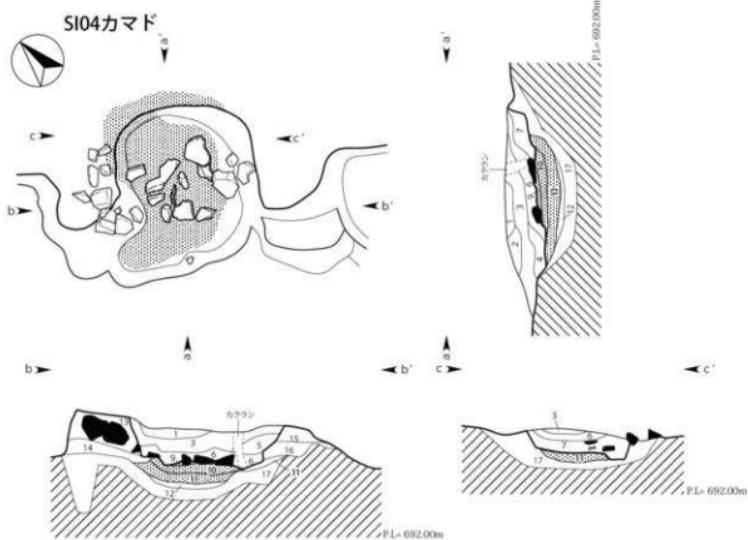
tt' P16

1. 黑褐色土層: 粘性あり。しまりあり。ローム粒少量含む。

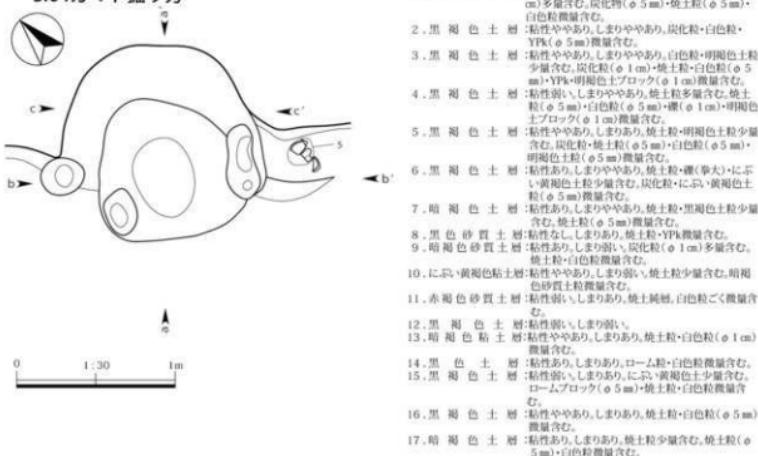


第104図 S104遺物出土状況図(1/60)

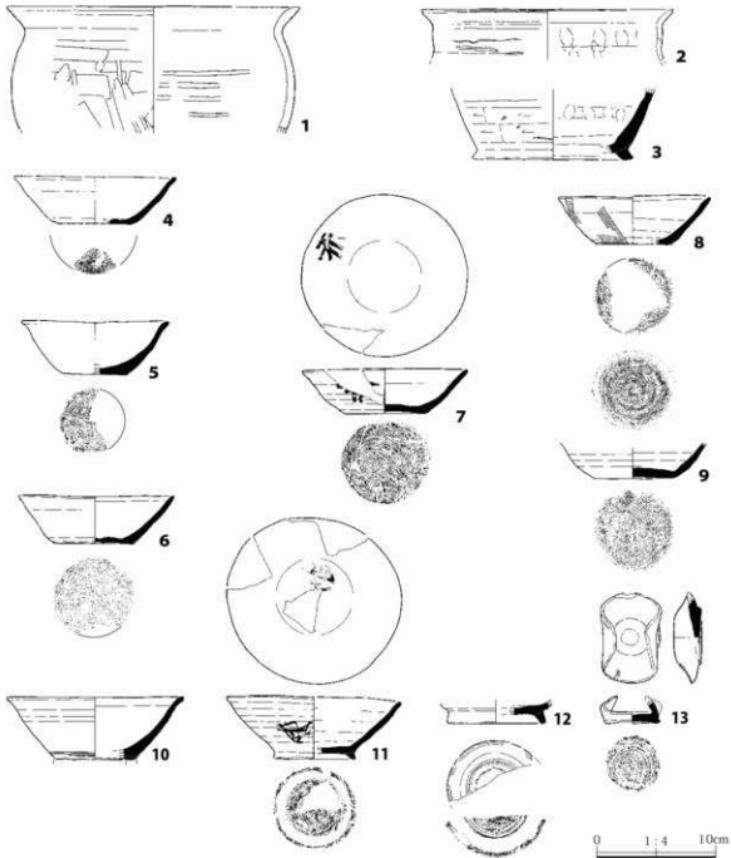
SI04カマド



SI04カマド掘り方

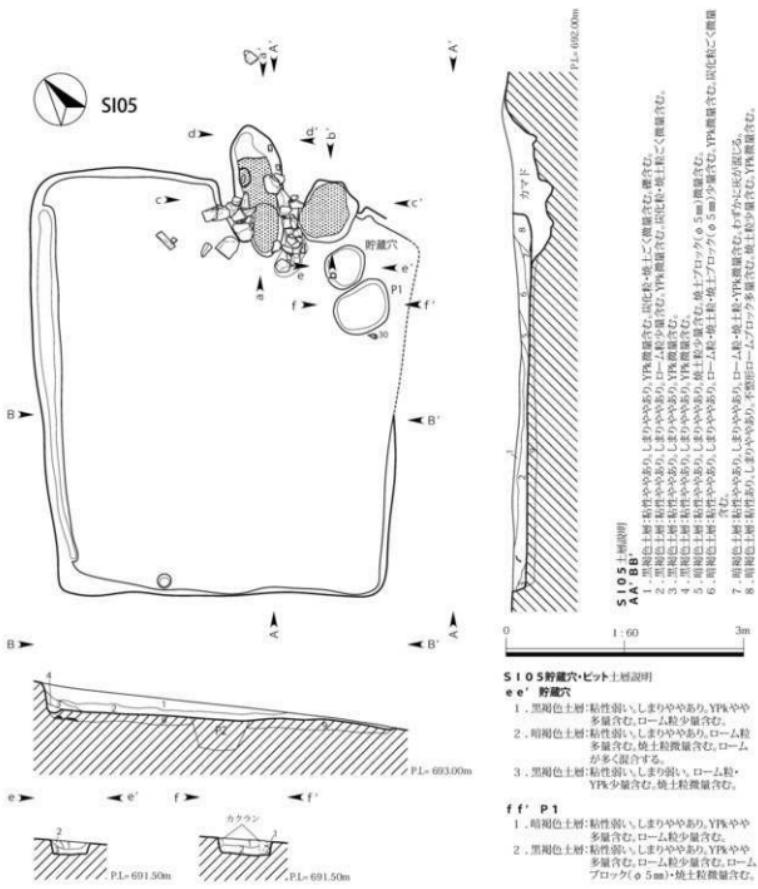


第105図 SI04カマド・カマド掘り方実測図(1/30)



第106図 S104出土遺物実測図(1/4)

れた。平面形は円形・梢円形を呈する。床面で確認できなかったが、P 8・P 10・P 13～P 17は壁際に位置しており、壁柱穴の可能性がある。それぞれの規模は、第14表に記載する。 カマド 北壁のほぼ中央に位置し、遺存状態は良好である。全長は113cm、最大幅は185cmを測る。火床面は25cm掘り込まれ、焼土部分は14cmの厚さを有する。粘土および地山の黒色土で外形を造り、支持材に自然石・切石の両方が使用されていた。 その他の施設 北東隅部で貯蔵穴が1基確認された。平面形は梢円形を呈し、規模は長軸100cm、短軸77cm、床面からの深さは24cmを測る。覆土上層から土器片・切石が出土している。 遺物検出状況 遺物量は少なく、壁際の覆土中で散見された。埋没過程で流れ込んだものが多いと考えられる。カマド内からは須恵器耳皿を含む土器片と切石・自然石が出土している。石はカマドの支持材で、住居廃絶時に壊されたものと考えられる。 遺物 出土遺物のうち、土師器2点、須恵器11点を図示し得た。その内、2点が墨書き土器である。土師器裏はコの字状縁痕とロクロ妻が出土している。 備考 本遺構は、遺物がほとんど残ってい



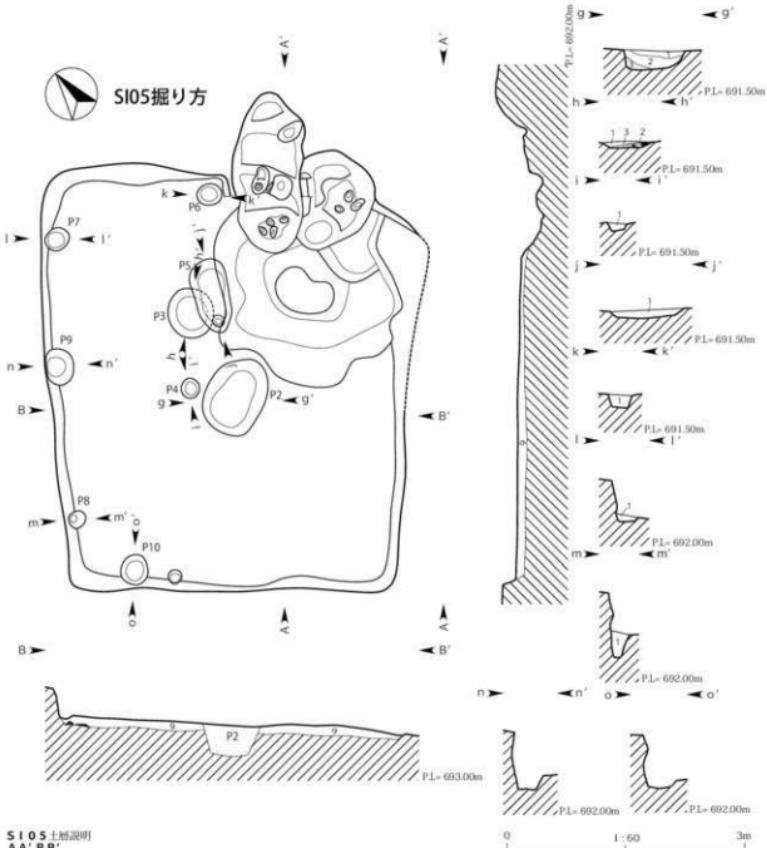
第107図 SI05実測図(1/60)

なかったこと、カマドが壊された状態であったことから、廃棄された大型の住居跡と考えられる。カマドの火床部の焼土範囲が厚いことから、住居の使用期間は比較的長かったと考えられる。帰属時期は、出土遺物から9世紀後半～10世紀前半と考えられる。

SI05 (第107～111図／P L 24・25・37)

位置 2-52区S・T-19・20、2-62区S-1グリッド（2区調査区中央部）。**重複関係** なし。

遺存状態 東壁が削平されほどんど残っていない。**覆土** 黒褐色土を基調とするが、北側には暗褐色土が堆積する。堆積状況は自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は北側がやや広がる隅丸方形を呈する。主軸



SI05 上層説明

AA' - BB'

9 . 黒褐色土層：粘性ややあり。しまりあり。砂礫（φ 1 ~ 2 cm）多量含む。小礫・YPk（φ 1 cm）少量含む。

gg' - P2

1 . 暗褐色土層：粘性弱い。しまりややあり。ロームブロック（φ 5 mm）・ローム粒やや多量含む。YPk少量含む。炭化粒・焼土粒微量含む。

2 . 黒褐色土層：粘性弱い。しまりややあり。ロームブロック（φ 5 mm）・ローム粒やや多量含む。YPk・炭化粒・焼土粒（φ 5 mm）少量含む。ロームブロック・炭化粒微量含む。

3 . 黑褐色土層：粘性弱い。しまりややあり。ローム粒やや多量含む。YPk少量含む。燒土粒微量含む。

ll' - P4

1 . 暗褐色土層：粘性弱い。しまりややあり。

kk' - P6

1 . 暗褐色土層：粘性ややあり。しまり弱い。焼土粒多量含む。炭化粒（φ 5 mm）微量含む。

mm' - nn' - oo' - P8 - 9 - 10

1 . 黑褐色土層：粘性あり。しまりややあり。小礫多量含む。YPk（φ 1 cm）・礫少量含む。

h-h' - P3

1 . 暗褐色土層：粘性ややあり。しまりややあり。小礫多量含む。

2 . 暗褐色土層：粘性ややあり。しまりややあり。

3 . 黑褐色土層：粘性あり。しまりややあり。礫微量含む。

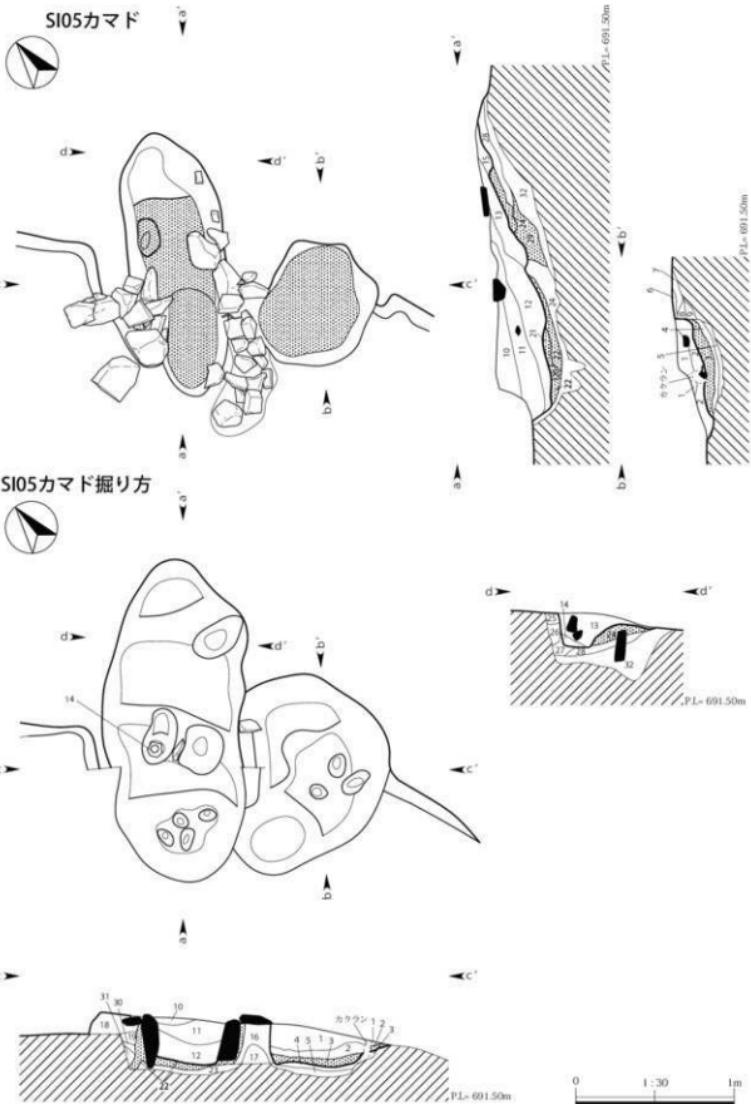
jj' - P5

1 . 黑褐色土層：粘性あり。しまりややあり。YPk（φ 2 cm）少量含む。

jj' - P7

1 . 黑褐色土層：粘性あり。しまりややあり。YPk（φ 1 cm）少量含む。小礫微量含む。

第108図 SI05掘り方実測図(1/60)

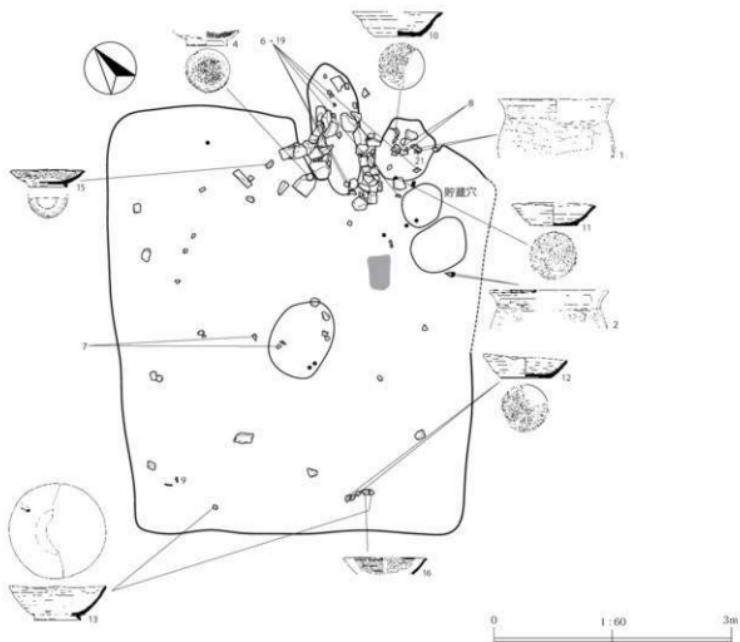


第109図 SI05カマド・カマド掘り方実測図(1/30)

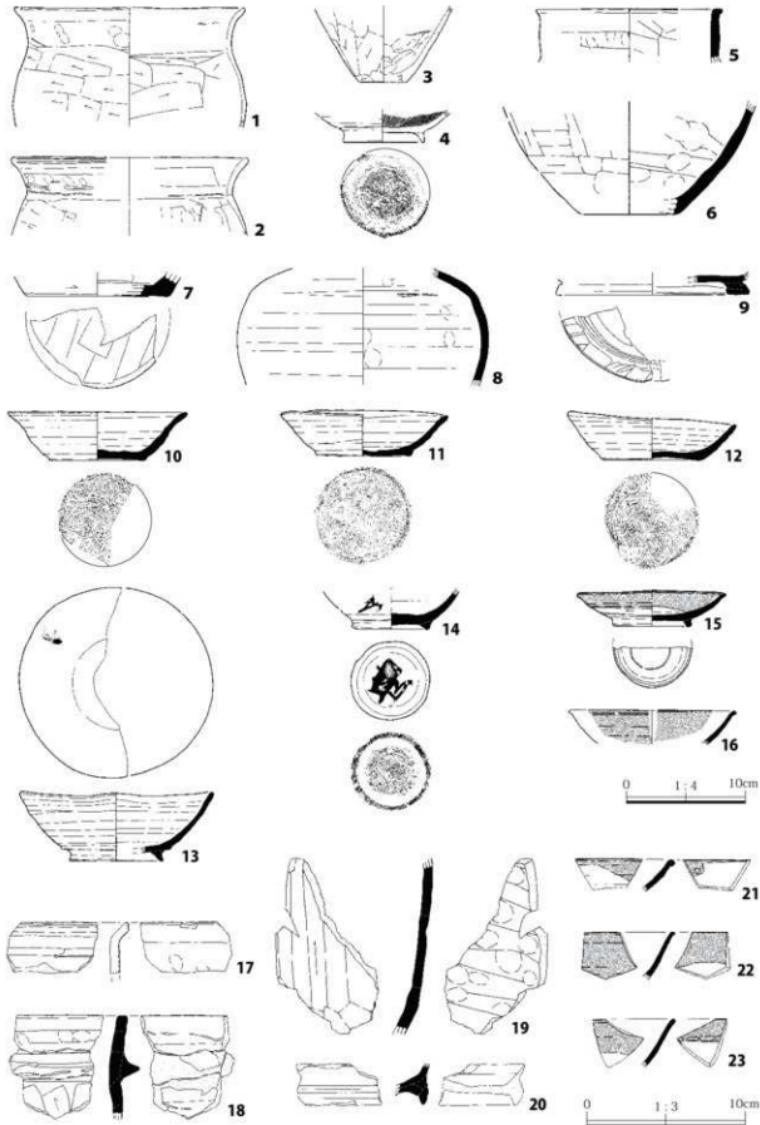
S105カマド土器説明

a a' b b' c c'

1. 黒褐色土器: 黏性弱い、しまりあり。炭化粒(φ 1 mm)下部に多量含む。炭化粒(φ 5 mm)・白色粒(φ 1 mm)・礫(φ 5 mm)微量含む。
2. 褐色土器: 黏性弱い、しまりやあり。燒土粒(φ 5 mm)少量含む。炭化粒(φ 5 mm)・白色粒・明黄褐色粘土粒微量含む。
3. 明褐色土器: 黏性弱い、しまりあり。褐色粘土・明黃褐色粘土粒多量含む。(燒土粒少量含む。炭化粒微量含む)。
4. 黑褐色土器: 黏性弱い、しまりあり。褐色粘土粒多量含む。白色粒(φ 5 mm)微量含む。
5. 黑褐色土器: 黏性弱い、しまりあり。褐色粘土粒微量含む。
6. 黑褐色土器: 黏性弱い、しまりあり。燒土粒少量含む。炭化粒・白色粒(φ 5 mm)・白色粒(φ 5 mm)微量含む。
7. 黑褐色土器: 黏性弱い、しまりあり。燒土粒少量含む。炭化粒微量含む。
8. 黑褐色土器: 黏性弱い、しまりあり。燒土粒少量含む。炭化粒微量含む。
9. 黑褐色土器: 黏性弱い、しまりあり。燒土粒・白色粒微量含む。
10. 明褐色土器: 黏性弱い、しまりあり。燒土粒(φ 1 cm)・礫(切石15cm)・白色粒(φ 1 cm)少量含む。白色粒微量含む。
11. 黑褐色土器: 黏性弱い、しまりあり。白色粒少量含む。燒土粒・YPA粉・礫(φ 5 cm)微量含む。
12. 黑褐色土器: 黏性弱い、しまりあり。礫粒少量含む。ローム・白色粒微量含む。
13. 明褐色土器: 黏性弱い、しまりあり。燒土粒少量含む。白色粒微量含む。
14. 明褐色土器: 黏性弱い、しまりあり。燒土粒(φ 5 mm)・白色粒微量含む。黑褐色土器。
15. 黑褐色土器: 黏性弱い、しまりあり。燒土粒(φ 5 mm)・白色粒微量含む。
16. 黑褐色土器: 黏性弱い、しまりあり。燒土粒(φ 5 mm)少量含む。燒土粒微量含む。
17. 黑褐色土器: 黏性弱い、しまりやあり。白色粒(φ 5 mm)・YPA(φ 5 mm)少量含む。燒土粒微量含む。
18. 黑褐色土器: 黏性なし、しまりあり。ロームブロック(φ 5 mm)・燒土粒・白色粒(φ 5 mm)微量含む。
19. 明褐色土器: 黏性なし、しまりあり。
20. 黑褐色土器: 黏性やや弱い、しまりあり。白色粒微量含む。
21. 明褐色土器: 黏性弱い、しまりややあり。燒土粒(φ 5 mm)・燒土粒微量含む。
22. 褐褐色土器: 黏性弱い、しまりややあり。燒土粒・白色粒微量含む。
23. 黑褐色土器: 黏性弱い、しまりあり。燒土粒少量含む。白色粒微量含む。
24. 黑褐色土器: 黏性やや弱い、しまりややあり。燒土粒(φ 3 cm)・燒土粒・白色粒少量含む。礫(φ 3 cm)微量含む。
25. 明褐色土器: 黏性なし、しまりややあり。燒土粒(φ 5 mm)・燒土粒微量含む。
26. 黑褐色土器: 黏性弱い、しまりやや。燒土粒少量含む。白色粒微量含む。
27. 褐褐色土器: 黏性弱い、しまりやや。燒土粒少量含む。
28. 黑褐色土器: 黏性なし、しまりあり。燒土粒・白色粒(φ 1 cm)少量含む。
29. 明褐色土器: 黏性なし、しまりあり。燒土粒微量。
30. 褐色土器: 黏性弱い、しまりあり。
31. 黑褐色土器: 黏性なし、しまりあり。
32. 黑褐色土器: 黏性弱い、しまりあり。ロームブロック(φ 5 cm)・ローム粒・白色粒微量含む。



第110図 S105遺物出土状況図(1/60)



第111図 S105出土遺物実測図(1/3・1/4)

は 5.41 m、副軸は 4.56 m、確認面からの深さは最深 32cm、床面積は 19.99m²を測る。 **主軸方位** N—40°—E **壁・壁溝** 壁高は西壁が 38cm、北・南壁は 17cm を測り、東壁は現存していない。いずれの壁もほぼ垂直に立ち上がる。壁溝は西壁で確認された。溝幅は 15 ~ 32cm、床面からの深さは 7cm を測る。 **床面** 直床式であるが、貼床や踏み締りは確認されなかった。概ね平坦である。 **柱穴** P 1 ~ P 10 まで確認され、P 1 以外は掘り方で確認された。P 1 は旧カマド（以下カマド B）が使用されていた時の貯蔵穴の可能性があり、P 2 は床下土坑と考えられる。平面形は P 1 • P 2 • P 5 が楕円形を呈し、その他は円形を呈する。床面で確認できなかったが、P 7 ~ P 9 は西壁際に位置していることから壁柱穴の可能性がある。それぞれの規模は、第 15 表に記載する。

第 15 表 SI05 ピット計測表

	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7	P 8	P 9	P 10
長軸長 (cm)	77	100	64	24	94	31	31	23	46	39
短軸長 (cm)	61	75	57	24	46	27	28	22	35	35
深さ (cm)	18	25	7	11	9	16	6	28	19	8

カマド 造り替えられていることが確認された。カマド B は北壁中央東よりに位置し、新カマド（以下カマド A）はカマド B の西隣の東壁ほぼ中央に位置している。カマド A の遺存状態は良好である。カマド B は掘り方のみ確認された。カマド A の全長は 196cm、最大幅は 104cm を測る。火床面は 7cm 挖り込まれ、焼土部分は 5cm の厚さを有する。カマド B は全長が 79cm、最大幅が 74cm 以上を測る。火床面は 19cm 挖り込まれ、焼土部分は 13cm の厚さを有する。カマド A はロームを含む地山の黒褐色土で外形を造り、支持材に切石・自然石の両方が使用されていた。右袖は小型の切石が多用され、先端部まで支持材を用いている。左袖は大型の自然石と小型の切石を併用し、奥から半分ほどまで支持材を用いている。 **その他の施設** 貯蔵穴 1 基が確認された。北東南隅部のカマド B 前に位置し、平面形は円形を呈する。長軸 56cm、短軸 49cm、床面からの深さは 18cm を測る。柱穴の項でも触れたが、P 2 が床下土坑と考えられる。 **遺物検出状況** 遺物量は少なく、壁際の覆土中から散見された。カマド B の火床面上で土器片がまとまって出土している。 **遺物** 出土遺物のうち、土師器 4 点、土師質土器 1 点、須恵器 13 点、灰釉陶器 5 点を図示し得た。その内、墨書き土器が 2 点である。コの字状口縁甕と月夜野型羽釜が出土している。 **備考** 本遺構は、カマドの造り替えが行なわれた中型の堅穴住居跡である。カマド A・B ともに焼土範囲が厚いことから、長期間使用されていた住居跡と考えられる。帰属時期は、出土遺物から 9 世紀後半～10 世紀前半と考えられる。

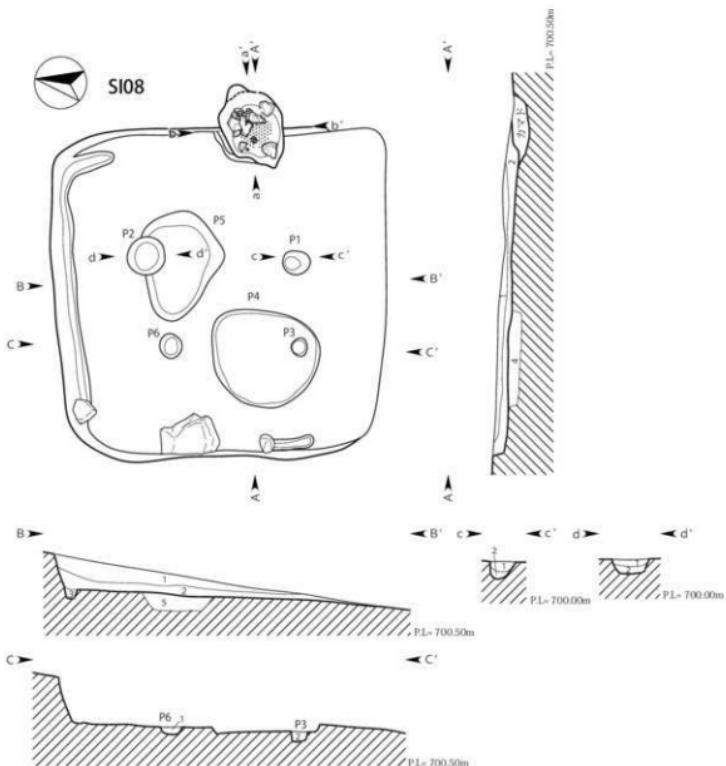
SI08 (第 112 ~ 114 図／PL 24・25・37・38)

位置 2-52 区 O・P-8 グリッド（1 区調査区中央部中央）。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 南側が削平されており、壁が現存していない。 **覆土** 黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は隅丸方形を呈する。主軸は 4.24 m、副軸は 4.30 m 以上、確認面からの深さは最深 60cm、床面積は 14.77m² を測る。 **主軸方位** N—82°—E **壁・壁溝** 壁高は北壁が 55cm、東・西壁が 15 ~ 45cm を測り、南壁は現存していない。いずれの壁も外傾して立ち上がる。壁溝は北壁で確認された。溝幅は 21 ~ 25cm、床面からの深さは 14cm を測る。 **床面** 直床式であるが、貼床や踏み締りは確認されなかった。南・東方向に非常に緩やかに傾斜しているが、概ね平坦である。 **柱穴** P 1 ~ P 6 まで確認され、P 3 ~ P 6 は掘り方で確認された。P 4 は不整円形、P 5 は不整形を呈し、その他は円形を呈する。P 1・P 2、掘り方で確認されたが P 3・P 6 は位置から 4 本柱の主柱穴と考えられる。P 4・P 5 は床下土坑と考えられる。それぞれの規模は第 16 表に記載する。 **カマド** 東壁

のほぼ中央に位置する。袖は現存しておらず、燃焼部の掘り方が確認された。全長は 116cm、最大幅は 74cm 以上を測る。火床面は 14cm 挖り込まれ、焼土部分は 5cm の厚さを有する。覆土中に切石・自然石が含まれていたことから、支持材に使用されていたものと考えられる。 **その他の施設** 柱穴の項で触れたが、P 4・P 5 が床下土坑と考

第 16 表 SI08 ピット計測表

	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6
長軸長 (cm)	35	48	24	140	138	32
短軸長 (cm)	30	48	20	109	126	28
深さ (cm)	24	18	14	22	22	9



SI08 土壌説明

AA' BB'

- 黒色土層: 粘性弱い、しまりあり、白色粒($\phi 5\text{ mm}$)・礫($\phi 3\text{ cm}$)・少量含む、YPk($\phi 5\text{ mm}$)・炭化粒微量含む。
- 黒色土層: 粘性弱い、しまりあり、白色粒($\phi 5\text{ mm}$)・礫($\phi 3\text{ cm}$)・YPk微量含む。
- 黒色土層: 粘性弱い、しまりややあり、YPk($\phi 0.5\sim 2\text{ mm}$)微量含む。
- 黒褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、小礫・YPk($\phi 5\text{ mm}\sim 1\text{ cm}$)多量含む。(P4)
- 黒色土層: 粘性ややあり、しまりあり、小礫・砂礫・YPk($\phi 5\text{ mm}$)少量含む。(P5)

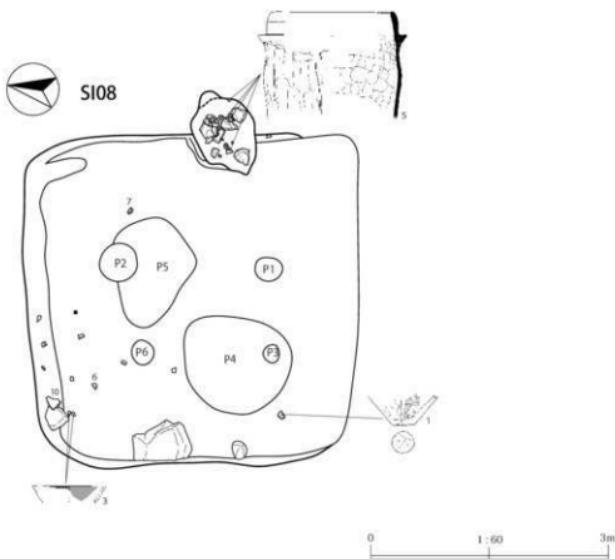
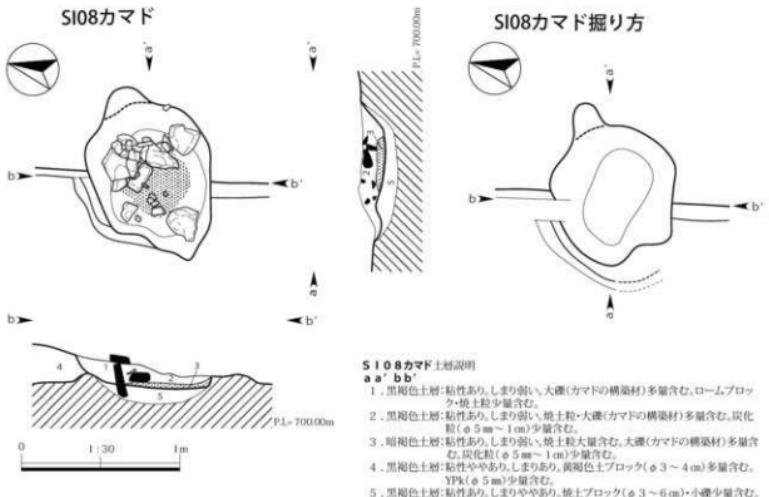
CC'

- 黒色土層: 粘性あり、しまりややあり、砂礫少量含む。小礫微量含む。(P6)
- 黒色土層: 粘性弱い、しまりややあり、小礫・YPk($\phi 1\sim 5\text{ mm}$)微量含む。(P3)

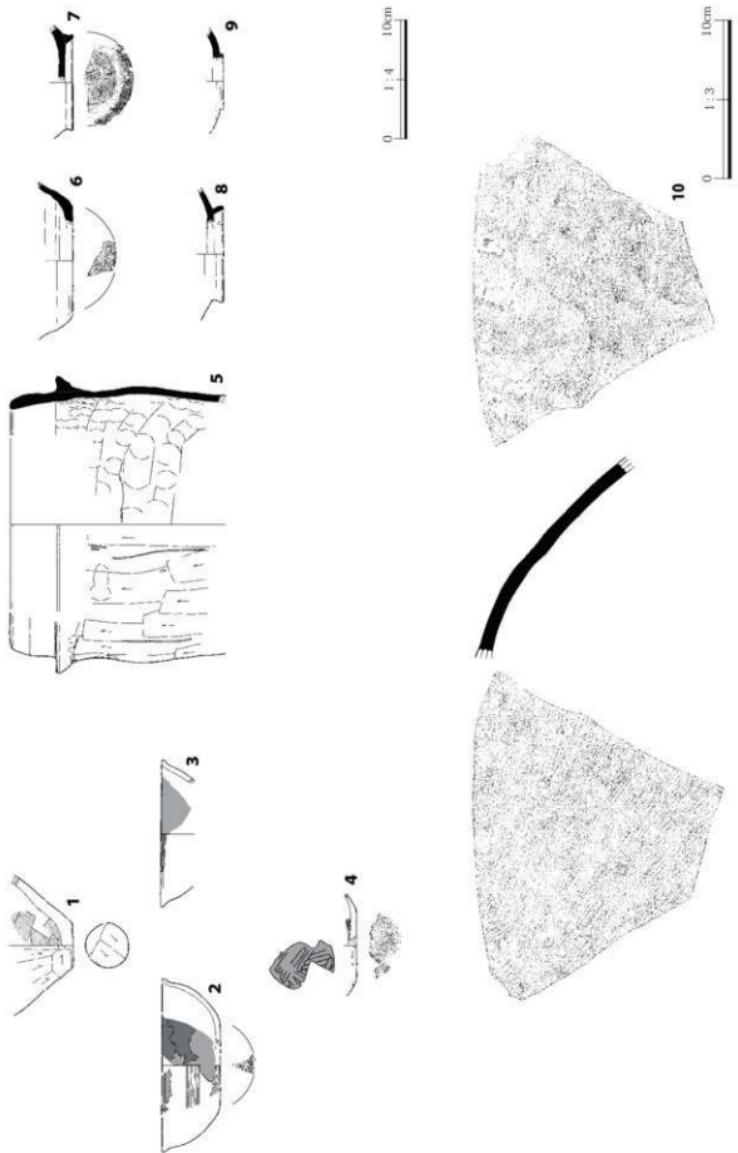
DD' P2

- 黒色土層: 粘性弱い、しまりあり、炭化粒・白色粒($\phi 5\text{ mm}$)微量含む。
- 黒色土層: 粘性ややあり、しまりあり、YPk微量含む。

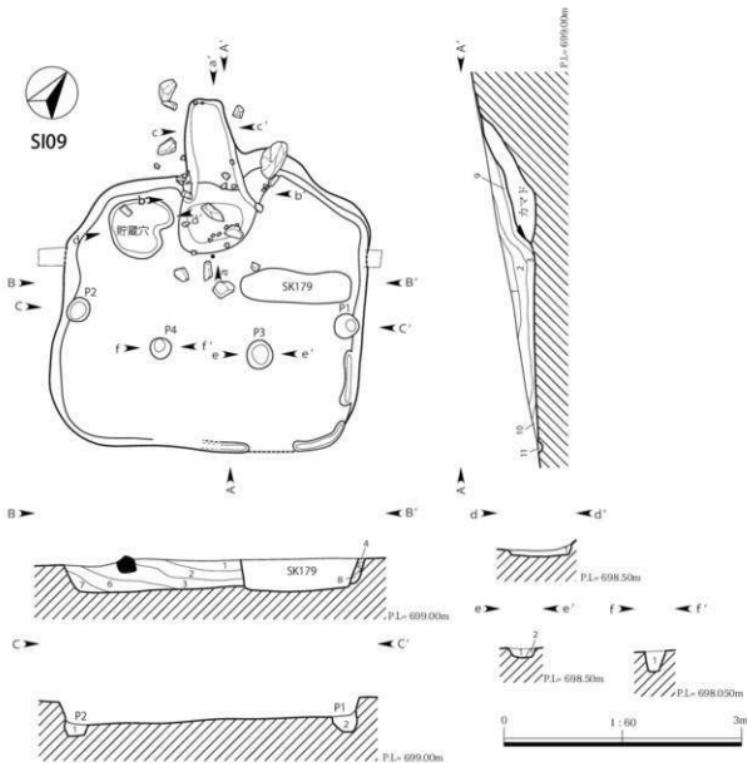
第112図 SI08実測図(1/60)



第113図 SI08カマド・カマド掘り方実測図(1/30)・遺物出土状況図(1/60)



第114圖 S08出土遺物實測圖(1/3•1/4)



**SI09上部剖面
AA' BB'**

- 黒色土層：粘性弱い、しまりあり、炭化粒・焼土粒・礫（φ 1 cm）・白色粒（軽石か）微量含む。
- 黒色土層：粘性弱い、しまりやあり、炭化物（φ 5 mm）・燒土粒・礫（φ 1 cm）・YPk（φ 5 mm）・白色粒微量含む。
- 黒色土層：粘性弱い、しまりやあり、燒土粒・礫（掌大・人頭大）・YPk・白色粒（φ 5 mm）微量含む。
- 黒褐色土層：粘性弱い、しまりあり、燒土粒・白色粒（φ 5 mm）微量含む。
- 黒色土層：粘性弱い、しまりやあり、炭化物・燒土粒・白色粒（φ 1 cm）・白色粒微量含む。
- 黒褐色土層：粘性やや弱い、しまりの良い。
- 黒褐色土層：粘性あり、しまりあり、YPk微量含む。
- 黒褐色土層：粘性あり、しまりあり。
- 黒褐色土層：粘性やや弱い、しまりあり。
- 黒色土層：粘性ややあり、しまり弱い、YPk（φ 0.5 mm）・灰黃褐色土粒少量含む。

CC'

- 黒褐色土層：粘性弱い、しまりややあり、燒土粒少量含む、炭化粒・白色粒・礫（φ 1 cm）微量含む。（P2）
- 黒色土層：粘性ややあり、しまりあり、白色粒・YPk微量含む。（P1）

SI09鉱藏穴ヒット土層説明

d d' 鉱藏穴

- 黒褐色土層：粘性弱い、しまりややあり、ローム・プロック（φ 3 cm）帯状・ローム粒・白色粒（φ 1 cm）・炭化粒・YPk・礫（φ 3 cm）微量含む。

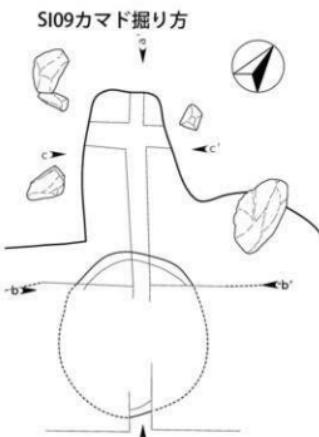
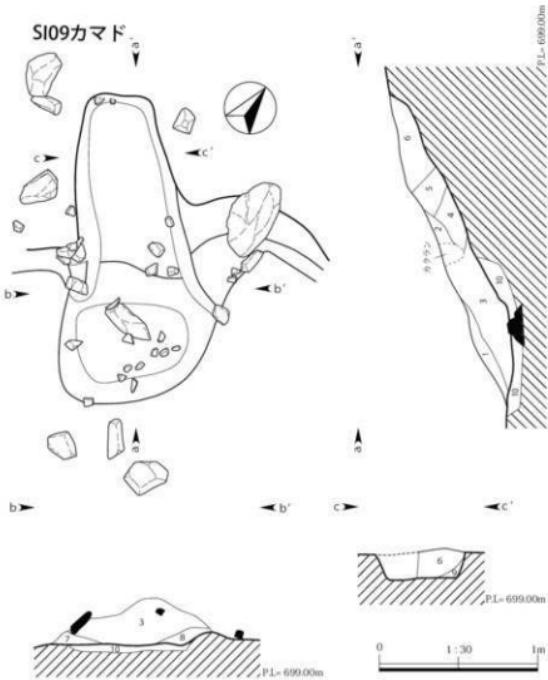
e e' P 3

- 黒褐色土層：粘性ややあり、しまりややあり、YPk（φ 0.5 mm）・砂礫微量含む。
- 黒褐色土層：粘性ややあり、しまり弱い、YPk（φ 0.5 mm）微量含む。

f f' P 4

- 黒色土層：粘性ややあり、しまりややあり、小礫・YPk（φ 0.5 mm）微量含む。

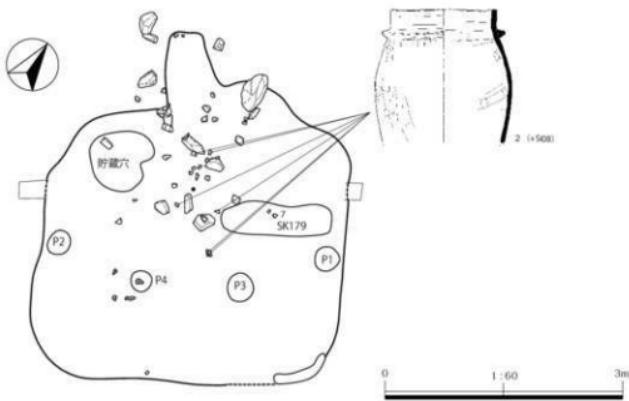
第115図 SI09実測図(1/60)



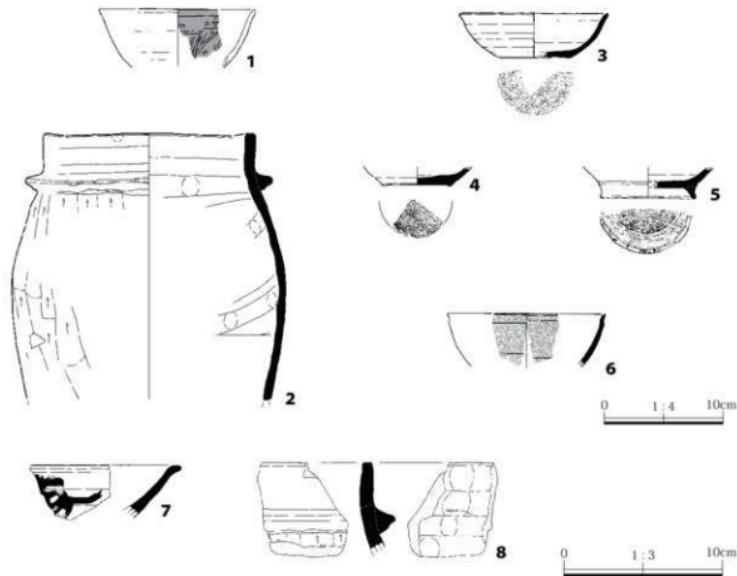
SI09カマド土層説明 a a' b b' c c'

1. 黒褐色土層: 粘性別い、しまり弱い、埴土粒少量含む。炭化粒($\phi 5\text{ mm}$)・小礫微量含む。
2. 黒褐色土層: 粘性ややあり、しまり弱い、小礫微量含む。
3. 黑褐色土層: 粘性あり、しまり弱い、埴土粒少量含む。炭化粒($\phi 5\text{ mm}$)・小礫微量含む。
4. 黑褐色土層: 粘性あり、しまりややあり、小礫多量含む。
5. 黑褐色土層: 粘性あり、しまりややあり、小礫少量含む。
6. 黑褐色土層: 粘性あり、しまり弱い、小礫微量含む。
7. 黑褐色土層: 粘性あり、しまりなし。埴土粒少量含む。
8. 黑褐色土層: 粘性あり、しまりなし。
9. 黑褐色土層: 粘性あり、しまりややあり、Yfk($\phi 0.5\text{ mm}$)微量含む。
10. 黑褐色土層: 粘性あり、しまりややあり、Yfk($\phi 0.5\text{ mm} \sim 1\text{ cm}$)多量含む。埴土粒斑状に少量含む。

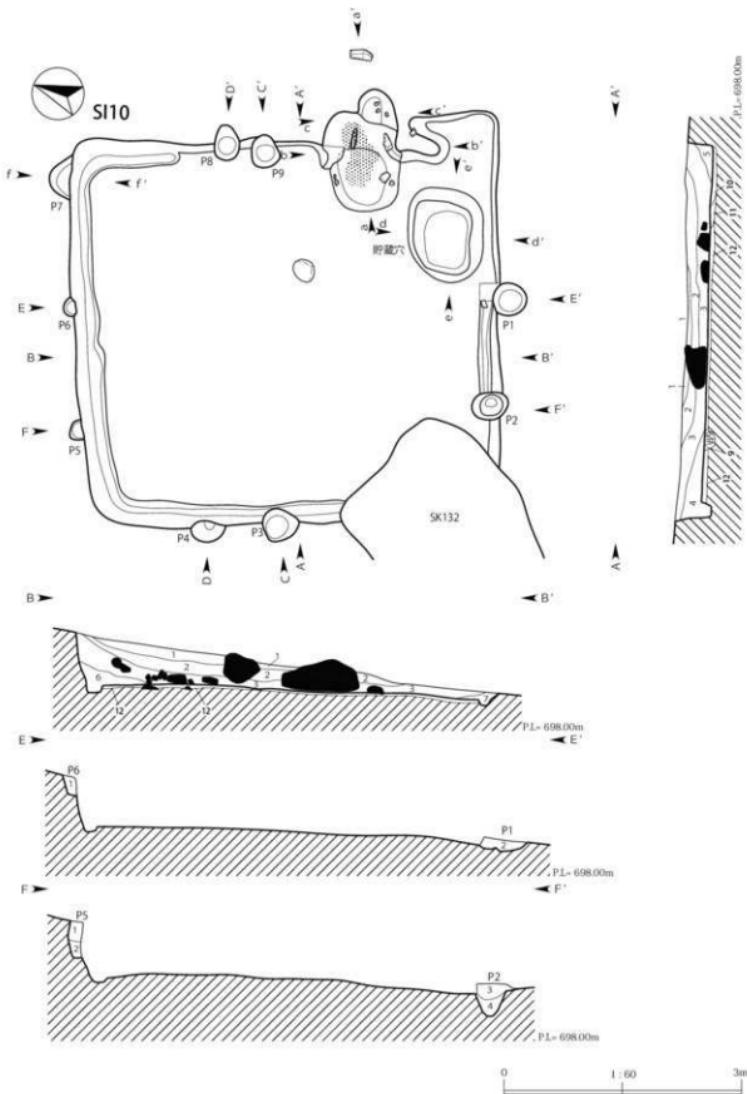
第116図 SI09カマド・カマド掘り方実測図(1/30)



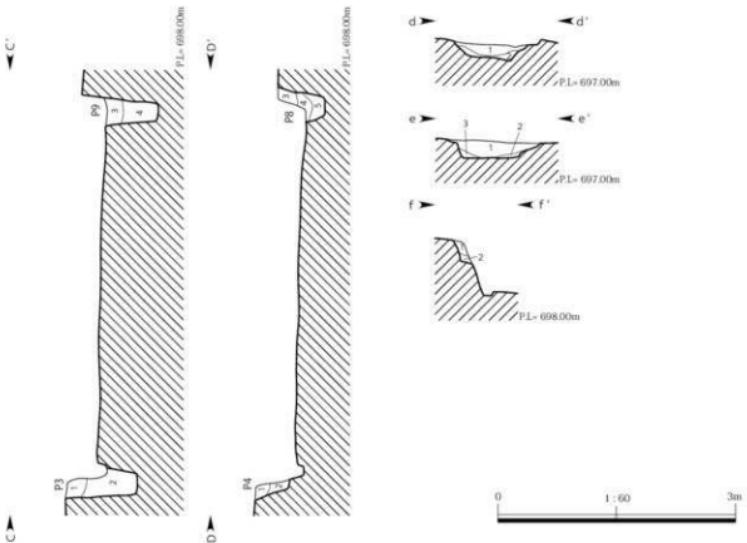
第117図 SI09遺物出土状況図(1/60)



第118図 SI09出土遺物実測図(1/3・1/4)



第119図 SI10実測図①(1/60)



S110 土壌説明

AA'・BB'

1. 黒褐色土層：粘性ややあり。しまりややあり。炭化粒（φ 5mm）・焼土粒・YPk・白色粒（軽石）（φ 1cm）微量含む。
2. 黒褐色土層：粘性あり。しまりややあり。白色粒（φ 5mm）微量含む。炭化粒（φ 1cm）・焼土粒・礫（φ 3cm）・YPk微量含む。
3. 黒褐色土層：粘性あり。しまりややあり。白色粒（φ 5mm）微量含む。炭化粒（φ 1cm）・焼土粒・礫（大粒）微量含む。
4. 黑褐色土層：粘性あり。しまりややあり。白色粒（φ 1cm）微量含む。YPk微量含む。
5. 黑褐色土層：粘性あり。しまりややあり。白色粒（φ 5mm）微量含む。
6. 黑褐色土層：粘性あり。しまりあり。YPk少量含む。炭化粒（φ 5mm）・礫（φ 3cm）・白色粒微量含む。
7. 黑褐色土層：粘性あり。しまりややあり。燒土粒・白色粒（φ 5mm）微量含む。
8. 黑褐色土層：粘性あり。しまりなし。YPk（φ 1cm）微量含む。(P13)
9. 黑褐色土層：粘性ややあり。しまりややあり。YPk（φ 2cm）微量含む。(P13)
10. 脳褐色土層：粘性ややあり。しまりややあり。小礫・YPk（φ 5mm～1cm）少量含む。
11. 黑褐色土層：粘性ややあり。しまりややあり。YPk（φ 1cm）微量含む。
12. 黑褐色土層：粘性ややあり。しまり硬い。小礫多量含む。にぶい黄褐色土粒少量含む。

CC'

1. 黑褐色土層：粘性弱い。しまりややあり。白色粒・YPk微量含む。
2. 黑褐色土層：粘性弱い。しまりややあり。白色粒・YPk微量含む。(以上P3)
3. 黑褐色土層：粘性弱い。しまりややあり。YPk少量含む。白色粒微量含む。

DD'

1. 黑褐色土層：粘性弱い。しまりあり。
2. 黑褐色土層：粘性弱い。しまりあり。(以上P4)
3. 黑褐色土層：粘性弱い。しまりあり。燒土粒・YPk微量含む。
4. 黑褐色土層：粘性弱い。しまりあり。焼土粒・YPk微量含む。
5. 白色土層：粘性ややあり。しまりややあり。ローム粒・炭化粒（φ 1cm）微量含む。(以上P8)

EE'

1. 黑褐色土層：粘性弱い。しまりあり。白色粒（φ 5mm）・YPk微量含む。(P6)
2. 黑褐色土層：粘性弱い。しまりややあり。白色粒（φ 5mm）・黃褐色土粒少量含む。YPk（φ 5mm）微量含む。(P1)

FF'

1. 黑褐色土層：粘性弱い。しまりあり。白色粒少量含む。YPk微量含む。
2. 黑褐色土層：粘性弱い。しまりあり。白色粒・YPk微量含む。(以上P5)
3. 黑褐色土層：粘性弱い。しまりあり。白色粒少量含む。燒土粒・YPk（φ 5mm）微量含む。
4. 黑褐色土層：粘性あり。しまりあり。YPk（φ 5mm）少量含む。白色粒微量含む。(以上P2)

S110 野鹿穴・ピット土壌説明

dd'・ee'・ff' 野鹿穴

1. 黑褐色土層：粘性弱い。しまりややあり。炭化粒・ローム粒・ロームブロック（φ 1cm）・ローム粒・燒土粒・白色粒微量含む。
2. 黑褐色土層：粘性弱い。しまりややあり。ロームブロック（φ 3cm）帶状に少量含む。ローム粒・礫（φ 1cm）微量含む。
3. 黑褐色土層：粘性弱い。しまりややあり。ローム粒・白色粒微量含む。

ff'・P7

1. 黑褐色土層：粘性弱い。しまりややあり。白色粒・YPk微量含む。
2. 黑褐色土層：粘性弱い。しまりややあり。燒土粒・白色粒微量含む。

第120図 S110実測図②(1/60)

えられる。 **遺物検出状況** 出土量は少なく、土器片が北壁際に散見される。床面近くであるが埋没過程の流れ込みと考えられる。 **遺物** 出土遺物のうち、土師器1点、土師質土器3点、須恵器6点を図示し得た。コの字形状と縁張りと月夜野型羽釜、内面黒色処理された壺が出土している。 **備考** 本遺構は、4本柱を持つ中型の竪穴住居跡である。帰属時期は、出土遺物から9世紀後半～10世紀前半と考えられる。

SI09 (第115～118図／PL 25・27・38)

位置 2-52区P・Q-10・11グリッド(1区調査区中央部中央)。 **重複関係** SK179と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** 南側が削平されており、壁が現存していない。 **覆土** 黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は北側が台形状となる隅丸六角形を呈する。主軸は4.00m、副軸は3.83m、確認面からの深さは最深58cm、床面積は10.23m²を測る。 **主軸方位** N-32°-W **壁・壁溝** 壁高は東・西・北壁が35cmを測り、南壁は現存していない。いずれの壁も外傾して立ち上がる。壁溝は南東隅部で確認された。溝幅は14～20cm、床面からの深さは6cmを測る。 **床面** 直床式であるが、貼床や踏み締りは確認されなかった。西側がわずかに低いものの概ね平坦である。 **柱穴** P1～P4まで確認された。平面形は円形を呈する。P1・P2は東西壁際のほぼ中央、P3・P4は竪穴中央から南東・南西隅寄りに位置している。それぞれが壁柱穴・主柱穴であり、柱の移動が行なわれた可能性も考えられる。それぞれの規模は第17表に記載する。 **カマド** 北壁のほぼ中央に位置する。袖は現存 第17表 SI09ピット計測表

しておらず、火床面の掘り込みと煙道が確認された。全長は195cm、最大幅は99cm以上を測る。火床面は7cm掘り込まれ、焼上部分は見られなかった。 **その他の施設** 北西隅部で貯蔵穴1基が確認された。不整形を呈し、長軸82cm、短軸76cm、床面からの深さは6cmを測る。 **遺物検出状況** 遺物量は少なく、カマド前方の覆土中で散見された。 **遺物** 出土遺物のうち、土師質土器1点、須恵器6点、灰釉陶器1点を図示し得た。その内、墨書き器が1点出土している。 **備考** 本遺構は、六角形状を呈する小型の竪穴住居跡である。カマド内の焼土部分もなく、使用期間は短かったと考えられる。帰属時期は、出土遺物から9世紀後半～10世紀前半と考えられる。

	P 1	P 2	P 3	P 4
長軸長(cm)	32	33	37	27
短軸長(cm)	31	27	33	27
深さ(cm)	20	15	11	25

SI10 (第119～123図／PL 26・27・38)

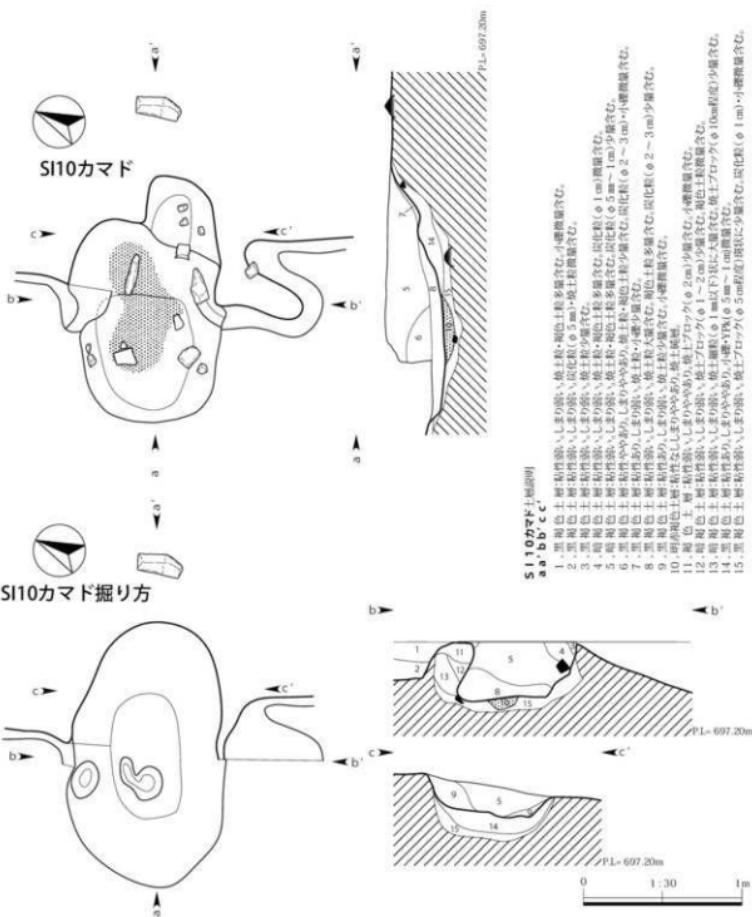
位置 2-52区Q・R-10・11グリッド(1区調査区中央部南側)。 **重複関係** SK132と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** 南側が削平されており、壁が現存していない。また、南西隅部をSK132によって壊されている。 **覆土** 黒褐色土が基調であるが、壁際に一部暗褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。拳大から人頭大の礫がレンズ状堆積の様相を呈していること、竪穴中央に90～100cm大の大岩が混入したことから、斜面上方から土砂崩れのようなものが起きた可能性が考えられる。 **平面形と規模** 平面形は南西隅部が不明であるが、隅丸方形を呈すると考えられる。主軸は5.05m、副軸は5.43m、確認面からの深さは最深82cm、床面積は20.77m²以上を測る。 **主軸方位** N-70°-E **壁・壁溝** 壁高は北壁が76cm、東・西壁が32cmを測り、南壁は現存していない。いずれの壁もほぼ垂直に立ち上がる。壁溝は北壁・西壁と東壁北端部、南壁の中央部で確認された。溝幅は20～33cm、床面からの深さは13cmを測る。

床面

直床式であるが、貼床や踏み締りは確認されなかった。中央部

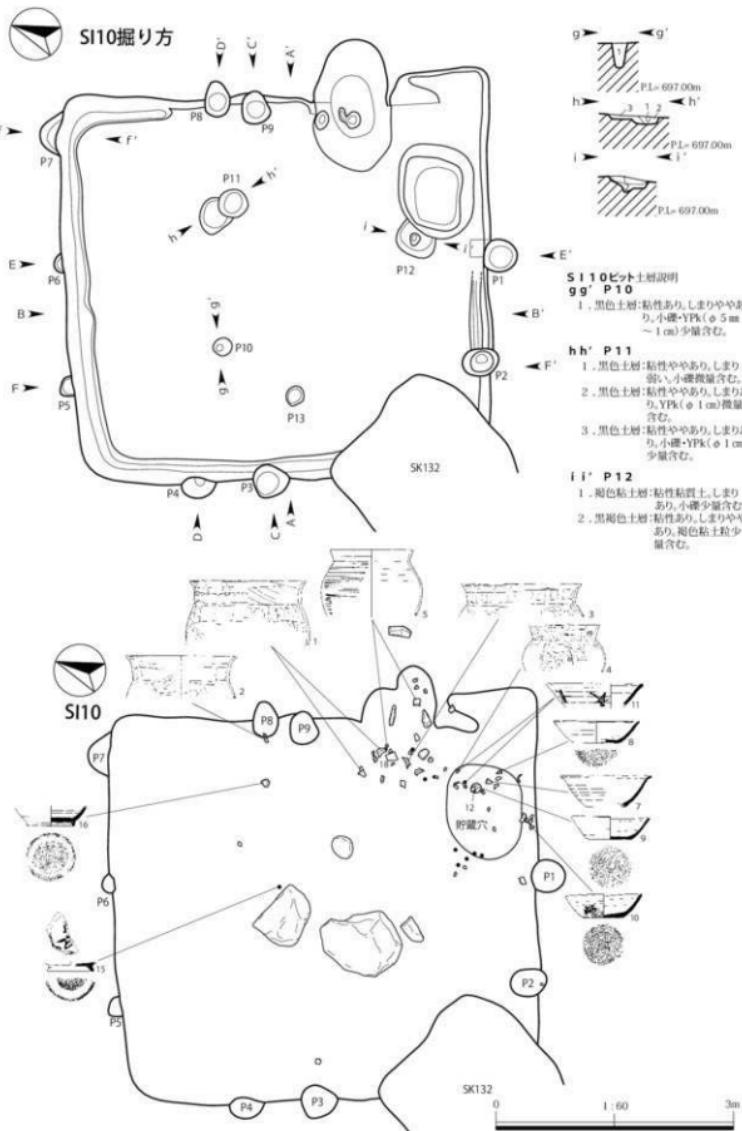
第18表 SI10ピット計測表

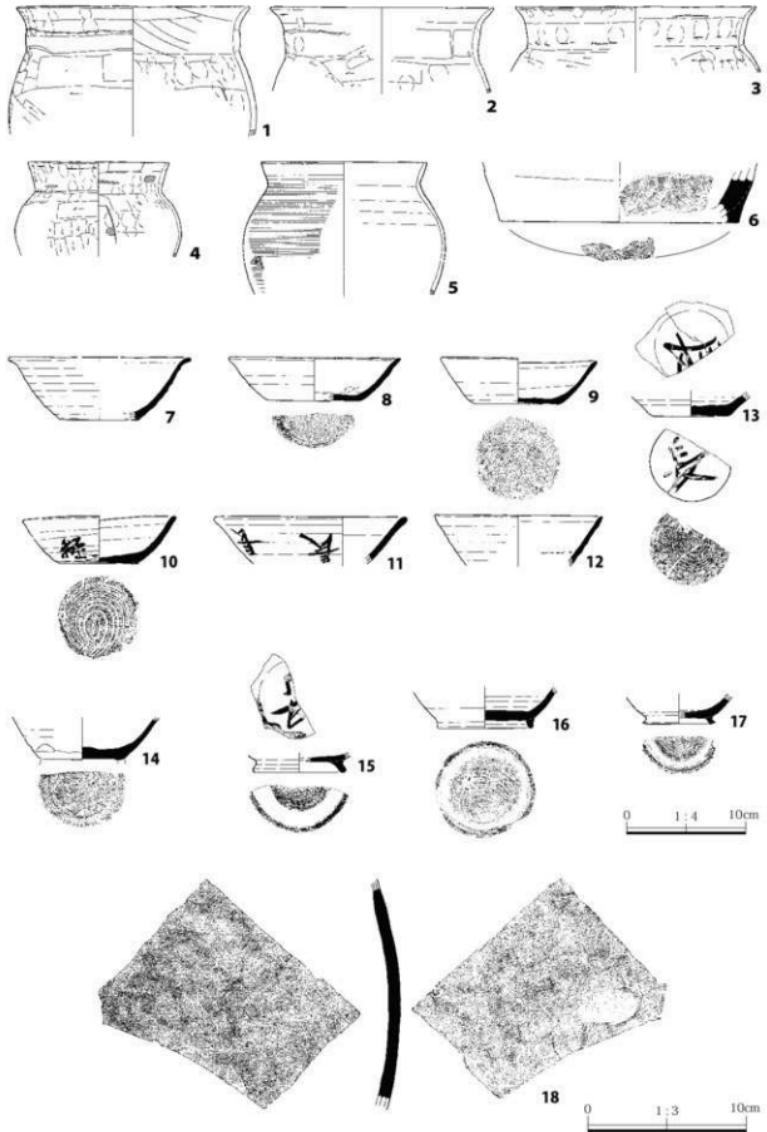
	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7
長軸長(cm)	43	47	46	45	25	25	52
短軸長(cm)	41	35	42	(27)	(17)	(15)	(29)
深さ(cm)	9	29	90	42	46	24	23
	P 8	P 9	P10	P11	P12	P13	
長軸長(cm)	45	42	24	67	(53)	26	
短軸長(cm)	33	36	23	41	50	23	
深さ(cm)	59	96	31	8	20	13	



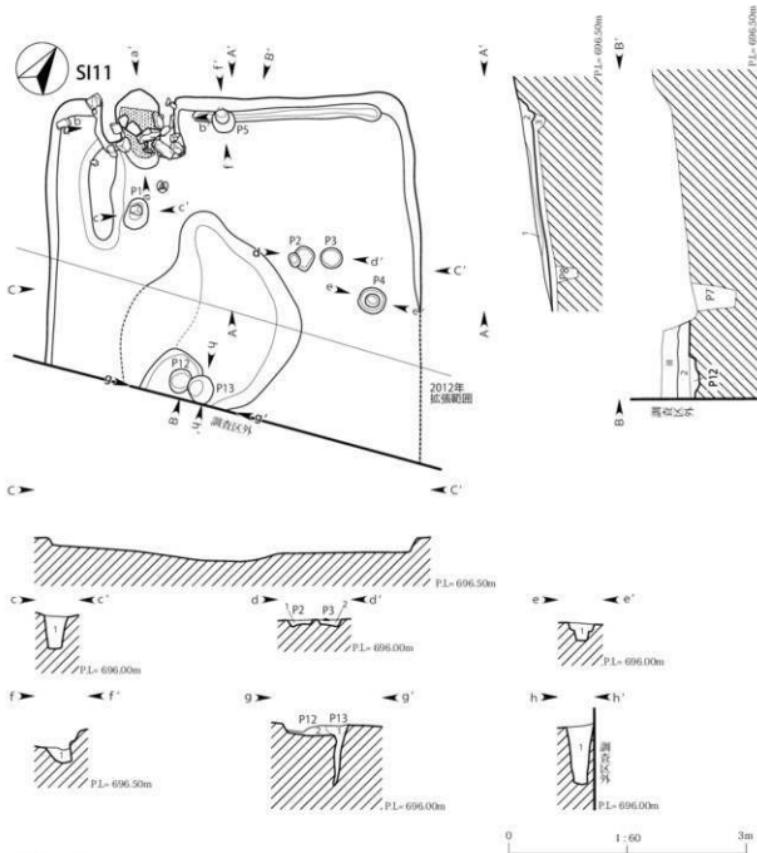
第121図 SI10カマド・カマド掘り方実測図(1/30)

壁柱穴と考えられる。それぞれの規模は第18表に記載する。 **カマド** 東壁中央やや南寄りに位置する。袖は現存しておらず、火床面の掘り込みと煙道が確認された。全長は152cm、最大幅は164cmを測る。火床面は12cm掘り込まれ、焼土部分は7cmの厚さを有する。 **その他の施設** 貯蔵穴1基が南東隅部で確認された。隅丸方形を呈し、長軸122cm、短軸96cm、床面からの深さは23cmを測る。 **遺物検出状況** 住居跡東側及びカマドの覆土中で散見された。第123図4・7～9・11・12は貯蔵穴出土である。 **遺物** 出土遺物のうち、土師器5点、須恵器13点を図示し得た。その内、4点が墨書き土器で、「長」が3点、「経」が1点である。土師器甕はコの字状口縁甕とロクロ甕が共存している。 **備考** 本遺構は、壁柱穴を巡らす大型の竪穴住居跡である。「長」・「経」の墨書き土器が出土している。帰属時期は、出土遺物から9世紀後半と考えられる。

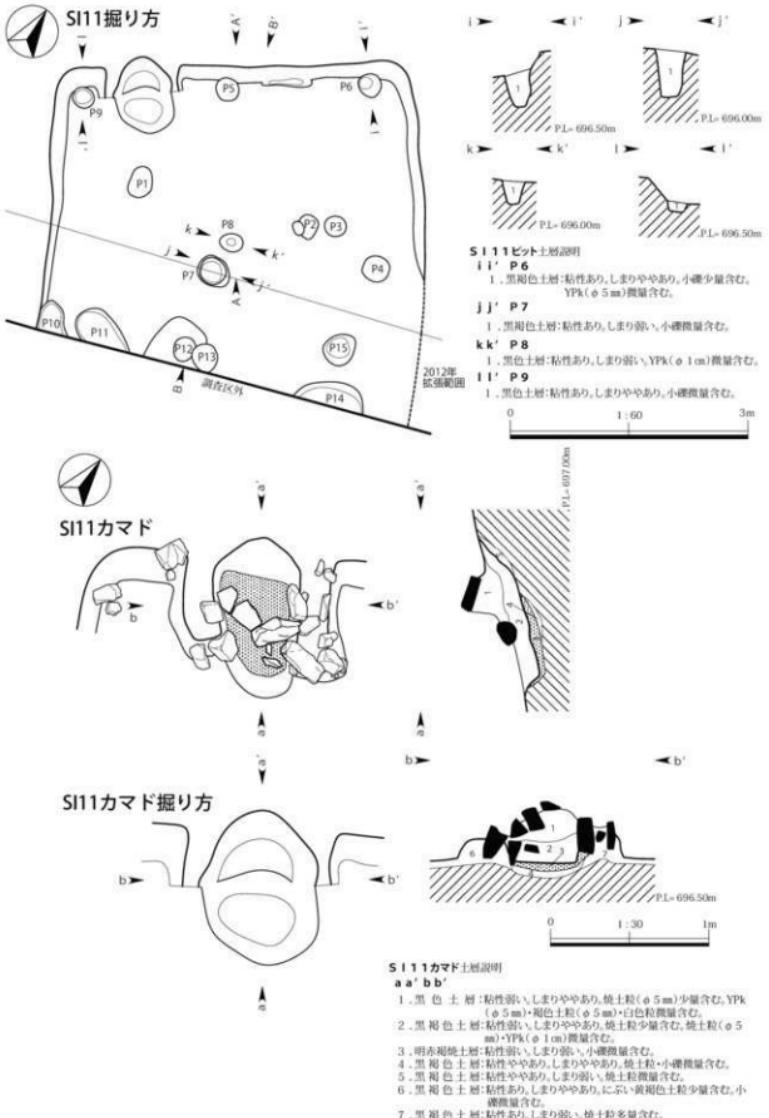




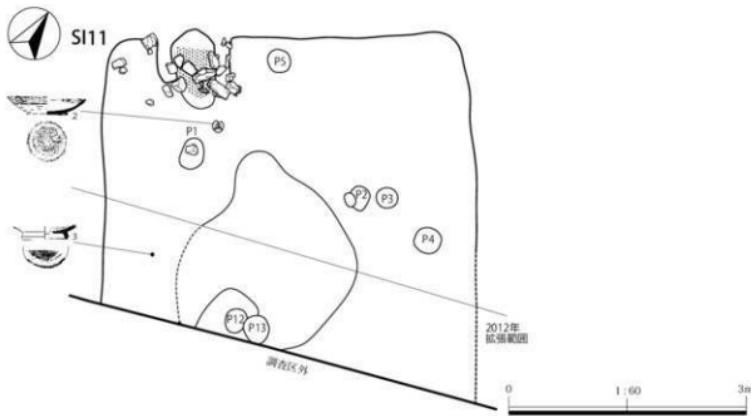
第123図 SI10出土遺物実測図(1/3・1/4)



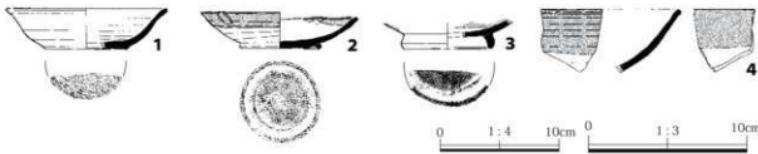
第124図 SI11実測図(1/60)



第125図 SI11掘り方(1/60)・カマド・カマド掘り方実測図(1/30)



第126図 SI11遺物出土状況図(1/60)



第127図 SI11出土遺物実測図(1/3・1/4)

SI11 (第124～127図／PL 26・27・39)

位置 2-52区R・S-11・12グリッド(1区調査区中央部南壁際)。 **重複関係** SK175と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** 南側約1/4が調査区外にあり、東壁の一部はSK175によって壊されている。

覆土 黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は南壁が調査区外にあるため全容は不明であるが、闊丸方形を呈すると考えられる。主軸4.8m以上、副軸は4.78m、確認面からの深さは最深17cm、床面積は16.26m²以上を測る。 **主軸方位** N-35°-W **壁・壁溝** 壁高は東・西・北壁が4cmを測り、南壁は確認されていない。いずれの壁も遺存状態が悪く、立ち上がりは不明である。壁溝は北壁の東半分で確認された。溝幅は13～20cm、床面からの深さは5cmを測る。 **床面** 直床式であるが、貼床や踏み締りは確認されなかつた。南側へ非常に緩やかに傾斜しているが、概ね平坦である。 **柱穴** P1～P15まで確認され、その内、P6～P8・P10～P15は掘り方で確認された。P5と掘り方から確認されたものであるがP6・P9は位置から壁柱穴と考 第19表 SI11ピット計測表

えられる。掘り方から確認されたP7は位置・規模から主柱穴の可能性がある。それぞれの規模は第19表で記載する。 **カマド** 北壁の西隅寄りに位置する。遺存状態は良好である。全

	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7	P 8
長軸長(cm)	40	33	27	35	30	30	44	30
短軸長(cm)	29	31	25	33	29	29	37	28
深さ(cm)	43	8	9	23	18	41	60	30

	P 9	P10	P11	P12	P13	P14	P15
長軸長(cm)	28	(46)	(77)	(68)	37	(90)	43
短軸長(cm)	27	40	48	(61)	33	(33)	38
深さ(cm)	9	11	8	20	70	10	17

長は 101cm、最大幅は 110cm を測る。火床面は 9cm 挖り込まれ、焼土部分は 6cm の厚さを有する。地山の黒褐色土で外形を造り、支持材に切石・自然石が使用されていた。 **その他の施設** 中央部に不整形の土坑が確認された。長軸は 243cm 現存し、短軸は 225cm、床面からの深さは 5cm を測る。床下土坑であったと考えられる。

遺物検出状況 遺物量は少なく、覆土から散見された。カマド前方床面から第 127 図 2 の灰釉陶器皿が逆位で出土している。 **遺物** 出土遺物のうち、須恵器 1 点、灰釉陶器 3 点を図示し得た。 **備考** 本遺構は、北側約 3/4 が確認された中型の竪穴住居跡である。帰属時期は、出土遺物から 10 世紀前半と考えられる。

SI13 (第 128 ~ 131 図 / P L 27・39)

位置 2-53 区 A・B-11・12 グリッド (1 区調査区中央部南壁際)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 南側約 1/2 が調査区外にあるが、概ね良好である。 **覆土** 黒褐色土が基調であるが、北壁際で黒色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は、南半分が調査区外にあるが隅丸方形を呈すると考えられる。主軸は 4.69m、副軸は 2.79m 以上、確認面からの深さは最深 43cm、床面積は 10.49m² 以上を測る。 **主軸方位** N-67°-E **壁・壁溝** 壁高は北壁が 42cm、東・西壁が 18cm を測る。南壁および壁溝は確認されていない。いずれの壁もほぼ直角に立ち上がる。 **床面** 直床式であるが、貼床や踏み締りは確認されなかった。南に向かって非常に緩やかに傾斜しているが、概ね平坦である。 **柱穴** P 1 ~ P 7 まで確認された。P 4 は竪穴外に位置するが、隣接していることから本遺構に伴うものと判断した。P 6 は掘り方で確認された。P 7 は柱痕のような掘り込みがあることから、主柱穴と考えられる。P 1・P 3 は壁際に位置することから壁柱穴と考えられる。それぞれの規模は第 20 表に記載する。

カマド 東壁のほぼ中央に位置する。右半分が調査区外にあるが、遺存状態は概ね良好である。全長は 97cm、最大幅は 73cm 以上を測る。 第 20 表 SI13 ピット計測表

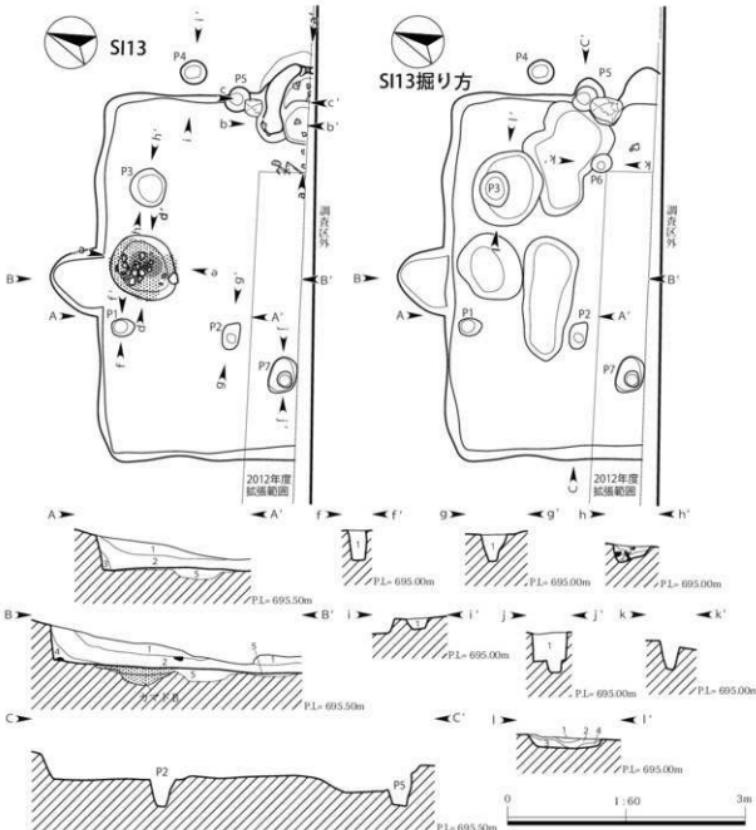
	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7
長軸 (cm)	29	33	48	33	32	27	46
短軸 (cm)	22	22	45	30	29	23	35
深さ (cm)	38	34	22	13	40	37	51

火床面は 17cm 挖り込まれ、焼土部分は 10cm の厚さを有する。地山の黒褐色土で外形を造り、周間に切石・自然石が散っていたことから、支持材として使われていた可能性が考えられる。北壁ほぼ中央で古いカマド (カマド B) の火床面と煙道が確認され、全長は 159cm、最大幅は 85cm 以上を測る。カマド B 火床面は直径約 85cm の不整形円形を呈し、中央部に灰が現存する。約 11cm 挖り込まれ、焼土部分は 6cm の厚さを有する。 **その他の施設** 挖り方で非常に浅い掘り込みが確認された。平面形は円形・梢円形・不整形とまちまちである。

遺物検出状況 遺物量は少ないが、偏ることなく住居跡全域で散見された。 **遺物** 出土遺物のうち、土師質土器 1 点、須恵器 4 点、灰釉陶器 1 点、鉄製品 1 点を図示し得た。 **備考** 本遺構は、北半分のみが確認され、カマドの造り替えが行なわれたと考えられる中型の竪穴住居跡である。帰属時期は、出土遺物から 10 世紀前半と考えられる。

SI14 (第 132 ~ 137 図 / P L 28・29・39)

位置 2-42 区 T-16・17 グリッド、2-43 区 A-16・17 グリッド (1 区調査区東部北側隅部)。 **重複関係** SK166 と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 南側約 3/4 が削平されており、壁はほとんど現存していない。 **覆土** 黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 削平を受けているため床面の形態が不正確であるが、隅丸方形を呈するものと考えられる。主軸は 5.52m、副軸は 5.27m 以上、確認面からの深さは最深 23cm、床面積は 22.03m² 以上を測る。 **主軸方位** N-90° **壁・壁溝** 壁高は北壁が 23cm を測り、その他の壁は現存しない。北壁は外傾して立ち上がる。壁溝は北壁東半分で確認された。溝幅は 12 ~ 18cm、床面からの深さは 10cm を測る。 **床面** 直床式であるが、貼床や踏み締りは確認されなかった。南側へ非常に緩やかに傾斜しているが、概ね平坦である。 **柱穴** P 1 ~ P 3 まで確認され、P 3 は P 1 と隣接しており、柱の建て替えの可能性が考えられる。それぞれの規模は第 21 表に記載する。 **カマド** 東壁中央やや南寄りに位置する。



SI13土層説明

AA' BB'

1. 黒褐色土層: 黏性弱い、しまりややあり、白色粒少量含む。運(Φ 3cm)・YPk・白色粒(Φ 5mm)微量含む。
2. 黒褐色土層: 黏性ややあり、しまりややあり。運(Φ 1cm)・白色粒少量含む。炭化粒・焼土粒・礫・拳土・白色粒(Φ 1cm)微量含む。
3. 黒色土層: 黏性ややあり、しまりあり。YPk(Φ 5mm)少量含む。白色粒(Φ 5mm)微量含む。
4. 黑色土層: 黏性ややあり、しまりあり。白色粉(Φ 5mm)少量含む。YPk・白色粒(Φ 1cm)微量含む。
5. 黑褐色土層: 黏性ややあり、しまりあり。白色粒少量含む。焼土粒・YPk微量含む。

SI13ピット土層説明

ff' P1

1. 黒褐色土層: 黏性ややあり、しまり弱い。YPk(Φ 1cm)少量含む。小漂砾微量含む。

gg' P2

1. 黑色土層: 黏性あり、しまり弱い。砂少量含む。炭化粒(Φ 1cm)に付く。黄褐色土粒・YPk(Φ 2cm)微量含む。

hh' P3

1. 黑色土層: 黏性ややあり、しまり弱い。小漂砾少量含む。炭化粒(Φ 2cm)微量含む。

ii' P4

1. 黑褐色土層: 黏性あり、しまりややあり。小漂砾少量含む。YPk(Φ 5mm~1cm)微量含む。

j j' P7

1. 黑色土層: 黏性ややあり、しまり弱い。白色粒少量含む。YPk微量含む。運(Φ 2~3cm)拳大含む。

kk' P3

1. 黑褐色土層: 黏性あり、しまりややあり。ローム粒少量含む。ロームブロック(Φ 5mm)炭化粒微量含む。

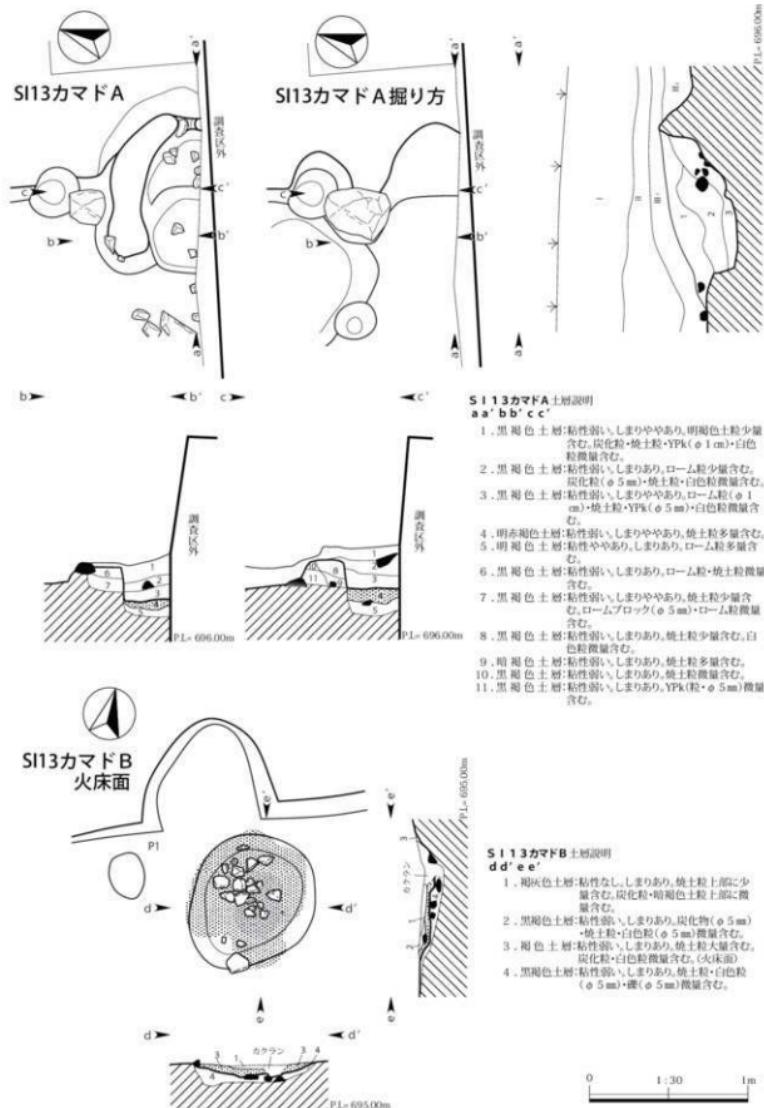
ll' P5

2. 褐色土層: 黏性あり、しまりあり。ロームブロック(Φ 3cm)・ローム粒多量含む。燒土粒・ブロック(Φ 5cm)・YPk微量含む。
3. 黑色土層: 黏性ややあり、しまりあり。燒土粒・ブロック(Φ 5cm)・白色粒(Φ 5mm)微量含む。
4. 黑色土層: 黏性あり、しまりあり。ローム粒・燒土粒・白色粒微量含む。

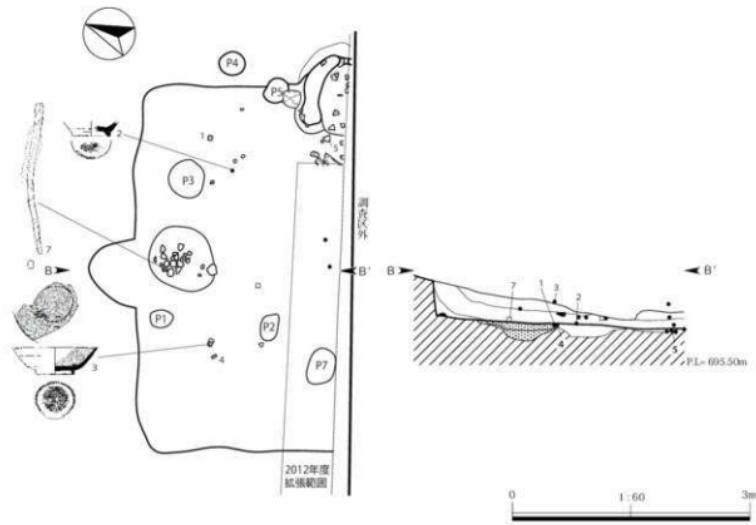
pp' P6

1. 黑色土層: 黏性ややあり、しまりあり。白色粒微量含む。

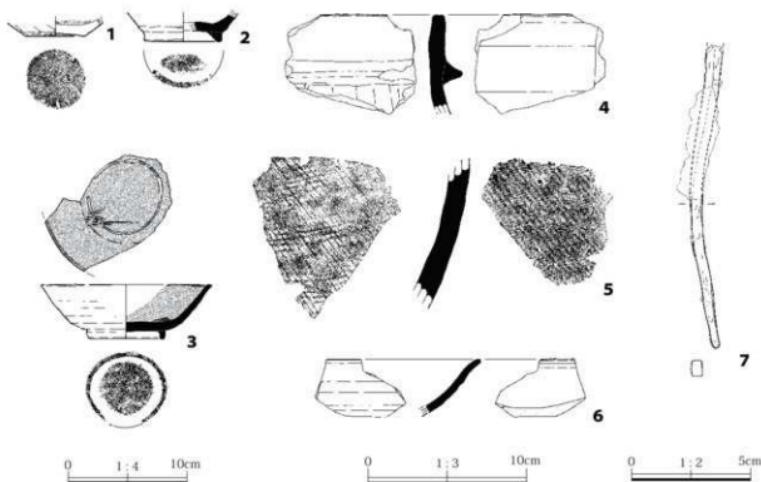
第128図 SI13・SI13掘り方実測図(1/60)



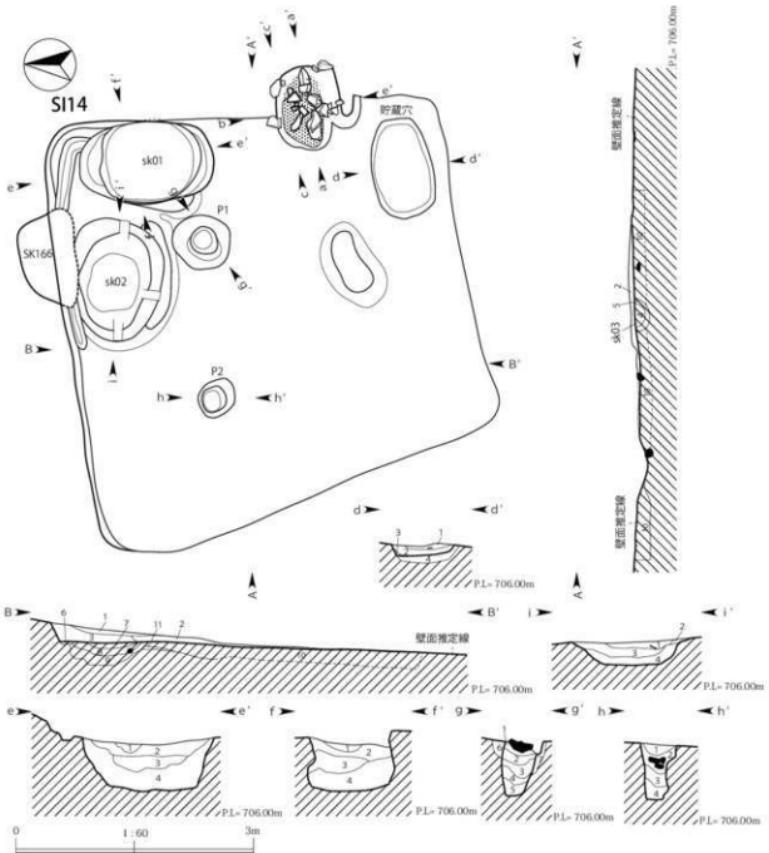
第129図 SI13カマドA・カマドA掘り方・カマドB実測図(1/30)



第130図 SI13遺物出土状況図(1/60)



第131図 SI13出土遺物実測図(1/2・1/3・1/4)



SI14 土壌説明

AA' BB'

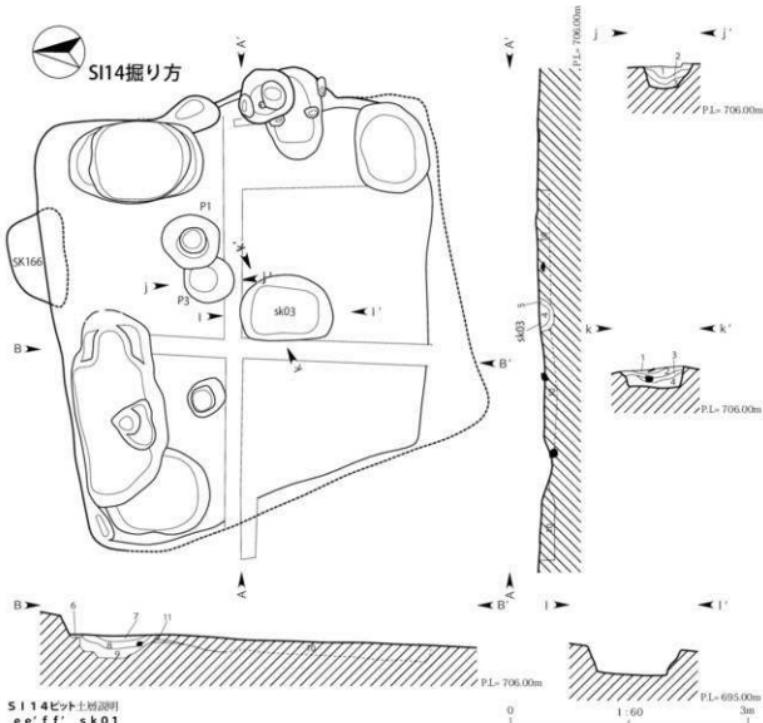
1. 黒色土層：粘性弱め、しまりあり。YPh(φ 3cm)微量含む。
2. 黒色土層：粘性弱め、しまりあり。ロームブロック(φ 1m)・ローム粒・炭化鉱・焼土・YPh微量含む。
3. 黒色土層：粘性弱め、しまりややあり。ローム粒・炭化鉱(φ 5mm)・礫(φ 1cm~3cm)微量含む。
4. 黒色土層：粘性弱め、しまりあり。ロームブロック(φ 3cm)・白砂少量含む。D=ム粒・白色粒(φ 5mm)微量含む。(sk03・2層と対応)
5. 黒色土層：粘性弱め、しまりあり。ローム粒多量含む。炭化鉱・土粒子(φ 5mm粒)・白色粒(φ 5mm)微量含む。(sk03・4層と対応)
6. 黒褐色土層：粘性弱め、しまりややあり。ローム粒少量含む。白色粒(φ 3cm)・YPh微量含む。
7. 黑褐色土層：粘性弱め、しまりあり。ロームブロック粒微量含む。ロームブロック(φ 1cm)・燒土粒・白色粒(φ 1cm)微量含む。
8. 黑褐色土層：粘性やや弱め、しまりややあり。ロームブロック(φ 1cm)・ローム粒・炭化鉱(φ 5mm)・燒土粒微量含む。
9. 黑色土層：粘性弱め、しまりあり。ロームブロック(φ 5mm)・YPh(φ 3cm)・ローム粒・燒土粒・YPh(φ 1cm)微量含む。
10. 黑色土層：粘性弱め、しまりあり。白色粒(φ 5mm)・YPh(φ 5mm粒)少量含む。焼土頭大・3cm)微量含む。
11. 灰黄褐色土層：粘性弱め、しまりあり。ロームブロック(φ 1cm)多量含む。YPh(φ 1cm)少量含む。白色粒(φ 5mm)微量含む。

SI14 蔵穴土層説明

dd'

1. 黑褐色土層：粘性弱め、しまりややあり。炭化鉱・焼土粒・YPh(φ 5mm)微量含む。
2. 黑褐色土層：粘性弱め、しまりあり。ローム粒・YPh少量含む。炭化鉱(φ 5mm)・YPh(φ 5mm)・礫(φ 3cm)微量含む。
3. 黑色土層：粘性弱め、しまりあり。白色粒ごく微量含む。
4. 黑褐色土層：粘性弱め、しまりあり。ロームブロック(φ 1cm)多量含む。白色粒(φ 1cm)・ローム粒・YPh(φ 5cm)・白色粒微量含む。

第132図 SI14実測図(1/60)



SI14ピット土層説明

e e' f f' s k 01

1. 黒色土層:粘性弱い、しまりあり、焼土ブロック(φ 3cm)少量化含む。ロームブロック(φ 5cm)・ローム粒・粘・YPk(φ 1cm)微量含む。
2. 黒色土層:粘性弱い、しまりややあり、ローム粒多量含む(東・南側)、焼土粒(φ 3cm)少量化含む。
3. 黒色土層:粘性弱い、しまりあり、炭酸カル(φ 1cm)少量含む。焼土粒(φ 5cm)・YPk(白色粒(φ 5mm)・礫(φ 3cm))微量含む。ロームブロック(φ 1cm)・ローム粒ごく微量含む。
4. 黒褐色土層:粘性弱い、しまりややあり、焼土粒(φ 5mm)少量化含む。炭酸カル(φ 5mm)・粘(φ 3cm)・ホト粒(φ 1cm)・YPk(φ 5mm)微量含む。

g g' p 1

1. 黒色土層:粘性弱い、しまり弱い、ローム粒ごく微量含む。
2. 黒色土層:粘性弱い、しまり弱い、ロームブロック(φ 1cm)・ローム粒微量含む。
3. 黑色土層:粘性弱い、しまり弱い、ローム粒(φ 1cm)・ローム粒微量含む。
4. 黑褐色土層:粘性弱い、しまり弱い、ローム粒上部一部に多量含み全体は少量化含む。
5. 黑褐色土層:粘性弱い、しまりややあり、ローム粒少量化含む。YPk微量含む。
6. 黑色土層:粘性弱い、しまりややあり、焼土粒少量化含む(赤味ややあり)。ロームブロック(φ 1cm)・ローム粒微量含む。
7. 喀爾色土層:粘性弱い、しまり弱い、YPk(φ 1cm)・白色粒微量含む。

h h' p 2

1. 黒色土層:粘性弱い、しまり弱い、炭酸カル・YPk・礫(φ 10mm)微量含む。
2. 黑褐色土層:粘性弱い、しまり弱い、ローム粒少量化上部に多量含む。YPk(φ 5mm)北東側に礫(φ 10mm)少量化含む。
3. 黑褐色土層:粘性弱い、しまり弱い、ローム粒少量化含む(黄色味あり)。YPk微量含む。
4. 黑褐色土層:粘性弱い、しまり弱い、ローム粒少量化含む(3番より少なく黄色味あり)。YPk微量含む。

i i' s k 02

1. 黒褐色土層:粘性弱い、しまりあり、ローム粒・焼土ブロック(φ 2cm)少量化含む。ロームブロック(φ 1cm)・焼土粒・暗褐色土粒上部に帶状・白色粒(φ 5mm)微量含む。
2. 黑褐色土層:粘性弱い、しまりあり、焼土粒北側に大量含む。ローム粒・燒土粒・白色粒微量含む。
3. 黑褐色土層:粘性弱い、しまりあり、ローム粒・ローム粒(φ 5mm)少量化含む。ローム粒(φ 1cm)・白色粒微量含む。
4. 黑褐色土層:粘性弱い、しまりあり、ロームブロック(φ 3cm)・ローム粒少量化含む。焼土ブロック(φ 5mm)・粘・YPk(φ 5mm)微量含む。

S 114壁面ピット土層説明

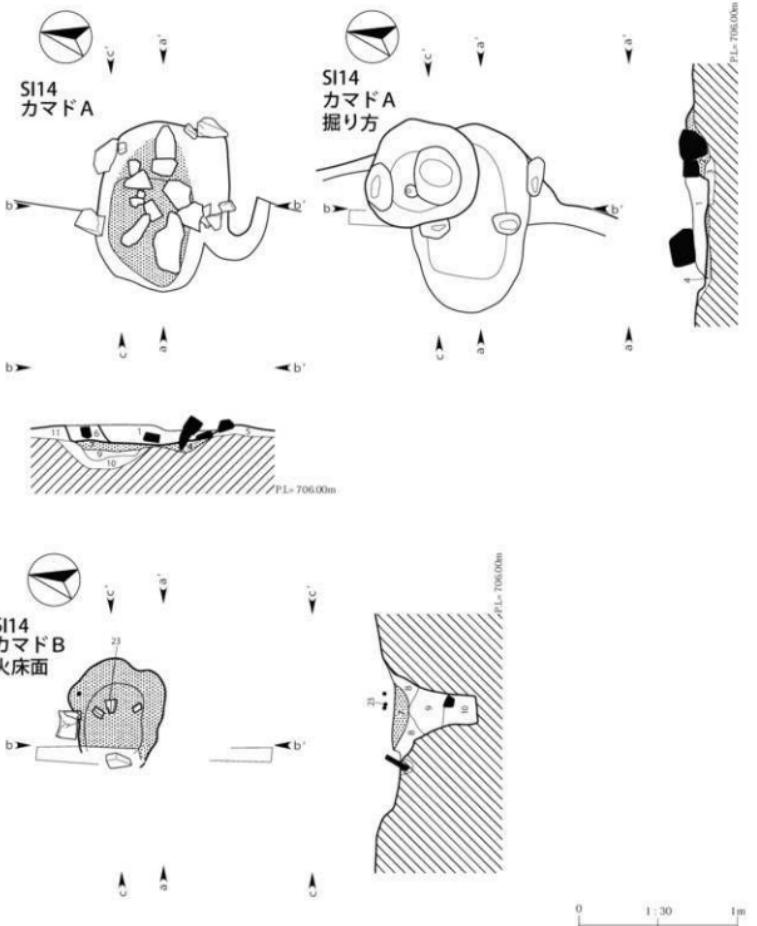
j j' p 3

1. 黄褐色土層:粘性弱い、しまりあり、ローム粒多量含む。焼土ブロック(φ 1cm)・白色粒微量含む。
2. 黑褐色土層:粘性弱い、しまりややあり、ローム粒・焼土粒(φ 5mm)微量含む。
3. 黑褐色土層:粘性弱い、しまりややあり、ローム粒(φ 5mm)・ローム粒・白色粒(φ 5mm)微量含む。

k k' s k 03

1. 暗褐色土層:粘性弱い、しまりあり、ローム粒少量化含む。焼土粒・YPk(φ 5mm)微量含む。
2. 黑褐色土層:粘性弱い、しまりややあり、ローム粒・焼土粒・YPk(φ 5mm)微量含む。
3. 暗褐色土層:粘性弱い、しまりあり、焼土ブロック(φ 1cm)・YPk微量含む。
4. 黑褐色土層:粘性弱い、しまりあり、ロームブロック(φ 1cm)少量化含む。ローム粒・焼土粒・白色粒(φ 5mm)微量含む。

第133図 SI14掘り方実測図(1/60)

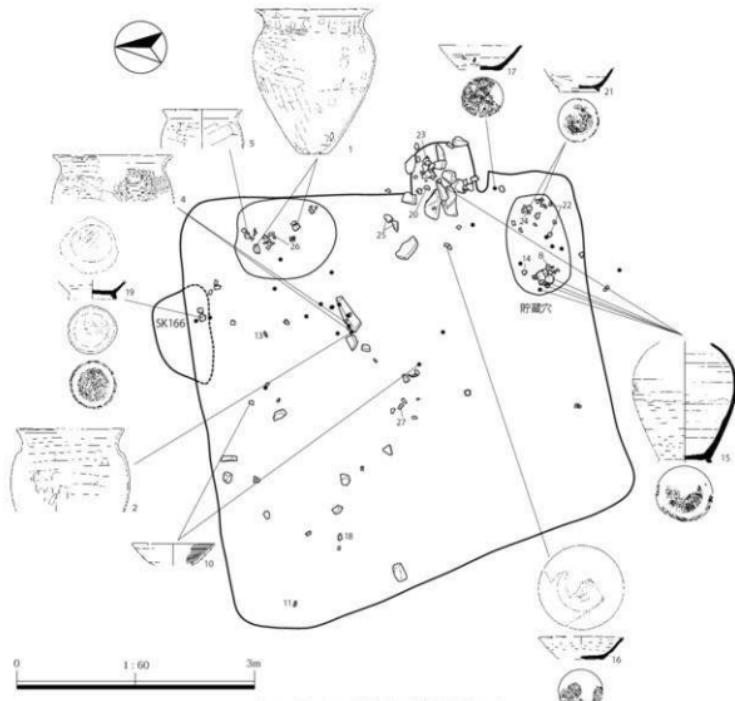


SI14カマドA層説明

a a' b b' c c'

1. 黒 色 土 剥: 粘性あり、しまりややあり。礫(拳大)少量含む。炭化粒・焼土粒・YPK(Φ 5mm)・白色粒・礫(人頭大)微量含む。
2. 暗 色 砂 四 士: 粘性弱く、しまりややあり。焼土粒微量含む。
3. 暗 褐 色 土 剥: 粘性弱く、しまりややあり。炭化粒(Φ 5mm)・焼土粒微量含む。
4. 黒 色 土 剥: 粘性弱く、しまりややあり。ロームブロック(Φ 5mm)・焼土粒微量含む。
5. 暗 褐 色 土 剥: 粘性弱く、しまりややあり。焼土粒・YPK粒・白色粒微量含む。
6. 黒 色 土 剥: 粘性やや弱く、しまりあり。ローム粒少量含む。燒土粒微量含む。(以上カマドA)
7. 赤褐色の粘土層: 粘性なし、しまり弱く、焼土粒・黒褐色土粒微量含む。少量含む(以上カマドA)。
8. 黑 褐 色 土 剥: 粘性弱く、しまりあり。暗褐色土粒多量含む。焼土粒(Φ 3mm粒)・白色粒微量含む。
9. 暗 褐 色 土 剥: 粘性弱く、しまりあり。焼土粒・砂粒・ローム粒・炭化粒・白色粒(Φ 5mm)微量含む。
10. 黒 色 土 剥: 粘性弱く、しまりあり。ローム粒微量含む。(以上カマドB)
11. 黑 色 土 剥: 粘性弱く、しまりあり。焼土粒・YPK(Φ 5mm)微量含む。

第134図 SI14カマドA・カマドA掘り方・カマドB実測図(1/30)



第135図 SI14遺物出土状況図(1/60)

全長は107cm、最大幅は109cm以上を測る。火床面は6cm掘り込まれ、第21表 SI14 ピット計測表

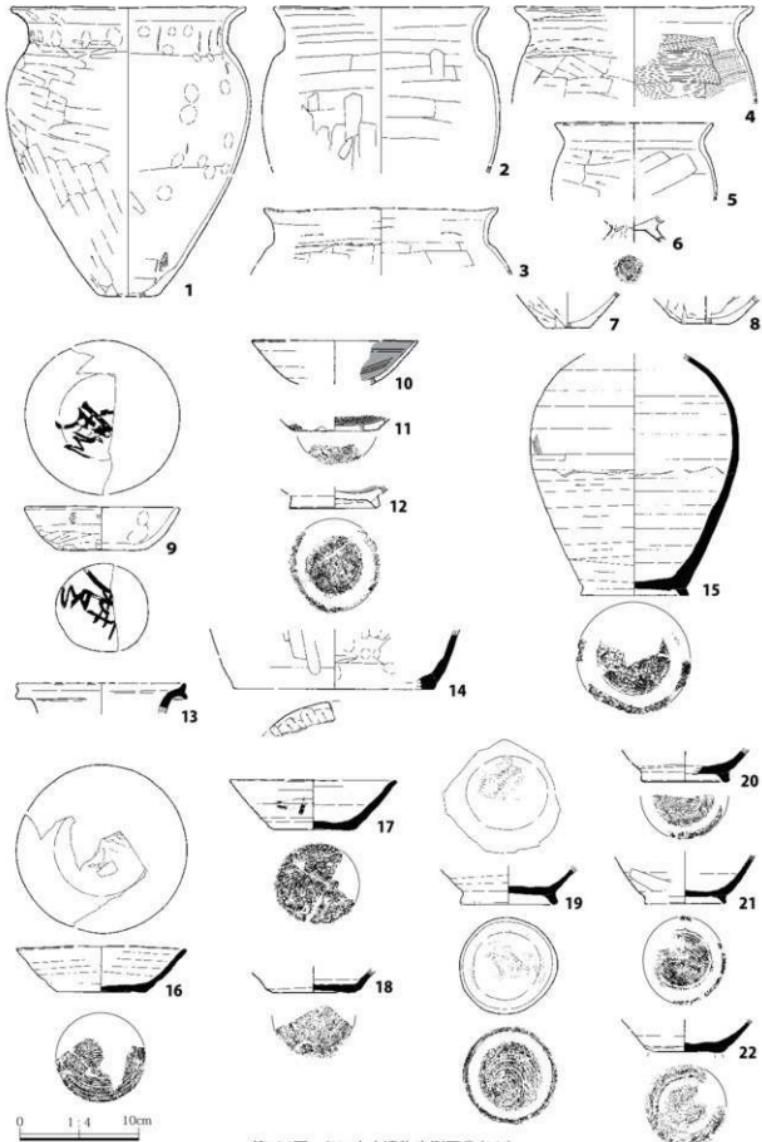
焼土部分の厚さは5cmを有する。地山の暗褐色土で外形を造り、カマド内に切石・自然石が散乱していたことから、支持材として使われていたと考えられる。火床面の北側にもう1つ古い火床面（カマドB）が確認された。カマドの造り替えが行なわれていたと考えられる。カマドB火床面の長軸は57cm以上、短軸は56cmを測る。18cm掘り込まれ、焼土部分の厚さは9cmを有する。カマドB火床面の下にピット状の掘り込みが確認された。本遺構より古い時期のピットがあった可能性がある。

その他の施設 貯蔵穴1基と床下土坑3基が確認された。

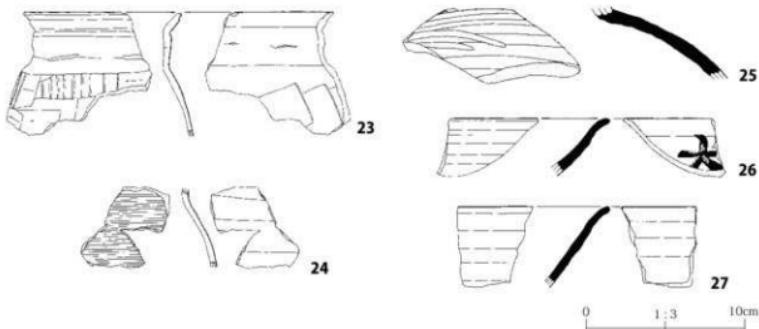
平面形は楕円形を呈し、長軸126cm、短軸77cmを測る。床面から24cm掘り込んだ後、ロームを多量に含む土で10cm程埋め戻されており、床面からの深さは14cmを測る。床下土坑1は、平面形が楕円形を呈し、長軸169cm、短軸64cm、床面からの深さは61cmを測る。平面・断面の形態から、本遺構よりも古い陥し穴であった可能性がある。床下土坑2は床下土坑1の南側の北壁際に位置する。平面形は楕円形で、長軸155cm、短軸114cm、床面からの深さは31cmを測る。覆土に少量の焼土を含んでいることから、もう1つ古いカマドの掘り込みの可能性がある。床下土坑3は竪穴のほぼ中央に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸118cm、短軸83cm、床面からの深さは26cmを測る。ローム粒を含む土が1層・3層に堆積しており、床面が窪んで補修した痕跡と考えられる。

遺物検出状況 南西隅部を除いた広い範囲の床面付近から出土している。また、貯蔵穴、床下土坑1、P1から多く出土している。

遺物 出



第136図 SI14出土遺物実測図①(1/4)



第137図 SI14出土遺物実測図②(1/3)

土遺物のうち、土師器 11 点、土師質土器 3 点、須恵器 13 点を図示し得た。その内、墨書き土器が 3 点である。土師器はコの字状口縁表とロクロ表が出土している。 **備考** 本遺構は、カマドの造り替えが行なわれたと考えられる大型の竪穴住居跡である。帰属時期は、出土遺物から 9 世紀後半と考えられる。

SI15 A・B (第 138 ~ 143 図 / PL 28・29・40)

位置 2-52 区 T-18・19、2-53 区 A-18・19 グリッド (2 区調査区中央部)。 **重複関係** 建て替えが行なわれたと考えられる竪穴住居跡で、新しい方を A、古い方を B とした。ともに SK61、SD05 と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** SI15 A のカマド煙道部が SD05 に、両住居跡北壁上部および SI15 B のカマドが SK61 に壊されている。 **覆土** ともに黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** SI15 A の平面形は隅丸方形を呈する。主軸は 3.66 m、副軸は 3.57 m 以上、確認面からの深さは最深 49cm、床面積は 10.57m² を測る。SI15 B の平面形は隅丸方形を呈する。主軸は 4.06 m、副軸は 3.66 m、確認面からの深さは最深 66cm、床面積は 9.63m² を測る。新しい方の規模が小さいが周溝がないため、床面積は広くなっている。

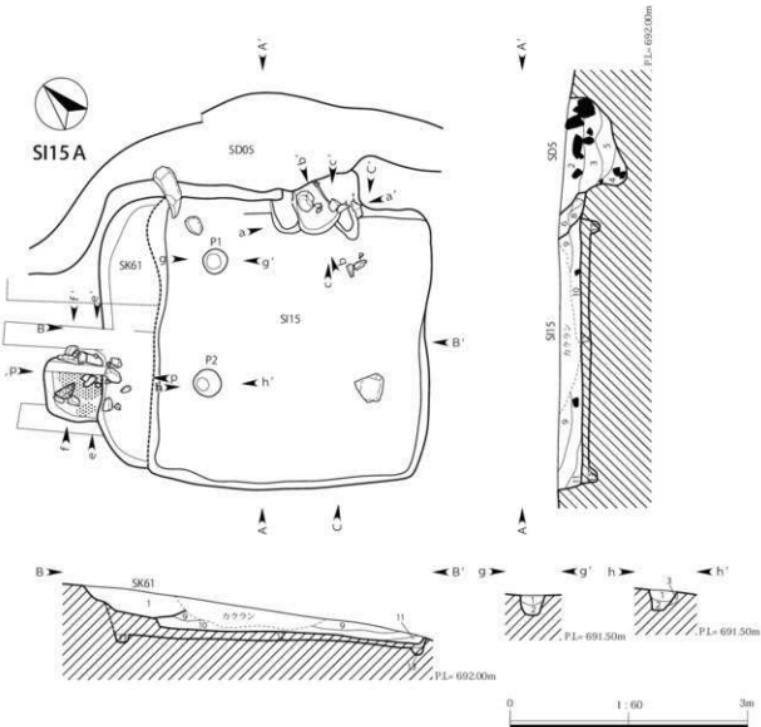
主軸方位 SI15 A は N-43°-E。SI15 B は N-48°-W。 **壁・壁溝** SI15 A の壁高は、東・西壁が 29 cm、南・北壁が 10cm を測る。いずれの壁も外傾して立ち上がる。壁溝は確認されなかった。SI15 B の壁高は、北壁が 50cm、東・西・南壁が 20 ~ 25cm を測る。いずれの壁も外傾して立ち上がる。壁溝は SI15 B が全周し、溝幅は 15 ~ 25cm、床面からの深さは 10 ~ 15cm を測る。 **床面** SI15 A は直床式であるが、貼床や踏み締りは確認されなかった。南側に向かって緩やかに傾斜しているが、概ね平坦である。SI15 B は直床式であるが、貼床や踏み締りは確認されなかった。南側に向かって非常に緩やかに傾斜しているが、概ね平坦である。 **柱穴** SI15 A で P 1・P 2 が確認された。SI15 B では、P 3・P 4 のほか、P 1・P 2 も確認された。位置から主柱穴と考えられる。それぞれの規模は第 22 表に記載する。

カマド SI15 A は東壁ほぼ中央に位置し、煙道が壊され 第 22 表 SI15 ピット計測表

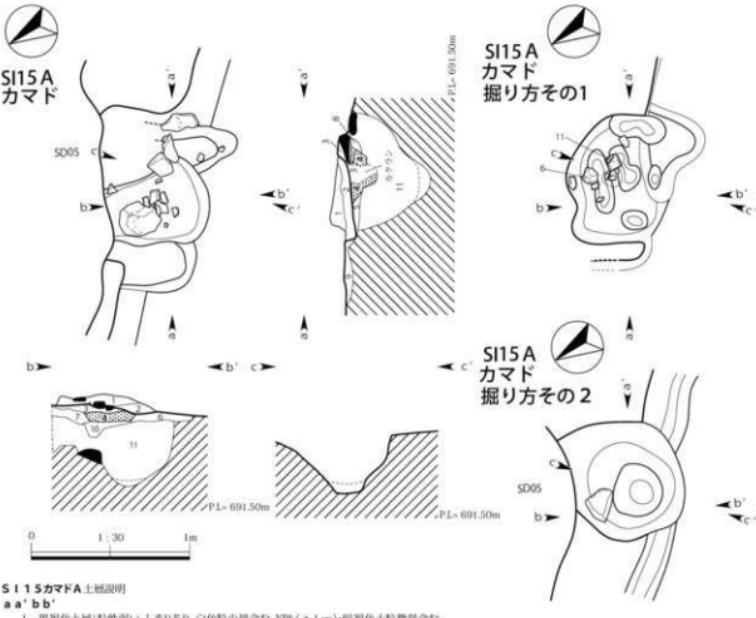
	P 1	P 2	P 3	P 4
長軸長 (cm)	32	35	31	38
短軸長 (cm)	31	34	30	32
深さ (cm)	25	21	8	12

ピットがあったものと考えられる。SI15 B は北壁西側寄りに位置し、両袖が壊されている。全長は 80cm、最大幅 90cm 以上を測る。火床面は 17cm 挖り込まれ、焼土部分は 10cm の厚さを有する。 **その他の施設** なし。

遺物検出状況 遺物量は少なく、SI15 A の覆土から散見された。 **遺物** 出土遺物のうち、土師器 5 点、須恵器 6 点を図示し得た。その内、墨書き土器が 1 点である。土師器表はコの字状口縁表とロクロ表が出土している。 **備考** 本遺構は、建て替えが行なわれたと考えられる小型の竪穴住居跡で、カマドの位置が北から東へ



第138図 SI15A実測図(1/60)



SI15カマドA上層説明

a a' bb'

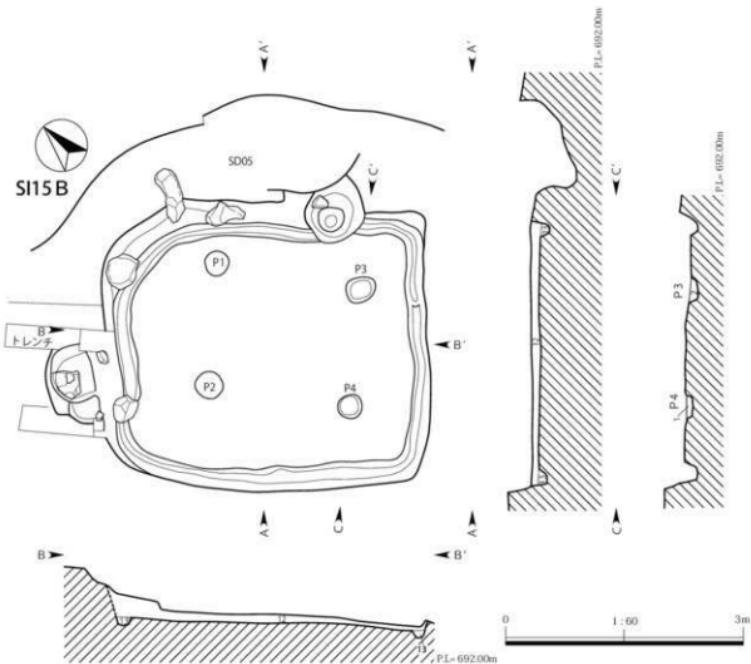
1. 黒褐色土層：粘性弱い、しまりあり、白色粒少量含む、YPk(φ 1cm)・暗褐色土粒微量含む。
2. 黒褐色土層：粘性弱いややあり、白色粒少量含む、燒土粒微量含む。
3. 暗褐色土層：粘性弱いややあり、燒土粒・白色粒(φ 5mm)微量含む。
4. 褐色土層：粘性弱い、しまりあり、燒土純地、白色粒・暗褐色土粒微量含む。
5. 黑褐色土層：粘性弱い、しまりあり、白色粒少量含む、燒土粒微量含む。
6. 黑褐色土層：粘性弱い、しまりあり、ロームブロック(φ 3cm)・ローム・灰化粧・白色粒微量含む。
7. 黑褐色土層：粘性弱い、しまりあり、燒土粒少量含む、ローム・白色粒微量含む。
8. 黑褐色土層：粘性弱い、しまりあり、燒土粒少量含む、白色粒微量含む。
9. 黑褐色土層：粘性弱い、しまりあり、ロームブロック(φ 3cm)・白色粒(φ 5mm)少量含む、YPk(φ 5mm)微量含む。
10. 黑色土層：粘性弱い、しまりあり、白色粒(φ 5mm)微量含む。
11. 黑色土層：粘性ややあり、しまりなし、燒土粒多量含む。

第139図 SI15カマドA・カマドA掘り方実測図(1/30)

変わっている。出土遺物から、新旧住居跡とともに9世紀後半に歸属すると考えられる。

SI16 (第144～148図／PL 29・40)

位置 2-52区M・N-4グリッド（1区調査区中央部北側）。**重複関係** なし。**遺存状態** 南側約1／3が削平され現存していない。**覆土** 黒色土が基調であるが、上層に黒褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は、南側約1／3が現存していないため不明であるが、隅丸方形を呈すると考えられる。主軸は4.68 m、副軸は3.75 m以上、確認面からの深さは最深49cm、床面積は13.71m²以上を測る。**主軸方位** N-75°-E **壁・壁溝** 壁高は北壁が46cm、東・西壁が10～40cmを測り、南壁は現存しない。いずれの壁もほぼ垂直に立ち上がる。壁溝は確認されなかった。**床面** 直床式であるが、貼床や踏み締りは確認されなかった。南側に向かって非常に緩やかに傾斜しているが、概ね平坦である。**柱穴** P1・P2が掘り方から確認された。P2は位置から壁柱穴の可能性がある。それぞれの規模は第23表に記載する。**カマド** 東壁のほぼ中央に位置する。削平を受けており、遺存状態は悪い。全長76cm、最大幅47cm以上を測る。火床面は15cm掘り込まれ、焼土部分は11cmの厚さを有する。左袖部分に自然石が残存しており、支持材に使われたものと考えられる。**その他の施設** 住居跡中央の東寄り、カマド前方から



SI15B土層説明

AA' BB'

12. 黒褐色土層：粘性弱い。しまりあり。YPk(Φ 5cm)微量含む。

13. 黒色土層：粘性ややあり。しまり弱い。

SI15Bピット土層説明

CC' P3・4

1. 黒褐色土層：粘性あり。しまりややあり。炭化粒(Φ 1.5cm)・小礫微量含む。(P4)

2. 黒褐色土層：粘性あり。しまりややあり。褐色土ブロック少量化含む。YP(Φ 1cm)微量含む。(P3)

第140図 SI15B実測図(1/60)

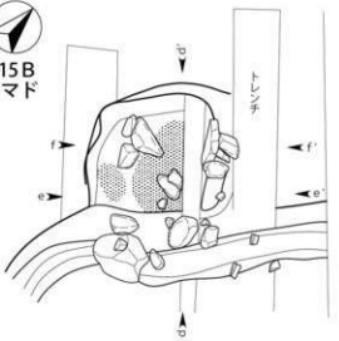
集石を作う土坑が確認された。南端部が削平され不明であるが、隅丸長方形を呈すると考えられる。長軸は107cm以上、短軸は57cm、床面からの深さは7cmを測る。北端部に人頭大の礫が並び、そこから南側に直径5cm～拳大の礫が集められている。小型の礫群の北部に第148図2の环が逆位で置かれていた。

第23表 SI16 ピット計測表

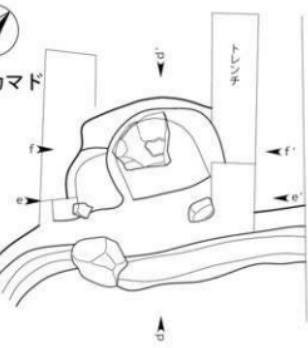
	P 1	P 2
長軸長(cm)	110	24
短軸長(cm)	85	23
深さ(cm)	13	18

遺物検出状況 遺物量は少なく、住居跡北西側の覆土から多く出土している。また、東壁北側から炭化材が多量に出土し、第146図炭14で樹種同定分析を行なった(第8編自然科学分析)。**遺物** 出土遺物のうち、土師器1点、須恵器8点、灰釉陶器3点を図示し得た。その内、墨書き器が4点である。**備考** 本遺構は、東壁にカマ下を持つ中型の竪穴住居跡である。床下に集石と逆位の环を持つ土坑が確認されたことから、造成または廃絶に伴う祭祀が行われた可能性が考えられる。また、炭化材が出土したことから、住居廃絶後に上屋構造が焼失した可能性が考えられる。帰属時期は、出土遺物から9世紀後半～10世紀前半と考えられる。

SI15B
カマド

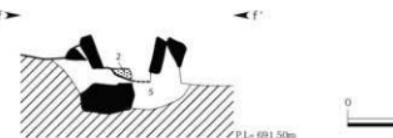
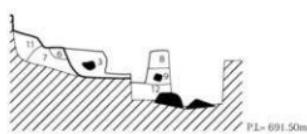


SI15B カマド
掘り方



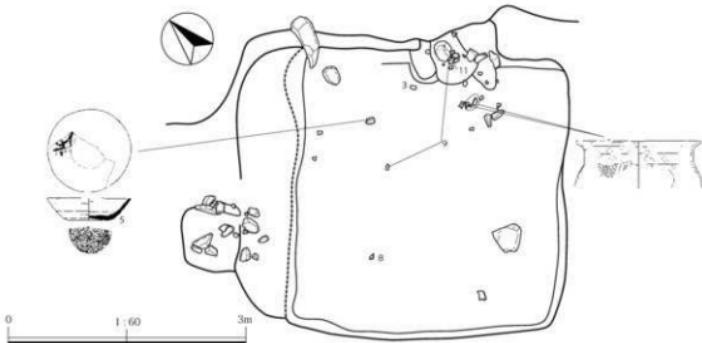
SI15B カマド 土層説明

- d d' e e' f f'
- 1. n, m: 赤褐色燒土層: 粘性なし。しまりややあり。
- 2. 極端 赤褐色 土層: 粘性ややあり。しまりややあり。炭化粒(ϕ 5mm)・焼土粒・小礫微量含む。
- 3. 黒褐色 土層: 粘性あり。しまりややあり。砂礫多量含む。礁・小礫少量含む。
- 4. 黑褐色 土層: 粘性あり。しまりややあり。礁・小礫微量含む。
- 5. 黒褐色 土層: 粘性あり。しまり弱い。小礫微量含む。
- 6. 黒褐色 白土層: 粘性あり。しまりややあり。YPK(ϕ 0.5mm)微量含む。
- 7. 黑褐色 白土層: 粘性度弱く、必要に応じて水を加えたり。YPK(ϕ 1~2cm)少量含む。礁・小礫微量含む。
- 8. 黑褐色 土層: 粘性あり。しまり弱い。小礫・YPK(ϕ 1cm)少量含む。
- 9. 黑褐色 土層: 粘性あり。しまりややあり。礁少量含む。
- 10. 黑褐色 土層: 粘性あり。しまりややあり。YPK(ϕ 1cm)微量含む。
- 11. 黑褐色 土層: 粘性あり。しまりややあり。YPK(ϕ 5mm)微量含む。
- 12. 黑褐色 土層: 粘性あり。しまりややあり。礁多量含む。YPK(ϕ 1cm)微量含む。

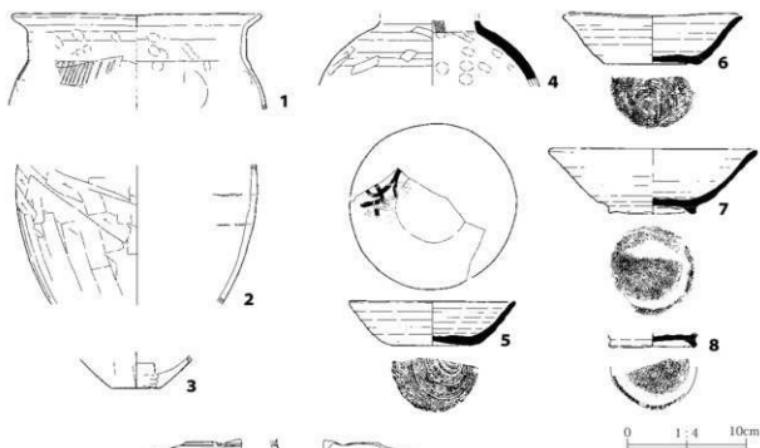


0 1:30 1m

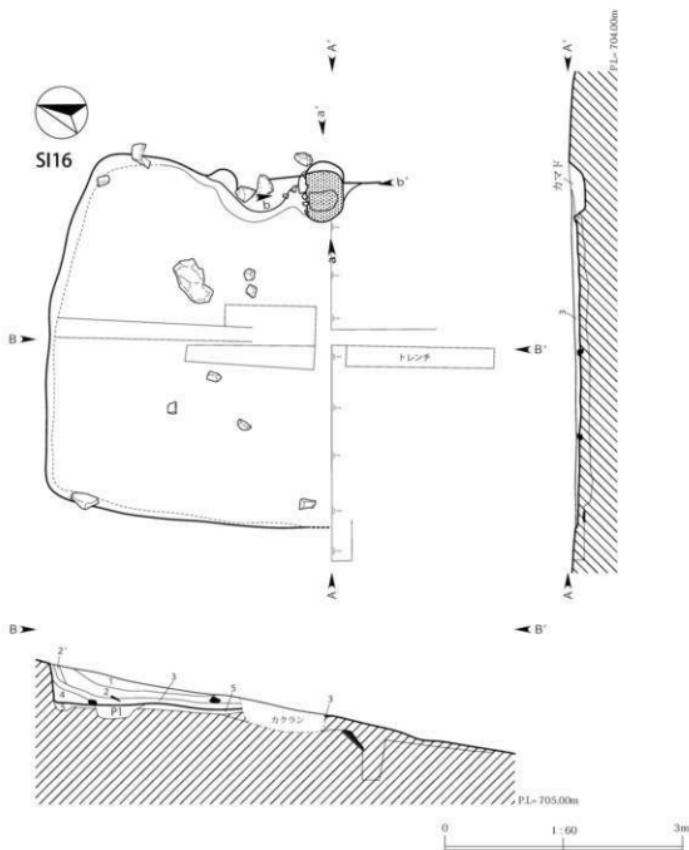
第141図 SI15B カマド・カマド掘り方実測図(1/30)



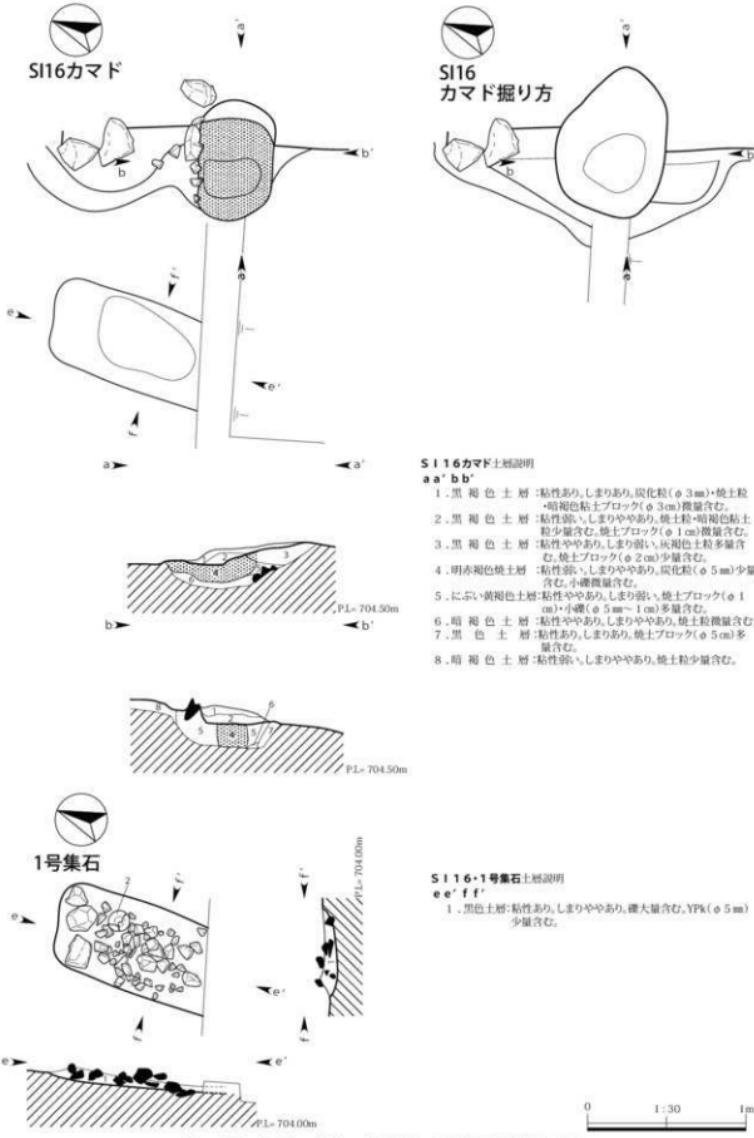
第142図 SI15 A 遺物出土状況図(1/60)



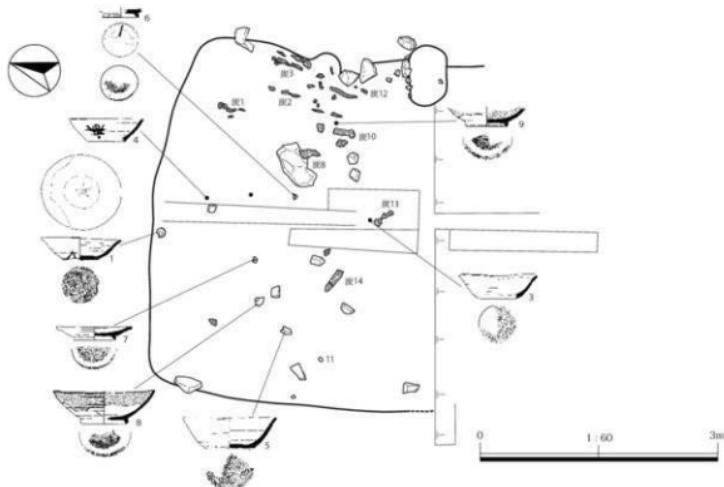
第143図 SI15 A 出土遺物実測図(1/3・1/4)



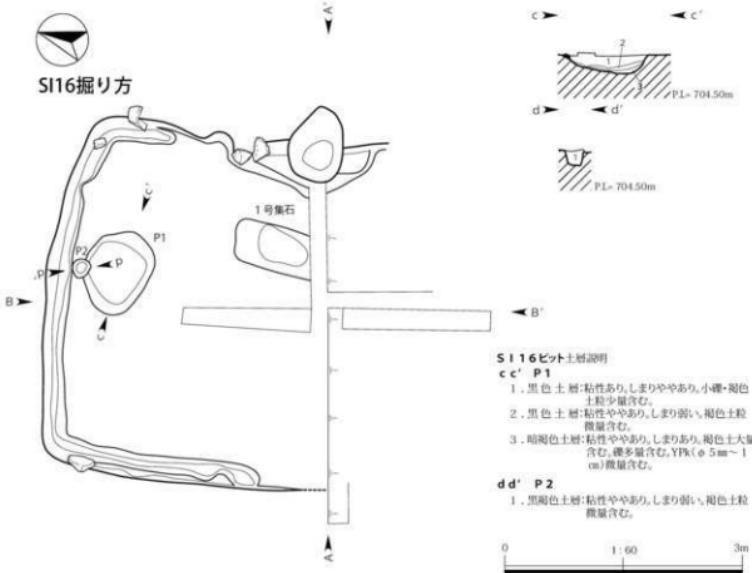
第144図 SI16実測図(1/60)



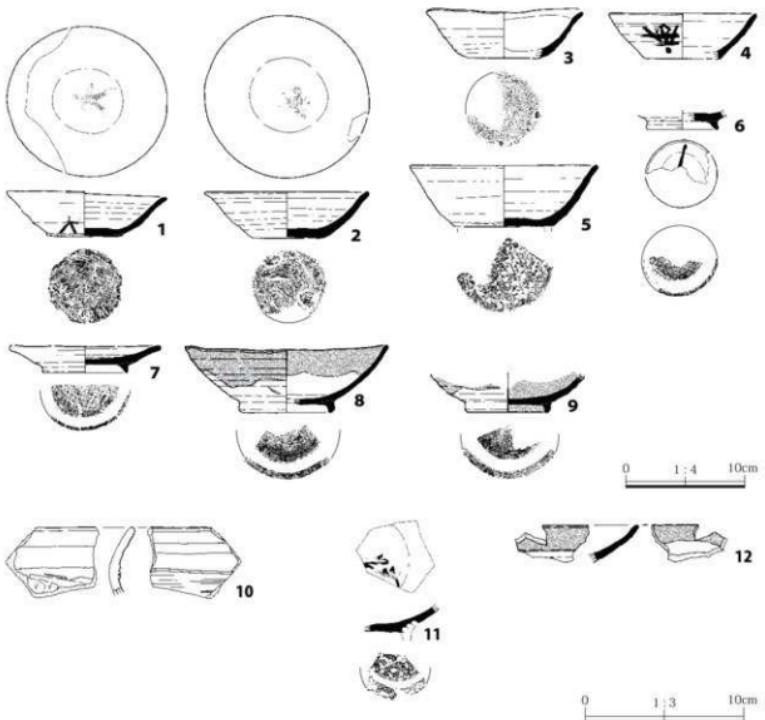
第145図 SI16カマド・カマド掘り方・1号集石実測図(1/30)



第146図 SI16遺物出土状況図(1/60)



第147図 SI16掘り方実測図(1/60)



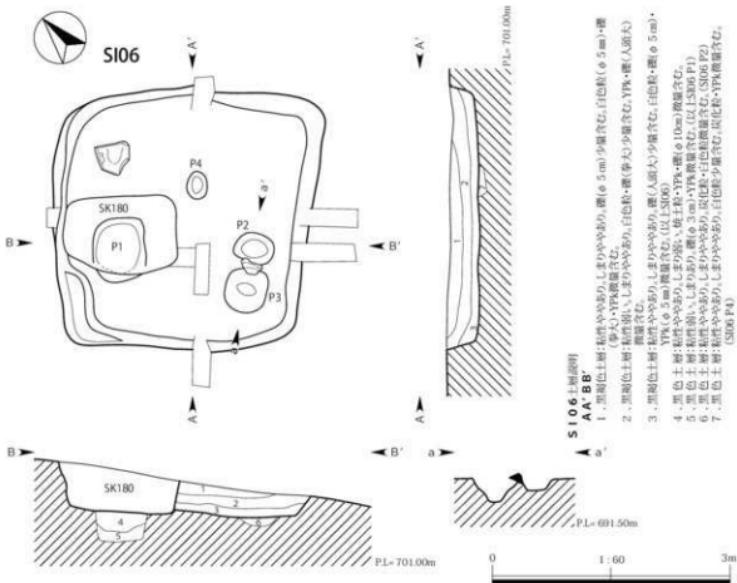
第148図 SI16出土遺物実測図 (1/3・1/4)

(3) 積穴状遺構

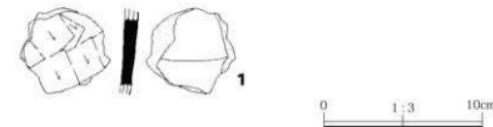
SI06 (第149・150図/P L 30・40)

位置 2-52区L・M-9・10グリッド (1区調査区西部)。 **重複関係** SK180と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は隅丸方形を呈する。長軸は3.45m、短軸は3.36m、確認面からの深さは最深72cm、床面積は7.75m²を測る。 **主軸方位** 長軸でN-43°-E。 **壁・壁溝** 壁高は北壁が40cm程、東・西・南壁が30~35cm程を測り、北壁がほぼ垂直に、東・西・南壁が外傾して立ち上がる。壁溝は確認されなかった。 **床面** 直床式であるが、貼床や踏み織りは確認されなかった。南側に向かって緩やかに傾斜しているが、概ね平坦である。 **柱穴** P1~P4まで確認された。P1~P3は隅丸方形、P4は梢円形を呈する。それぞれの規模は第24表に記載する。 **カマド** なし。 **その他の施設** なし。 **遺物検出** 第24表 SI06ビット計測表

状況 1点が覆土中から出土したのみである。 **遺物** 須恵器羽釜片を図示し得た。 **備考** 本遺構は隅丸方形を呈する小型の積穴であるが、カマドがなかったため積穴状遺構と判断した。帰属時期は、出土遺物及び周辺の遺構の状況から9世紀後半~10世紀前半と考えられる。



第149図 SI06実測図(1/60)

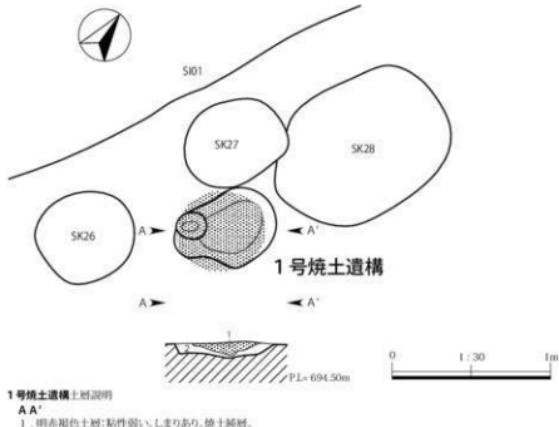


第150図 SI06出土遺物実測図(1/3)

(4) 焼土遺構

1号焼土遺構(第151図/P.L.30)

位置 2-52 区O・P-18 グリッド(2区調査区西部)。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黒色土が基調で、上層に焼土が堆積する。**平面形と規模** 平面形は、焼土面が円形、掘り方が不整形を呈する。規模は焼土面が長軸 54cm、短軸 49cm を測る。掘り方が長軸 68cm、短軸 49cm、確認面からの深さ 7cm を測る。**主軸方位** 掘り方で N-38°-E。**壁面** 外傾して立ち上る。**底面** 西端部に小さな窪みがあるが、概ね平坦である。**遺物** なし。**備考** 上層で焼土が最厚で 8cm でレンズ状に堆積している。火を燃やしたため焼土化した痕跡と考えられる。周辺の竪穴住居跡が9世紀後半～10世紀前半と考えられること、9世紀後半と考えられるSI01と約80cmしか離れていないことから、本遺構の帰属時期は10世紀前半の可能性が高いと考えられる。



第151図 1号焼土遺構実測図(1/30)

2号焼土遺構(第152・153図/PL 30・40)

位置 2-62区O-1グリッド(2区調査区西部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、上層に焼土が堆積する。 **平面形と規模** 平面形は、焼土・掘り方ともに橢円形を呈する。規模は焼土が長軸44cm、短軸29cmを測る。掘り方は長軸51cm、短軸42cm、確認面からの深さ18cmを測る。

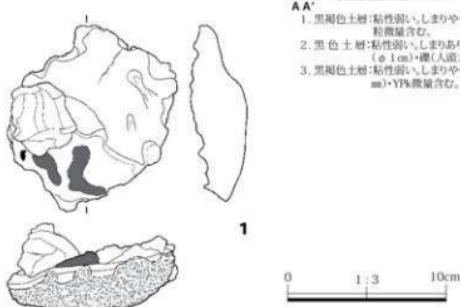
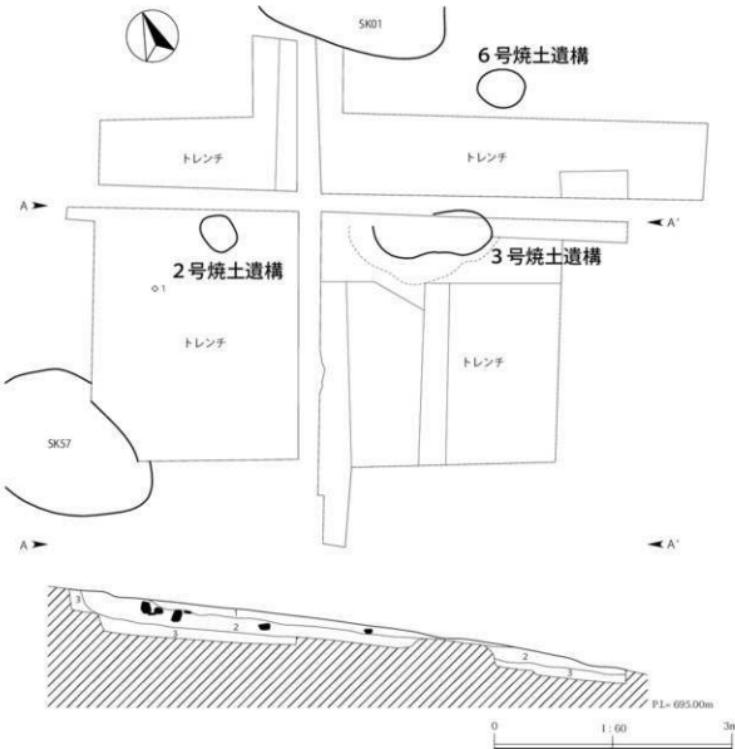
主輪方位 掘り方でN-34°-W。 **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 南側に緩やかに傾斜し、南端部が一段低い。 **遺物** 本遺構からは出土していないが、約1m西側で楔形鍛治溝1点が出土した。鍛冶工房跡出土の遺物と比較するため自然科学分析を行なった(第8編自然科学分析)。 **備考** 上層に焼土が堆積しており、火を燃やしたため焼土化した痕跡と考えられる。本遺構から2m以内の距離に3号焼土遺構と6号焼土遺構がある。発掘調査時、3基の焼土遺構の周辺で方形形状のプランが確認され掘り下げを行なった。遺構は確認されなかつたが、土師器表(第229図49)や須恵器羽釜・甕・壺・壺(第229図51・74~76、230図79)が出土しており、焼土遺構を確認した面が床面の堅穴建物であった可能性が考えられる。本遺構付近から楔形鍛治溝が出土しており、本遺構は建物を伴う鍛冶跡である可能性が考えられる。帰属時期は、周辺から出土した遺物から9世紀後半~10世紀前半と考えられる。

3号焼土遺構(第152・153図)

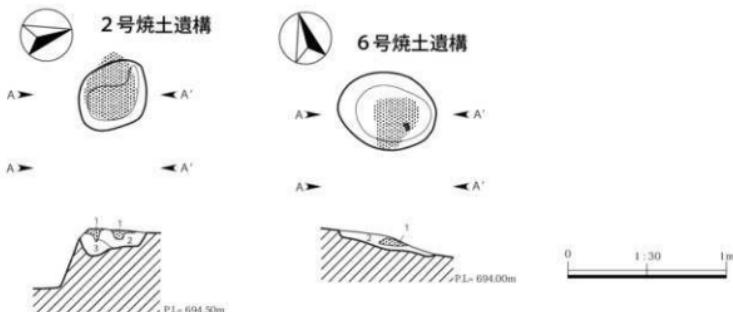
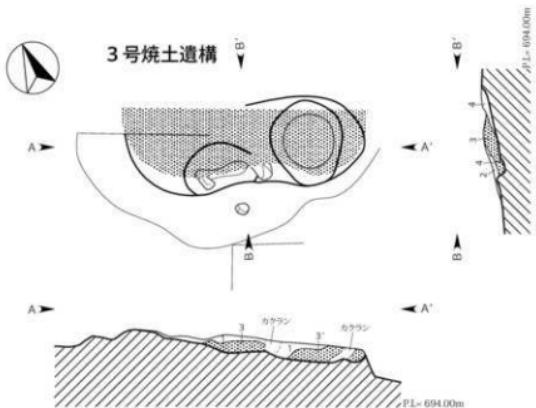
位置 2-62区P-1グリッド(2区調査区西部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 北側の一部をレンチによって損なうが、概ね良好である。 **覆土** 黒褐色土が基調で、下層に焼土が堆積する。 **平面形と規模**

平面形は、焼土・掘り方ともに橢円形を呈する。規模は、焼土が長軸151cm、短軸42cm以上を測る。掘り方は、長軸149cm、短軸64cm以上を測る。確認面からの深さ15cmを測る。 **主輪方位** 掘り方でN-68°-W。

壁面 外傾して立ち上がる。 **底面** 南東方向に緩やかに傾斜し、凸凹がある。 **遺物** なし。 **備考** 焼土が最厚9cmでレンズ状に堆積しており、火を燃やしたため焼土化した痕跡と考えられる。焼土が厚いことから長期間燃していたと思われる。本遺構は、2号焼土遺構と同様、9世紀後半~10世紀前半に帰属する建物を伴う鍛冶炉跡の可能性が考えられる。



第152図 2・3・6号焼土遺構位置図(1/60)・出土遺物実測図(1/3)



2号焼土遺構上層説明

A A'

1. 稲色土層：粘性なし。しまりあり。燒土純層。
2. 黒褐色土層：粘性なし。しまりあり。炭化粒(ø 1cm)・燒土粒・Yfk微量含む。
3. 黑褐色土層：粘性なし。しまりややあり。从西側に少量含む。燒土粒・Yfk(ø 5mm)・白色粒微量含む。

3号焼土遺構上層説明

A A' B B'

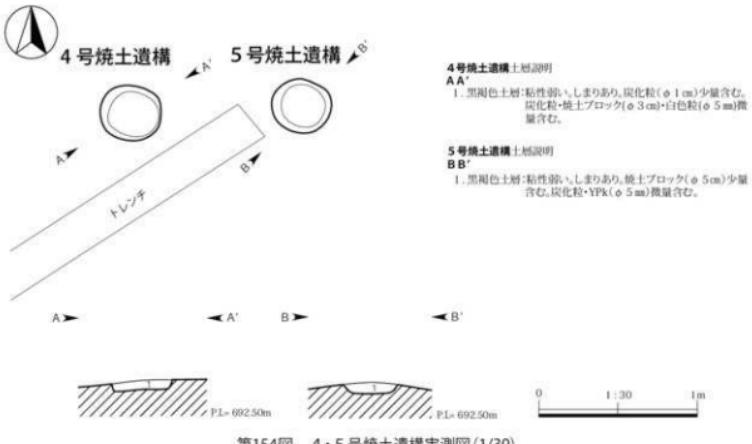
1. 黑褐色土層：粘性なし。しまりあり。炭化粒(ø 3mm)・燒土粒・白色粒微量含む。
2. 黑褐色土層：粘性なし。しまりあり。燒土粒微量含む。
3. 明褐色土層：粘性なし。しまりあり。燒土純層。白色粒(粒 ø 5mm)微量含む。
- 3'. 黑褐色土層：粘性なし。しまりあり。燒土粒少量含む。炭化粒・白色粒(ø 1cm)微量含む。
4. 黑褐色土層：粘性なし。しまりあり。炭化粒・白色粒(ø 5mm)微量含む。

6号焼土遺構上層説明

A A'

1. にい赤褐色土層：粘性弱い。しまり弱い。炭化粒(ø 5cm)少量含む。
2. 黑褐色土層：粘性弱い。しまり弱い。

第153図 2・3・6号焼土遺構実測図(1/30)



第154図 4・5号焼土遺構実測図(1/30)

4号焼土遺構(第154図)

位置 2-53区A-16グリッド(2区調査区中央部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土で、焼土ブロックを含む。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸38cm、短軸35cm、確認面からの深さ8cmを測る。 **主軸方位** 不明。 **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。

遺物 なし。 **備考** 本遺構は、火を燃やした場所ではなく、焼土ブロックが流れ込んだものである。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

5号焼土遺構(第154図)

位置 2-53区A-16グリッド(2区調査区中央部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土で、焼土ブロックを含む。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸37cm、短軸33cm、確認面からの深さ7cmを測る。 **主軸方位** 不明。 **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。

遺物 なし。 **備考** 本遺構は、火を燃やした場所ではなく、焼土ブロックが流れ込んだものである。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

6号焼土遺構(第152・153図)

位置 2-62区P-1グリッド(2区調査区西部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土で、焼土層をブロック状に含む。 **平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸62cm、短軸49cm、確認面からの深さ4cmを測る。 **主軸方位** N-65°-W **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 南東方向に傾斜しており、概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、火を燃やした場所ではなく、焼土ブロックが流れ込んだものである。2号・3号焼土遺構と同様、9世紀後半～10世紀前半の建物跡に伴うものの可能性が考えられる。

(5) 陥し穴

SK04 (第155図)

位置 2-63区B-4グリッド(2区調査区南端部)。 **重複関係** SK06と重複し、本遺構の方が新しい。

遺存状態 南半分が調査区外にあるが、概ね良好。 **覆土** 黒褐色土が基調であるが、上層は黒褐色土と互層をなす。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は、南半分が調査区外にあるため詳細は不明であるが、梢円形を呈すると考えられる。規模は長軸が136cm以上、短軸は150cm、確認面からの深さ136cmを測る。 **主軸方位** N-3°-W **壁面** 東・西・南壁いずれも外傾して立ち上がり、上位は大きく外反する。

底面 西側へ傾斜しているが、概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

SK09 (第156図)

位置 2-63区A・B-2グリッド(2区調査区南部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土**

黒褐色土が基調であるが、中位に黒色土・暗褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は、上位が梢円形、中位以下が隅丸長方形を呈する。規模は長軸224cm、短軸181cm、確認面からの深さ194cmを測る。 **主軸方位** N-45°-W **壁面** 東・西壁は下位がほぼ垂直に、中位以上が外傾して立ち上がる。南・北壁は下位が外傾し、中位以上がほぼ垂直に立ち上がる。 **底面** 小さな窪みがあるが、概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

SK10 (第155図)

位置 2-63区B-1・2グリッド(2区調査区南部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土**

黒褐色土が基調であるが、上層に黒色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は、上位から中位は梢円形、下位は隅丸長方形を呈する。規模は長軸206cm、短軸134cm、確認面からの深さ134cmを測る。 **主軸方位** N-20°-E **壁面** いずれの壁も下位がほぼ垂直に立ち上がる。幅10~20cm程の平坦面を持ち、中位以上が外傾して立ち上がる。 **底面** 中央から南北方向および東から西方向に緩やかに傾斜している。南端部に小さな窪みがあるが、概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

SK11 A (第157図)

位置 2-63区B-1グリッド(2区調査区南部)。 **重複関係** 調査の結果、2基の土坑と判断され、新しい方をA、古い方をBとした。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長軸170cm、短軸95cm、確認面からの深さ186cmを測る。

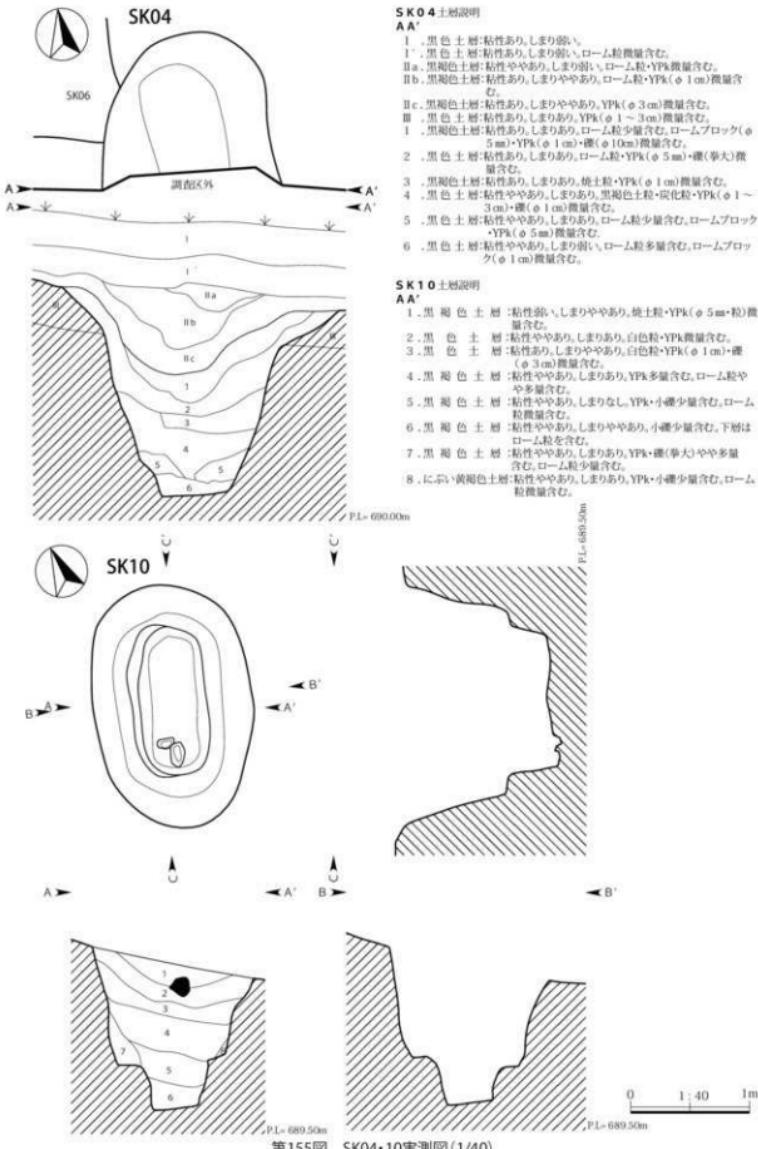
主軸方位 N-86°-W **壁面** 西・南壁がほぼ垂直に、東・北壁が外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

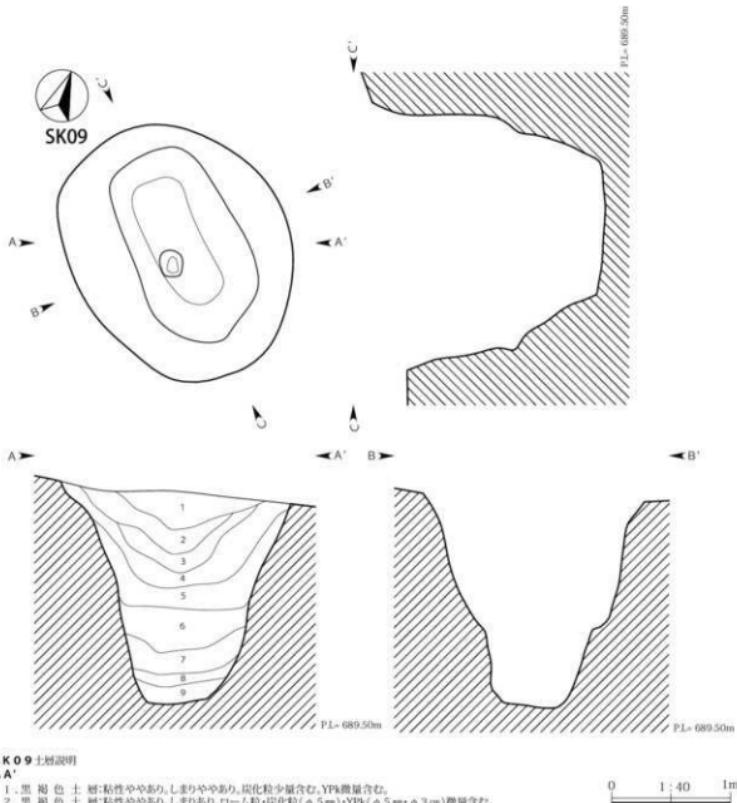
SK13 (第158図)

位置 2-62区T-3、2-63区A-3グリッド(2区調査区南部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。

覆土 黒褐色土が基調であるが、中位に黒色土、上位に暗褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。

平面形と規模 平面形は上位から中位が梢円形、下位が隅丸長方形を呈する。規模は長軸164cm、短軸131cm、確認面からの深さ186cmを測る。 **主軸方位** 上位の梢円形はN-75°-W。下位の隅丸長方形はN-78°-E。 **壁面** 東・西壁は外傾して立ち上がる。南・北壁は下位がほぼ垂直に立ち上がり、屈曲して中位以上が外傾





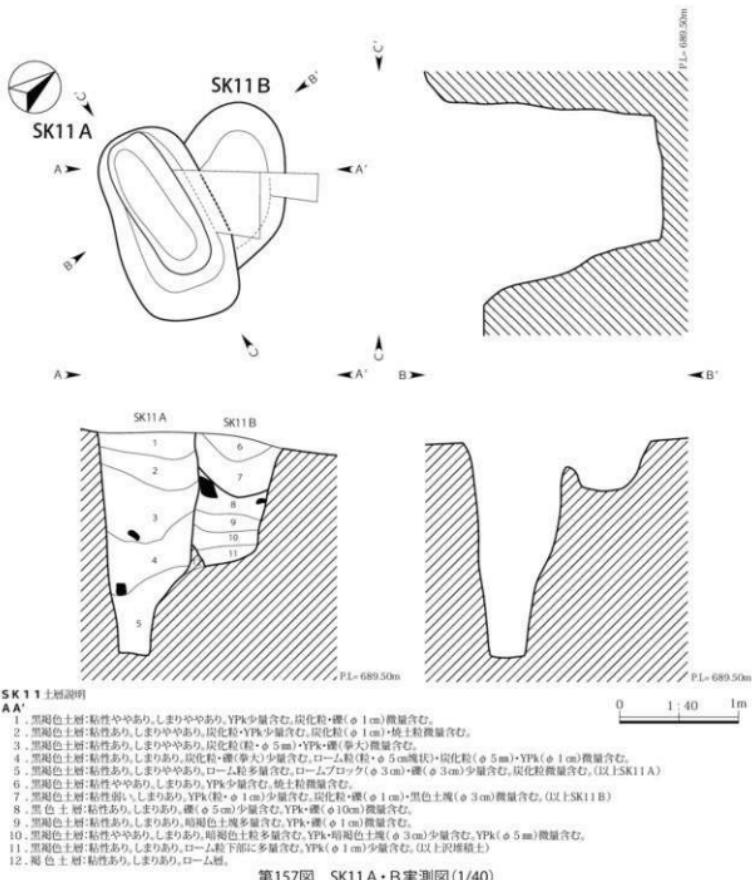
SK09 土層説明

AA'

1. 黒褐色土 稲:粘性ややあり、しまりややあり。炭化粒少量含む。YPK微量含む。
2. 黒褐色土 稲:粘性ややあり、しまりあり。ローム粒・炭化粒(φ 5mm)・YPK(φ 5mm・φ 3cm)微量含む。
3. 暗褐色砂質土 稲:粘性弱い。しまりあり。YPK(φ 1cm)少量含む。炭化粒(粒・φ 5mm)・YPK粒・礫(φ 3cm)微量含む。
4. 黒褐色土 稲:粘性弱い。しまりあり。YPK粒少量含む。ローム粒・礫(φ 5mm)微量含む。
5. 黑褐色土 稲:粘性ややあり、しまりややあり。炭化粒・YPK(粒・φ 5mm)微量含む。
6. 黑褐色土 稲:粘性ややあり、しまりあり。YPKやや多量含む。小礫少量含む。埴土粒微量含む。
7. 黑褐色土 稲:粘性ややあり、しまりややあり。YPKやや多量含む。ローム粒少量含む。
8. 黑褐色土 稲:粘性ややあり。しまりなし。ローム粒・YPK少量含む。
9. 黑褐色土 稲:粘性ややあり、しまりなし。ローム粒・YPK多量含む。埴土粒微量含む。

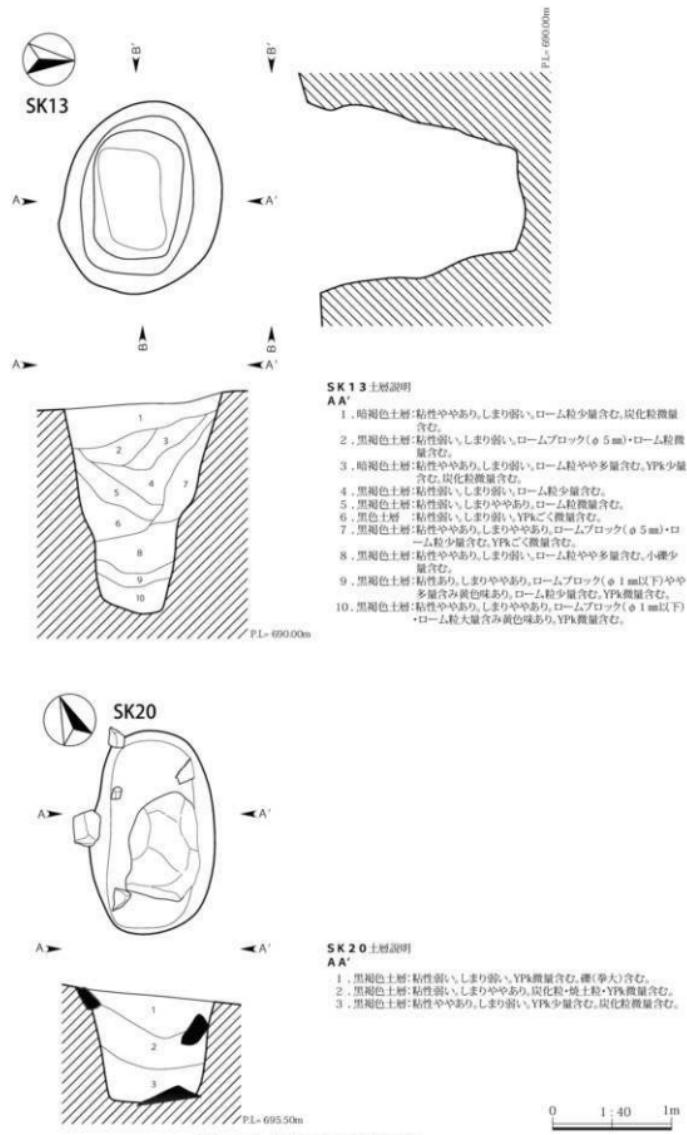
第156図 SK09実測図(1/40)

する。**底面** 南から北に向かって傾斜している。東西方向は東側が若干低い。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

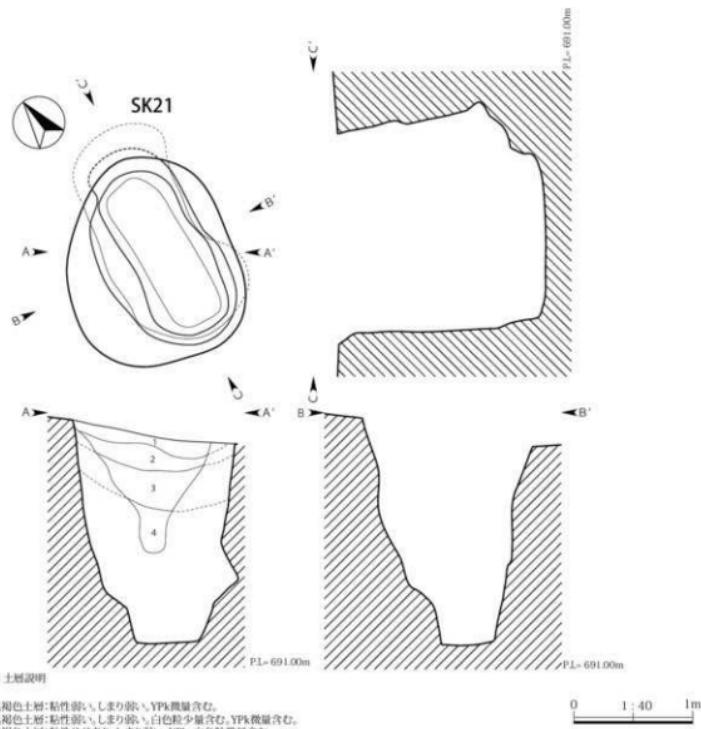


SK20 (第158図)

位置 2-52 区O-17 グリッド (2区調査区西部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基準で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は削丸長方形を呈する。規模は長軸 170cm、短軸 105cm、確認面からの深さ 98cm を測る。 **主軸方位** N-22°-E **壁面** いずれの壁もほぼ直立立ち上がる。 **底面** 90cm 大の大岩があるが、概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴の下位部分と判断した。



第158図 SK13・20実測図(1/40)



第159図 SK21実測図(1/40)

SK21 (第159図)

位置 2-52区T-20、2-62区T-1グリッド（2区調査区中央部）。**重複関係** なし。**遺存状態**

良好。**覆土** 当初、断面すり鉢状の土坑と判断したが、掘り足りないことが判明した。その後掘り足す際に土層断面の観察を忘れたため下位の土層は不明である。上層は黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。

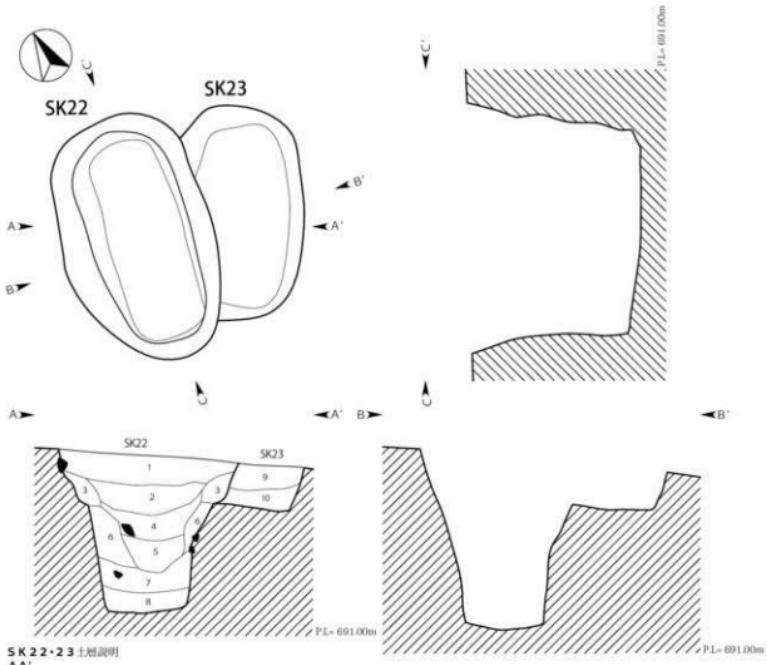
平面形と規模 平面形は上位が円形、中位以下は隅丸方形を呈する。規模は長軸176cm、短軸144cm、確認面からの深さ172cmを測る。**主軸方位** N-11°-E **壁面** 東・南壁はほぼ垂直に立ち上がり、東壁は南側がオーバーハングする。西壁は下位がほぼ垂直に立ち上がり、屈曲後外傾して立ち上がる。北壁は下位がほぼ垂直に立ち上がった後大きく外傾し、中位から上位は内傾する。**底面** 横ね平坦である。**遺物** なし。**備考**

本遺構は、出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

SK22 (第160図／PL 31)

位置 2-62区T-1グリッド（2区調査区中央部）。**重複関係** SK23と重複し、本遺構の方が新しい。

遺存状態 良好。**覆土** 黒褐色土が基調であるが、下位・中位に黑色土が堆積している。堆積状況は自然



SK22・23 土層説明

AA'

1. 黒褐色土層(粘性弱い)、しまりやあり、ローム粒・YPA少量含む。炭化粒・燒土粒ごく微量含む。
2. 黒褐色土層(粘性弱い)、しまり弱い、YPA微量含む。ローム粒や微量含む。
3. 黒褐色土層(粘性弱い)、しまりやあり、ローム粒や微量含む。YPA微量含む。
4. 黑褐色土層(粘性弱い)、しまり弱い、ローム粒少量含む。
5. 黑褐色土層(粘性弱い)、しまり弱い、ローム粒少量含む。ロームブロック(Φ 5mm)・YPAごく微量含む。
6. 黑色土層(粘性弱い)、しまり弱い、ローム粒微量含む。
7. 黑褐色土層(粘性弱い)、しまりやあり、ローム粒少量含む。YPA微量含む。
8. 黑色土層(粘性弱い)、しまりやあり、ローム粒少量含む。YPAやや多量含む。燒土粒微量含む。(以上SK22)
9. 黑褐色土層(粘性弱い)、しまりあり、YPAやや多量含む。ローム粒少量含む。
10. 黑褐色土層(粘性弱い)、しまりあり、YPA・小量少量含む。ローム粒・燒土粒微量含む。(以上SK23)

0 1 m 1:40

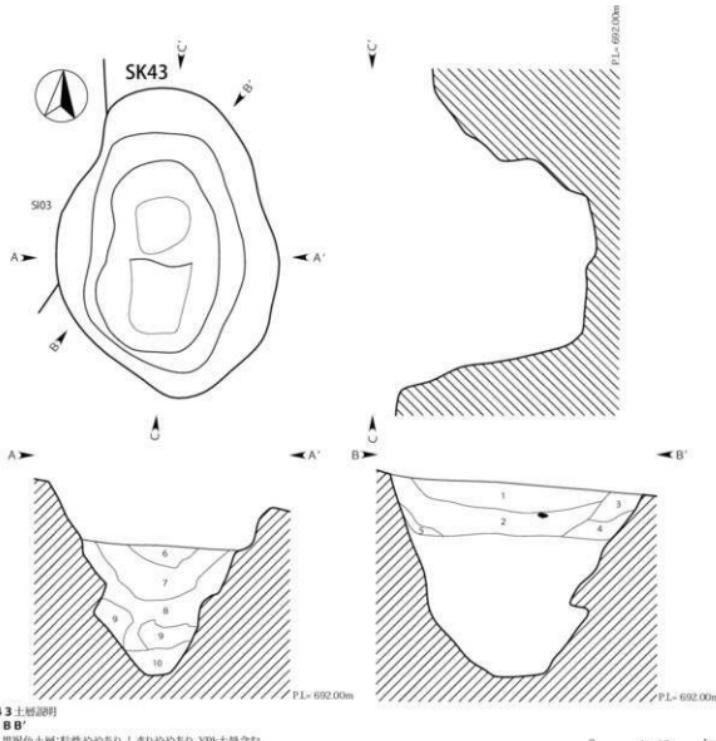
第160図 SK22・23実測図(1/40)

堆積を示す。 平面形と規模 平面形は、上位が楕円形、中位から下位が隅丸長方形を呈する。規模は長軸210cm、短軸130cm、確認面からの深さ145cmを測る。 主軸方位 N-10°-E 壁面 東・西壁は下位がほぼ垂直に立ち上がり、中位から外傾する。南・北壁はほぼ垂直に立ち上がる。 底面 概ね平坦である。

遺物 なし。 備考 本遺構は、出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥穴と判断した。

SK43(第161図／PL 31)

位置 2-62区R-2・3グリッド(2区調査区西端部埋蔵)。 重複関係 S103と重複し、本遺構の方が新しい。 遺存状態 良好。 覆土 黒褐色土が基層であるが、下位に黒色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 平面形と規模 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸262cm、短軸186cm、確認面からの深さ165cmを測る。 主軸方位 N-11°-W 壁面 いずれの壁も外傾して立ち上がり、東壁は一部オーバーハングしている。 底面 北側が一段低くなっているが、概ね平坦である。 遺物 なし。 備考 本遺

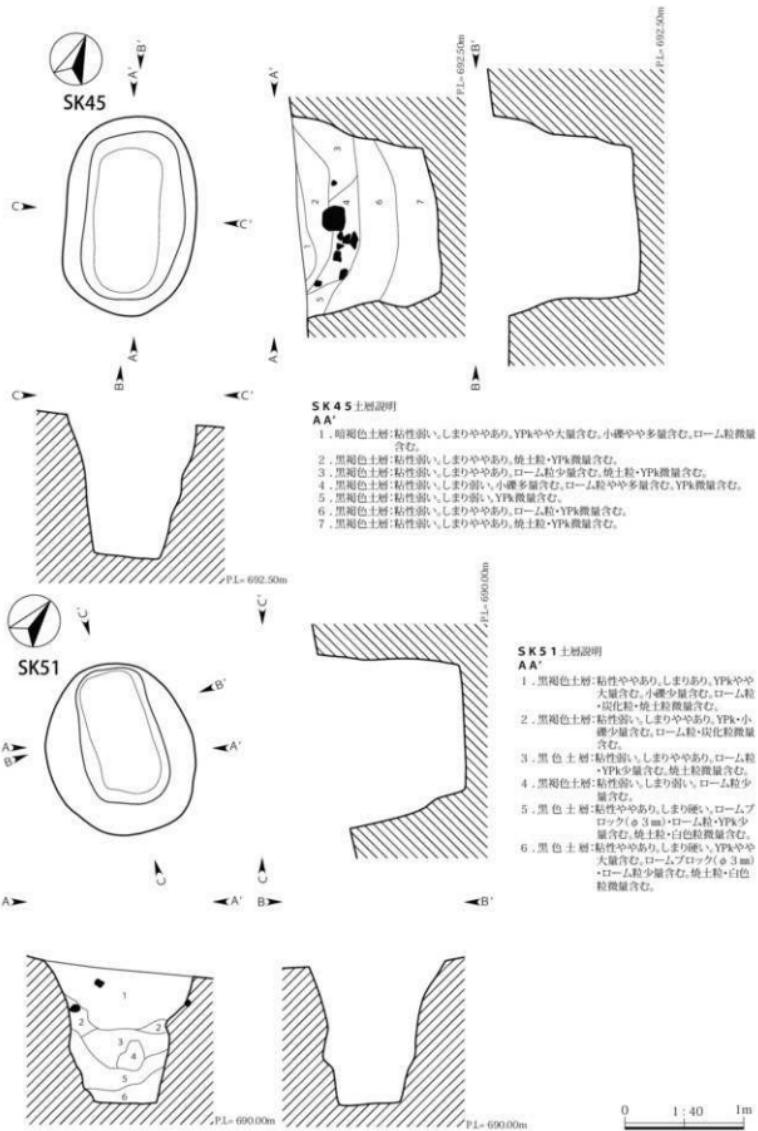


第161図 SK43実測図(1/40)

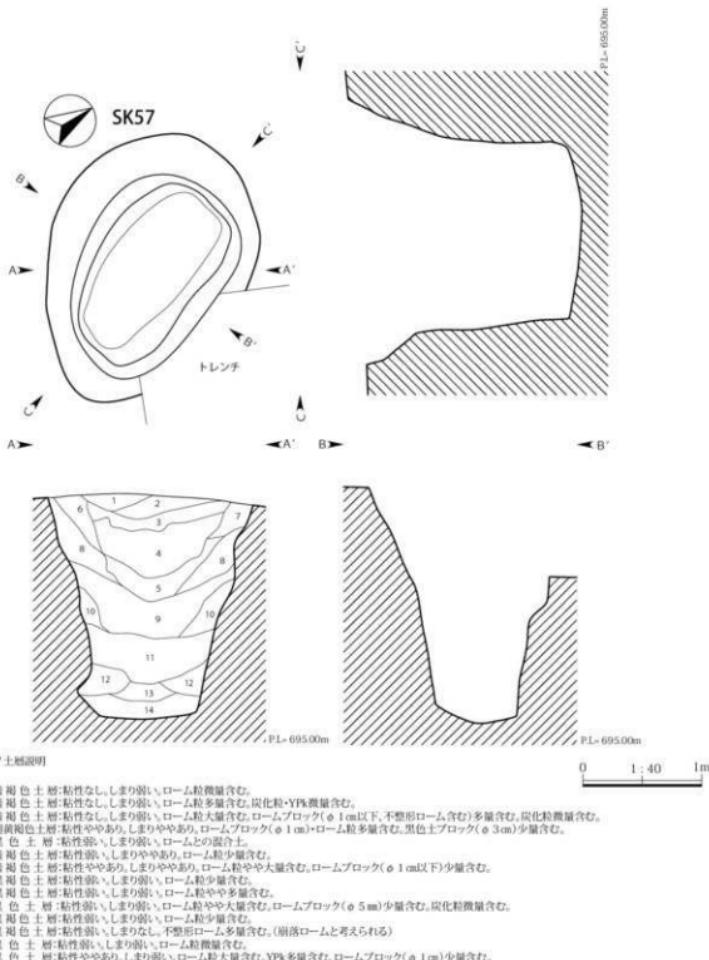
構は、出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥穴と判断した。

SK45 (第162図／PL 31)

位置 2-52区Q-20グリッド(2区調査区西部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基準であるが、上位に暗褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は上位が楕円形、下位が圓丸長方形を呈する。規模は長軸167cm、短軸108cm、確認面からの深さ112cmを測る。 **主軸方位** N-19°-W **壁面** いずれの壁も外傾して立ち上がる。 **底面** 南側に向かって緩やかに傾斜しているが、概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、出土遺物ではなく規模も小さいが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥穴と判断した。



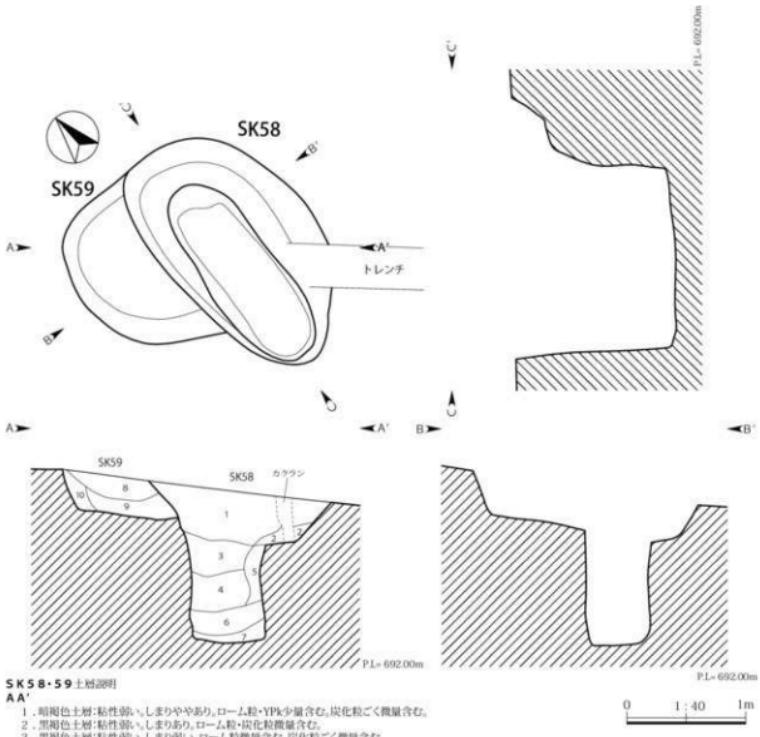
第162図 SK45・51実測図(1/40)



第163図 SK57実測図(1/40)

SK51 (第162図)

位置 2-53 区B・C-19 グリッド (2区調査区中央部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒色土が基調であるが、上層に黒褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は、上位は楕円形、中位以下は隅丸長方形を呈する。規模は長軸 145cm、短軸 123cm、確認面からの深さ 119cm を測る。 **主軸方位** N-55°-W **壁面** 北壁はほぼ垂直に立ち上がる。東・西・南壁は外傾して立ち上がり、東・西壁は上位が大きく外傾する。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構



第164図 SK58・59実測図(1/40)

は、出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

SK57 (第163図／PL 31)

位置 2-62区N・O-1グリッド(2区調査区西部)。**重複関係**なし。**遺存状態**トレンチによつて東壁の一部を損なうが、概ね良好である。**覆土** 黒褐色土が基層であるが、下層に黒色土、上層に暗褐色土、中層にロームブロックを多量に含む土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は、上位から中位が楕円形、下位が隅丸長方形を呈する。規模は長軸232cm、短軸が推定172cm、確認面からの深さ196cmを測る。**主軸方位** N-20°-W **壁面** いずれの壁も下位から中位はほぼ垂直に立ち上がり、上位は大きく外傾する。**底面** 西壁際が中央に向かって傾斜しているが、概ね平坦である。**遺物**なし。**備考** 本遺構は、出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

SK58 (第 164 図)

位置 2-52 区 S-20、2-62 区 S-1 グリッド (2 区調査区中央部)。 **重複関係** SK59 と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は、上位が梢円形、中位から下位が隅丸長方形を呈する。規模は長軸 221cm、短軸 126cm、確認面からの深さ 135cm を測る。 **主軸方位** N-7°-E **壁面** 東・北壁はほぼ垂直に立ち上がり、上位で幅 20cm 程のテラスを有し、大きく外傾する。西壁はほぼ垂直に立ち上がり、上位で外傾する。南壁はほぼ垂直に立ち上がる。 **底面** 西・南側に緩やかに傾斜しているが、概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

SK82 (第 165 図)

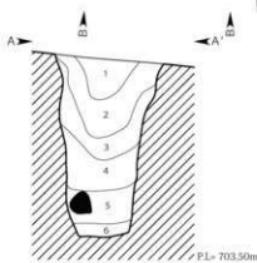
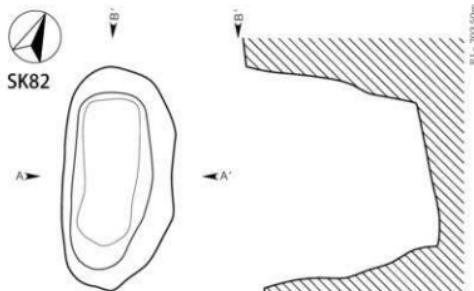
位置 2-52 区 C-11 グリッド (1 区調査区西部北側)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調であるが、下層・上層に黒色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は、上位が梢円形、中位から下位が隅丸長方形を呈する。規模は長軸 188cm、短軸 94cm、確認面からの深さ 132cm を測る。 **主軸方位** N-20°-W **壁面** 東・西壁はほぼ垂直に立ち上がり、上位でわずかに外傾する。南・北壁は外傾して立ち上がる。 **底面** 南方向に緩やかに傾斜しているが、概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

SK99 (第 165 図)

位置 2-52 区 K-7 グリッド (1 区調査区中央部北側)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調であるが、下層に黒色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は、上位が梢円形、下位が隅丸長方形を呈する。規模は長軸 162cm、短軸 128cm、確認面からの深さ 150cm を測る。 **主軸方位** N-15°-W **壁面** いずれの壁もほぼ垂直に立ち上がる。 **底面** 工具痕または逆茂木痕と考えられる小さな窪みが多数ある。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

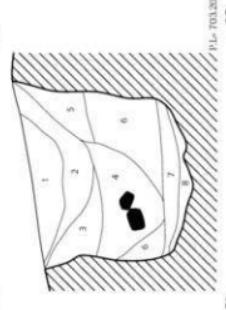
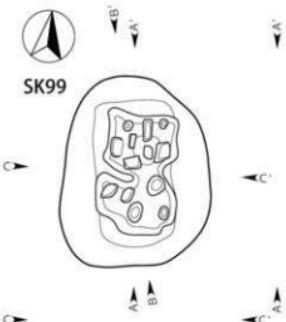
SK106 (第 166 図／PL 31)

位置 2-52 区 K-11・12 グリッド (1 区調査区西部南側)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調であるが、下層に黒色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は、上位が梢円形、中位から下位が隅丸長方形を呈する。規模は長軸 266cm、短軸 137cm、確認面からの深さ 111cm を測る。 **主軸方位** N-72°-E **壁面** 東・西壁は外傾して立ち上がり、上位でさらに外傾する。南・北壁はほぼ垂直に立ち上がり、上部でわずかに外傾する。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** 弥生土器が出土したが、遺構に伴うものではないと判断したため遺構外出土遺物に掲載した。 **備考** 本遺構は、時期を特定し得る遺物は出土していないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。



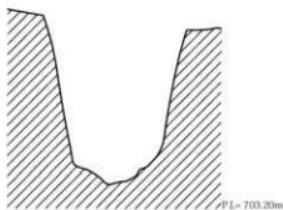
**SK82 土層説明
AA'**

1. 黒色土層: 粘性弱い、しまりやあり。礫($\phi 1\text{cm}$)多量含む。Ypk・礫($\phi 3\text{cm}$)微量含む。
2. 黒褐色土層: 粘性弱い、しまりやあり。炭化粒多量含む。礫($\phi 5\text{cm}$)少量含む。炭化粒($\phi 3\text{cm}$)微量含む。
3. 黑褐色土層: 粘性やや弱い、しまりやあり。礫($\phi 5\text{cm}$)多量含む。Ypk少量含む。炭化粒($\phi 1\text{cm}$)微量含む。
4. 黑褐色土層: 粘性やや弱い、しまりやあり。礫($\phi 5\text{cm}$)多量含む。礫($\phi 1\text{cm}$)少量含む。Ypk微量含む。
5. 黑色土層: 粘性弱い、しまり弱い。褐色土ブロック多量含む。
6. 黑色土層: 粘性あり、しまり弱い。



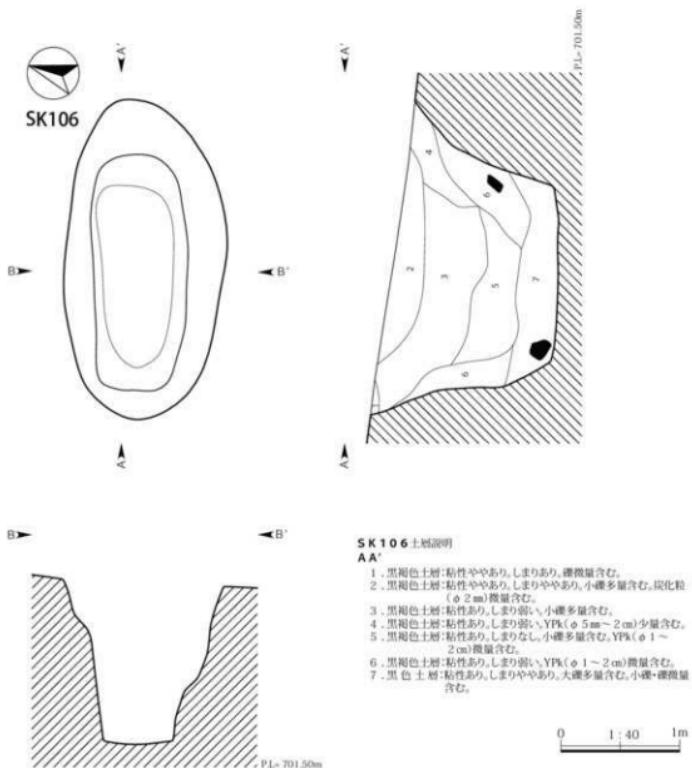
**SK99 土層説明
AA'**

1. 黒褐色土層: 粘性ややあり、しまり弱い。小礫・礫大量含む。
2. 黒褐色土層: 粘性あり、しまり弱い。小礫・礫少量含む。
3. 黒褐色土層: 粘性あり、しまり弱い。小礫少量含む。
4. 黒褐色土層: 粘性あり、しまり弱い。礫・大礫少量含む。
5. 黑褐色土層: 粘性ややあり、しまりやや弱い。Ypk($\phi 1 \sim 2\text{cm}$)・小礫・礫微量含む。
6. 黑色土層: 粘性ややあり、しまり弱い。小礫・礫微量含む。
7. 黑色土層: 粘性弱い、しまり弱い。ローム粒大量含む。礫少量含む。
8. 黑色土層: 粘性あり、しまり弱い。ローム粒大量含む。ロームブロック少量含む。小礫微量含む。



第165図 SK82・99実測図(1/40)



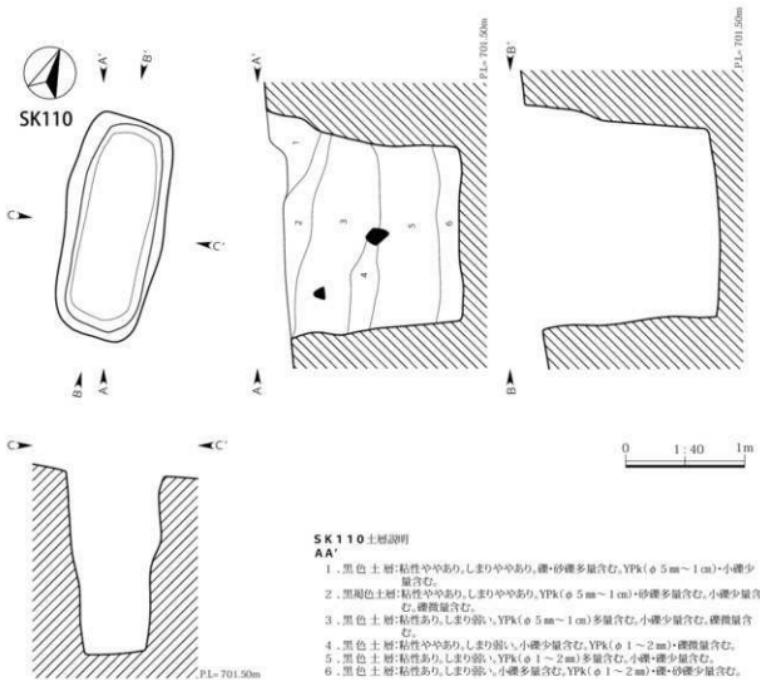


第166図 SK106実測図(1/40)

SK110 (第167図／PL 31)

位置 2-52区K-10・11グリッド(1区調査区西部南側)。重複関係なし。遺存状態良好。

覆土 黒色土が基調であるが、上層に黒褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。平面形と規模 平面形は楕円長方形を呈する。規模は長軸189cm、短軸86cm、確認面からの深さ157cmを測る。主軸方位 N-11°-W 壁面 いずれの壁もほぼ垂直に立ち上がり、北壁は上位がわずかに外傾する。底面 概ね平坦である。遺物 灰釉陶器片が出土したが、遺構に伴うものではないと判断したため遺構外出土遺物に掲載した。備考 本遺構は、時期を特定し得る遺物は出土していないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。



第167図 SK110実測図(1/40)

SK111 (第168図)

位置 2-52区J・K-10・11グリッド (1区調査区西部南側)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。

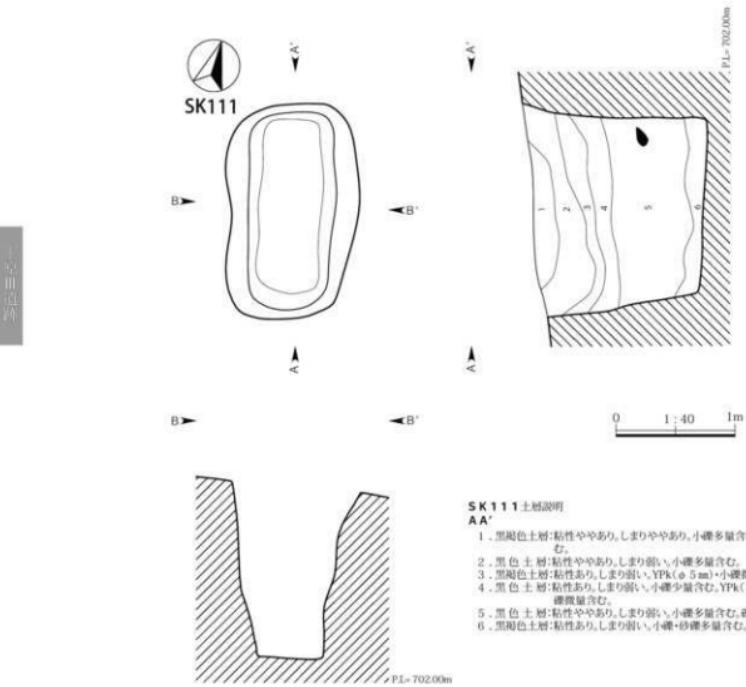
覆土 黒色土と黒褐色土が互層をなし、堆積状況は自然堆積を示す。規模は長軸181cm、短軸112cm、確認面からの深さ158cmを測る。 **平面形と規模** 平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長軸181cm、短軸112cm、確認面からの深さ158cmを測る。 **主軸方位** N-19°-W **壁面** いずれの壁もほぼ垂直に立ち上がり、東壁は中位から外傾する。 **底面** 北側に緩やかに傾斜しているが、概ね平坦である。 **遺物** 鋼文土器片が出土したが、本遺構に伴うものではないと判断したため、遺構外出土遺物に掲載した。 **備考** 本遺構は、時期を特定し得る遺物は出土していないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する階し穴と判断した。

SK113 (第169図)

位置 2-52区M-11グリッド (1区調査区中央部南側)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土**

黒褐色土が基調であるが、下層に黑色土、上層に灰黄褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。

平面形と規模 平面形は、上位が橢円形、中位から下位が隅丸長方形を呈する。規模は長軸176cm、短軸



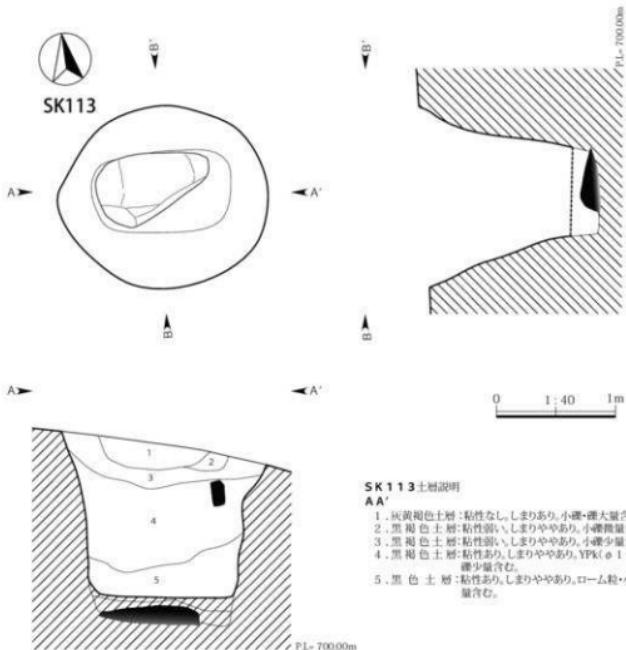
第168図 SK111実測図(1/40)

153cm、確認面からの深さ148cmを測る。**主軸方位** N-82°-W **壁面** いずれの壁もほぼ垂直に立ち上がる。東壁は上位が大きく外傾し、西・南・北壁は中位から外傾する。**底面** 挖り過ぎたため詳細は不明であるが、断面の観察から概ね平坦であったと考えられる。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

SK115 (第170図／P L 32)

位置 2-52区L-7グリッド(1区調査区中央部北側)。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黒色土が基調であるが、上層に黒褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は、上位が楕円形、中位から下位が頃丸長方形を呈する。規模は長軸178cm、短軸129cm、確認面からの深さ141cmを測る。**主軸方位** N-1°-W **壁面** いずれの壁もほぼ垂直に立ち上がり、東・西・北壁は中位から大きく外傾する。**底面** 概ね平坦であるが、長軸両端に逆茂木痕と考えられる小さな窪みがある。

遺物 なし。**備考** 本遺構は、出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。



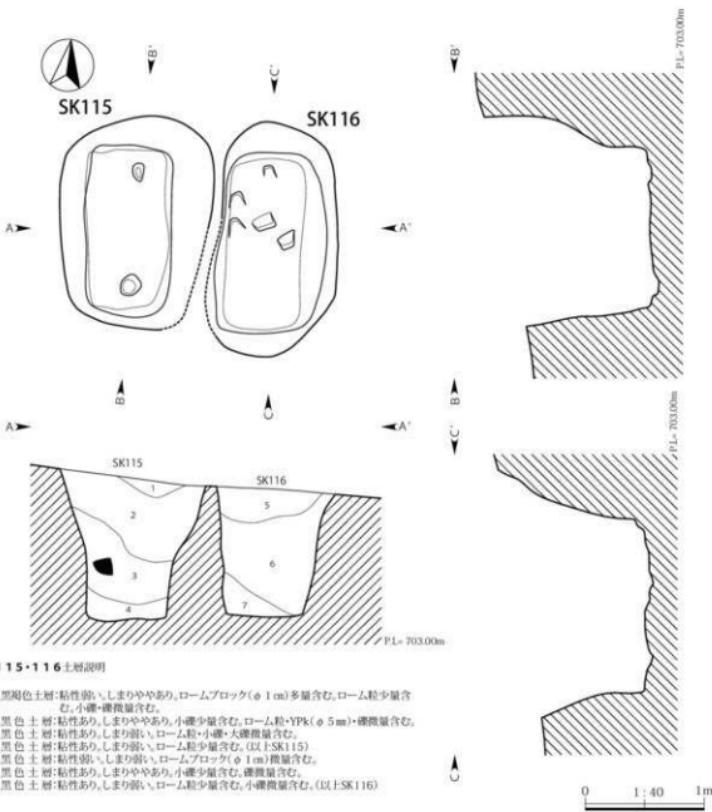
第169図 SK113実測図(1/40)

SK116 (第170図)

位置 2-52区L-7グリッド(1区調査区中央部北側)。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黒色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は、上位は梢円形、中位から下位は隅丸長方形を呈する。規模は長軸197cm、短軸118cm、確認面からの深さ130cmを測る。**主軸方位** N-7°-W **壁面** 東・西壁はほぼ垂直に立ち上がる。南・北壁は外傾して立ち上がる。**底面** 北半分に工具痕が見られるが、概ね平坦である。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

SK125 (第171図/PL 32)

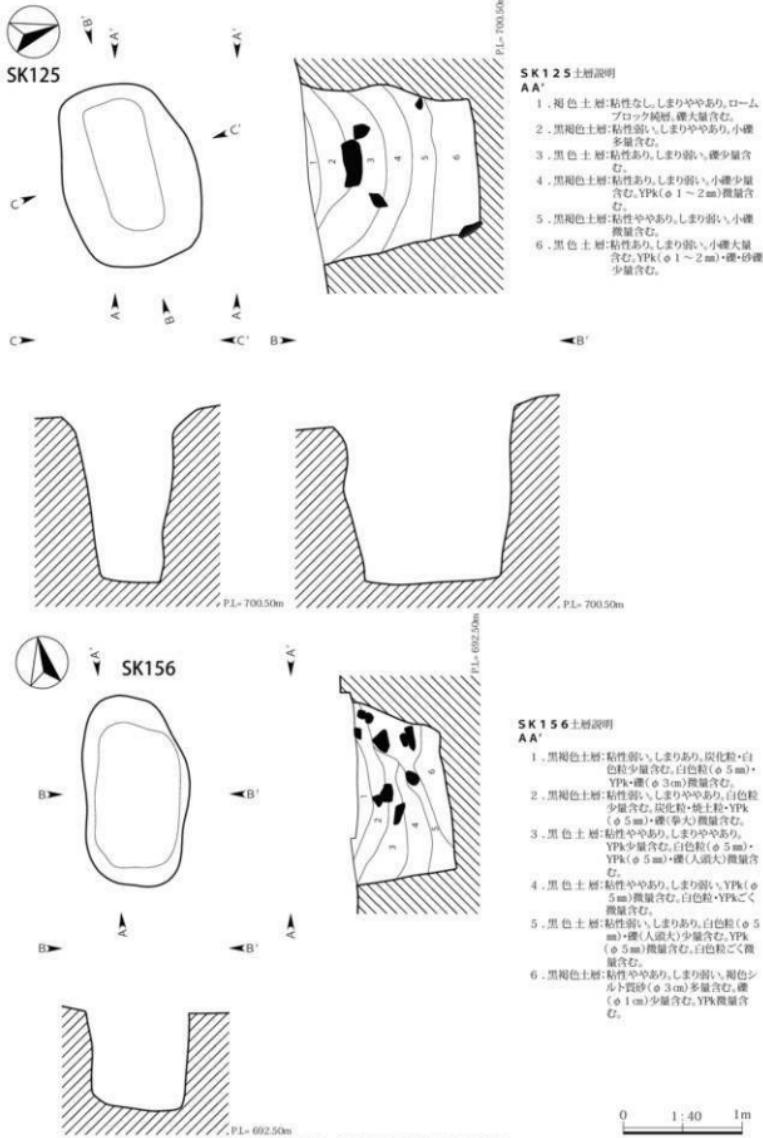
位置 2-52区M-10・11グリッド(1区調査区中央部南側)。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黒色土と黒褐色土が互層をなし、堆積状況は自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は、上位は梢円形、下位は隅丸長方形を呈する。規模は長軸156cm、短軸115cm、確認面からの深さ151cmを測る。**主軸方位** N-90° **壁面** いずれの壁もほぼ垂直に立ち上がり、東・西・南壁は上位が大きく外傾する。**底面** 概ね平坦である。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。



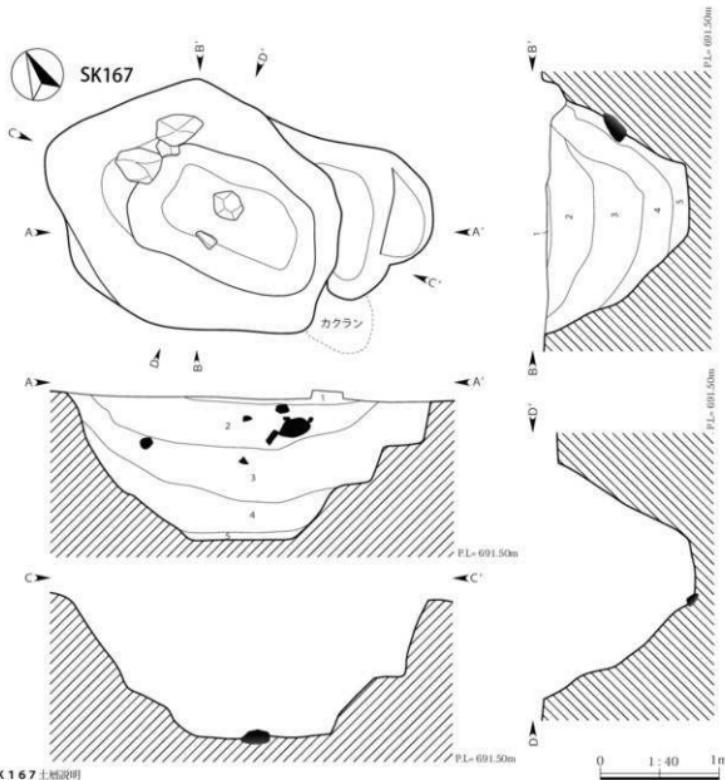
第170図 SK115・116実測図(1/40)

SK156(第171図)

位置 2-52区S-T-18グリッド(2区調査区中央部)。**重複関係**なし。**遺存状態**良好。**覆土** 黒色土と黒褐色土が互層をなし、堆積状況は自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は上位が楕円形、下位が隅丸長方形を呈する。規模は長軸162cm、短軸89cm、確認面からの深さ83cmを測る。**主軸方位** N-10°-E **壁面** 東・西・南壁はほぼ直立に立ち上がり、北壁は大きく外傾して立ち上がる。**底面** 南側に向かって傾斜しているが、概ね平坦である。**遺物**なし。**備考** 本遺構は、出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。



第171図 SK125・156実測図(1/40)



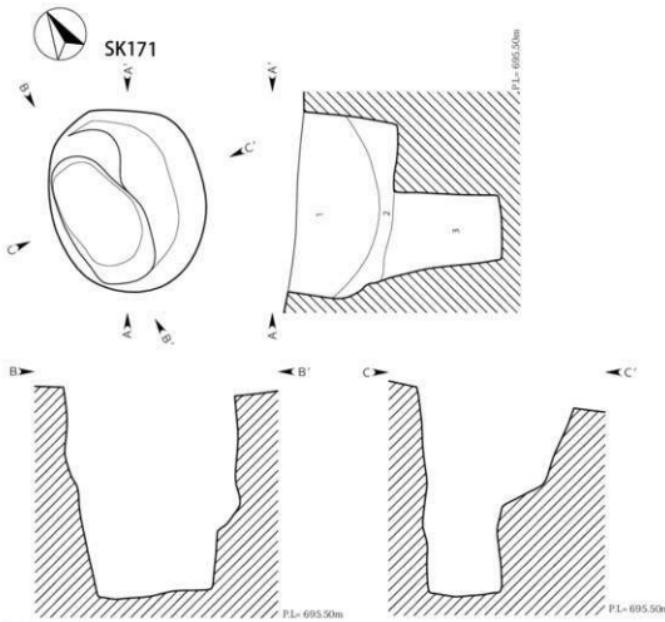
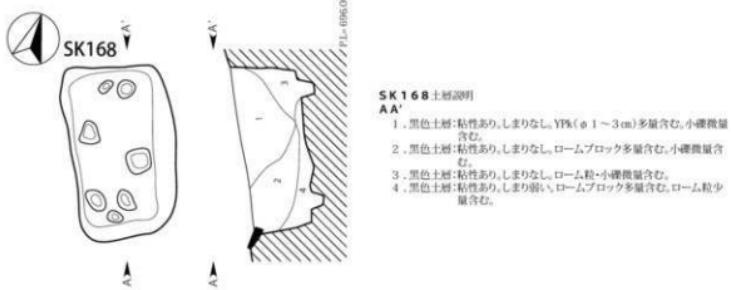
第172図 SK167実測図(1/40)

SK167 (第172図)

位置 2—62区R—1グリッド (2区調査区西部)。 **重複関係** SI04と重複し、本遺構の方が古い。

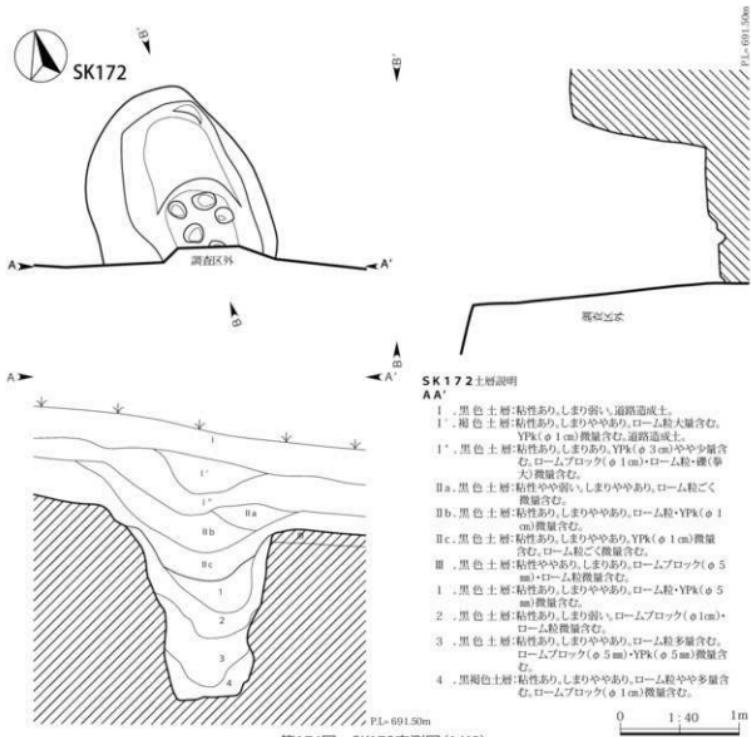
遺存状態 上部がSI04に壊されているが、下部は良好である。 **覆土** 黒褐色土が基調であるが、上層に暗褐色土・黒色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は不整梢円形を呈する。規模は長軸329cm、短軸208cm、確認面からの深さは122cmを測る。 **主軸方位** N—54°—W **壁面** いずれの壁面も大きく外傾して立ち上がる。東壁はテラスを2段有する。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** なし。

備考 本遺構は、出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代の陥し穴と判断した。遺構の切り合ひ関係から9世紀後半よりも古いと考えられる。



0 1:40 1m

第173図 SK168・171実測図(1/40)



第174図 SK172実測図(1/40)

SK168 (第173図)

位置 2-52区M-19グリッド(2区調査区西部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒色土が基調で、自然堆積を示す。

平面形と規模 平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長軸149cm、短軸92cm、確認面からの深さ77cmを測る。

主軸方位 N-19°-W **壁面** いずれの壁もほぼ垂直に立ち上がる。

底面 逆茂木痕と考えられる小さな窪みが見られる。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

SK171 (第173図)

位置 2-52区M・N-19グリッド(2区調査区西部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土**

黒色土が基調であるが、上層に黒褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。

平面形と規模 平面形は、上位が円形、中位から下位が楕円形を呈する。規模は長軸159cm、短軸131cm、確認面からの深さ

177cmを測る。

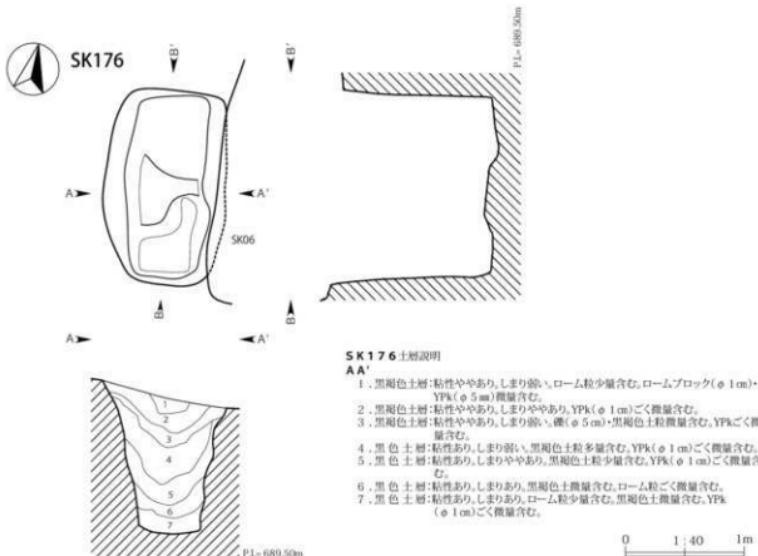
主軸方位 上位はN-30°-E、下位はN-5°-W。 **壁面** 東・南・北壁はほぼ垂直に立ち上がる。

東壁はほぼ垂直に立ち上がり、中位でテラスを有し、そこから外傾気味に立ち上がる。

底面 概ね平坦である。

遺物 なし。 **備考** 本遺構は、出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に

帰属する陥し穴と判断した。



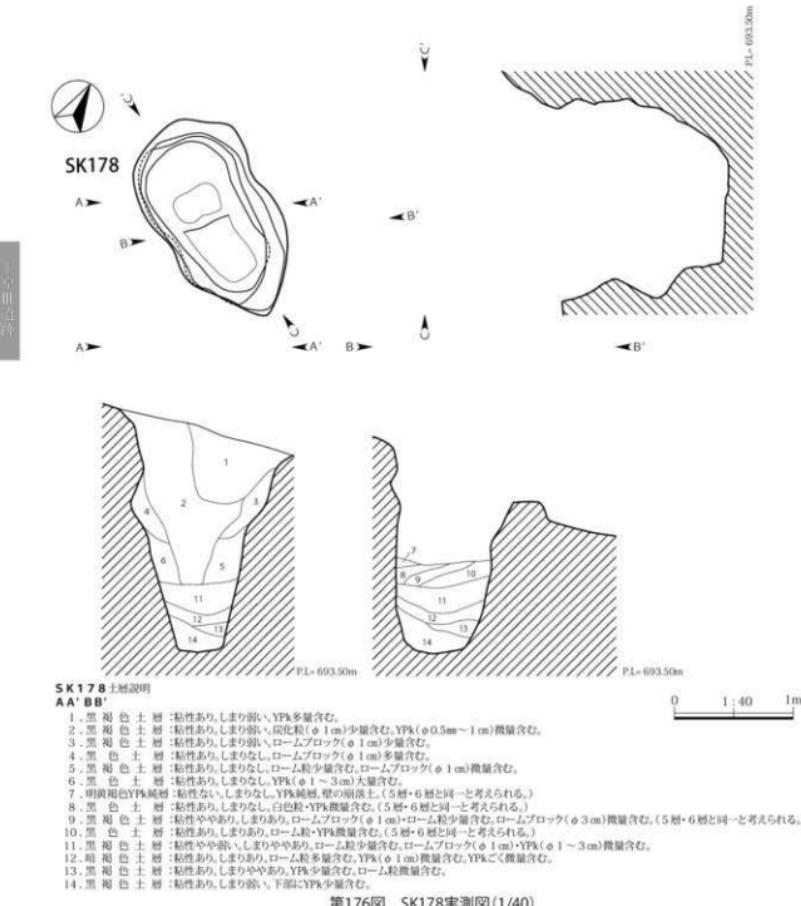
第175図 SK176実測図(1/40)

SK172 (第174図)

位置 2-62区T-3グリッド(2区調査区南部)。**重複関係** なし。**遺存状態** 南側約1/3が調査区外にあるが、概ね良好である。**覆土** 黒色土が基調であるが、下層に黒褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。**平面形と規模** 南側約1/3が調査区外にあるため詳細は不明であるが、平面形は上位が楕円形、中位から下位が隅丸長方形を呈すると考えられる。規模は長軸が171cm以上、短軸147cm、確認面からの深さ164cmを測る。**主軸方位** N-5°-W **壁面** 東・西・北壁はほぼ垂直に立ち上がり、上位はわずかに外傾する。南壁は確認されていない。**底面** 中央が一段低く、逆茂木痕と考えられる小さな窪みが見られる。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

SK176 (第175図)

位置 2-63区A-3・4グリッド(2区調査区南部)。**重複関係** SK06と重複し、本遺構の方が古い。**遺存状態** 良好。**覆土** 黒色土が基調であるが、上層に黒褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長軸166cm、短軸98cm、確認面からの深さ134cmを測る。**主軸方位** N-10°-E **壁面** いずれの壁もほぼ垂直に立ち上がり、東・西壁は上位が外傾する。**底面** 長軸両端が一段低くなる。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。



SK178 (第176図)

位置 2-62区Q-2・3グリッド (2区調査区西部壁際)。 **重複関係** SiO3と重複し、本遺構の方が新しい。

遺存状態 良好。 **覆土** 黒褐色土と黒色土が互層をなし、下層に暗褐色土、中層に壁崩落と考えられるYPk層が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。

平面形と規模 平面形は、上位から中位が梢円形、下位が隅丸長方形を呈する。規模は長軸179cm、短軸97cm。確認面からの深さ189cmを測る。

主軸方位 N-59°-W **壁面** いずれの壁も外傾して立ち上がり、上位が大きく外傾する。南・北壁はYPkが崩れたためか凸凹が見られる。

底面 長軸北側がわずかに低くなっているが、概ね平坦である。 **遺物** なし。

備考 本遺構は、出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

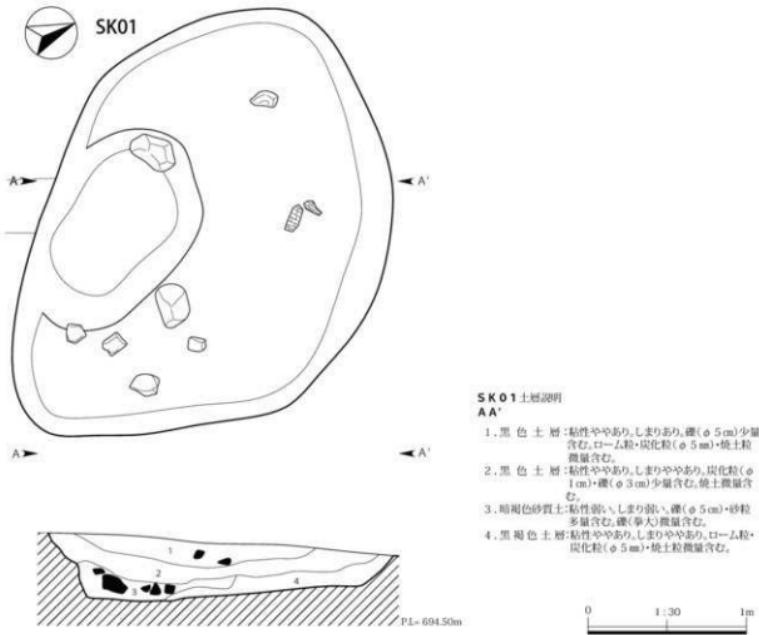
(6) 土坑

SK01 (第177・183図／PL 32・40)

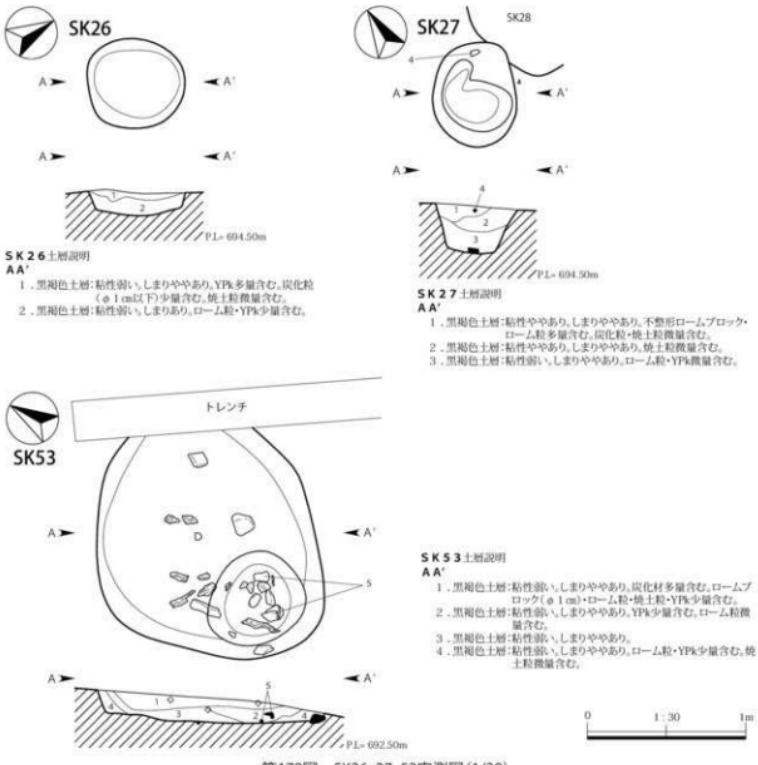
位置 2-52区P-20グリッド(2区調査区西部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は橢円形を呈する。規模は長軸308cm、短軸220cm、確認面からの深さ41cmを測る。 **主軸方位** N-36°-W **壁面** 大きく外傾して立ち上がる。 **底面** 西側中央がわずかに窪むが、概ね平坦である。 **遺物** 弥生土器・土師器・須恵器が出土し、土師器壺1点、須恵器壺1点を図示した。弥生土器は、遺構に伴わないと判断し、同一個体と考えられるものを遺構外出土遺物に掲載した。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、出土遺物から9世紀後半頃と考えられる。

SK26 (第178・183図／PL 40)

位置 2-52区O-18・19グリッド(2区調査区西部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸63cm、短軸57cm、確認面からの深さ9cmを測る。 **主軸方位** 不明。 **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 中央に向かって緩やかに傾斜するが、概ね平坦である。 **遺物** 須恵器壺1点を図示した。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、出土遺物から9世紀後半頃と考えられる。



第177図 SK01実測図(1/30)



第178図 SK26-27-53実測図(1/30)

SK27 (第178・183図／PL 40)

位置 2-52区O・P-18グリッド(2区調査区西部)。**重複関係** SK28と重複し、本遺構の方が新しい。**遺存状態** 良好。**覆土** 黒褐色土が基調であるが、上層にはロームブロックが多く混合する。人為堆積の可能性がある。**平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸66cm、短軸52cm、確認面からの深さ32cmを測る。**主軸方位** 不明。**壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 中央に向かって緩やかに傾斜するが、概ね平坦である。**遺物** 土師器壺1点を図示し得た。**備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、出土遺物から9世紀後半頃と考えられる。

SK53 (第178・183図／PL 32・40)

位置 2-52区T-16・17グリッド(2区調査区中央部北寄り)。**重複関係** なし。**遺存状態** トレンチによって一部の壁を損なうが、良好である。**覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸169cm以上、短軸は145cm、確認面からの深さ31cmを測る。**主軸方位** 不明。**壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 南部が一段低くなるが、概ね平坦である。**遺物** 須恵

器壺1点、壺1点、土師器壺1点を図示し得た。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、出土遺物から9世紀後半頃と考えられる。

SK61 (第179・183図／PL 40)

位置 2-52区T-18・19、2-53区A-18・19 グリッド（2区調査区中央部）。 **重複関係** SI15と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 当初SI15の西壁と考えており、南東側半分は確認できなかった。

覆土 黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は隅丸長方形を呈すると考えられる。規模は長軸341cm、短軸は67cm以上、確認面からの深さ32cmを測る。 **主軸方位** N-45°-E **壁面** 大きく外傾して立ち上がる。 **底面** 中央に向かって緩やかに傾斜する。 **遺物** 須恵器羽釜1点を図示し得た。

備考 本遺構は、性格は不明であるが、SI15 A西壁とほぼ同じ長さであることから、SI15 Aの棚状施設である可能性がある。帰属時期は、SI15 Aと同時期の10世紀前半か、それよりも新しいと考えられる。

SK132 (第180図／PL 32)

位置 2-52区Q・R-11 グリッド（1区調査区南部）。 **重複関係** SI10と重複し、本遺構の方が新しい。

遺存状態 良好。 **覆土** 黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は不整な五角形状を呈する。規模は長軸264cm、短軸207cm、確認面からの深さ31cmを測る。 **主軸方位** N-21°-E **壁面**

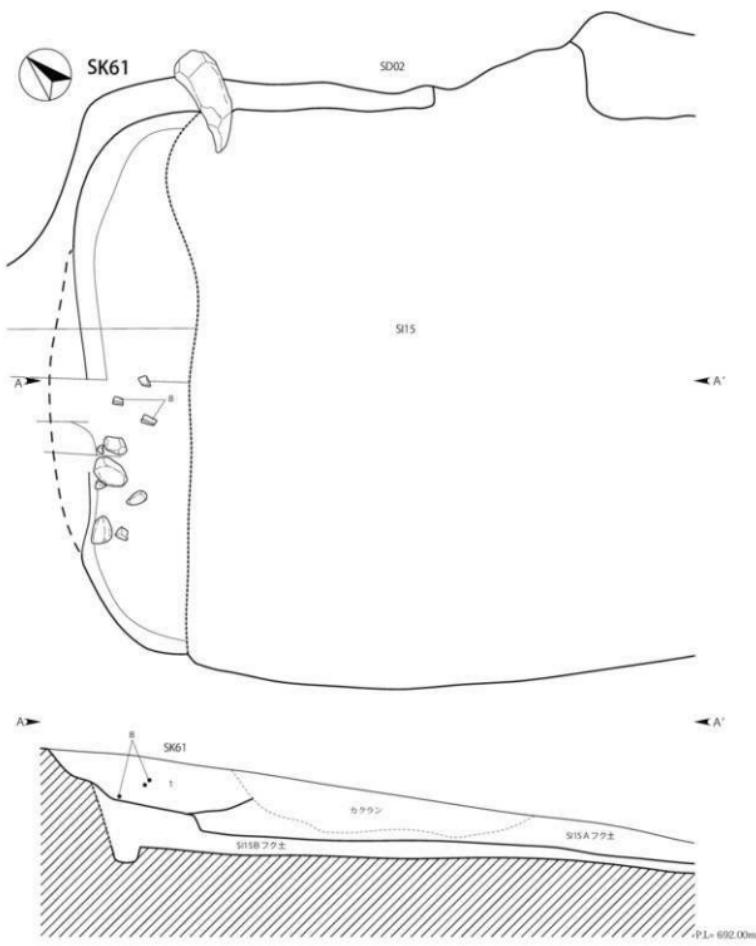
外傾して立ち上がる。 **底面** 中央に向かって緩やかに傾斜するが、概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。出土遺物がないため帰属時期は不明であるが、遺構の切り合い関係から9世紀後半以降と考えられる。

SK154 (第180・183図／PL 40)

位置 2-53区C-9 グリッド（1区調査区南東部）。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を呈する。 **平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸166cm、短軸123cm、確認面からの深さ28cmを測る。 **主軸方位** N-32°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 中央に向かって緩やかに傾斜するが、概ね平坦である。 **遺物** 土師器壺1点を図示し得た。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明であるが、陥し穴の下部である可能性も否定できない。帰属時期は、出土遺物から9世紀後半頃と考えられる。

SK162 (第181・183図)

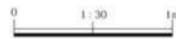
位置 2-52区Q-8・9 グリッド（1区調査区中央部東寄り）。 **重複関係** SK163と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 重複部分の壁を損なうが、概ね良好である。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は隅丸方形を呈する。規模は長軸162cm、短軸141cm、確認面からの深さ37cmを測る。 **主軸方位** N-75°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 南方向に緩やかに傾斜するが、概ね平坦である。 **遺物** 須恵器壺1点を図示し得た。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、出土遺物から9世紀後半頃と考えられる。



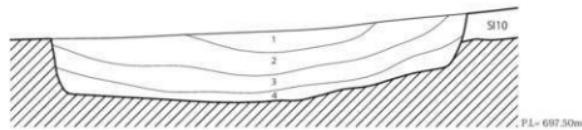
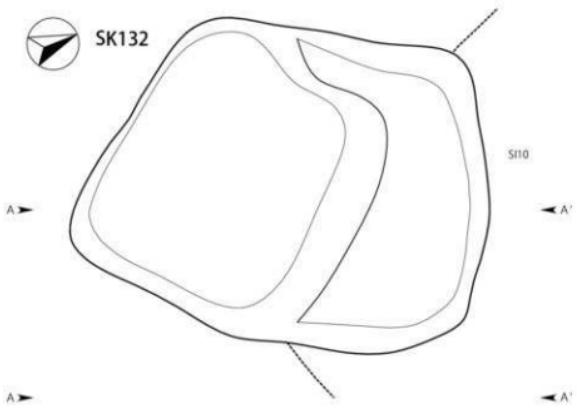
SK61 土層説明

AA'

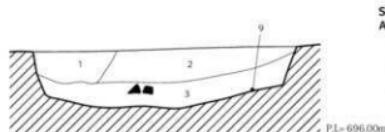
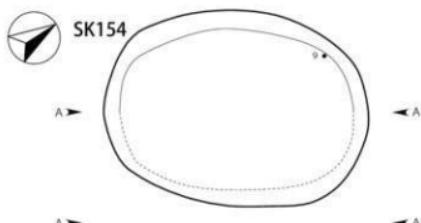
1. 黒色土層: 粘性弱い。しまりあり。白色粒(Φ 5 mm)少量含む。ロームブロック(Φ 1 cm)・ローム粒・燒土か・Ypk(Φ 5 mm)微量含む。



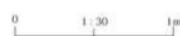
第179図 SK61実測図(1/30)



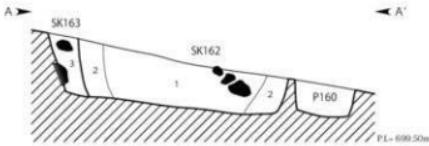
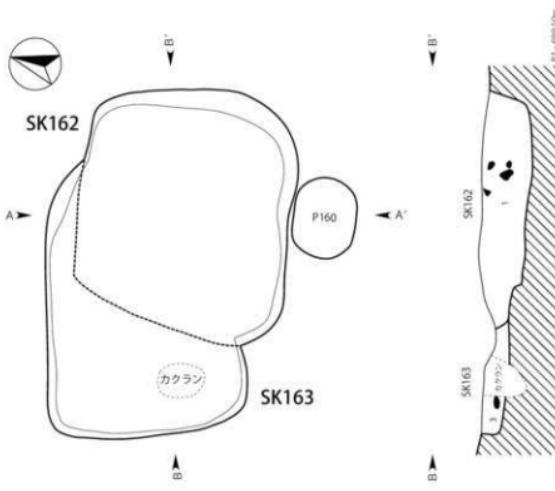
1. 黒色土層: 粘性弱い、しまりあり。燒土粒・YPk(φ 5mm)・礫(φ 5cm)微量含む。
 2. 黒色土層: 粘性ややあり、しまりややあり。礫(φ 1cm)少量含む。炭化粒・燒土粒・白色粒(φ 1cm)・YPk微量含む。
 3. 黒色土層: 粘性あり、しまりややあり。礫(φ 1cm)少量含む。炭化粒・燒土粒・白色粒(φ 5mm)・YPk微量含む。
 4. 黑色土層: 粘性ややあり、しまりあり。YPk微量含む(他より多い)。燒土粒・礫(φ 1cm)微量含む。



1. 黒色土層: 粘性弱い、しまりあり。小礫多量含む。YPk(φ 1~2mm)・焼土粒・白色粒微量含む。
 2. 黑褐色土層: 粘性弱い、しまりあり。小礫少量含む。炭化粒(φ 1mm)微量含む。
 3. 黑褐色土層: 粘性弱い、しまりあり。YPk(φ 1~2 m)・小礫多量含む。礫少量含む。



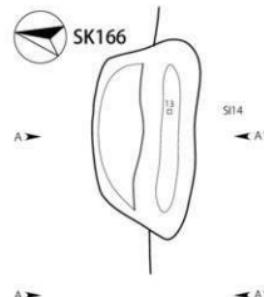
第180図 SK132・154実測図(1/30)



SK162・163 土層説明

AA'

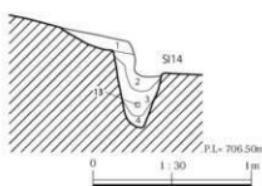
1. 黒褐色土層：粘性弱い、しまりあり、礫多量含む、礫（拳大）・砂礫少量含む。炭化粒（φ 1cm）・YPk（φ 1～2mm）微量含む。
2. 黒褐色土層：粘性弱い、しまりあり、YPk（φ 1～2mm）・礫・砂礫少量含む。（以上SK162）
3. 黒褐色土層：粘性弱い、しまりあり、YPk（φ 1～2mm）・礫・砂礫少量含む。（SK163）



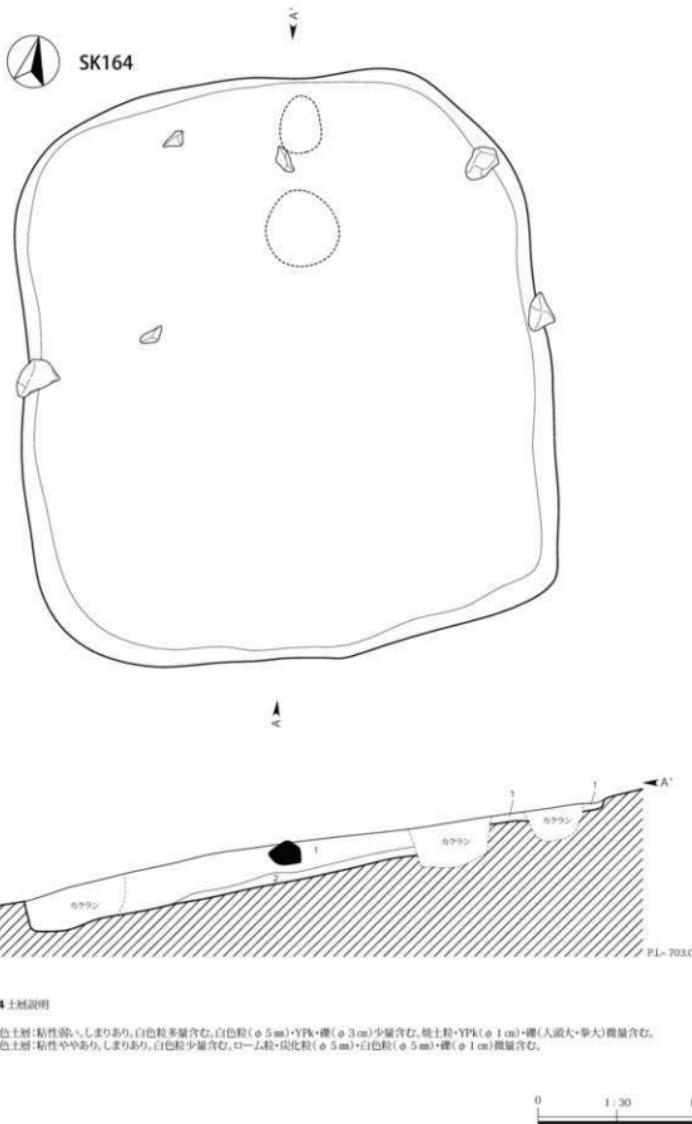
SK166 土層説明

AA'

1. 黒色土層：粘性弱い、しまりあり、炭化粒・燒土粒・白色粒少量含む、ロームブロック（φ 1cm）・燒土粒（φ 5mm）微量含む。
2. 黒褐色土層：粘性弱い、しまり弱い、燒土粒（φ 5mm）少量含む、ロームブロック（φ 1cm）・ローム・燒土粒微量含む。
3. 黒褐色土層：粘性やや弱い、しまり弱い、ロームブロック（φ 5mm）微量含む、ローム粒ごく微量含む。
4. 黑褐色土層：粘性やや弱い、しまりやや弱い、燒土粒微量含む、ローム粒ごく微量含む。



第181図 SK162・163・166実測図(1/30)



第182図 SK164実測図(1/30)

SK163（第181図）

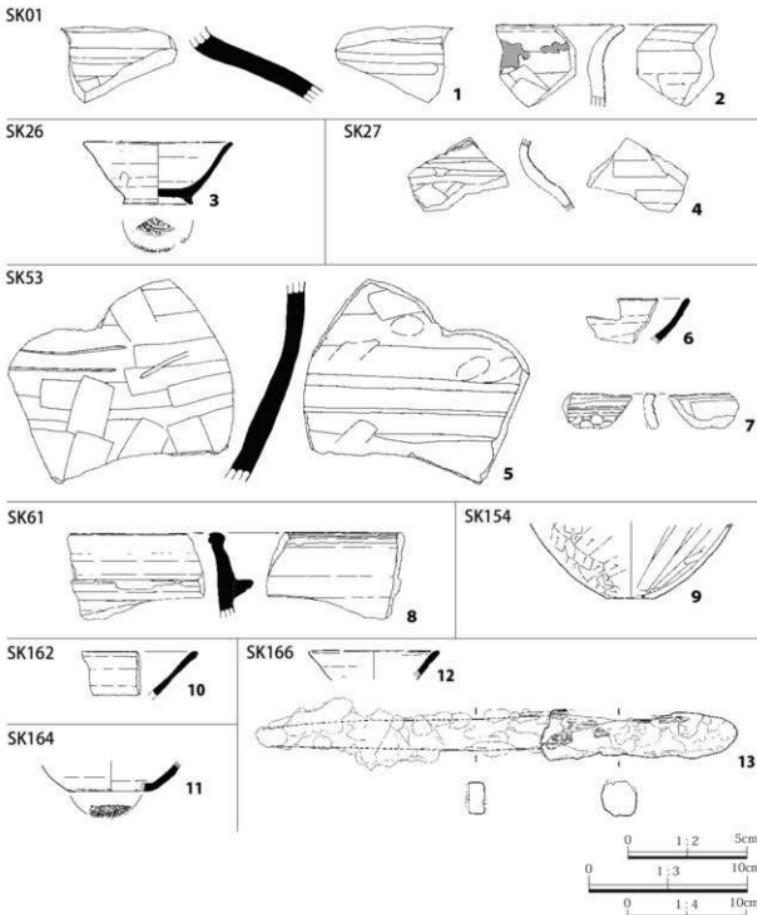
位置 2—52区Q—8・9グリッド（1区調査区中央部東寄り）。**重複関係** SK162と重複し、本遺構の方が古い。**遺存状態** 重複部分の壁を損なうが、概ね良好である。**覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長軸185cm以上、短軸126cm、確認面からの深さ36cmを測る。**主軸方位** N—75°—E **壁面** 垂直気味の部分もあるが、概ね外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、遺構の切り合い関係から9世紀後半以前と考えられる。

SK164（第182・183図／PL 32）

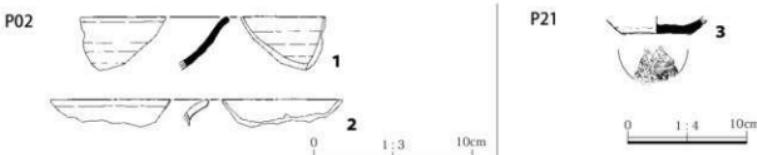
位置 2—52区O・P—5グリッド（1区調査区中央部北東寄り）。**重複関係** なし。**遺存状態** 一部カクランで壊されているが、概ね良好。**覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長軸371cm、短軸337cm、確認面からの深さ18cmを測る。**主軸方位** N—11°—W **壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 南東方向に傾斜するが、概ね平坦である。**遺物** 須恵器坏1点を図示し得た。**備考** 本遺構は、規模が大きいため竪穴状遺構の可能性もあるが、底面が南側へ傾斜していることから土坑と判断した。性格は不明で、帰属時期は出土遺物から9世紀後半頃と考えられる。

SK166（第181・183図／PL 32・40）

位置 2—42区T—16グリッド（1区調査区北東隅部）。**重複関係** SI14と重複し、本遺構の方が古い。**遺存状態** 良好。**覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸124cm、短軸73cm、確認面からの深さ69cmを測る。**主軸方位** N—80°—E **壁面** 外傾して立ち上がり、北壁は上位で大きく外傾する。**底面** 幅は狭いが概ね平坦。**遺物** 須恵器坏1点、鉄製品1点を図示し得た。**備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、出土遺物および遺構の切り合い関係から9世紀後半以前と考えられる。



第183図 平安時代土坑出土遺物実測図(1/2・1/3・1/4)



第184図 平安時代ビット出土遺物実測図(1/3・1/4)

第4節 近世の遺構と遺物

(1) 土壙墓

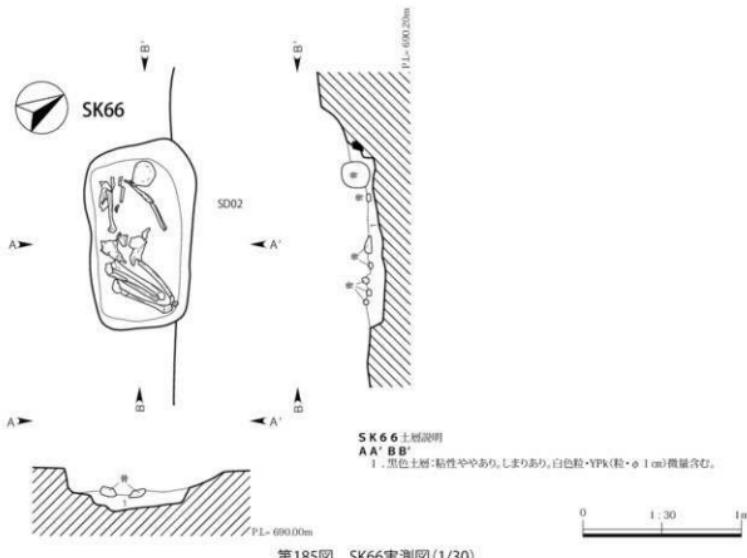
SK66 (第185図)

位置 2-53区B-19グリッド(2区調査区中央やや東寄り)。 **重複関係** SD02と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** SD02によって上位が壊される。 **覆土** 黒色土が基調で、人為的な埋没が考えられる。

平面形と規模 平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長軸121cm、短軸70cm、確認面からの深さ16cmを測る。

主軸方位 N-58°-W **壁面** 底面付近のみ現存し、外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。

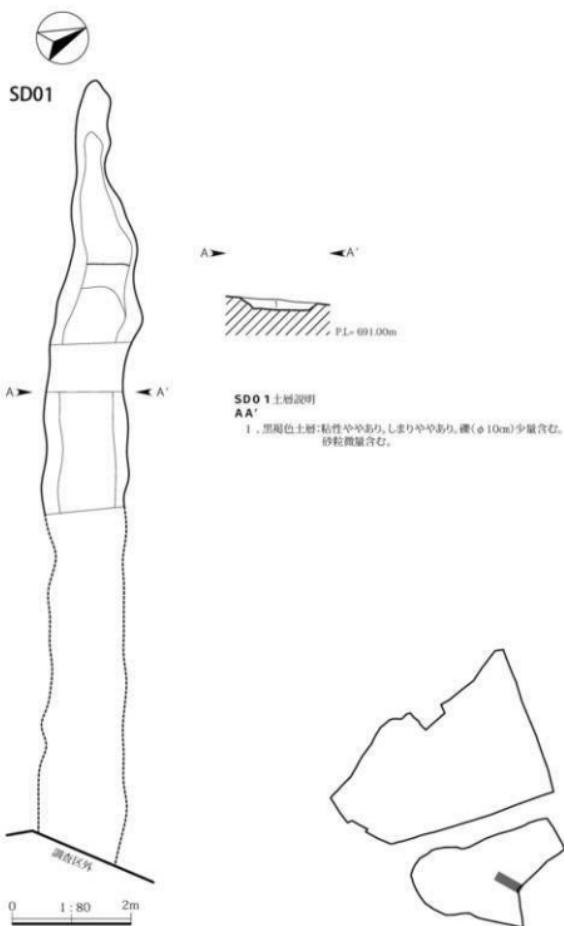
遺物 なし。 **備考** 本遺構から人骨1体が出土した。頭位を北西にして、首を約90°下に曲げ顔面部を南東(骨盤)に向かって横臥(側臥)屈葬で埋葬されたと考えられる。墓壙の主軸方向が北ではなく、上を流れるSD02と同じ方向であることから、墓壙を掘る際に地形に制限されていた可能性が考えられる。人骨の遺存状態が良いこと、周辺から寛永通宝が出土していることから、本遺構は近世の墓壙と判断した。出土した人骨は、地権者の方方が供養してくださった。



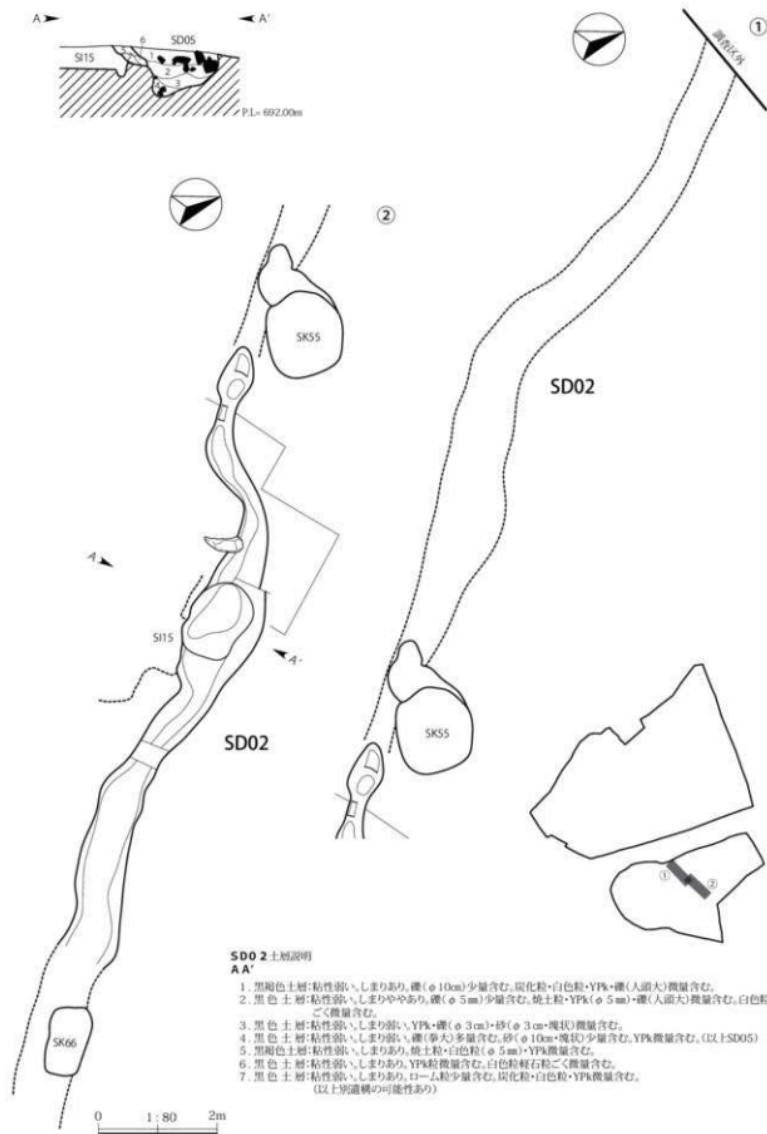
(2) 自然流路

SD01 (第186図)

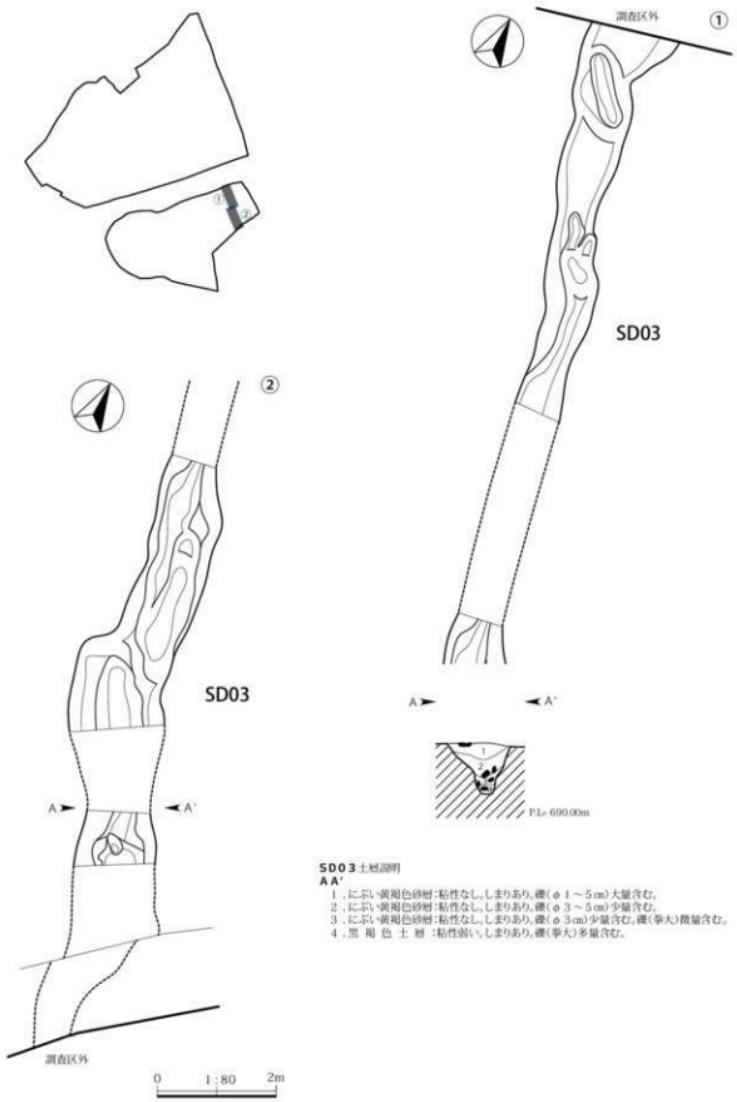
位置 2-52区T-19~2-53区C-20グリッド(2区調査区中央部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 南側が調査区外だが、良好である。 **覆土** 黒褐色土が基調である。 **規模** 長さは13.3m確認され、幅は45cm~146cm、確認面からの深さ18cmを測る。 **主軸方位** N-65°-W **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、西北西→東南東方向に走る自然流路である。確認範囲の北半分のみ掘削を行い、南側は上端のみ確認した。本遺構は時期を特定し得る遺物はないが、帰属時期は隣を流れるSD02と同時期の近世以降と判断した。



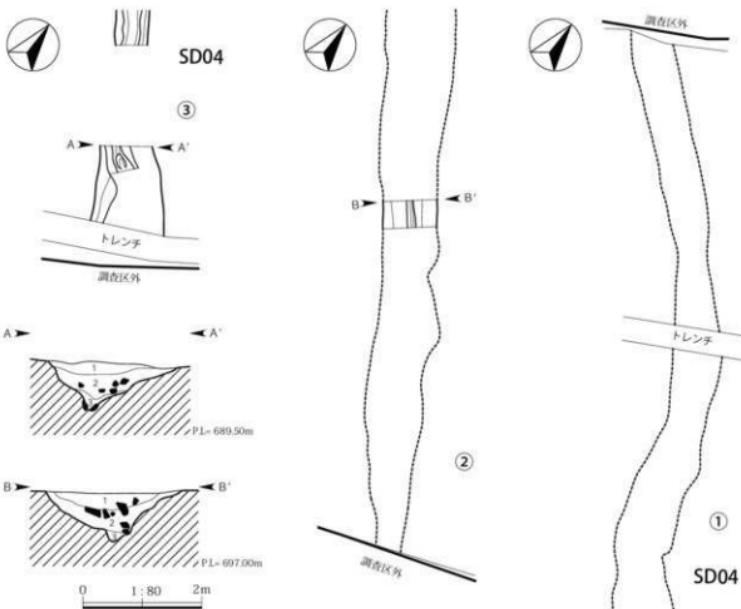
第186図 SD01実測図(1/80)



第187図 SD02実測図 (1/80)



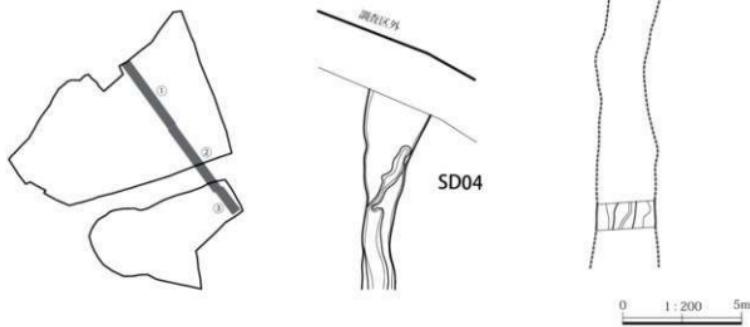
第188図 SD03実測図 (1/80)



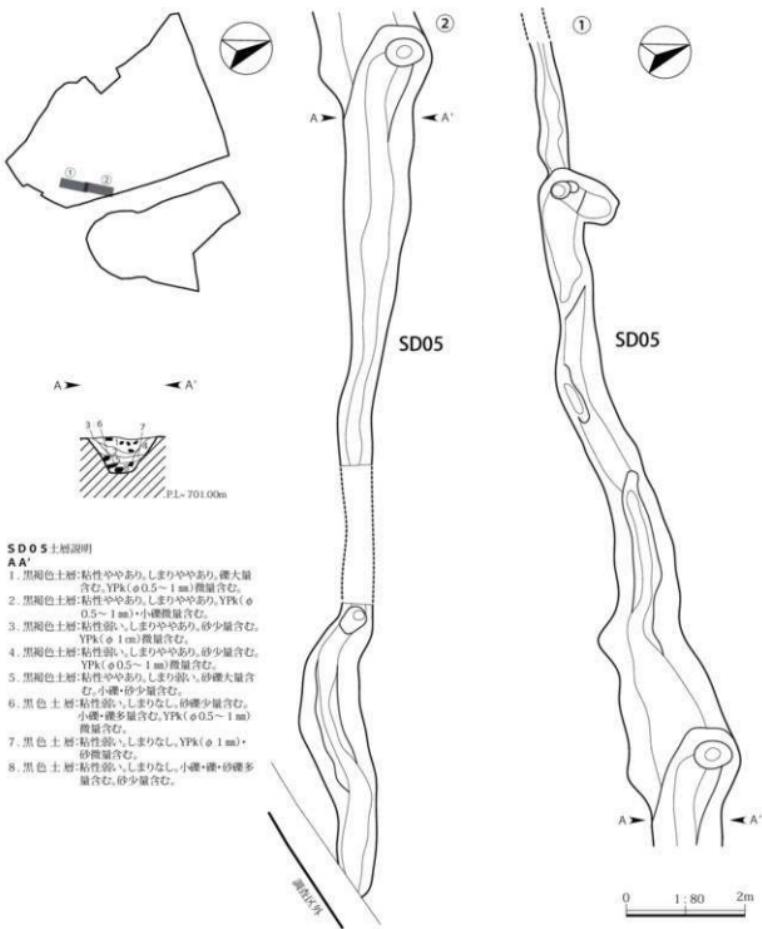
SD04 土層説明

AA' BB'

1. 黒褐色土層：粘性ややあり、しまりあり、礫(φ 3 ~ 5cm)少量含む。白色粒・礫(φ 大)
2. 黒褐色土層：粘性あり、しまりあり、礫(φ 5cm)少量含む。白色粒微量含む。
3. 黒褐色土層：粘性あり、しまりあり、口-2粒・礫(φ 5cm)微量含む。



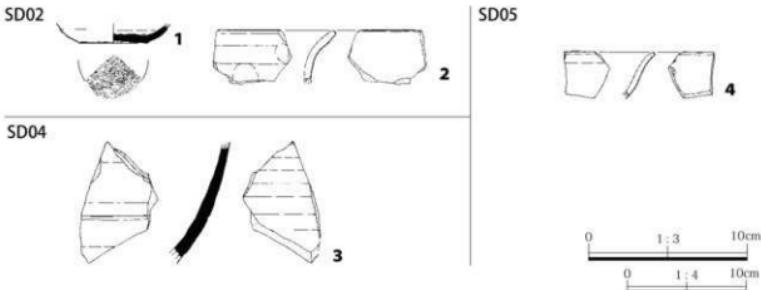
第189図 SD04実測図(1/80・1/200)



第190図 SD05実測図(1/80)

SD02 (第187・191図/P L 41)

位置 2-52区R-16～2-53区B-19 グリッド (2区調査区中央部)。 **重複関係** SI15、SK55・66と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 南側は、表土掘削の際に削平されたため現存しない。北側は調査区外にあり、1区調査区のSD05とは同一遺構の可能性がある。 **覆土** 黒色土が基調である。上層は黒褐色土が堆積し、人頭大の礫が多く含まれる。 **規模** 長さは直線距離で26.9 m確認され、幅は28cm～78cm、確認面からの深さ51cmを測る。 **主軸方位** N-54°-W **遺物** 土師器壺1点、須恵器壺1点を図



第191図 近世自然流路出土遺物実測図(1/3・1/4)

示し得たが、SI15に伴うものであった可能性が高い。**備考** 本遺構は、明確な掘り込みがないこと、直線的でないことから、傾斜に従って北西—南東方向に流れる自然流路と判断した。重複する遺構の周辺を掘り下げ、南端部および北側1/3は上端のみ確認した。帰属時期は、遺構の切り合い関係から近世以降と判断した。

SD03 (第188図／P L 32)

位置 2-53区D-13～E-16グリッド（2区調査区東部）。**重複関係** なし。**遺存状態** 南北両側は調査区外にある。北側は1区調査区で確認することはできなかった。**覆土** 小礫が多く含む黄褐色砂が基調で、下層に黒色土が堆積する。堆積状況は自然堆積を示す。**規模** 長さは直線距離で20.7m確認され、幅は70cm～147cm、確認面からの深さ88cmを測る。**主軸方位** N-14°-W **遺物** なし。**備考** 本遺構は、平面形が直線的でないこと、底面の凸凹が激しいことから、傾斜に従って北北西—南南東方向に流れる自然流路と判断した。時期を特定し得る遺物はないが、帰属時期は堆積土の様相などから近世以降と判断した。

SD04 (第189・191図／P L 32・41)

位置 2-42区O-20～2-53区G-16グリッド（1区・2区調査区東側）。**重複関係** なし。**遺存状態** 南北両側が調査区外にある。**覆土** 人頭大礫を含む黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。**規模** 長さは直線距離で98.2m確認され、幅は102cm～284cm、確認面からの深さ82cmを測る。**主軸方位** N-37°-W **遺物** 須恵器瓶1点を図示したが、遺構に伴うものではないと考える。**備考** 本遺構は、平面形が直線的でないこと、底面の凸凹が激しいことから、傾斜に従って北西—南東方向に流れる自然流路と判断した。2区調査区は通路とした場所以外は全て掘り下げ、1区調査区は上端のみを確認し、要所にトレンチを設定して掘り下げを行なった。時期を特定し得る遺物はないが、帰属時期は堆積土の様相などから近世以降と判断した。

SD05 (第190・191図)

位置 2-52区I-13～N-14グリッド（1区調査区西側南部）。**重複関係** なし。**遺存状態** 北側は表土振削の際に削平されたためか現存しない。南側は調査区外にある。2区調査区のSD02とは同一遺構の可能性がある。**覆土** 上層は礫を含む黒褐色土、下層は礫を含む黒色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。**規模** 長さは直線距離で26.8m確認され、幅は42cm～190cm、確認面からの深さ60cmを測る。**主軸方位** N-77°-W **遺物** 白磁1点を図示したが、遺構に伴うものではないと考える。**備考** 本遺構は、平面形が直線的でないこと、底面の凸凹が激しいことから、傾斜に従って西北西—東南東方向に流れる自然流路と判断した。帰属時期は、堆積土の様相およびSD02との関係から近世以降と判断した。

第5節 その他の遺構と遺物

(1) 土坑

SK02 (第192図／PL 33)

位置 2-63区B・C-4グリッド(2区調査区南端部)。 **重複関係** SK03と重複し、本遺構の方が古い。

遺存状態 南側が調査区外であるが、概ね良好である。 **覆土** 黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は橢円形を呈すると考えられる。規模は長軸531cm以上、短軸148cm、確認面からの深さ10cmを測る。 **主軸方位** N-65°-W **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK03 (第192図／PL 33)

位置 2-63区C-4グリッド(2区調査区南端部)。 **重複関係** SK02と重複し、本遺構の方が新しい。

遺存状態 良好。 **覆土** 黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸71cm、短軸70cm、確認面からの深さ16cmを測る。 **主軸方位** N-30°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 中央に向かって緩やかに傾斜するが、概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK05 (第193図)

位置 2-63区B-3グリッド(2区調査区南部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸65cm、短軸57cm、確認面からの深さ14cmを測る。 **主軸方位** N-34°-W **壁面** 大きく外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

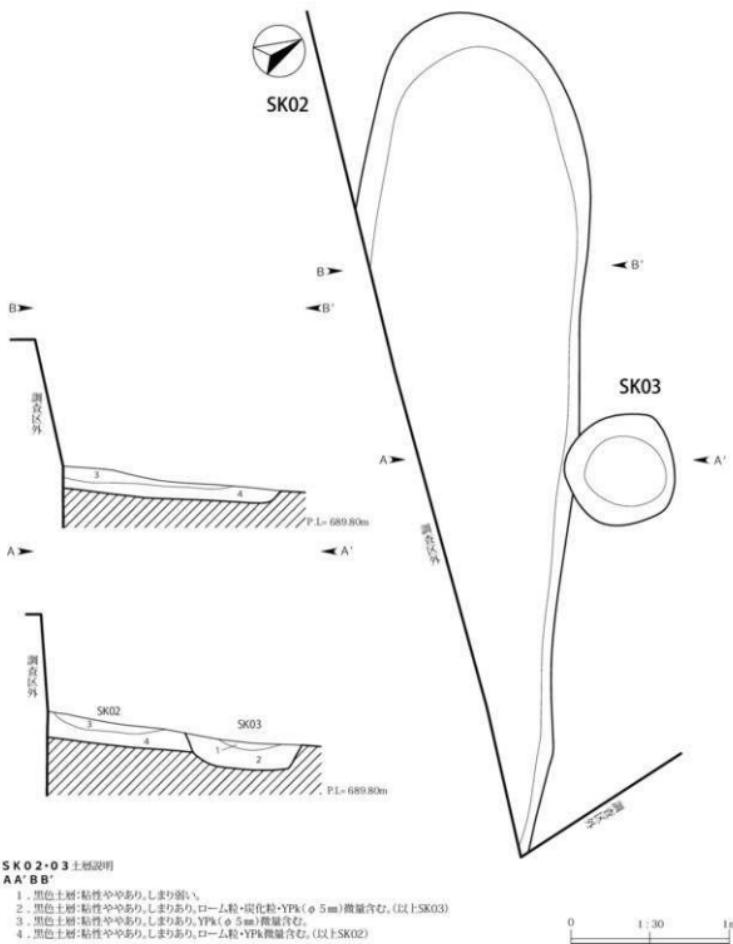
SK06 (第193図／PL 33)

位置 2-63区A・B-3・4グリッド(2区調査区南部)。 **重複関係** SK04・176と重複し、本遺構はSK04より古く、SK176より新しい。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒色土が基調で、自然堆積を示す。

平面形と規模 平面形は北東隅部が潰れた正方形形状を呈する。規模は長軸261cm、短軸218cm、確認面からの深さ30cmを測る。 **主軸方位** N-0° **壁面** 垂直気味の部分もあるが、概ね外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK07 (第194図)

位置 2-63区B-3グリッド(2区調査区南部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸158cm、短軸144cm、確認面からの深さ124cmを測る。 **主軸方位** 不明。 **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 南東方向に緩やかに傾斜するが、概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半

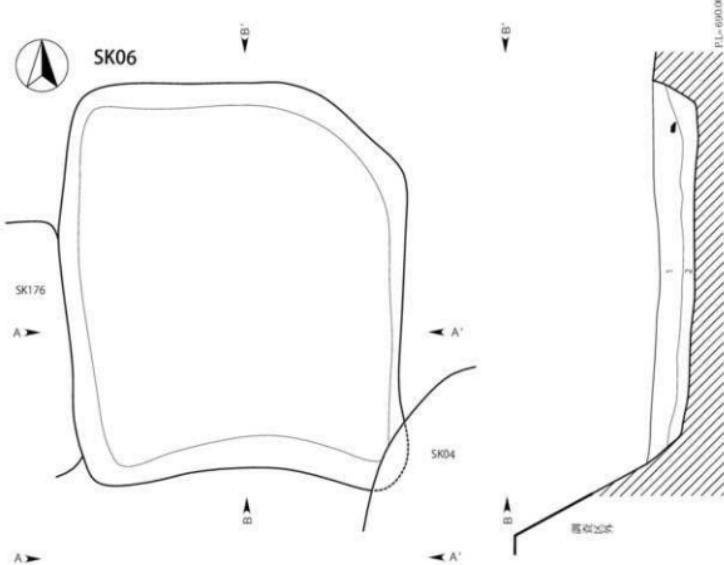


第192図 SK02-03実測図(1/30)

である可能性が高いと考えられる。

SK08 (第194図)

位置 2-63区B-2・3グリッド(2区調査区南部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒色土が基質で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸72cm、短軸51cm、確認面からの深さ25cmを測る。 **主軸方位** N-30°-W **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰



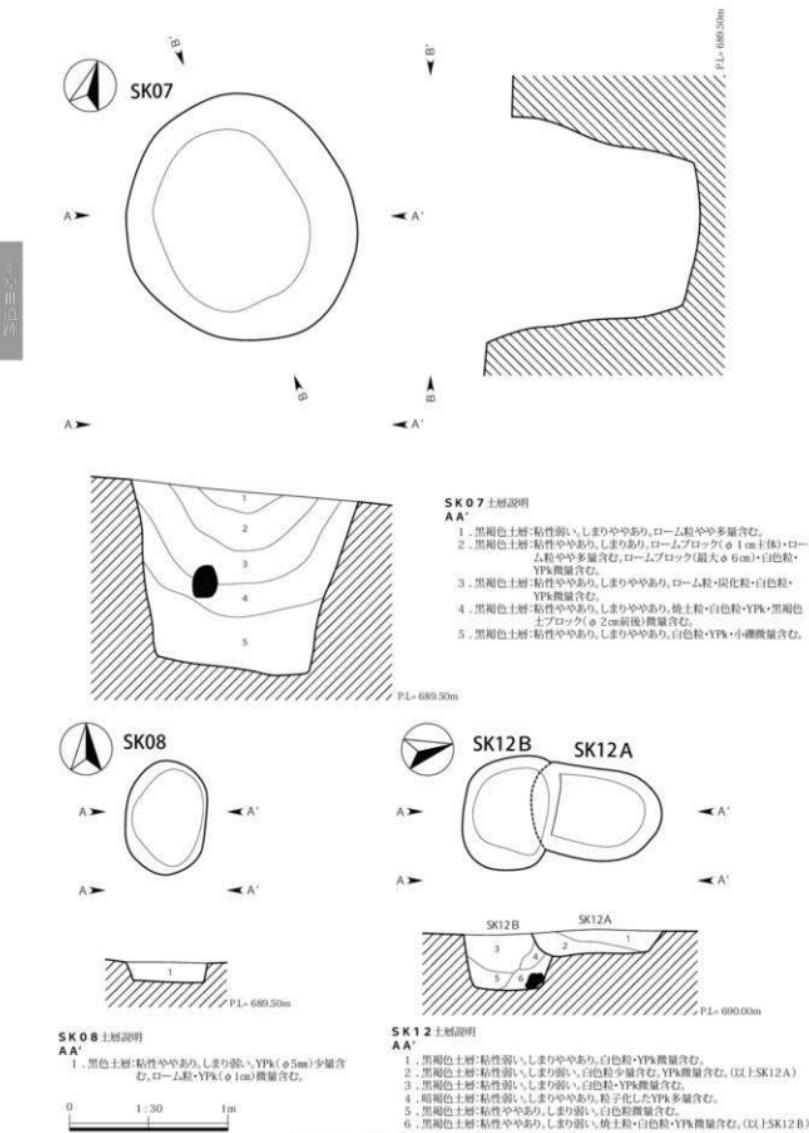
SK06 土層説明

AA' BB'

1. 黒色土層：粘性あり、しまりややあり、ローム粒・焼土粒・YPk(φ 1cm)微量含む。
2. 黒色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒・YPk(φ 1cm)微量含む。



第193図 SK05・06実測図 (1/30)



第194図 SK07・08・12A・B 実測図(1/30)

属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK11 B (第157図)

位置 2-63区B-1グリッド(2区調査区南部)。 **重複関係** SK11Aと重複し、本遺構の方が古い。

遺存状態 南側約1/3がSK11Aに壊されている。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は梢円形を呈すると考えられる。規模は長軸173cm、短軸92cm以上、確認面からの深さ51cmを測る。 **主軸方位** N-37°-W **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 中央に向かって緩やかに傾斜しているが、概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、遺構の切り合い関係から平安時代以前と考えられる。

SK12 A (第194図)

位置 2-63区A-1グリッド(2区調査区南部)。 **重複関係** 調査の結果、2基の土坑と判断され、新しい方をA、古い方をBとした。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模**

平面形は梢円形を呈する。規模は長軸推定83cm、短軸58cm、確認面からの深さ15cmを測る。 **主軸方位** N-12°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK12 B (第194図)

位置 2-63区A-1グリッド(2区調査区南部)。 **重複関係** SK12Aと重複し、本遺構の方が古い。

遺存状態 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸77cm、短軸58cm、確認面からの深さ33cmを測る。 **主軸方位** N-50°-W **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK14 (第195図)

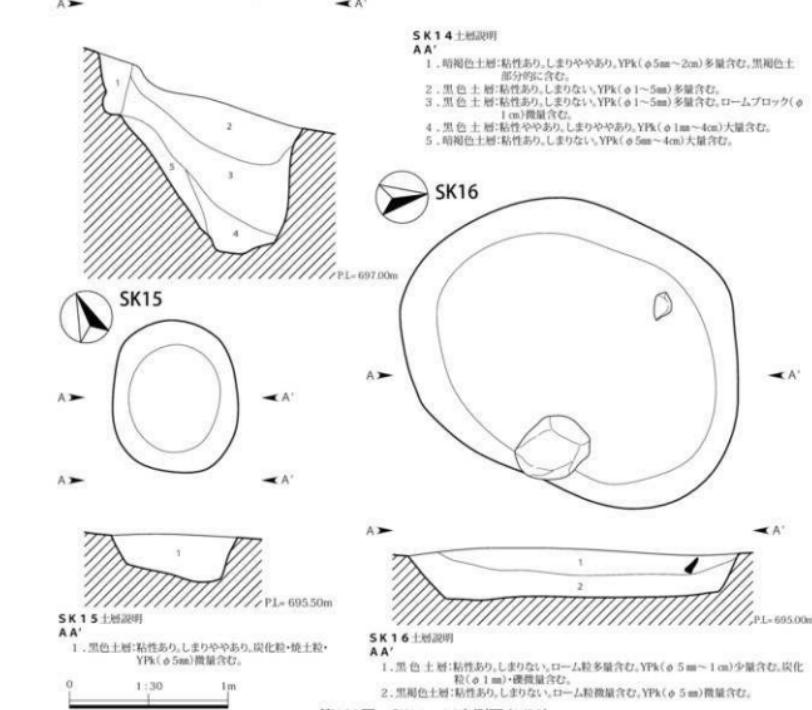
位置 2-52区M-18・19グリッド(2区調査区北西端部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。

覆土 黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は梢円形で、下位は隅丸長方形を呈する。規模は長軸151cm、短軸127cm、確認面からの深さ103cmを測る。 **主軸方位** N-12°-E **壁面** 東・南・北壁はほぼ垂直に立ち上がる。西壁は大きく外傾して立ち上がり、上位でほぼ垂直に立ち上がる。 **底面** 中央に向かって緩やかに傾斜するが、概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、出土遺物がないため性格・帰属時期は不明であるが、形態の特徴から平安時代に帰属する陥し穴である可能性が考えられる。

SK15 (第195図)

位置 2-52区N-20グリッド(2区調査区西部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黑

色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸97cm、短軸78cm、確認面からの深さ24cmを測る。 **主軸方位** 不明。 **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 東方向に緩やかに傾斜するが、概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。



第195図 SK14~16実測図(1/30)

SK16 (第 195 図)

位置 2-52 区 N-20、2-62 区 N-1 グリッド (2 区調査区南西端部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層は黒色土、下層は黒褐色土が堆積する。堆積状態は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸 225cm、短軸 177cm、確認面からの深さ 30cm を測る。 **主軸方位** N-24°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** 弁生土器片が出土したが、遺構に伴うものではないと判断したため遺構外出土遺物に掲載した。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく時期をと規定し得る遺物が出土していないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の 9 世紀後半～10 世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK17 (第 196 図)

位置 2-62 区 O-2 グリッド (2 区調査区南西端部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 暗褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸 70cm、短軸 49cm、確認面からの深さ 52cm を測る。 **主軸方位** N-13°-W **壁面** ほぼ垂直に立ち上がる。 **底面** 中央に向かって緩やかに傾斜しているが、概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の 9 世紀後半～10 世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK18 (第 196 図)

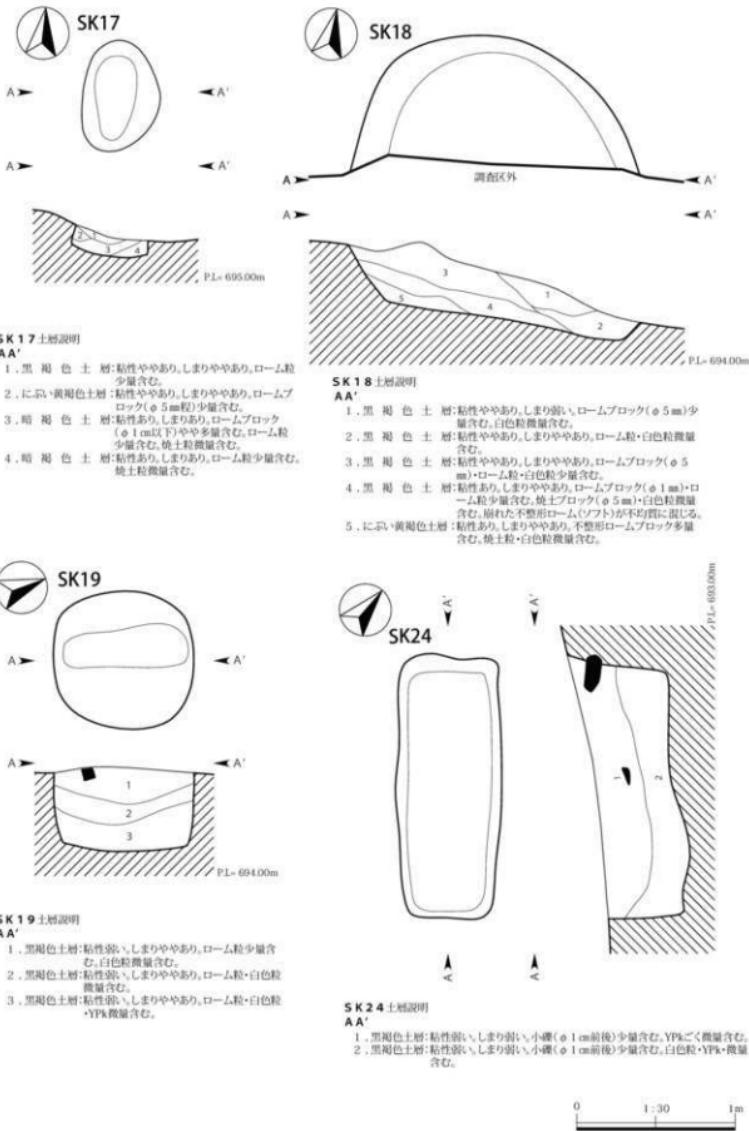
位置 2-62 区 P・Q-3 グリッド (2 区調査区南西端部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 南側が調査区外であるが、概ね良好である。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形と考えられる。規模は長軸 181cm、短軸 89cm 以上、確認面からの深さ 37cm を測る。 **主軸方位** N-82°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 東方向に緩やかに傾斜するが、概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の 9 世紀後半～10 世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK19 (第 196 図)

位置 2-52 区 P-20 グリッド (2 区調査区西部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸 88cm、短軸 87cm、確認面からの深さ 42cm を測る。 **主軸方位** N-20°-E **壁面** ほぼ垂直に立ち上がる。 **底面** 南北に細長く、概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の 9 世紀後半～10 世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK23 (第 160 図／PL 31)

位置 2-62 区 T-1 グリッド (2 区調査区中央部やや南寄り)。 **重複関係** SK22 と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** 重複部分の壁を損なうが、概ね良好である。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸 180cm、短軸 96cm 以上、確認面からの深さ 38cm を測る。 **主軸方位** N-21°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 東側に緩やかに傾斜しているが、概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は、遺構の切り合い関係から平安時代以前と考えられる。



第196図 SK17~19・24実測図(1/30)

SK24（第196図）

位置 2-52区Q・R-18・19グリッド（2区調査区中央部北西寄り）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長軸166cm、短軸67cm、確認面からの深さ62cmを測る。**主軸方位** N-40°-W **壁面** ほぼ垂直に立ち上がる。**底面** 南東方向に緩やかに傾斜し、底面の一部がわずかに窪む。**遺物** 土師器片が出土したが図示し得なかった。**備考** 本遺構は、時期を特定し得る遺物はなく、性格も不明である。平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥じ穴の底面付近である可能性が考えられる。

SK25（第197図）

位置 2-52区R・S-20グリッド（2区調査区中央部やや西寄り）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸188cm、短軸89cm、確認面からの深さ21cmを測る。**主軸方位** N-40°-E **壁面** 西・南壁はほぼ垂直に、東・北壁は外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、出土遺物はなく性格も不明であるが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥じ穴の底面付近である可能性が考えられる。

SK28（第197図）

位置 2-52区P-18グリッド（2区調査区西部）。**重複関係** SK27と重複し、本遺構の方が古い。**遺存状態** 良好。**覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸117cm、短軸85cm、確認面からの深さ15cmを測る。**主軸方位** N-25°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** 土師器片が出土したが、図示し得なかった。**備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。時期を特定し得る遺物が出土していないため帰属時期は不明であるが、遺構の切り合い関係から9世紀後半より古いと考えられる。

SK29（第197図）

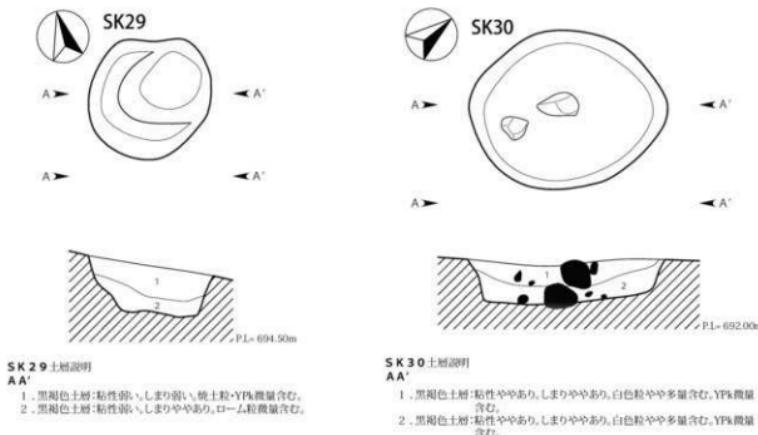
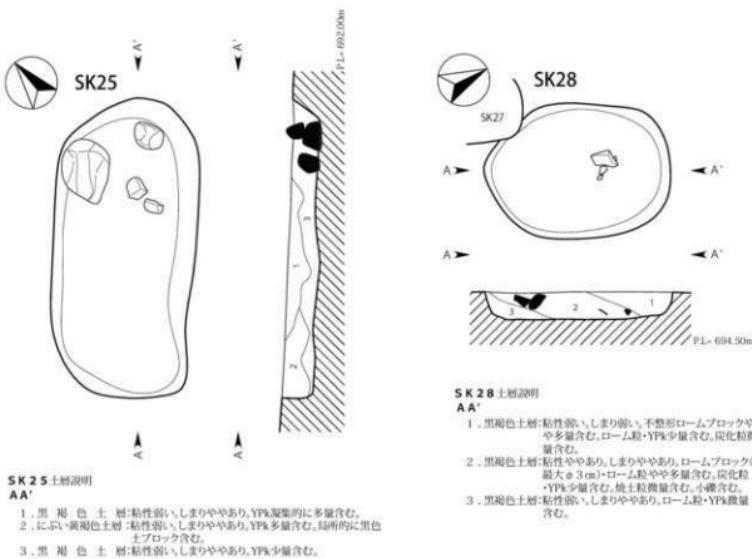
位置 2-52区P-18グリッド（2区調査区西部）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸83cm、短軸74cm、確認面からの深さ36cmを測る。**主軸方位** 不明。**壁面** 外傾して立ち上がる。西壁は段を有する。**底面** 東側へ緩やかに傾斜しているが、概ね平坦である。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の堅穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK30（第197図）

位置 2-52区S-20グリッド（2区調査区中央部やや西寄り）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 磬を含む黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸125cm、短軸100cm、確認面からの深さ27cmを測る。**主軸方位** 不明。**壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦であるが、中央に礎（人頭大）を含む。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の堅穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

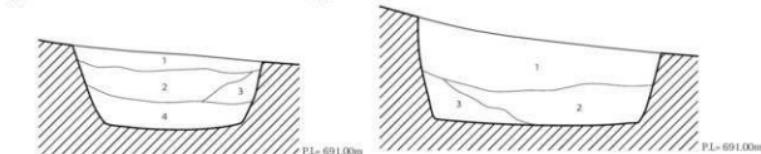
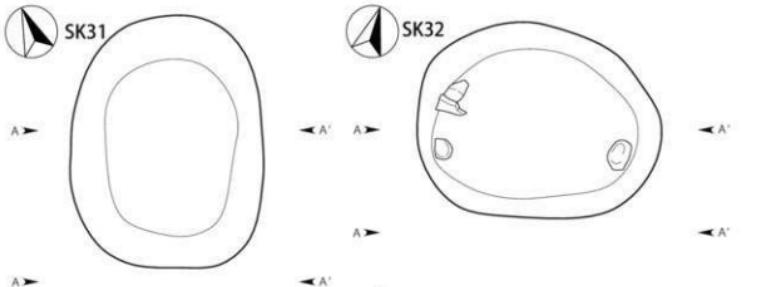
SK31（第198図）

位置 2-62区T-1グリッド（2区調査区中央部やや南寄り）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。



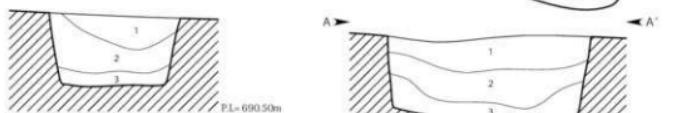
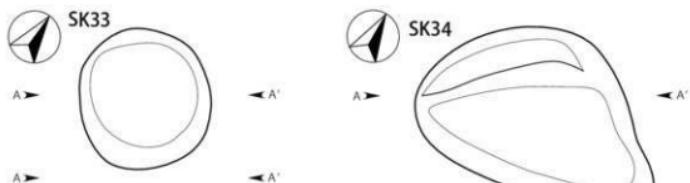
0 1:30 1m

第197図 SK25・28~30実測図(1/30)



SK31 土層説明
AA'

1. 黒褐色土層:粘性弱い。しまり弱い。Ypk少量化合。
2. 黒褐色土層:粘性弱い。しまり弱い。白色粒・Ypk・小礫($\phi 1\text{ cm}$ 以下)少量化合。
3. 黒褐色土層:粘性弱い。しまり弱い。白色粒・Ypk・小礫($\phi 1\text{ cm}$ 以下)少量化合。黒色土ブロック含む。
4. 黒褐色土層:粘性ややあり。しまりややあり。白色粒・Ypk少量化合。

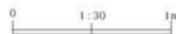


SK33 土層説明
AA'

1. 黒褐色土層:粘性ややあり。しまりややあり。Ypk少量化合。
2. 黒褐色土層:粘性ややあり。しまりややあり。Ypk少量化合。
3. 黒褐色土層:粘性弱い。しまりややあり。粘土粒・Ypkごく少量化合。

SK34 土層説明
AA'

1. 黒褐色土層:粘性ややあり。しまりあり。ロームブロック($\phi 5\text{ m}$)・ローム粒・Ypk少量化合。
2. 黒褐色土層:粘性ややあり。しまりあり。小礫少量化合。ロームブロック(粒・ $\phi 5\text{ m}$)・Ypkごく少量化合。
3. 黒褐色土層:粘性弱い。しまりあり。Ypk・小礫少量化合。



第198図 SK31～34実測図(1/30)

覆土 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸 160cm、短軸 122cm、確認面からの深さ 51cm を測る。 **主軸方位** N—24°—E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** 剥片石器が出土しているが、遺構に伴うものではないと判断し遺構外で掲載した。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく時期を特定し得る遺物が出土していないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の 9 世紀後半～10 世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK32 (第 198 図／PL 33)

位置 2—53 区 B—18 グリッド (2 区調査区中央部東寄り)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。

覆土 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸 153cm、短軸 125cm、確認面からの深さ 69cm を測る。 **主軸方位** N—73°—E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の 9 世紀後半～10 世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK33 (第 198 図)

位置 2—53 区 B・C—17 グリッド (2 区調査区中央部東寄り)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。

覆土 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸 89cm、短軸 82cm、確認面からの深さ 51cm を測る。 **主軸方位** 不明。 **壁面** わずかに外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の 9 世紀後半～10 世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK34 (第 198 図)

位置 2—53 区 B・C—17 グリッド (2 区調査区中央部東寄り)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。

覆土 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は三角形状の不整形を呈する。規模は長軸 162cm、短軸 106cm、確認面からの深さ 64cm を測る。 **主軸方位** N—60°—E **壁面** わずかに外傾して立ち上がる。西壁でテラス状の段を有する。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の 9 世紀後半～10 世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK35 (第 199 図)

位置 2—53 区 B—17 グリッド (2 区調査区中央部やや東寄り)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。

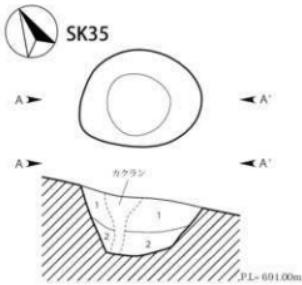
覆土 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸 77cm、短軸 61cm、確認面からの深さ 42cm を測る。 **主軸方位** N—60°—W **壁面** 大きく外傾して立ち上がる。

底面 中央部に向かって緩やかに傾斜するが、概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の 9 世紀後半～10 世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK36 (第 199 図)

位置 2—53 区 B—16・17 グリッド (2 区調査区中央部東寄り)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。

覆土 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸 128cm、短軸 102cm、確認面からの深さ 68cm を測る。 **主軸方位** 不明。 **壁面** 大きく外傾して立ち上がる。 **底**



SK35 土層説明
A A'

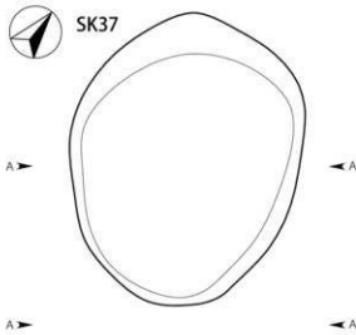
1. 黒褐色土層: 粘性ややあり。しまりあり。Ypkやや多量含む。ロームブロック(φ 5m)・ローム粒少量含む。
2. 黒褐色土層: 粘性ややあり。しまりあり。ローム粒やや多量含む。Ypk微量含む。



SK36 土層説明

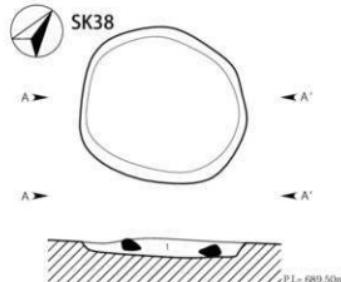
A A'

1. 黒褐色土層: 粘性ややあり。しまりあり。ローム粒・Ypk・小礫少量含む。
2. 黒褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。ローム粒・Ypk微量含む。
3. 黒褐色土層: 粘性ややあり。しまりあり。ローム粒・Ypk・小礫少量含む。灰土輕ごく微量含む。
4. 暗褐色土層: 粘性ややあり。しまりあり。Ypk・小礫少量含む。



SK37 土層説明
A A'

1. 黒褐色土層: 粘性弱い。しまりややあり。Ypk少量含む。
2. 黒褐色土層: 粘性弱い。しまりややあり。小礫少量含む。Ypk微量含む。
3. 黑褐色土層: 粘性弱い。しまりややあり。ローム粒・小礫少量含む。Ypk微量含む。
4. 黑褐色土層: 粘性ややあり。しまりややあり。白色粒少量含む。Ypk微量含む。



SK38 土層説明
A A'

1. 黒褐色土層: 粘性弱い。しまりややあり。Ypk少量含む。桃土粒微量含む。礫(拳大)含む。



第199図 SK35~38実測図(1/30)

面 西側へ緩やかに傾斜しているが、概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK37 (第199図)

位置 2-53区D-17グリッド(2区調査区東部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸185cm、短軸147cm、確認面からの深さ19cmを測る。 **主軸方位** N-40°-W **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK38 (第199図)

位置 2-53区D-17グリッド(2区調査区東部南寄り)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸105cm、短軸99cm、確認面からの深さ9cmを測る。 **主軸方位** 不明。 **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 東方向に非常に緩やかに傾斜するが、概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK40 A (第200図)

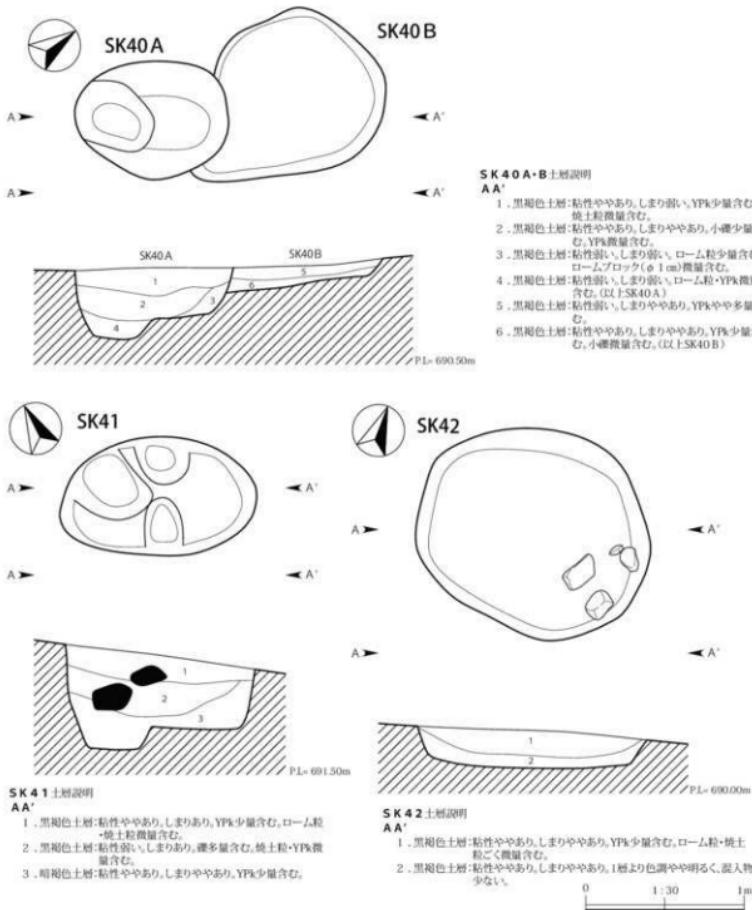
位置 2-53区D-16・17グリッド(2区調査区東部)。 **重複関係** 調査の結果、2基の土坑と判断され、新しい方をA、古い方をBとした。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸96cm、短軸75cm、確認面からの深さ45cmを測る。 **主軸方位** N-35°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 南西側が一段低く、北東側にテラス状の段を有する。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK40B (第200図)

位置 2-53区D-16・17(2区調査区東部)。 **重複関係** SK40Aと重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** 重複部分の壁を損なうが、良好である。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸132cm以上、短軸102cm、確認面からの深さ17cmを測る。 **主軸方位** N-5°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 南西方向に緩やかに傾斜するが、概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK41 (第200図)

位置 2-53区C-D-15・16グリッド(2区調査区東部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸124cm、短軸77cm、確認面からの深さ65cmを測る。 **主軸方位** N-65°-W **壁面** わずかに外傾して立ち上がる。 **底面** ピット状の凹凸が見られる。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。



第200図 SK40 A・B～42実測図(1/30)

SK42 (第200図)

位置 2-53区E・F-16 (2区調査区東部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基準で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸152cm、短軸132cm、確認面からの深さ19cmを測る。 **主軸方位** 不明。 **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦で、地山の礫が露出する。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK44 (第 201 図)

位置 2-62 区Q-1 グリッド (2区調査区西部南寄り)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸 145cm、短軸 119cm、確認面からの深さ 56cm を測る。 **主軸方位** N-12°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** 土師器片が出土したが、図示しなかった。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく時期を特定し得る遺物が出土していないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK46 (第 201 図)

位置 2-53 区A-19 グリッド (2区調査区中央部)。 **重複関係** SK47 と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸 124cm、短軸 96cm、確認面からの深さ 15cm を測る。 **主軸方位** 不明。 **壁面** 大きく外傾して立ち上がる。 **底面** 南東方向に非常に緩やかに傾斜するが、概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK47 (第 201 図)

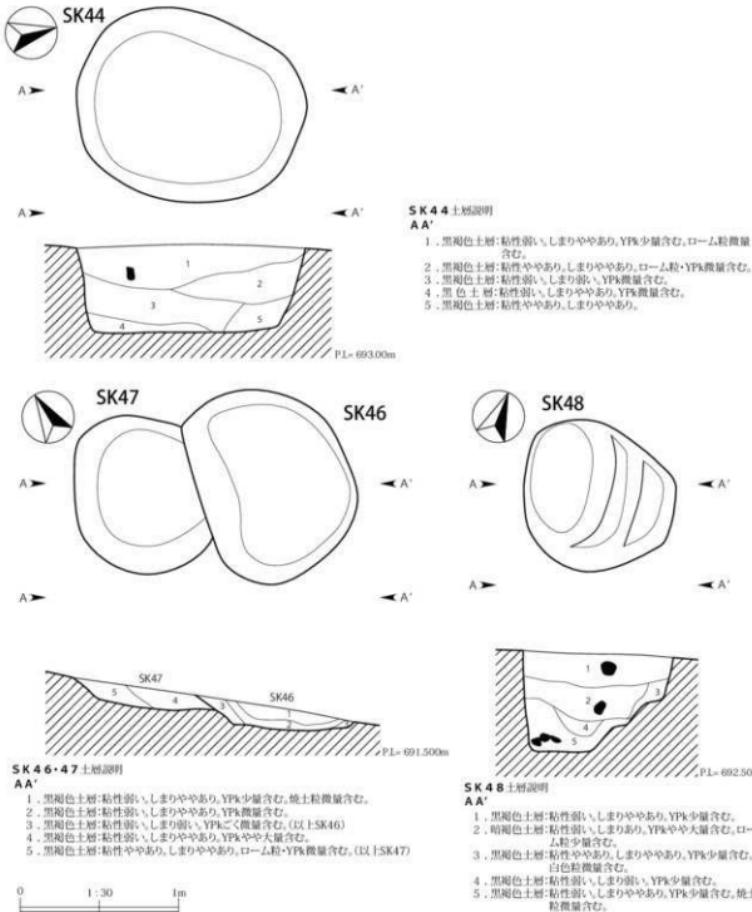
位置 2-53 区A-19 グリッド (2区調査区中央部)。 **重複関係** SK46 と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** 重複部分の壁を損なうが、良好である。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸 102cm、短軸 88cm 以上、確認面からの深さ 19cm を測る。 **主軸方位** 不明。 **壁面** 大きく外傾して立ち上がる。 **底面** 中央に向かって緩やかに傾斜するが、概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK48 (第 201 図)

位置 2-52 区T-17 グリッド (2区調査区中央部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、中層に暗褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸 102cm、短軸 96cm、確認面からの深さ 71cm を測る。 **主軸方位** 不明。 **壁面** 西壁はほぼ垂直に立ち上がる。東・南・北壁は大きく外傾し、テラス状の段を 2段有する。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK49 (第 202 図)

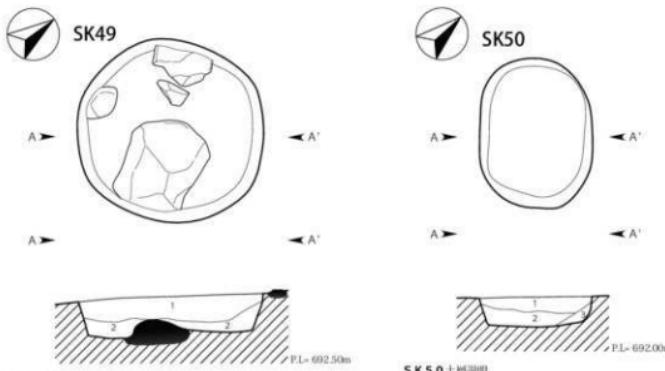
位置 2-52 区S-18 グリッド (2区調査区中央部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黑褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸 117cm、短軸 116cm、確認面からの深さ 24cm を測る。 **主軸方位** 不明。 **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 直径 60cm の地山の礫が露出するが、概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。



第201図 SK44・46～48実測図(1/30)

SK50 (第202図)

位置 2-53 区 A-17 グリッド (2区調査区中央部や北東寄り)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は橢円形を呈する。規模は長軸 94cm、短軸 70cm、確認面からの深さ 23cm を測る。 **主軸方位** N-49°-W **壁面** わずかに外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。



SK49 土層説明

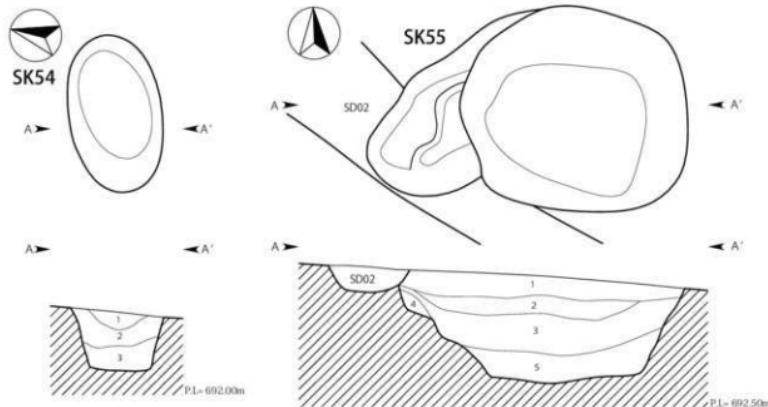
A-A'

1. 黒褐色土層: 粘性弱い。しまりややあり。Ypk少量含む。ロームブロック(φ 5 cm)多く含む。白色粒微量含む。
2. 黒褐色土層: 粘性ややあり。しまりややあり。Ypk少量含む。ローム粒・白色粒微量含む。

SK50 土層説明

A-A'

1. 黒褐色土層: 粘性ややあり。しまりややあり。Ypk少量含む。ローム粒・白色粒微量含む。
2. 黒褐色土層: 粘性ややあり。しまりややあり。Ypk少量含む。ローム粒微量含む。
3. 黑色土層: 粘性ややあり。しまりあり。白色粒少量含む。ローム粒・白色粒微量含む。



SK54 土層説明

A-A'

1. 暗褐色土層: 粘性なし。しまりややあり。ローム粒多量含む。白色粒少量含む。燒土粒微量含む。
2. 黑褐色土層: 粘性弱い。しまりややあり。Ypk多量含む。ロームブロック(φ 5 cm)多く含む。白色粒微量含む。
3. 黑褐色土層: 粘性ややあり。しまりややあり。ローム粒やや多量含む。

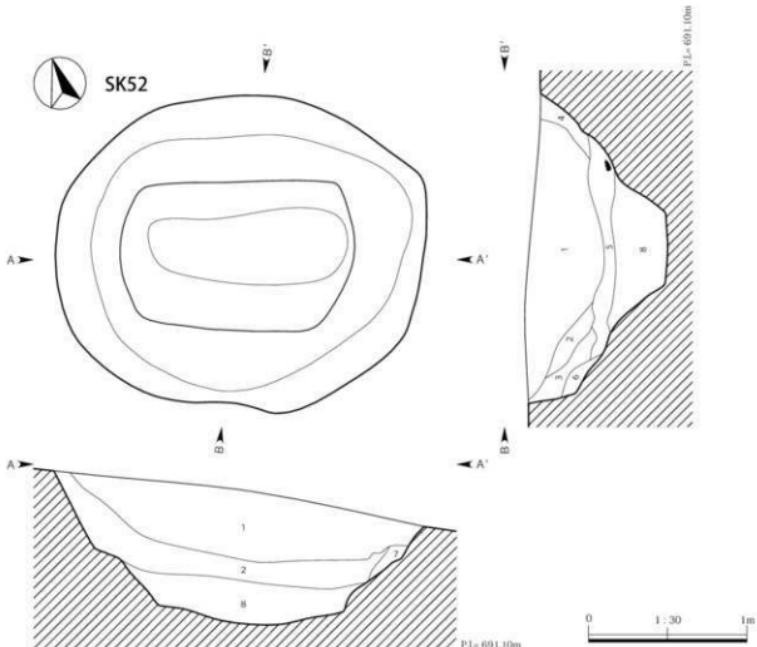
SK55 土層説明

A-A'

1. 黒褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。ローム粒・白色粒やや多量含む。Ypk少量含む。
2. 暗褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。ローム粒多量含む。白色粒やや多量含む。Ypk・燒土粒微量含む。
3. 黑褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。白色粒やや多量含む。ローム粒・Ypk少量含む。
4. 黑褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。ローム粒少量含む。白色粒微量含む。
5. 黑褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。ローム粒・燒土粒・Ypk・白色粒少量含む。

0 1:30 1m

第202図 SK49・50・54・55実測図(1/30)



SK52 土層説明

AA' BB'

1. 褐褐色土層: 粘性弱い。しまりややあり。YPkやや大量含む。ローム粒微量含む。埴土粒ごく微量含む。
2. 黒褐色土層: 粘性弱い。しまりややあり。YPk少微量含む。
3. 黒褐色土層: 粘性弱い。しまりややあり。YPk・小礫少微量含む。ローム粒・埴土粒微量含む。
4. 黑褐色土層: 粘性弱い。しまりややあり。YPk・小礫少微量含む。ローム粒・YPk少微量含む。
5. 黑褐色土層: 粘性弱い。しまりややあり。YPk少微量含む。
6. 黑褐色土層: 粘性弱い。しまりややあり。YPk少微量含む。ローム粒微量含む。埴土粒ごく微量含む。
7. 黑褐色土層: 粘性弱い。しまりややあり。YPk少微量含む。ローム粒微量含む。YPk微量含む。
8. 黑色土層: 粘性やや弱り。しまりややあり。ローム粒少量含む。YPk微量含む。

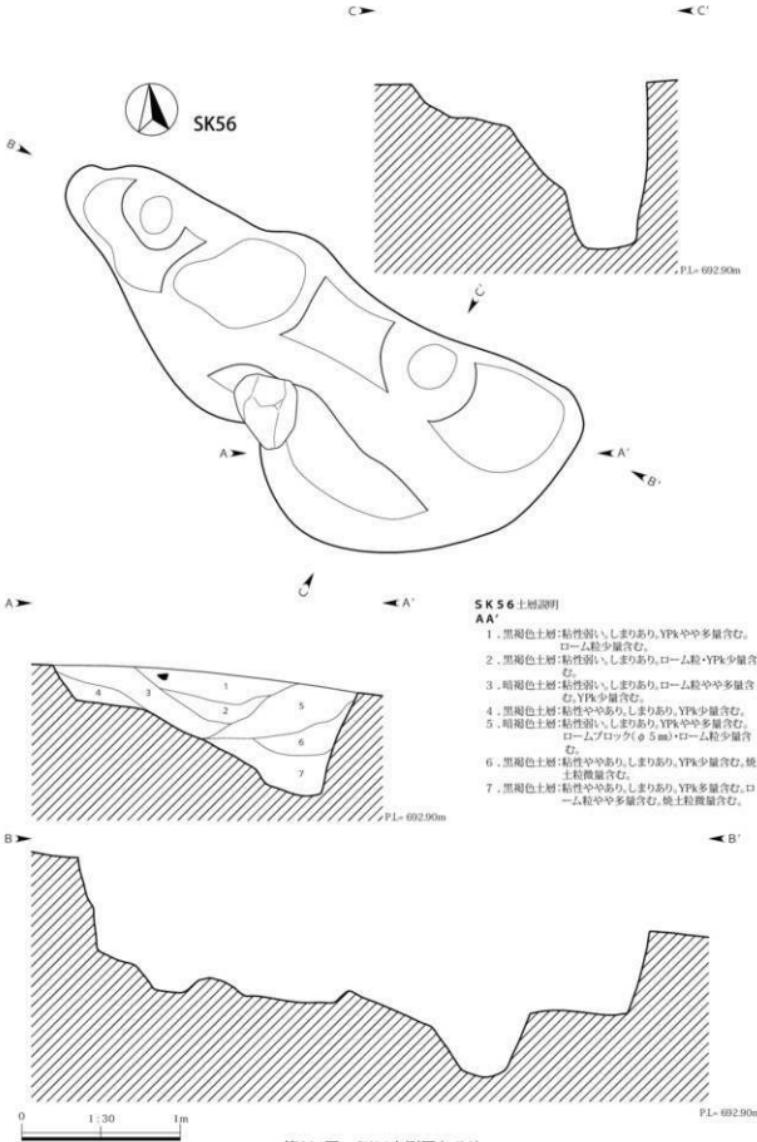
第203図 SK52実測図(1/30)

SK52 (第203図／PL 33)

位置 2-53 区C-15 グリッド (2区調査区東部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸 233cm、短軸 199cm、確認面からの深さ 101cm を測る。 **主軸方位** N-72°-W **壁面** 大きく外傾して立ち上がり、中位に屈曲部がある。 **底面** 中位から深く掘りこまれる。中央に向かって緩やかに傾斜するが、概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK54 (第202図)

位置 2-53 区C-15 グリッド (2区調査区東部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸 133cm、短軸 79cm、



第204図 SK56実測図(1/30)

確認面からの深さ 51cm を測る。 **主軸方位** N—70°—E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 中央に向かって非常に緩やかに傾斜するが、概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK55 (第 202 図)

位置 2—52 区 S・T—17・18 グリッド (2 区調査区中央部や北寄り)。 **重複関係** SD02 と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、上層に暗褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は不整梢円形を呈する。規模は長軸 202cm、短軸 129cm、確認面からの深さ 61cm を測る。 **主軸方位** N—88°—W **壁面** 大きく外傾して立ち上がり、西壁は屈曲が見られる。 **底面** 中央に向かって緩やかに傾斜しているが、概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK56 (第 204 図)

位置 2—52 区 R・S—17・18 グリッド (2 区調査区中央部や北寄り)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 壁面を主体として地山の礫が露出しているが、良好である。 **覆土** 黒褐色土が基調で、中層に暗褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は不整梢円形を呈する。規模は長軸 360cm、短軸 164cm、確認面からの深さ 109cm を測る。 **主軸方位** N—56°—W **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 北・西・南部にテラス状の段を有し、凸凹が見られる。最下部は概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK59 (第 164 図)

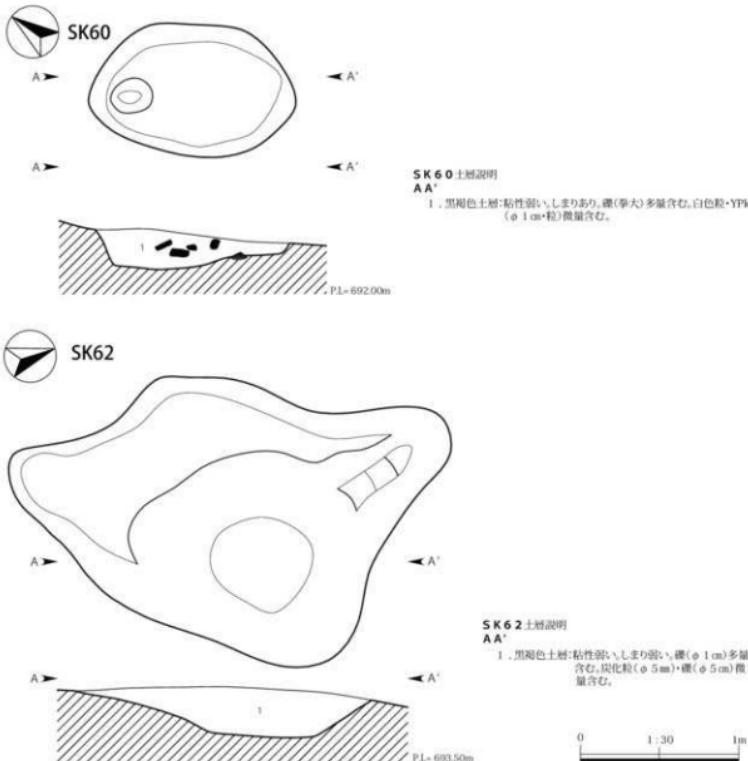
位置 2—52 区 S—20、2—62 区 S—1 グリッド (2 区調査区中央部や西寄り)。 **重複関係** SK58 と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** トレンチと重複遺構によって一部を損なうが、概ね良好である。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は梢円形を呈すると考えられる。規模は長軸 84cm 以上、短軸 154cm、確認面からの深さ 34cm を測る。 **主軸方位** N—55°—W **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 東方向に緩やかに傾斜するが、概ね平坦である。 **遺物** 土師器片が出土したが図示し得なかった。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。時期を特定し得る遺物が出土していないため帰属時期は不明であるが、遺構の切り合い関係から平安時代以前と考えられる。

SK60 (第 205 図／PL 33)

位置 2—52 区 T—19 グリッド (2 区調査区中央部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸 131cm、短軸 86cm、確認面からの深さ 24cm を測る。 **主軸方位** N—36°—W **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 北西方向に緩やかに傾斜し、北端部に窪みがある。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK62 (第 205 図)

位置 2—52 区 P・Q—20、2—62 区 P・Q—1 グリッド (2 区調査区西部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** やや良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は不整形を呈する。



第205図 SK60・62実測図(1/30)

規模は長軸 278cm、短軸 192cm、確認面からの深さ 26cmを測る。 **主軸方位** N-10°-E **壁面** 大きく外傾し、緩く立ち上がる。 **底面** 概ね平坦で、西側にテラス状の段を有する。 **遺物** 土師器片が出土したが、図示し得なかった。**備考** 本遺構は、形態に特徴がなく時期を特定し得る遺物が出土していないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK63 (第206図)

位置 2-53 区B-17 グリッド (2区調査区中央部東寄り)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。
覆土 黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸 74cm、短軸 58cm、確認面からの深さ 64cmを測る。 **主軸方位** N-8°-E **壁面** ほぼ垂直に立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK64（第206図）

位置 2-53区C-15グリッド（2区調査区東部）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黒色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸95cm、短軸71cm、確認面からの深さ22cmを測る。**主軸方位** N-53°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。地山の礫が多く露出する。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK68（第206図／PL 33）

位置 2-42区S-18・19グリッド（1区調査区北東部）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸111cm、短軸74cm、確認面からの深さ42cmを測る。**主軸方位** N-20°-W **壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 西側に緩やかに傾斜しているが概ね平坦である。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK70（第206図）

位置 2-42区S-19グリッド（1区調査区北東部）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黑褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸88cm、短軸61cm、確認面からの深さ34cmを測る。**主軸方位** N-45°-W **壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。地山の礫が露出する。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK72（第206図）

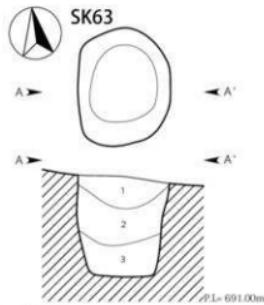
位置 2-42区T-18グリッド（1区調査区北東部）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黑褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸85cm、短軸65cm、確認面からの深さ32cmを測る。**主軸方位** N-64°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK76（第207図）

位置 2-52区T-2、2-53区A-2グリッド（1区調査区東部北寄り）。**重複関係** なし。**遺存状態** 概ね良好。**覆土** 黑褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸60cm、短軸56cm、確認面からの深さ31cmを測る。**主軸方位** N-35°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** 土師器片が出土したが、図示し得なかった。**備考** 本遺構は、形態に特徴がなく時期を特定し得る遺物が出土していないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK77（第207図）

位置 2-52区T-3グリッド（1区調査区東部やや北寄り）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。



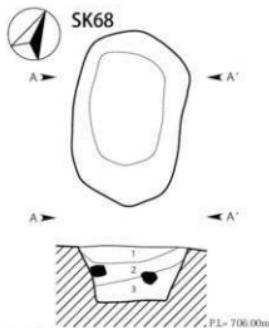
**SK63 土層説明
AA'**

1. 黒褐色土層:粘性弱い、しまりあり。YPk(φ 3mm)少量含む。YPk(φ 1cm)・礫(參入)微量含む。
2. 黒色土層:粘性弱い、しまりあり。白色粒少量含む。YPk微量含む。
3. 黒色土層:粘性ややあり。しまりあり。白色粒・YPk微量含む。



**SK64 土層説明
AA'**

1. 黒色土層:粘性弱い、しまりあり。YPk(φ 5mm)少量含む。白色粒(φ 5mm)・YPk(φ 1cm)・礫(φ 3cm)微量含む。
2. 黒色土層:粘性弱い、しまりあり。礫(φ 3cm)少量含む。YPk微量含む。



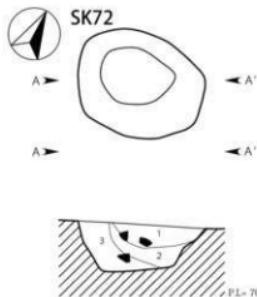
**SK68 土層説明
AA'**

1. 黒褐色土層:粘性弱い、しまり弱い。礫多量含む。YPk(φ 1~2mm)少量含む。
2. 黒褐色土層:粘性ややあり、しまり弱い。YPk(φ 1~2mm)・礫・小砾少量含む。
3. 黒褐色土層:粘性弱い、しまり弱い。YPk(φ 1~2mm)多量含む。小砾少量含む。



**SK70 土層説明
AA'**

1. 黒褐色土層:粘性ややあり、しまりややあり。小砾多量含む。YPk(φ 1~2mm)少量含む。

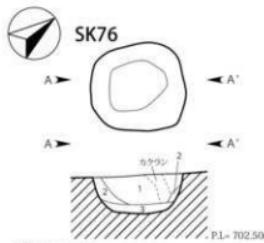


**SK72 土層説明
AA'**

1. 黑褐色土層:粘性弱い、しまりややあり。砂礫・礫少量含む。YPk(φ 1~2mm)微量含む。
2. 黑褐色土層:粘性弱い、しまりややあり。小砾少量含む。YPk(φ 1mm~1cm)・礫微量含む。
3. 黑色土層:粘性弱い、しまりややあり。礫少量含む。YPk(φ 1~5mm)・小砾微量含む。



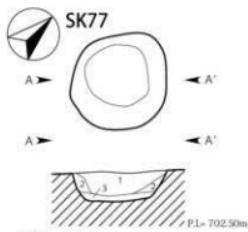
第206図 SK63・64・68・70・72実測図(1/30)



SK76 土壌説明

A A'

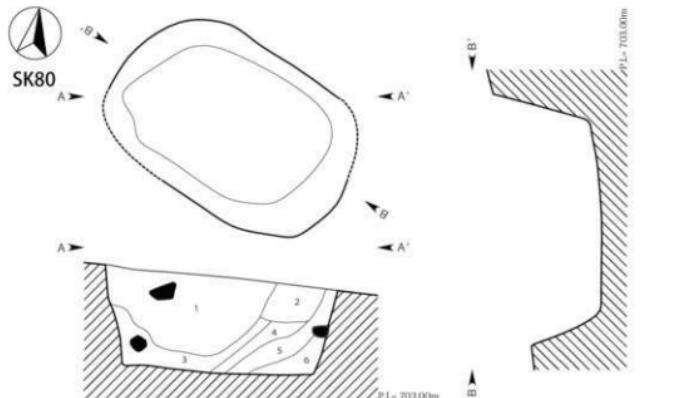
1. 黒褐色土層: 粘性弱い、しまりややあり。小礫少量含む。Ypk(φ 1mm)・砂礫微量含む。
2. 黒褐色土層: 粘性ややあり、しまりややあり。小礫少量含む。
3. 黒褐色土層: 粘性弱い、しまり弱い。Ypk(φ 0.5~1mm)微量含む。



SK77 土壌説明

A A'

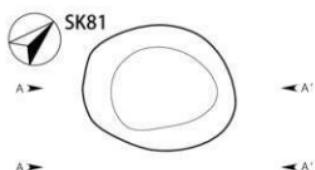
1. 黒色土層: 粘性弱い、しまりあり。Ypk(φ 1mm)・砂礫微量含む。
2. 黒褐色土層: 粘性ややあり、しまりややあり。小礫少量含む。
3. 黑褐色土層: 粘性ややあり、しまり弱い。Ypk(φ 1mm)・小礫微量含む。



SK80 土壌説明

A A'

1. 黒色土層: 粘性弱い、しまりややあり。Ypk(φ 1~2mm)・少量含む。
2. 黒褐色土層: 粘性ややあり、小礫・砂礫微量含む。
3. 黑褐色土層: 粘性あり、しまりなし。小礫多量含む。(掌大)微量含む。
4. 黑褐色土層: 粘性ややあり、しまり弱い。小礫少量含む。Ypk(φ 0.5~1mm)微量含む。
5. 黑褐色土層: 粘性ややあり、しまり弱い。小礫多量含む。Ypk(φ 0.5~1mm)微量含む。
6. 黑褐色土層: 粘性ややあり、しまりややあり。小礫多量含む。Ypk(φ 0.5~1mm)微量含む。



SK81 土壌説明

A A'

1. 黑褐色土層: 粘性弱い、しまり弱い。礫大量含む。小礫多量含む。
2. 黑褐色土層: 粘性ややあり、しまりややあり。小礫多量含む。Ypk(φ 1mm)微量含む。
3. 黑色土層: 粘性ややあり、しまりややあり。Ypk(φ 1mm)微量含む。
4. 黑色土層: 粘性ややあり、しまり弱い。Ypk(φ 1mm)少量含む。



第207図 SK76-77-80-81実測図(1/30)



覆土 黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸 62cm、短軸 61cm、確認面からの深さ 24cm を測る。 **主軸方位** N—17°—W **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の 9 世紀後半～10 世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK80（第 207 図／P L 33）

位置 2—52 区 T—2 グリッド（1 区調査区東部北寄り）。 **重複関係** なし。 **遺存状態** トレンチによつて一部を損なうが、概ね良好である。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸 160cm、短軸 116cm、確認面からの深さ 70cm を測る。 **主軸方位** N—67°—W **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 南東側へ緩やかに傾斜しているが概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、出土遺物がないため性格・帰属時期は不明であるが、形態の特徴から平安時代に帰属する陥し穴の底面付近の可能性が考えられる。

SK81（第 207 図）

位置 2—52 区 G—10 グリッド（1 区調査区西部）。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層は黒褐色土、下層は黒色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸 95cm、短軸 79cm、確認面からの深さ 60cm を測る。 **主軸方位** N—42°—E **壁面** 下位はほぼ垂直に、中位から外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の 9 世紀後半～10 世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK83（第 208 図）

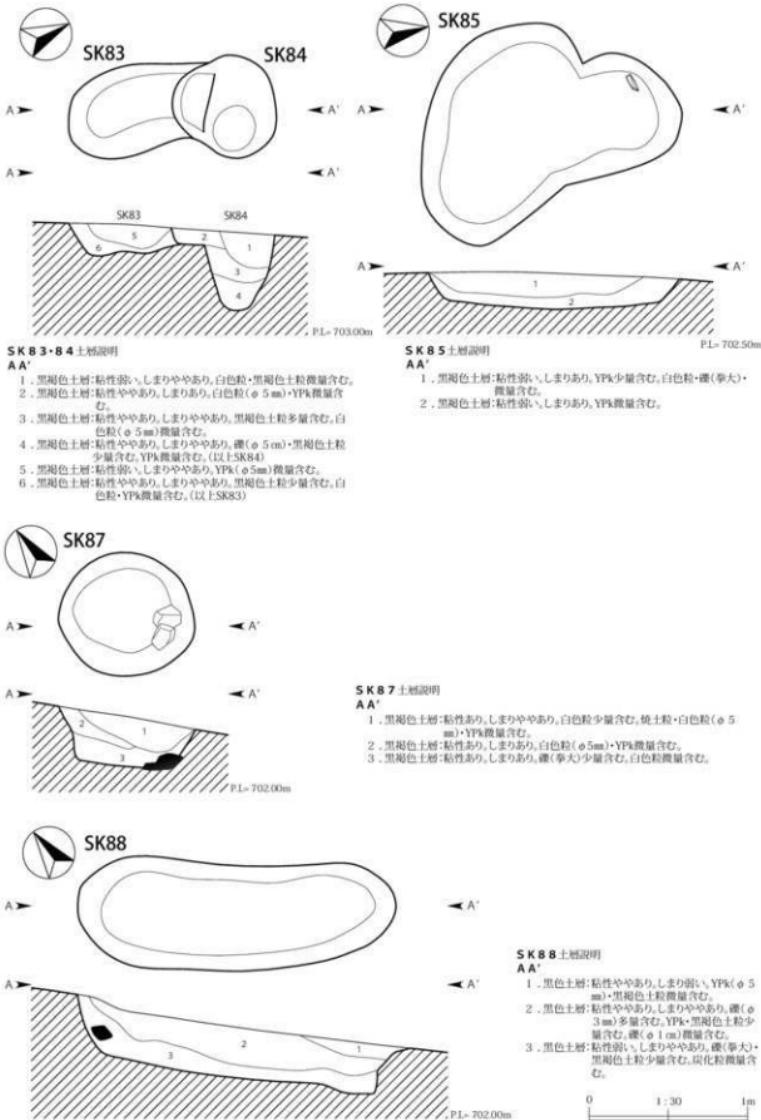
位置 2—52 区 I—11 グリッド（1 区調査区西部）。 **重複関係** SK84 と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** 重複部分を損なうが、概ね良好である。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸 88cm 以上、短軸 59cm、確認面からの深さ 20cm を測る。 **主軸方位** N—24°—E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 南方向に緩やかに傾斜し、凸凹が見られる。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の 9 世紀後半～10 世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK84（第 208 図）

位置 2—52 区 I—11 グリッド（1 区調査区西部）。 **重複関係** SK83 と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸 66cm、短軸 64cm、確認面からの深さ 53cm を測る。 **主軸方位** 不明。 **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦で、南側にテラス状の段を有する。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の 9 世紀後半～10 世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK85（第 208 図）

位置 2—52 区 I—11 グリッド（1 区調査区西部）。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は不整形を呈する。規模は長軸 154cm、短軸 148cm、確認面からの深さ 23cm を測る。 **主軸方位** N—9°—E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属



第208図 SK83～85・87・88実測図(1/30)

時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK87（第208図）

位置 2-52区I・J-13 グリッド（1区調査区西部やや南寄り）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸86cm、短軸78cm、確認面からの深さ34cmを測る。**主軸方位** 不明。**壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 南東方向に緩やかに傾斜するが、概ね平坦である。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK88（第208図）

位置 2-52区J-12（1区調査区西部やや南寄り）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸200cm、短軸70cm、確認面からの深さ41cmを測る。**主軸方位** N-52°-W。**壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 南東方向に緩やかに傾斜し、南東端部が一段低くなる。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK89（第209図／PL 33）

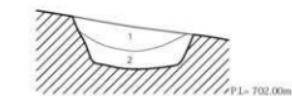
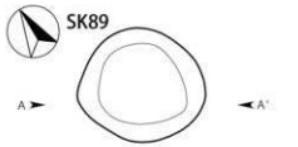
位置 2-52区J-12 グリッド（1区調査区西部やや南寄り）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 上層は黒色土、下層は黒褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸79cm、短軸72cm、確認面からの深さ32cmを測る。**主軸方位** 不明。**壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK90（第209図）

位置 2-52区H-9 グリッド（1区調査区西部）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黑褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸171cm、短軸74cm、確認面からの深さ46cmを測る。**主軸方位** N-35°-E。**壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 長軸両端にテラス状の段を有し、中央に向かって緩やかに傾斜する。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK91（第209図／PL 34）

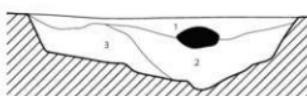
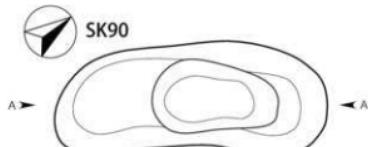
位置 2-52区H-9 グリッド（1区調査区西部）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黑褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸145cm、短軸81cm、確認面からの深さ49cmを測る。**主軸方位** N-40°-E。**壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 南東方向に向かって緩やかに傾斜するが、概ね平坦である。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。



SK89 土層説明

A A'

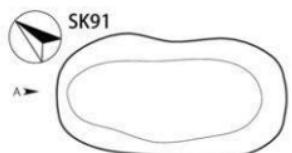
1. 黒色土層: 粘性ややあり。しまりややあり。礫($\phi 5\text{ mm}$)少量含む。
白色粉($\phi 5\text{ mm}$)・YPk粉・礫($\phi 3\text{ mm}$)微量含む。
2. 黑褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。白色土・YPk($\phi 5\text{ mm}$)・礫($\phi 1\text{ cm}$)・黑褐色土粉微量含む。



SK90 土層説明

A A'

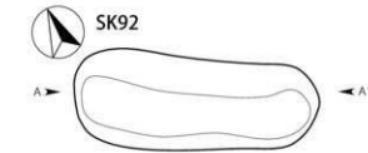
1. 黑褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。YPk($\phi 1\text{ mm}$)少量含む。炭化粉($\phi 1\text{ mm}$)・微量含む。
2. 黑褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。YPk($\phi 1 \sim 3\text{ mm}$)微量含む。
3. 黑褐色土層: 粘性ややあり。しまりあり。YPk($\phi 1\text{ mm}$)・小礫微量含む。



SK91 土層説明

A A'

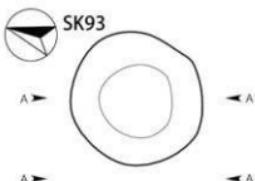
1. 黒色土層: 粘性ややあり。しまりややあり。YPk($\phi 0.5\text{ mm}$)少量含む。
小礫微量含む。
2. 黑褐色土層: 粘性ややあり。しまりあり。YPk($\phi 1 \sim 3\text{ mm}$)少量含む。
礫微量含む。



SK92 土層説明

A A'

1. 黑褐色土層: 粘性ややあり。しまりあり。YPk($\phi 1 \sim 3\text{ mm}$)・小礫微量含む。
2. 黑褐色土層: 粘性ややあり。しまりあり。YPk($\phi 1 \sim 3\text{ mm}$)微量含む。
礫微量含む。



SK93 土層説明

A A'

1. 黑褐色土層: 粘性ややあり。しまり弱い。小礫微量含む。
2. 明褐色土層: 粘性ややあり。しまり弱い。YPk($\phi 0.5\text{ mm}$)微量含む。



第209図 SK89～93実測図(1/30)

SK92 (第 209 図)

位置 2—52 区 H—9 グリッド (1 区調査区西部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸 154cm、短軸 62cm、確認面からの深さ 36cm を測る。 **主軸方位** N—66°—W **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 南東方向に緩やかに傾斜するが、概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の 9 世紀後半～10 世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK93 (第 209 図)

位置 2—52 区 H—7 グリッド (1 区調査区西部北寄り)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸 84cm、短軸 83cm、確認面からの深さ 21cm を測る。 **主軸方位** 不明。 **壁面** 大きく外傾する。 **底面** 中央に向かって緩やかに傾斜しているが、概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の 9 世紀後半～10 世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK94 (第 210 図)

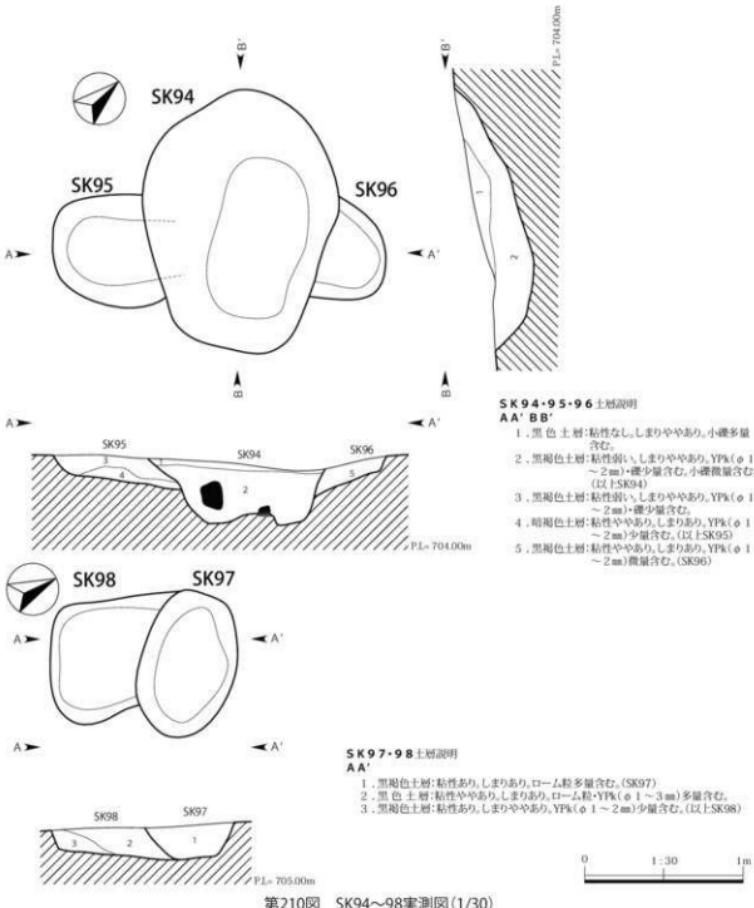
位置 2—52 区 H—8 グリッド (1 区調査区西部北寄り)。 **重複関係** SK95・96 と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸 167cm、短軸 124cm、確認面からの深さ 51cm を測る。 **主軸方位** N—48°—W **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 南東方向に緩やかに傾斜する。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の 9 世紀後半～10 世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK95 (第 210 図)

位置 2—52 区 H—8 グリッド (1 区調査区西部北寄り)。 **重複関係** SK94 と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** 重複部分を損なうが、概ね良好である。 **覆土** 上層は黒褐色土、下層は暗褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸 83cm、短軸 72cm、確認面からの深さ 17cm を測る。 **主軸方位** N—41°—E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 北東方向に緩やかに傾斜するが、概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の 9 世紀後半～10 世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK96 (第 210 図)

位置 2—52 区 H—8 グリッド (1 区調査区西部北寄り)。 **重複関係** SK94 と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** 重複部分を損なうが、概ね良好である。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は楕円形と考えられる。規模は長軸 46cm 以上、短軸 66cm、確認面からの深さ 18cm を測る。 **主軸方位** N—70°—E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 西方向に傾斜するが、概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の 9 世紀後半～10 世紀前半である可能性が高いと考えられる。



第210図 SK94~98実測図(1/30)

SK97 (第210図)

位置 2-52区H-6グリッド(1区調査区西部)。**重複関係** SK98と重複し、本遺構の方が新しい。
遺存状態 良好。**覆土** 黒褐色土が基準で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸92cm、短軸60cm、確認面からの深さ30cmを測る。**主軸方位** N-54°-W
壁面 外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK98（第 210 図）

位置 2—52 区 H—6・7 グリッド（1 区調査区西部）。 **重複関係** SK97 と重複し、本遺構の方が古い。

遺存状態 重複部分の壁面を損なうが、概ね良好である。 **覆土** 黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長軸 81cm 以上、短軸 77cm、確認面からの深さ 21cm を測る。

主軸方位 N—25°—E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の 9 世紀後半～10 世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK101（第 211 図）

位置 2—52 区 L—14 グリッド（1 区調査区南西部）。 **重複関係** SK102 と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸 147cm、短軸 132cm、確認面からの深さ 56cm を測る。

主軸方位 N—57°—W **壁面** ほぼ垂直に立ち上がる。 **底面** 北東方向に緩やかに傾斜するが、概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の 9 世紀後半～10 世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK102（第 211 図）

位置 2—52 区 L—14 グリッド（1 区調査区南西部）。 **重複関係** SK101 と重複し、本遺構の方が古い。

遺存状態 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸 164cm 以上、短軸 143cm、確認面からの深さ 43cm を測る。 **主軸方位** N—35°—E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 北東方向に傾斜するが、概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の 9 世紀後半～10 世紀前半である可能性が高いと考えられる。

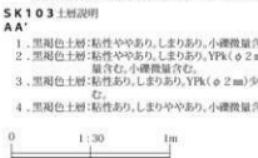
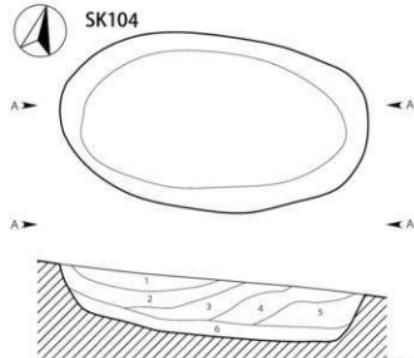
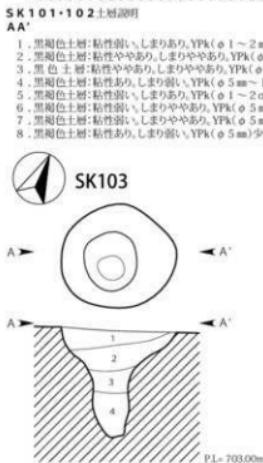
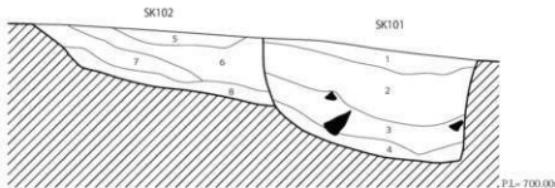
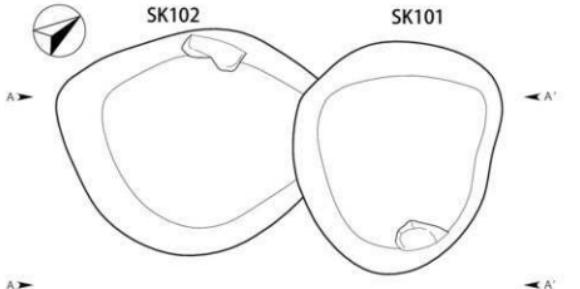
SK103（第 211 図）

位置 2—52 区 K—7・8 グリッド（1 区調査区中央部西寄り）。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。

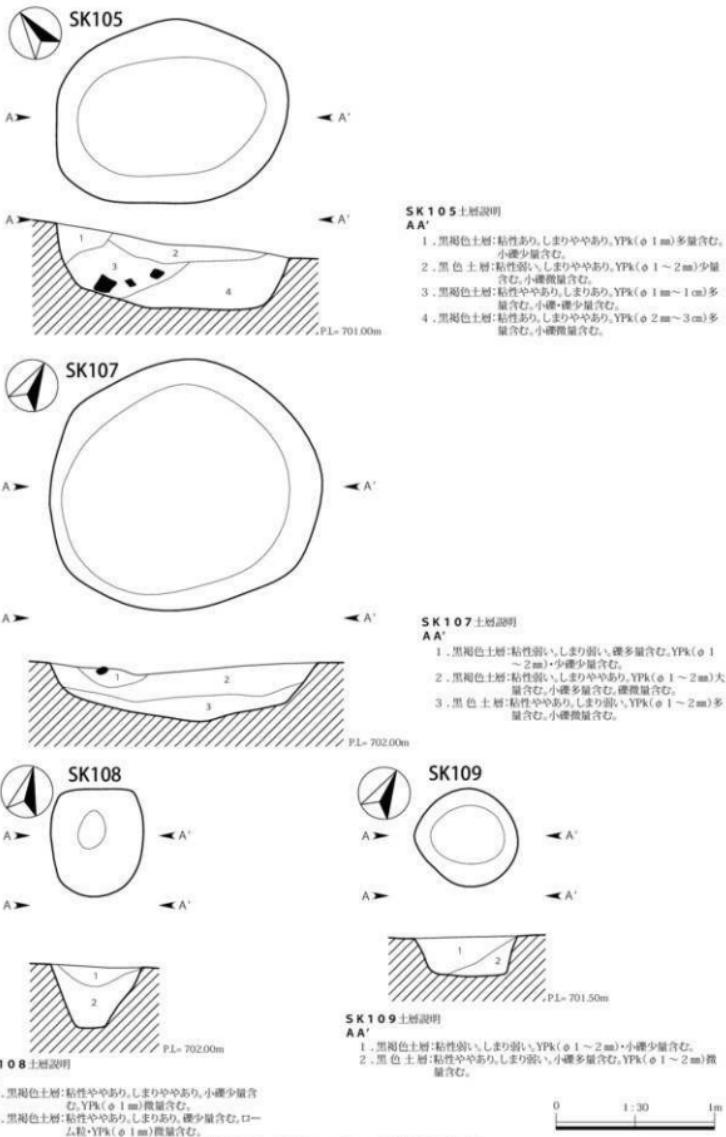
覆土 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸 73cm、短軸 66cm、確認面からの深さ 71cm を測る。 **主軸方位** N—65°—E **壁面** 下位はほぼ垂直に、上位は外傾して立ち上がる。 **底面** 中央部が深く掘り込まれ、最深部は概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、平面・断面形の特徴から柱穴である可能性がある。帰属時期は、出土遺物がないため不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の 9 世紀後半～10 世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK104（第 211 図）

位置 2—52 区 K—11 グリッド（1 区調査区西部）。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸 193cm、短軸 113cm、確認面からの深さ 32cm を測る。 **主軸方位** N—75°—E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 東方向へ緩やかに傾斜するが、概ね平坦である。 **遺物** 繩文土器片が出土したが、遺構に伴うものではないと判断したため遺構外出土遺物に掲載した。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく時期を特定し得る遺物が出土していないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の 9 世紀後半～10 世紀前半である可能性が高いと考えられる。



第211図 SK101~104実測図(1/30)



第212図 SK105・107~109実測図(1/30)

SK105（第212図）

位置 2—52区K—12グリッド（1区調査区西部やや南寄り）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。
覆土 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸147cm、短軸116cm、確認面からの深さ37cmを測る。**主軸方位** N—54°—W **壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 中央に向かって緩やかに傾斜するが、概ね平坦である。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK107（第212図）

位置 2—52区M—7グリッド（1区調査区中央部）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 上層は黒褐色土、下層は黒色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸171cm、短軸156cm、確認面からの深さ53cmを測る。**主軸方位** N—60°—E **壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 中央に向かって緩やかに傾斜するが、概ね平坦である。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK108（第212図）

位置 2—52区N—0—8グリッド（1区調査区中央部）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黒褐色土が基調で自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸68cm、短軸58cm、確認面からの深さ48cmを測る。**主軸方位** N—15°—W **壁面** 大きく外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK109（第212図）

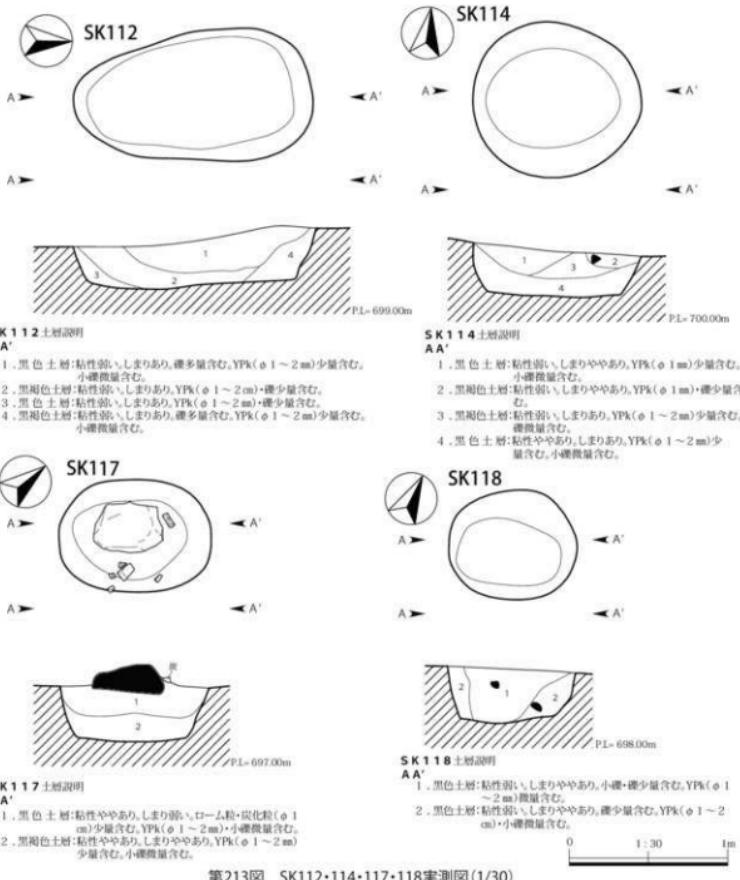
位置 2—52区N—7グリッド（1区調査区中央部）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 上層は黒褐色土、下層は黒色土で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸65cm、短軸62cm、確認面からの深さ25cmを測る。**主軸方位** N—60°—E **壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK112（第213図）

位置 2—52区O—10グリッド（1区調査区中央部やや南寄り）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。
覆土 黒色土と黒褐色土が互層をなし、堆積状況は自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸151cm、短軸84cm、確認面からの深さ31cmを測る。**主軸方位** N—1°—W **壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 南方向に緩やかに傾斜するが、概ね平坦である。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK114（第213図）

位置 2—52区O—9グリッド（1区調査区中央部）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黑色土と黒褐色土が互層をなし、堆積状況は自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は



第213図 SK112-114-117-118実測図(1/30)

長軸 106cm、短軸 98cm、確認面からの深さ 32cmを測る。**主軸方位** N=82°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の堅穴住跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK117 (第213図／PL 34)

位置 2-52 区Q-12 グリッド (1区調査区南部)。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 上層は黒色土、下層は黒褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は橢円形を呈する。規模は長軸 95cm、短軸 70cm、確認面からの深さ 35cmを測る。**主軸方位** N=39°-E **壁面**

外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** 土師器片、炭化物が出土したが、図示し得なかっ

た。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく時期を特定し得る遺物が出土していないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK118（第213図）

位置 2-52区N-13グリッド（1区調査区南部）。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸80cm、短軸69cm、確認面からの深さ36cmを測る。 **主軸方位** N-62°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 中央に向かって緩やかに傾斜するが、概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK119（第214図／PL 34）

位置 2-52区N-13グリッド（1区調査区南部）。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸92cm、短軸70cm、確認面からの深さ36cmを測る。 **主軸方位** N-79°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 中央に向かって緩やかに傾斜するが、概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK120（第214図）

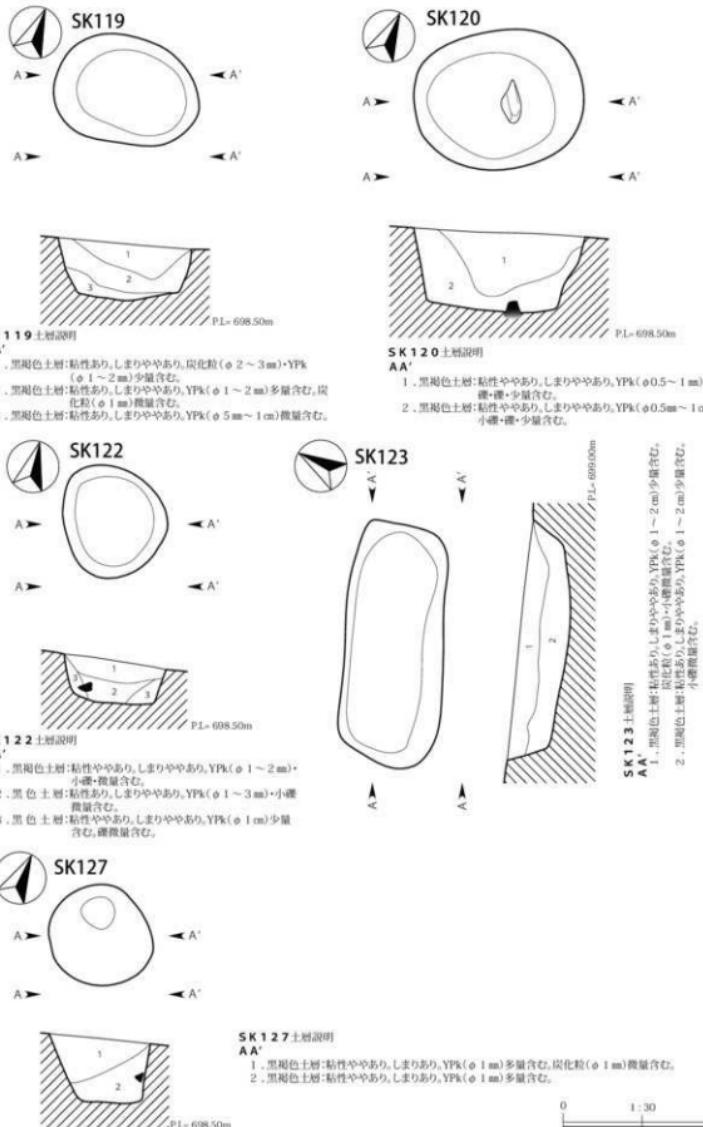
位置 2-52区N-13グリッド（1区調査区南部）。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸107cm、短軸88cm、確認面からの深さ46cmを測る。 **主軸方位** N-64°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 東方向に緩やかに傾斜するが、概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK122（第214図）

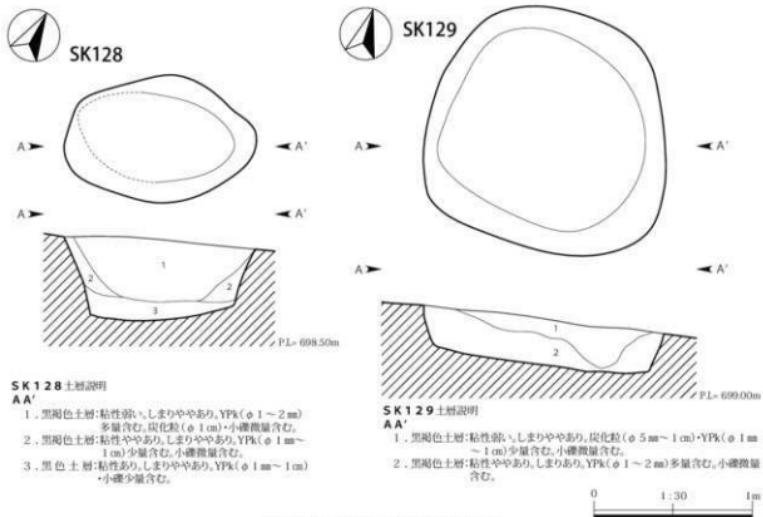
位置 2-52区N-13グリッド（1区調査区南部）。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層は黒褐色土、下層は黒色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸72cm、短軸65cm、確認面からの深さ24cmを測る。 **主軸方位** N-15°-W **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 東方向に緩やかに傾斜するが、概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK123（第214図／PL 34）

位置 2-52区M-13グリッド（1区調査区南部）。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黑褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は梢円長方形を呈する。規模は長軸156cm、短軸64cm、確認面からの深さ28cmを測る。 **主軸方位** N-67°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 中央に向かって緩やかに傾斜するが、概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、出土遺物がないため性格・帰属時期は不明であるが、形態の特徴から平安時代に帰属する陥し穴の底面付近の可能性がある。



第214図 SK119・120・122・123・127実測図(1/30)



第215図 SK128・129実測図(1/30)

SK127 (第214図)

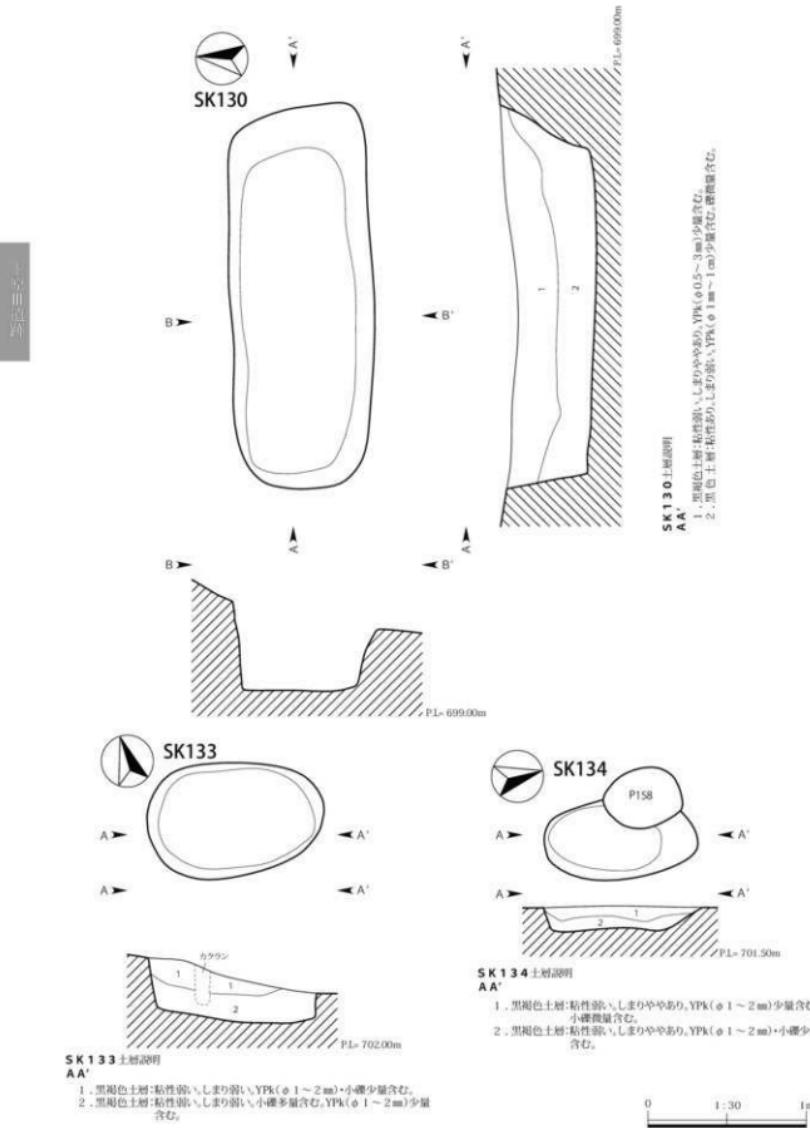
位置 2-52区N-12・13グリッド(1区調査区南部)。**重複関係**なし。**遺存状態**良好。**覆土**黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸67cm、短軸63cm、確認面からの深さ108cmを測る。**主軸方位** N-26°-W **壁面** 北側はほぼ垂直に、南側は外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物**なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK128 (第215図)

位置 2-52区N-12グリッド(1区調査区南部)。**重複関係**なし。**遺存状態**良好。**覆土**黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸120cm、短軸80cm、確認面からの深さ75cmを測る。**主軸方位** N-60°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物**なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK129 (第215図／PL 34)

位置 2-52区N-11・12グリッド(1区調査区南部)。**重複関係**なし。**遺存状態**良好。**覆土**黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸155cm、短軸150cm、確認面からの深さ31cmを測る。**主軸方位** N-17°-W **壁面** わずかに外傾して立ち上がる。**底面** 東方向に緩やかに傾斜するが、概ね平坦である。**遺物**土器片が出土したが、図示し得なかった。**備考** 本遺構は、形態に特徴がなく時期を特定し得る遺物が出土していないことから性格は不明である。帰



第216図 SK130・133・134実測図(1/30)

属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK130 (第216図／PL 34)

位置 2-52区O-10グリッド(1区調査区中央部やや南寄り)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。

覆土 上層は黒褐色土、下層は黒色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長軸241cm、短軸87cm、確認面からの深さ62cmを測る。 **主軸方位** N-85°-E **壁面** 西・南・北壁はほぼ垂直に、東壁は外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、出土遺物がないため性格・帰属時期は不明であるが、形態の特徴から平安時代に帰属する陥し穴の底面付近の可能性が考えられる。

SK133 (第216図)

位置 2-52区J-12グリッド(1区調査区西部やや南寄り)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。

覆土 黒褐色土が基準で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸112cm、短軸73cm、確認面からの深さ38cmを測る。 **主軸方位** N-75°-W **壁面** ほぼ垂直に立ち上がる。 **底面** 東方向に向かって緩やかに傾斜するが、概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK134 (第216図)

位置 2-52区J-11グリッド(1区調査区西部)。 **重複関係** P158と重複し、本遺構の方が古い。

遺存状態 良好。 **覆土** 黒褐色土が基準で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸96cm、短軸51cm、確認面からの深さ15cmを測る。 **主軸方位** N-14°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** 繩文土器片が出土したが、遺構に伴うものではないと判断したため遺構外出土遺物に掲載した。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく時期を特定し得る遺物が出土していないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK135 (第217図)

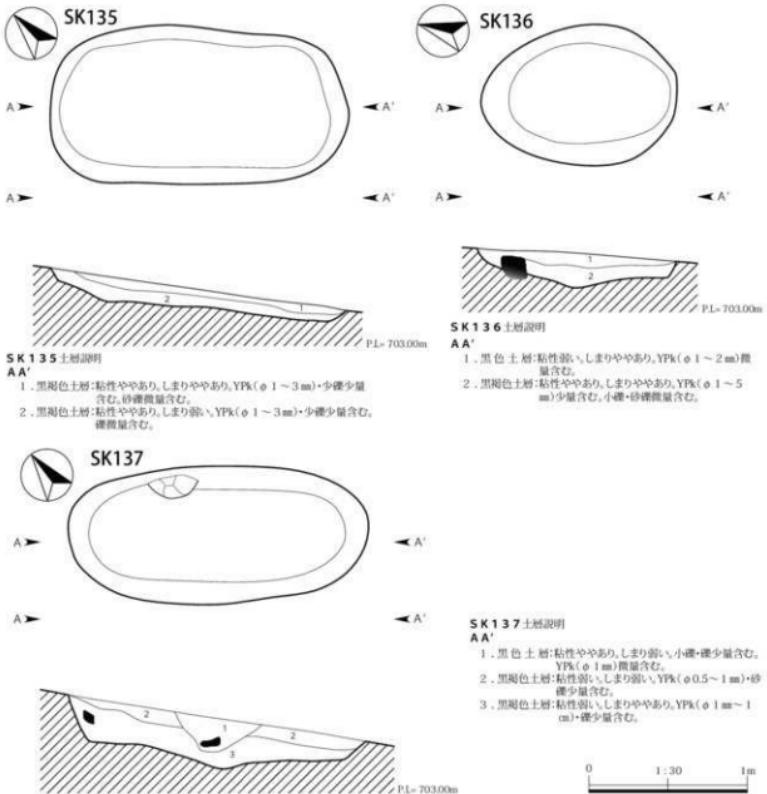
位置 2-52区I-10グリッド(1区調査区西部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基準で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長軸188cm、短軸100cm、確認面からの深さ10cmを測る。 **主軸方位** N-47°-W **壁面** 大きく外傾して立ち上がる。

底面 南東方向に向かって緩やかに傾斜するが、概ね平坦である。 **遺物** 繩文土器片が出土したが、遺構に伴うものではないと判断したため遺構外出土遺物に掲載した。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく時期を特定し得る遺物が出土していないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK136 (第217図)

位置 2-52区I-9・10グリッド(1区調査区中央部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土**

上層は黒色土、下層は黒褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸125cm、短軸89cm、確認面からの深さ64cmを測る。 **主軸方位** N-16°-W **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 中央に向かって緩やかに傾斜するが、概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、



第217図 SK135～137実測図(1/30)

周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK137（第217図）

位置 2-52区J-9グリッド（1区調査区西部）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸188cm、短軸87cm、確認面からの深さ33cmを測る。**主軸方位** N-52°-W **壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 中央に向かって緩やかに傾斜する。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK138（第218図）

位置 2-52区M-7グリッド（1区調査区中央部やや北寄り）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。

覆土 3層に分層された。小礫・YPkを含む黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸240cm、短軸97cm、確認面からの深さ58cmを測る。**主軸方位** N-33°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 南西方向に向かって傾斜するが、概ね平坦である。**遺物** なし。

備考 本遺構は、出土遺物がないため性格・帰属時期は不明であるが、形態の特徴から平安時代に帰属する陥し穴の底面付近の可能性が考えられる。

SK140(第218図)

位置 2-53区B-5グリッド(1区調査区東部)。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 上層は黒褐色土、下層は暗褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸109cm、短軸81cm、確認面からの深さ27cmを測る。**主軸方位** N-45°-W **壁面**

大きく外傾して立ち上がる。**底面** 中央に向かって緩やかに傾斜し、北端部に小さな窪みがある。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK141(第218図)

位置 2-53区B-5グリッド(1区調査区東部)。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黒褐色土と黒色土が互層をなし、堆積状況は自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸86cm、短軸61cm、確認面からの深さ29cmを測る。**主軸方位** N-0° **壁面** 外傾して立ち上がる。

底面 概ね平坦である。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK142(第218図)

位置 2-53区B-5グリッド(1区調査区東部)。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黑褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸171cm、短軸77cm、確認面からの深さ31cmを測る。**主軸方位** N-35°-E **壁面** ほぼ垂直に立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

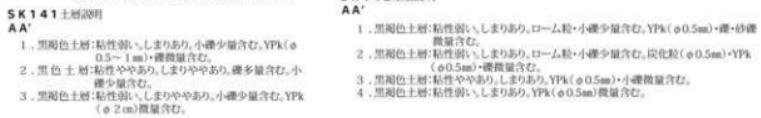
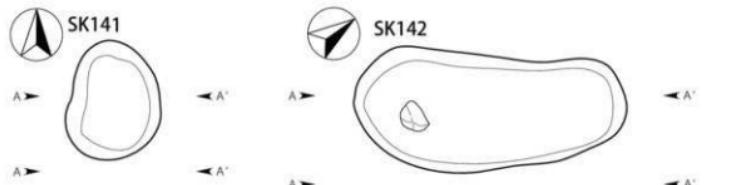
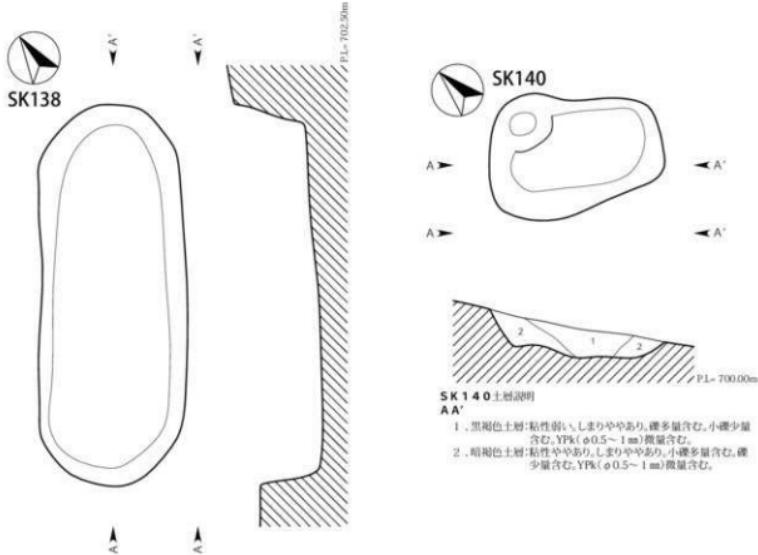
SK144(第219図)

位置 2-53区C-5グリッド(1区調査区東部)。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黑褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸163cm、短軸98cm、確認面からの深さ52cmを測る。**主軸方位** N-30°-W **壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 南東方向に傾斜するが、概ね平坦である。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK145(第219図)

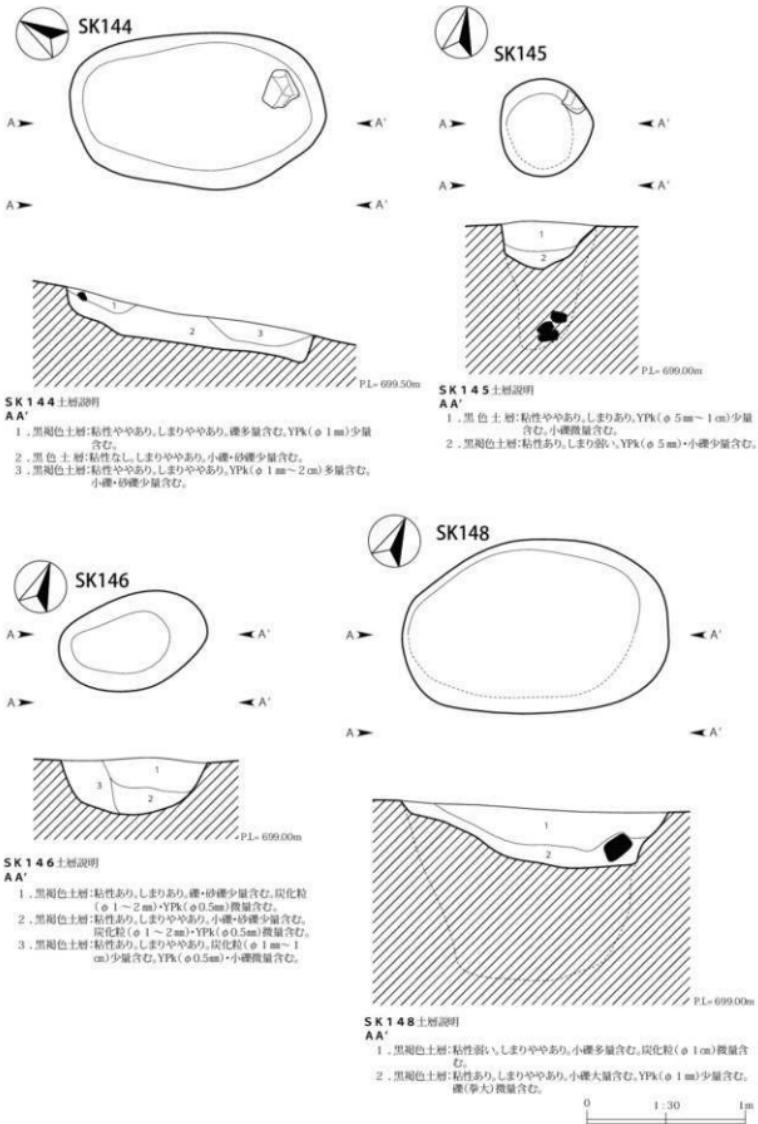
位置 2-53区C-5グリッド(1区調査区東部)。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黑色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸62cm、短軸61cm、確認面からの深さ32cmを測る。**主軸方位** N-12°-W **壁面** 西・南・北壁はほぼ垂直に、東壁は外傾して立ち上がる。**底面** 中央に向かって緩やかに傾斜する。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がな

北



0 1:30 1m

第218図 SK138・140~142実測図(1/30)



第219図 SK144~146・148実測図(1/30)

く出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK146（第219図）

位置 2-53区C-5グリッド（1区調査区東部）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸94cm、短軸59cm、確認面からの深さ42cmを測る。**主軸方位** N-45°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 中央に向かって緩やかに傾斜する。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK148（第219図）

位置 2-53区A-6・7グリッド（1区調査区東部）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸167cm、短軸112cm、確認面からの深さ47cmを測る。**主軸方位** N-65°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 東側へ傾斜しており、東側に寄る。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK149（第220図）

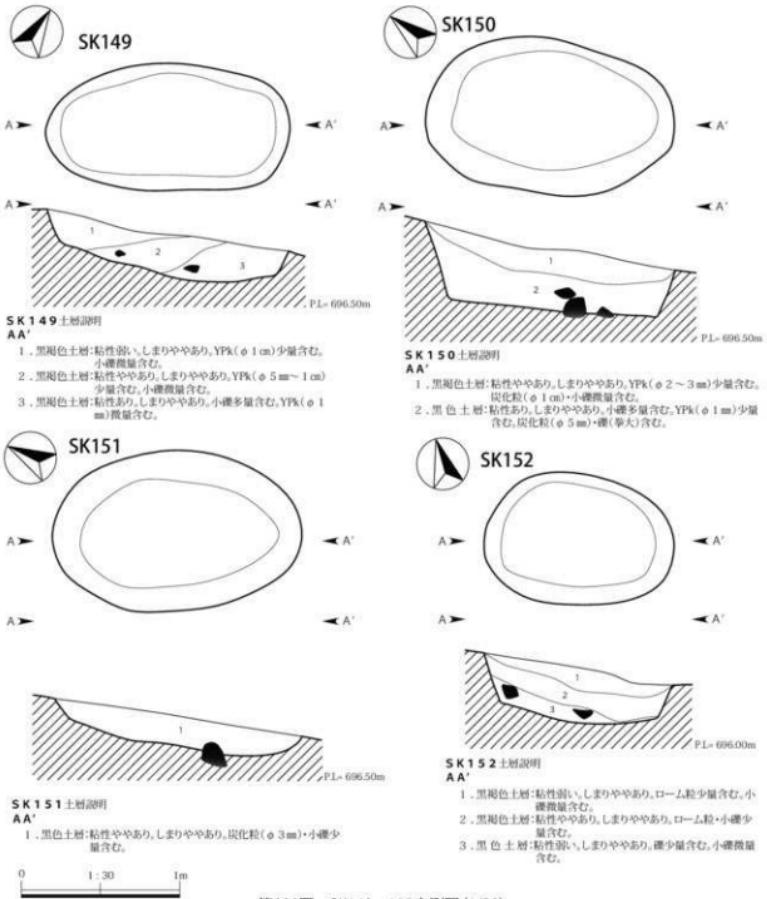
位置 2-53区C-8グリッド（1区調査区南東部）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸143cm、短軸80cm、確認面からの深さ26cmを測る。**主軸方位** N-59°-W **壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 中央に向かって緩やかに傾斜するが、概ね平坦である。地山の礫が露出する。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK150（第220図／PL 34）

位置 2-53区C-8グリッド（1区調査区南東部）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 上層は黒褐色土、下層は黒色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸157cm、短軸100cm、確認面からの深さ49cmを測る。**主軸方位** N-39°-W **壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 南東方向に緩やかに傾斜するが、概ね平坦である。地山の礫が露出する。**遺物** 弁生土器片が出土したが、遺構に伴うものではないと判断したため遺構外出土遺物に掲載した。**備考** 本遺構は、形態に特徴がなく時期を特定し得る遺物が出土していないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK151（第220図）

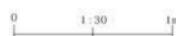
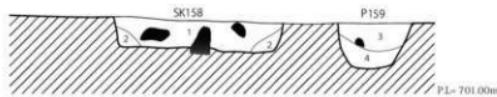
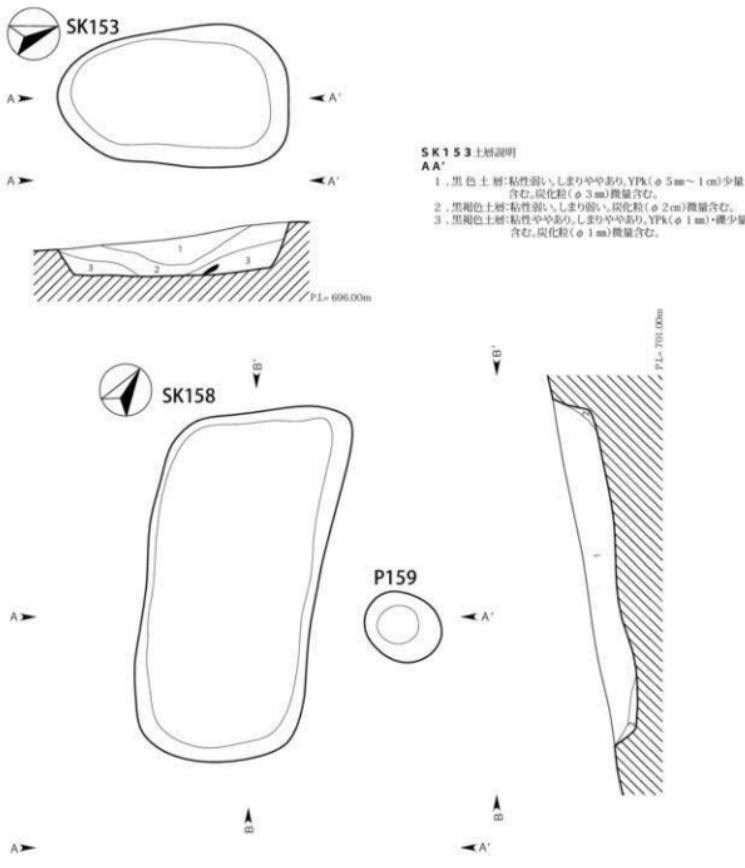
位置 2-53区C-9グリッド（1区調査区南東部）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸157cm、短軸101cm、確認面からの深さ31cmを測る。**主軸方位** N-28°-W **壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 南東方向に緩やかに傾斜するが、概ね平坦である。**遺物** 土師器片が出土したが、図示し得なかった。**備考** 本遺構は、形態に特徴がなく時期を特定し得る遺物が出土していないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。



第220図 SK149~152実測図(1/30)

SK152 (第220図)

位置 2-53区C・D-8グリッド(1区調査区南東部)。**重複関係**なし。**遺存状態**良好。**覆土**黒褐色土が基質で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸119cm、短軸83cm、確認面からの深さ33cmを測る。**主軸方位** N-75°-W **壁面**外傾して立ち上がる。**底面**東方向に緩やかに傾斜するが、概ね平坦である。**遺物**なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住跡と同時期の9世紀後半~10世紀前半である可能性が高いと考えられる。



第221図 SK153・158実測図(1/30)

SK153（第221図）

位置 2-53区D-8グリッド（1区調査区南東部）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸145cm、短軸90cm、確認面からの深さ27cmを測る。**主軸方位** N-18°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK158（第221図）

位置 2-52区Q-6・R-6・7グリッド（1区調査区中央部東寄り）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 暗褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長軸226cm、短軸145cm、確認面からの深さ52cmを測る。**主軸方位** N-32°-W **壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 南東方向に向かって緩やかに傾斜し、南端部が一段低くなる。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK160（第222図）

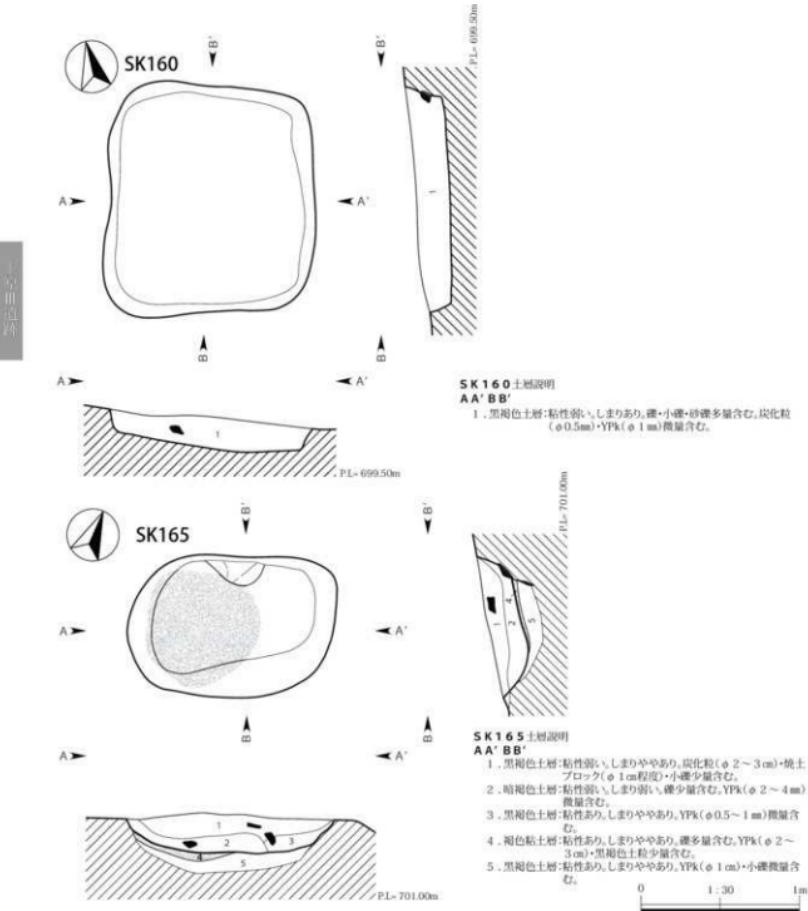
位置 2-52区R-7・8グリッド（1区調査区中央部東寄り）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は隅丸方形を呈する。長軸150cm、短軸138cm、確認面からの深さ29cmを測る。**主軸方位** N-15°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 南東方向に向かって緩やかに傾斜するが、概ね平坦である。**遺物** 土師器片が出土したが、図示し得なかった。**備考** 本遺構は、形態に特徴がなく時期を特定し得る遺物が出土していないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK165（第222図／PL 34）

位置 2-52区T-4、2-53区A-4グリッド（1区調査区東部）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黑褐色土・暗褐色土・褐色粘質土が互層状に堆積している。粘質土以下の4・5層は人為堆積で、1～3層も人為堆積土の可能性が考えられる。**平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸132cm、短軸89cm、確認面からの深さ25cmを測る。**主軸方位** N-67°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK169（第223図）

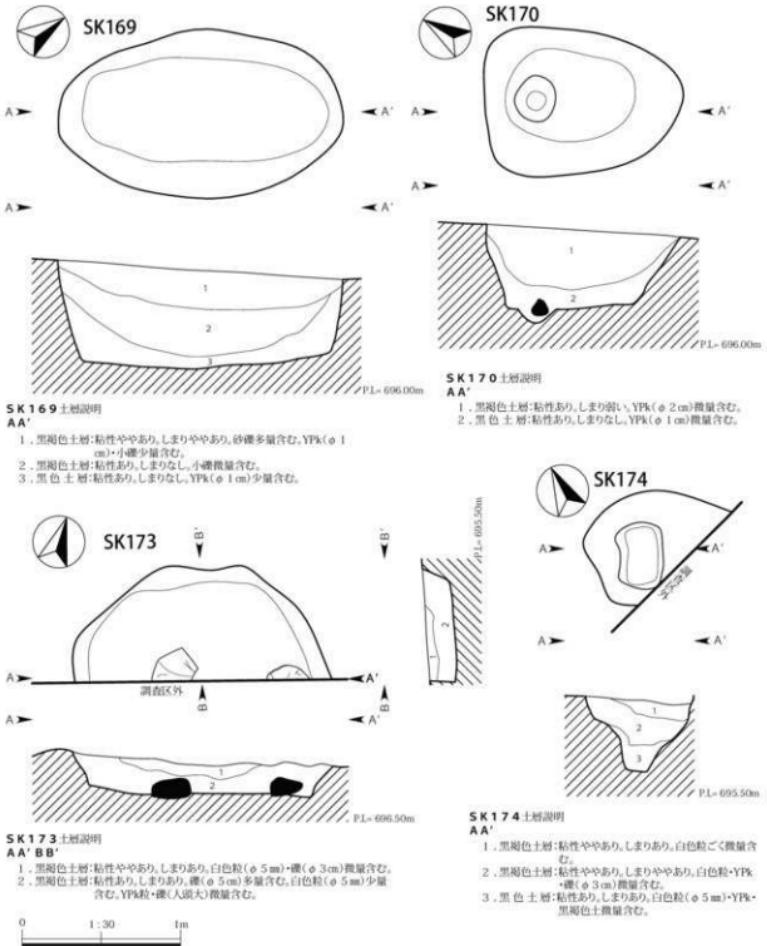
位置 2-52区O-19グリッド（2区調査区西部）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黑褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸179cm、短軸107cm、確認面からの深さ65cmを測る。**主軸方位** N-32°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 中央に向かって緩やかに傾斜するが、概ね平坦である。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。



第222図 SK160-165実測図(1/30)

SK170 (第223図)

位置 2-52区M-20グリッド(2区調査区西端部)。**重複関係**なし。**遺存状態**良好。**覆土**上層は黒褐色土、下層は黒色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸125cm、短軸94cm、確認面からの深さ38cmを測る。**主軸方位** N-31°W **壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 南東方向に緩やかに傾斜し、北端部にピット状の窪みがある。**遺物**なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。



第223図 SK169・170・173・174実測図 (1/30)

SK173 (第223図)

位置 2-52区T-12、2-53区A-12 グリッド (1区調査区中央部東寄り南壁)。 **重複関係** なし。
遺存状態 良好。 **覆土** 黒褐色土が基準で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形と考えられる。規模は長軸 163cm、短軸 73cm以上、確認面からの深さ 19cmを測る。 **主軸方位** N-72°—E **壁面** 外傾して立ち上がるが、垂直気味の部分もある。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。縁石時期は不明であるが、周辺の竪穴住居跡と

同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK174（第223図）

位置 2-53区A-12グリッド（1区調査区中央部東寄り南壁）。**重複関係** なし。**遺存状態** 南半分が調査区外にあるが、良好である。**覆土** 上層は黒褐色土、下層は黒色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は梢円形と考えられる。規模は長軸94cm以上、短軸73cm、確認面からの深さ45cmを測る。**主軸方位** N-62°-W **壁面** 屈曲しながら外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の堅穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK175（第224図）

位置 2-52区S-12グリッド（1区調査区中央部やや東寄り南壁）。**重複関係** SI11と重複し、本遺構の方が新しい。**遺存状態** 南半分が調査区外にあるが、良好である。**覆土** 上層は黒色土、下層は黒褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は円形と考えられる。規模は長軸139cm、短軸54cm以上、確認面からの深さ57cmを測る。**主軸方位** N-73°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 全体に凸凹が見られ、西側に小ピットがある。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、遺構の切り合い関係から中世以降と考えられる。

SK177（第224図）

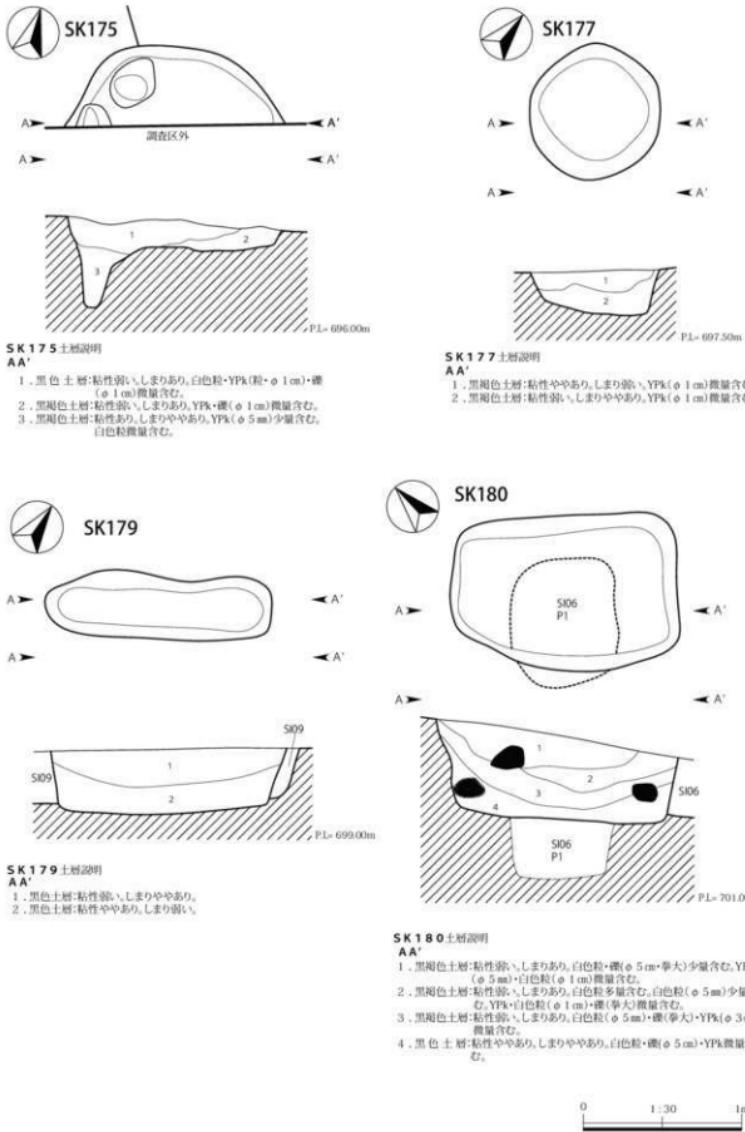
位置 2-52区S-12グリッド（1区調査区南部やや南東寄り）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸87cm、短軸83cm、確認面からの深さ29cmを測る。**主軸方位** N-32°-W **壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 北東方向に緩やかに傾斜するが、概ね平坦である。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、周辺の堅穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半である可能性が高いと考えられる。

SK179（第224図）

位置 2-52区Q-9・10グリッド（1区調査区中央部中央）。**重複関係** SI09と重複し、本遺構の方が新しい。**遺存状態** 良好。**覆土** 黒色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は細長い梢円形を呈する。規模は長軸143cm、短軸42cm、確認面からの深さ41cmを測る。**主軸方位** N-30°-W **壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、遺構の切り合い関係から中世以降と考えられる。

SK180（第224図）

位置 2-52区L-9グリッド（1区調査区西部）。**重複関係** SI06と重複し、本遺構の方が新しい。**遺存状態** 良好。**覆土** 上層は黒褐色土、下層は黒色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長軸146cm、短軸101cm、確認面からの深さ52cmを測る。**主軸方位** N-48°-W **壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 南東方向に非常に緩やかに傾斜するが、概ね平坦である。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は不明であるが、遺構の切り合い関係から中世以降と考えられる。



第224図 SK175・177・179・180実測図(1/30)

(2) ピット (第 76 ~ 80 図 / PL 40)

今回の発掘調査では、ピットは 160 基確認された。調査区内のほぼ全域にピットが分布しているが、密度にばらつきが見られる。1 区調査区西端部、1 区調査区中央部北側が非常に少なく、1 区調査区西部東側から 1 区調査区中央部南側にかけて非常に多く分布している。1 区調査区東部、2 区調査区は偏りなく分布している。列状に並ぶピットは確認されなかった。全てのピットの平面形や規模などの諸属性は、第 25 表に記載した。

第 25 表 上原 III 遺跡ピット観察表

遺構名	位置	平面形	規模 (cm)			覆土	備考	遺構名	位置	平面形	規模 (cm)			覆土	備考
			長軸長	短軸長	深さ						長軸長	短軸長	深さ		
P01	2-42 区 T-19	円形	30	28	35	A		P53	2-52 区 J-6	円形	49	42	46	A	
P02	2-42 区 T-20	円形	48	42	58	A		P54	2-52 区 L-6	円形	62	55	45	B	
P03	2-42 区 S-20	円形	46	44	76	A		P55	2-52 区 L-6	円形	67	59	34	B	
P04	2-52 区 T-3	円形	30	27	20	A		P56	2-52 区 K-7	円形	45	38	30	B	
P05	2-52 区 S-4	円形	38	33	31	A		P57	2-52 区 K-7 + B	円形	51	46	28	B	
P06	2-52 区 R-5 + 4	楕円形	53	37	32	B		P58	2-52 区 J-9 + 10	楕円形	93	41	18	A	
P07	2-52 区 O-9	円形	33	28	23	A		P59	2-52 区 I-10	円形	47	38	17	B	
P08	2-52 区 O + P-9	円形	38	33	18	A		P60	2-52 区 I + J-10	円形	44	37	21	A	
P09	2-52 区 P-9	円形	38	38	23	A		P61	2-52 区 J-11	円形	47	38	18	B	
P10	2-52 区 P-9	楕円形	42	34	51	A		P62	2-52 区 J-12	円形	49	45	26	B	
P11	2-52 区 P-10	円形	56	56	27	A		P63	2-52 区 J-11	円形	43	38	31	B	
P12	2-52 区 P-9	円形	25	25	18	A		P64	2-52 区 J - K-11	円形	40	38	21	B	
P13	2-52 区 P-9	楕円形	28	22	33	A		P65	2-52 区 K-12	円形	52	49	37	B	
P14	2-52 区 P-9	円形	25	25	17	A		P66	2-52 区 J-10	楕円形	68	47	17	A	
P15	2-52 区 P-9	楕円形	29	22	15	A		P67	2-52 区 J-10	円形	64	57	24	B	
P16	2-52 区 P-9	楕円形	29	23	44	A		P68	2-52 区 J-10	円形	63	59	23	C	
P17	2-52 区 P-10	円形	32	27	30	A		P69	2-52 区 J-10	楕円形	70	54	21	B	
P18	2-52 区 P-9	円形	37	35	45	A		P70	2-52 区 J - K-9	円形	53	53	29	B	
P19	2-52 区 P-9	円形	34	31	24	A		P71	2-52 区 L-7	円形	53	50	31	B	
P20	2-52 区 P-9	円形	34	32	43	A		P72	2-52 区 L-7	円形	37	35	38	A	
P21	2-52 区 P-8 + 9	円形	33	32	50	A		P73	2-52 区 M-7	円形	34	29	34	B	
P22	2-52 区 P-9	楕円形	37	29	27	A		P74	2-52 区 N-7	円形	40	36	24	B	
P23	2-52 区 P - Q-9	円形	48	39	35	A		P75	2-52 区 N-7	円形	42	36	35	A	
P24	2-52 区 E-10	円形	55	49	31	B		P76	2-52 区 N-11	円形	41	32	26	B	
P25	2-52 区 E-9	楕円形	54	38	25	B		P77	2-52 区 G-9	楕円形	88	69	31	B	
P26	2-52 区 G-6 + 9	円形	40	37	35	B		P78	2-52 区 G-8	楕円形	123	68	35	A	
P27	2-52 区 G-8	楕円形	72	31	31	A		P79	2-52 区 G + H-8	楕円形	112	58	33	B	
P28	2-52 区 G-8	円形	58	47	21	B		P80	2-52 区 H-8	楕円形	81	54	37	A	
P29	2-52 区 G-7	円形	45	41	16	B		P81	2-52 区 H-6	楕円形	76	59	24	B	
P30	2-52 区 H-7	楕円形	48	39	13	A		P82	2-52 区 I-9	楕円形	79	58	21	A	
P31	2-52 区 H-6	楕円形	49	37	49	A		P83	2-52 区 I-9 + 10	楕円形	135	91	12	A	
P32	2-52 区 H-6	楕円形	62	33	40	A		P84	2-52 区 I-9	円形	78	72	22	B	
P33	2-52 区 H-8	円形	47	38	13	A		P85	2-52 区 I-9	楕円形	170	80	20	B	
P34	2-52 区 G-8	円形	48	35	13	A		P86	2-52 区 I + J-9	楕円形	80	50	23	A	
P35	2-52 区 H-8	円形	48	44	18	B		P87	2-52 区 K-8 + 9	楕円形	127	78	28	B	
P36	2-52 区 G-9	円形	63	58	21	A		P88	2-52 区 K-10	楕円形	73	53	21	B	
P37	2-52 区 H-9	円形	51	44	14	B		P89	2-52 区 J-11 + 12	円形	112	100	21	C	
P38	2-52 区 H-8	円形	54	46	22	A		P90	2-52 区 K-12	楕円形	107	84	14	C	
P39	2-52 区 H + I-9	楕円形	58	29	30	A		P91	2-52 区 K-11	楕円形	77	57	20	B	
P40	2-52 区 I-9	円形	54	52	22	B		P92	2-52 区 K-9	円形	108	91	23	A	
P41	2-52 区 H + I-10	円形	49	44	31	A		P93	2-52 区 N-11 + 12	円形	35	32	25	C	
P42	2-52 区 H-10	円形	45	45	27	B		P94	2-52 区 O-11	円形	47	41	33	B	
P43	2-52 区 H-11	楕円形	50	37	18	B		P95	2-52 区 O-11	円形	37	32	22	B	
P44	2-52 区 H-10	楕円形	58	46	24	B		P96	2-52 区 O-11	円形	33	27	22	B	
P45	2-52 区 H-11	円形	61	51	41	B		P97	2-52 区 O-12	円形	38	37	13	B	
P46	2-52 区 H-10	楕円形	65	50	15	B		P98	2-52 区 N-12	円形	33	30	21	B	
P47	2-52 区 I-10	楕円形	47	39	15	A		P99	2-52 区 N-12	円形	40	32	15	B	
P48	2-52 区 I-10	円形	58	54	24	A		P100	2-52 区 N-12	楕円形	28	21	52	B	
P49	2-52 区 I-9	円形	50	49	15	A		P101	2-52 区 N-12	円形	35	30	30	B	
P50	2-52 区 I-7	円形	64	63	20	B		P102	2-52 区 N-12	楕円形	48	30	32	B	
P51	2-52 区 I-7	円形	62	58	24	B		P103	2-52 区 N-12	楕円形	43	33	39	B	
P52	2-52 区 I-7	円形	49	47	25	A		P104	2-52 区 N-12	円形	30	29	31	B	

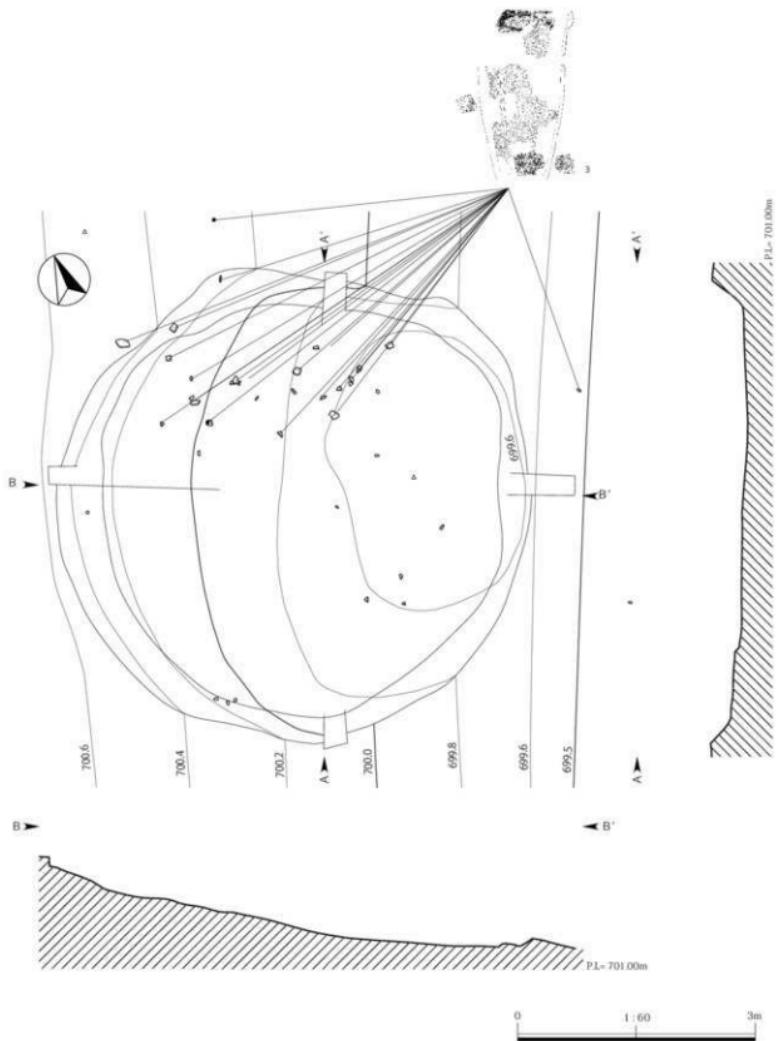
遺構名	位置	平面形	規模(cm)			覆土	備考	
			長軸長	短軸長	深さ			
P105	2-52 区 N-12	楕円形	64	41	10	B		
P106	2-52 区 O-12	円形	45	41	26	B		
P107	2-52 区 N-12	楕円形	72	56	21	B		
P108	2-52 区 N-14	楕円形	79	59	24	B		
P109	2-52 区 N-13	楕円形	57	45	27	B		
P110	2-52 区 O-13	円形	56	54	16	B		
P111	2-52 区 O-13	円形	51	45	16	A		
P112	2-52 区 P-10・11	円形	38	33	14	A		
P113	2-52 区 P-10・11	円形	37	32	17	B		
P114	2-52 区 P-11	円形	36	35	20	B		
P115	2-52 区 P-17	円形	43	39	43	B		
P116	2-52 区 P-17・18	円形	44	38	22	B		
P117	2-52 区 P-17	円形	46	26	B			
P118	2-52 区 P-18	円形	46	46	23	B		
P119	2-53 区 A-15・16	円形	67	54	37	A		
P120	2-53 区 A-15・16	円形	64	58	42	A		
P121	2-53 区 B-17	円形	54	47	30	A		
P122	2-53 区 B-18	円形	47	38	49	A		
P123	2-53 区 C-17	円形	60	53	50	A		
P124	2-53 区 C-17	円形	63	55	52	A		
P125	2-53 区 C-16	円形	33	32	25	A		
P126	2-53 区 D-17	円形	89	77	22	A		
P127	2-53 区 D-17	円形	48	43	26	B		
P128	2-53 区 F-16	円形	51	44	23	A		
P129	2-53 区 F-16	円形	45	43	24	B		
P130	2-53 区 F-16	円形	55	52	27	A		
P131	2-53 区 F-16	円形	59	48	24	A		
P132						欠番		
P133							欠番	
P134							欠番	
P135							欠番	
P136	2-53 区 C-11	円形			34	34	44	A
P137	2-53 区 C-10・11	楕円形			51	35	34	A
P138	2-52 区 Q-13	円形			41	37	46	B
P139	2-52 区 P-13	円形			47	44	25	B
P140	2-53 区 D-17	楕円形			66	46	12	A 旧 SK39
P141	2-53 区 C-15	円形			64	60	65	A 旧 SK65
P142	2-42 区 R-19	円形			53	47	46	A 旧 SK67
P143	2-42 区 S-19	楕円形			64	44	30	A 旧 SK69
P144	2-42 区 S-18	円形			46	45	30	B 旧 SK71
P145	2-42 区 T-18	円形			46	40	22	A 旧 SK73
P146	2-42 区 T-19	楕円形			49	31	27	B 旧 SK74
P147	2-52 区 T-2	円形			46	44	22	A 旧 SK75
P148	2-52 区 T-3	楕円形			52	38	75	A 旧 SK78
P149	2-52 区 T-3	円形			41	40	27	B 旧 SK79
P150	2-52 区 K-8	円形			56	45	58	A 旧 SK100
P151	2-52 区 R-12	円形			44	41	30	B 旧 SK121
P152	2-52 区 N-13	円形			57	50	61	B 旧 SK124
P153	2-52 区 N-13	楕円形			50	39	54	B 旧 SK126
P154	2-52 区 S-13	円形			58	54	69	B 旧 SK131
P155	2-53 区 A-3	楕円形			63	45	37	B 旧 SK139
P156	2-53 区 C-5	円形			48	47	27	B 旧 SK143
P157	2-53 区 B-5・6	円形			52	44	33	B 旧 SK147
P158	2-52 区 J-11	楕円形			48	39	28	B 旧 SK157
P159	2-52 区 R-6	円形			50	43	29	B 旧 SK159
P160	2-52 区 Q-9	円形			51	40	24	B 旧 SK161

※ A : 黒色土 B : 黒褐色土 C : 暗褐色土 D : 白色土 E : にぶい黄褐色土

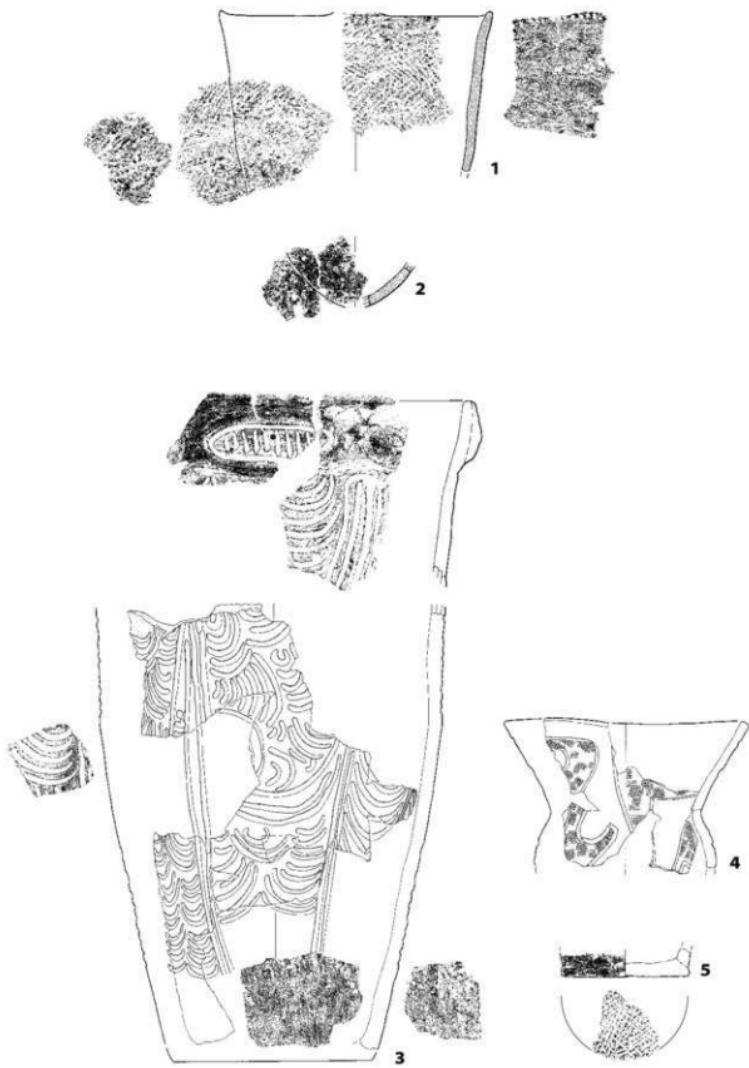
第6節 遺構外出土遺物（第225～230図／PL 41・42）

ここでは、調査区表土および確認面出土遺物、遺構内の流れ込み遺物、試掘トレンチ出土遺物を掲載する。遺構外出土遺物は、石器のほか、縄文時代前期～後期、弥生時代前期～中期、平安時代土師器・須恵器、中近世陶磁器と長期間にわたる遺物が出土している。出土状況に特徴のあるものについて記載する。

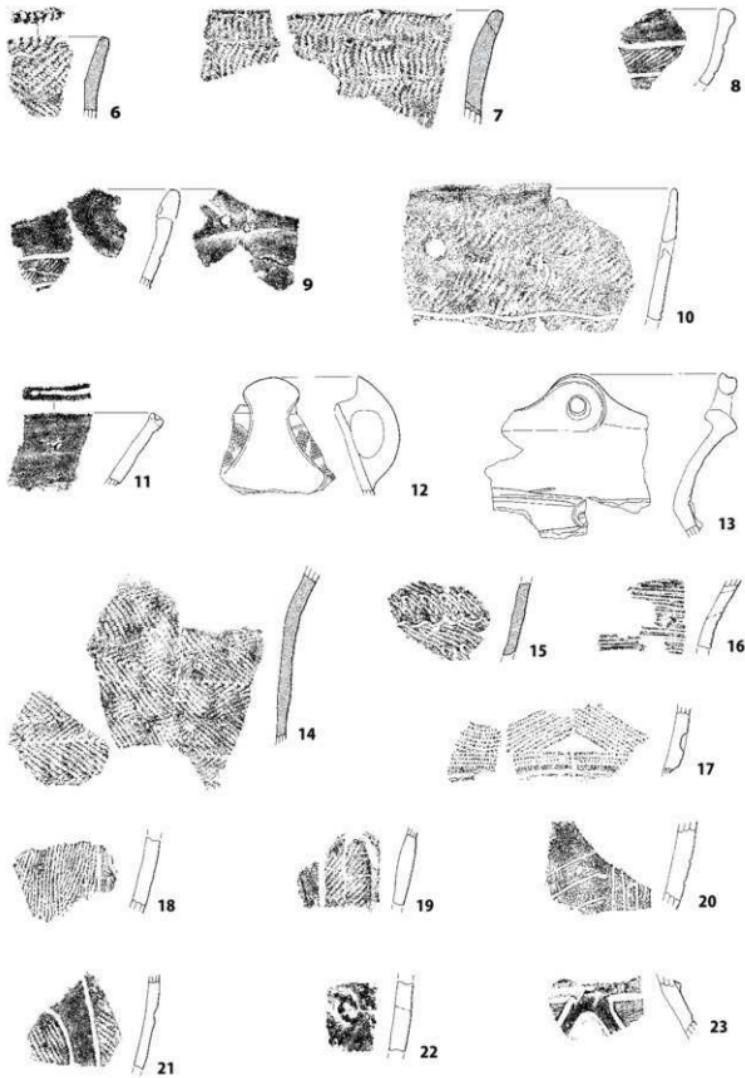
1区調査区西部南側、2-52 区 K-12・13、L-12・13 グリッドから、第226図3縄文時代中期（郷土式）の深鉢が出土した。遺構確認作業時に縄文土器片が多数見つかったこと、円形状のプランが見えたことから、縄文時代の竪穴住居跡を想定して調査を行なったが、底面が傾斜していること、炉跡や柱穴など住居内施設が確認されなかったことから、竪穴住居跡に伴うものではなく竪面に流れ込んだ遺物であると判断した。しかし、土坑である可能性も否定できない状況である。



第225図 遺構外遺物出土状況図(1/60)

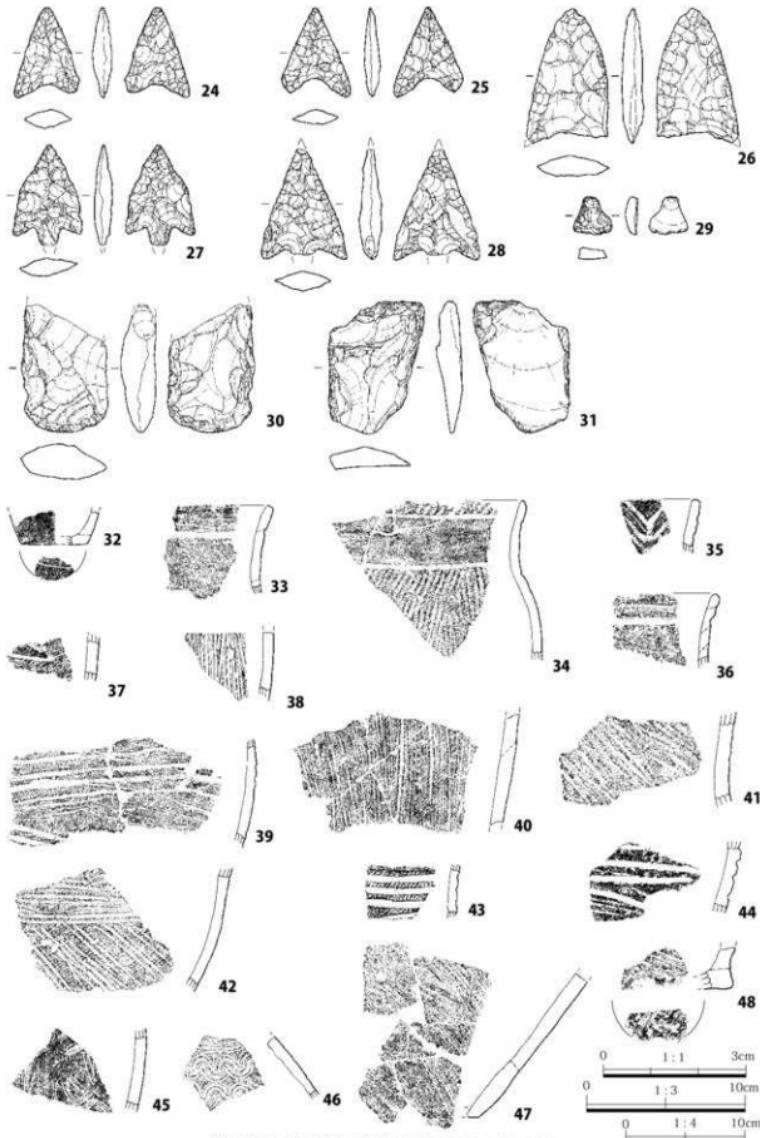


第226図 遺構外出土遺物実測図①(1/4)

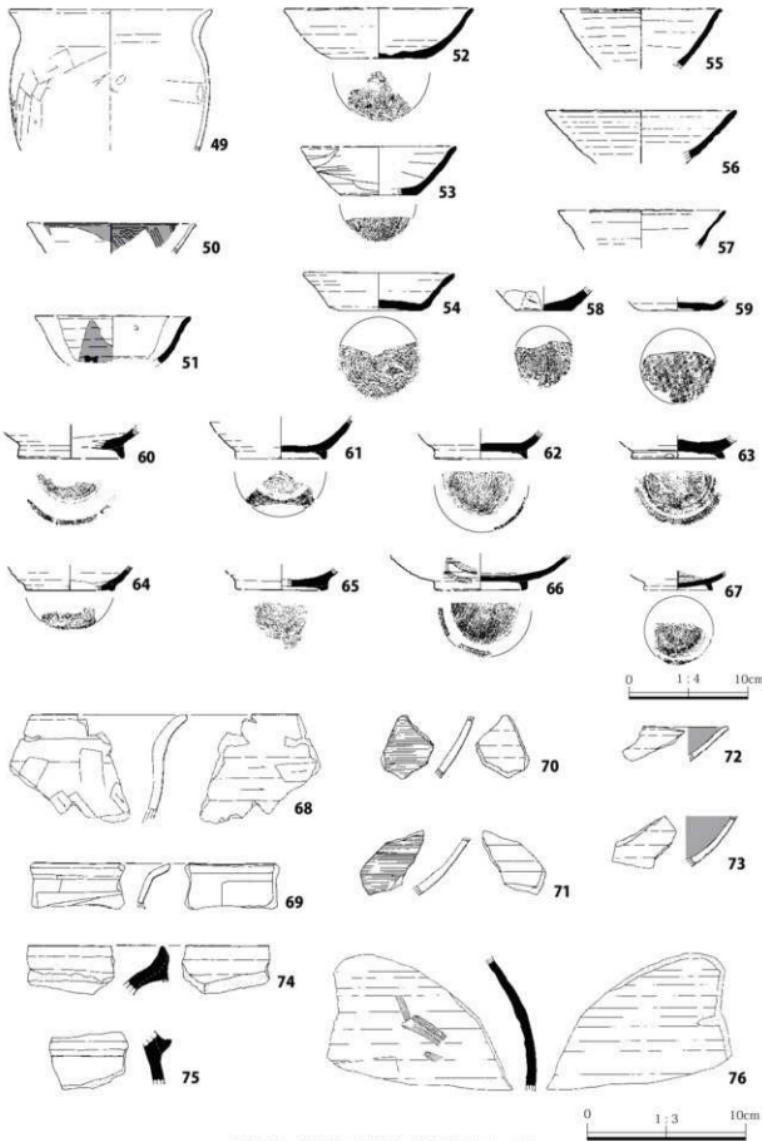


第227図 遺構外出土遺物実測図②(1/3)

0 1 : 3 10cm

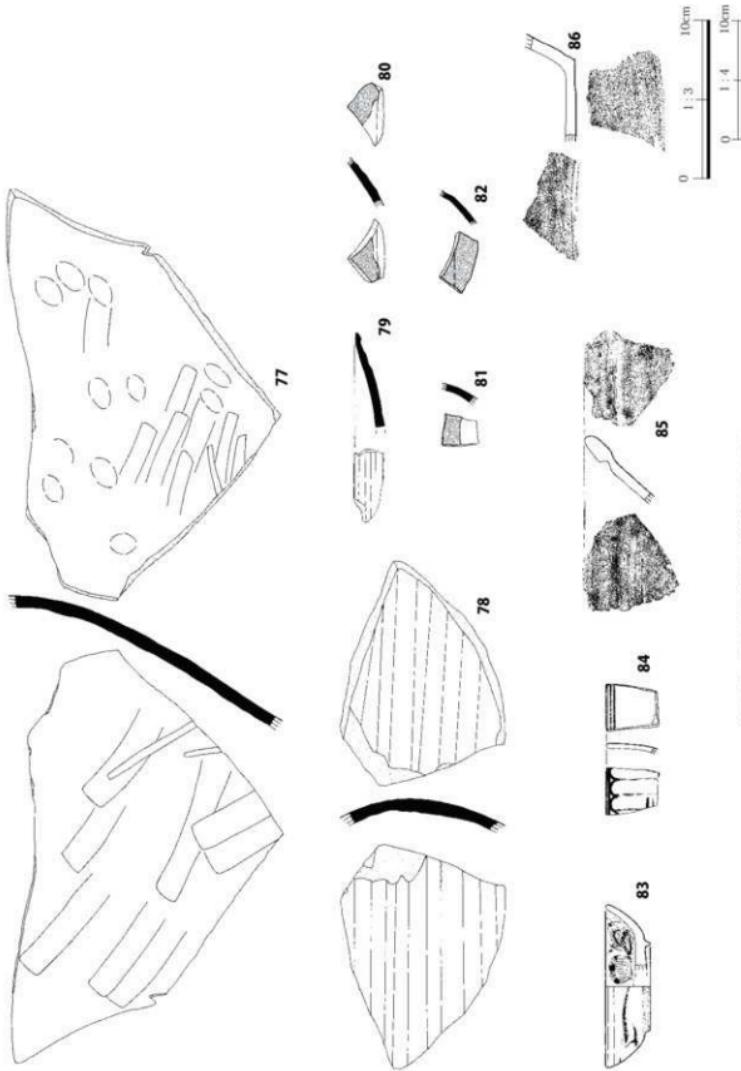


第228図 遺構外出土遺物実測図③(1/1・1/3・1/4)



第229図 遺構外出土遺物実測図④(1/3・1/4)

第230圖 遺構外出土遺物實測⑤(13·14)



第5章 まとめ

今回発掘調査を行なった上原Ⅲ遺跡では、弥生時代の土坑1基、平安時代の鍛冶工房跡1軒、竪穴住居跡13軒、竪穴状遺構1軒、焼土遺構6基、陥し穴29基、土坑10基、近世以降の溝跡（流路跡）5条、土壤墓1基、時期不明の土坑116基、ピット154基が確認された。平安時代の集落が主体となる複合遺跡である。王城山山麓の斜面上に立地し、西・北側は山裾が間近に迫り、南側は約60m先で傾斜がきつくなる。東側は約70m先に押手沢が流れている。そのため集落域は西・北側には広がらず、東・南側に若干広がると考えられる。

平安時代の竪穴建物跡は15軒あり、分布状況は1区調査区北端部に1軒（SI14）、1区調査区中央部北側に1軒（SI16）、1区調査区西部に1軒（SI06）、1区調査区中央部南側に6軒（SI08～SI13）、2区調査区西部から中央部に6軒（SI01、SI03～SI05、SI15 A・B）である。1区調査区中央部南側の6軒は、鍛冶工房跡（SI12）を中心にして西側から南側にL字状に分布する。2区調査区の5軒は、鍛冶が行なわれた可能性がある焼土遺構の東側に4軒が1列に並び、北側に1軒分布する。このような状況から、鍛冶工房を中心にして竪穴住居が展開していたと考えられる。遺物の特徴から1区調査区中央部南側の6軒は、鍛冶工房跡が9世紀後半～10世紀前半、周辺の竪穴住居跡は南西側のうち1軒（SI10）が9世紀後半、北西側の2軒（SI08・09）が9世紀後半～10世紀前半、南西側の1軒（SI11）と南側の1軒（SI13）が10世紀前半と考えられる。鍛冶工房が操業している間、まず南西側に1軒の竪穴住居跡が共存し、その後北西側に移動し、最終的に南側に1軒加わり3軒が共存していたと考えられる。2区調査区の5軒は、4軒（SI01・03～05）が9世紀後半～10世紀前半、残りの2軒（SI15A・B）が9世紀後半と考えられる。SI03とSI04が隣接しているため同時期には存在していないと考えられることから、2～3軒が共存していたと考えられる。1区調査区北側の2軒（SI14・16）はSI14が9世紀後半、SI16が9世紀後半～10世紀前半、1区調査区西部の1軒（SI06）は周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半の間と考えられる。これらの建物は位置的に北側の建物群と関係が強いものと考えられる。

これまでの長野原町内での発掘調査では、羽口や鍛冶滓が出土した竪穴住居跡が確認されているが、今回初めて鍛冶工房跡が確認された。羽口のほか、楕円鍛冶滓、鍛冶滓、鉄塊系遺物など鍛冶工程に伴う遺物が多量に出土しているが、製鉄工程に伴う遺物が全く出土していない。このことから、本調査区近辺では製鉄作業が行なわれていなかった可能性が非常に高いと考えられる。楕円鍛冶滓の分析の結果、高純度鉄素材から鉄器を製作する鍛鍊鍛冶が行なわれていたと想定された。繰り返し使用した痕跡のある羽口や多量の楕円鍛冶滓・鍛造剝片・粒状滓が出土していることから、鍛冶工房は長期間操業されていたと考えられる。

今回の発掘調査では、多くの墨書き土器が出土した。「長」が11点と多く、その他に「経」「赤」「麿」または「麻呂」「大」と文字の種類も豊富で、判読不能のものもある。14軒の竪穴建物跡のうち、8軒から出土している。北側の建物群で3軒（SI09・10・12）、南側の建物群で3軒（SI04・05・15）、その他の建物で2軒（SI14・16）である。特定の竪穴住居跡に集中しておらず、集落全域に広くいきわたっていたようである。

灰釉陶器は掲載しなかった遺物も含めて28点が出土しており、遺存状態の良い物も多い。8軒の竪穴住居跡のほか、SK53、SK110、遺構外から出土している。竪穴住居跡では、北側の建物群で5軒（SI08・09・11～13）、南側の建物群で2軒（SI01・05）、その他の建物で1軒（SI16）から出土している。北側の建物群に集中している状況が確認され、集落の中心であったと推測される。

鍛冶工房跡が確認されたこと、遺存状態の良い灰釉陶器が出土していること、墨書き土器が多数出土していることから、本遺跡は有力な集落であったと考えられる。

第26表 上原III遺跡住居跡諸属性一覧

遺構名	長軸方向	規模 (m × m)				主柱配置	カマド	周溝	付帯施設	遺物				時期		
		長軸	短軸	壁高	面積					位置	構築方法	灰種	墨書き	羽釜	鉄製品	鐵滓
SII1	N-33°-E	4.23	2.92	0.39	8.16	2本 (壁柱)	北東隅	不明	西・南・北	-	○	-	-	-	-	9世紀後半～ 10世紀前半
SII3	N-90°	4.04	(3.63)	0.4	(7.50)	2本か	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9世紀後半
SII4	N-39°-E	5.93	5.37	0.57	24.05	- (壁柱 穴か)	北壁	石組・ 土で造成	東・西・南	貯蔵穴	-	○	-	-	-	9世紀後半～ 10世紀前半
SII5	N-40°-E	5.41	4.56	0.37	19.99	- (壁柱 穴か)	北東壁	石組・ 土で造成	西	貯蔵穴	○	○	○	-	-	9世紀後半～ 10世紀前半
SII6	N-43°-E	3.45	3.36	0.38	7.75	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9世紀後半～ 10世紀前半
SII8	N-82°-E	(4.30)	4.24	0.45	14.77	4本	東壁	土で造成、 石組か	北	-	○	-	○	-	-	9世紀後半～ 10世紀前半
SII9	N-32°-W	4.00	3.83	0.36	10.23	2本・ 壁柱穴	北壁	土で造成	南東隅	貯蔵穴	○	○	○	-	-	9世紀後半～ 10世紀前半
SII10	N-70°-E	5.43	5.05	0.67	(20.77)	壁柱穴	東壁	石組・ 土で造成	西・南・北	貯蔵穴	-	○	-	-	-	9世紀後半
SII11	N-35°-W	(4.80)	4.78	0.37	(16.26)	2本 (壁柱)	北壁	石組・ 土で造成	北	-	○	-	-	-	-	10世紀前半
SII12	N-89°-E	5.98	5.62	0.37	(25.60)	壁柱穴	東壁	石組・ 土で造成	全周	貯蔵穴	○	○	○	○	○	9世紀後半～ 10世紀前半
SII13	N-67°-E	4.69	(2.79)	0.44	(10.49)	壁柱穴	東壁	土で造成、 石組か	-	-	○	-	○	○	-	10世紀前半
SII14	N-90°	5.52	5.27	0.24	(22.03)	2本	東壁	土で造成、 石組か	北	貯蔵穴	-	○	-	-	-	9世紀後半
SII15A	N-43°-E	(3.57)	3.66	0.29	10.57	2本	東壁	土で造成	-	-	○	-	-	-	-	9世紀後半
SII15B	N-48°-W	4.06	3.66	0.50	9.63	2本	北壁	土で造成	-	-	-	-	-	-	-	9世紀後半
SII16	N-75°-E	4.68	(3.75)	0.49	(13.71)	-	東壁	土で造成、 石組か	全周	集石	○	○	-	-	-	9世紀後半～ 10世紀前半

参考文献

- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2004『久々戸遺跡(2)・中棚I遺跡(2)・西ノ上遺跡・上郷A遺跡』八ッダム建設に工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第14集
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2008『榆木II遺跡(1)』八ッ場ダム建設に工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第18集
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2008『上ノ平I遺跡(1)』八ッ場ダム建設に工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第23集
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2010『横壁中村遺跡(11)』八ッ場ダム建設に工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第34集
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2012『榆木I遺跡／上原IV遺跡(2)／西久保IV遺跡』八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第39集
- 長野原町教育委員会 2012『林宮原Ⅲ遺跡』長野原町埋蔵文化財調査報告 第23集
- 長野原町教育委員会 2013『三平Ⅰ遺跡』長野原町埋蔵文化財調査報告 第26集

第27表 上原川遺跡出土遺物調査表

弥生時代土坑出土遺物調査表

測量点名：測量点番号：111F-東付（左）

測量点名：測量点番号：111F-東付（右）

測量点名	測量点番号	測量点名	測量点番号	111F-東付（左）	111F-東付（右）	特徴（形態・方法等）	内訳（なまらき・くわらき・くわらき）	地質	断上・材質等	地質(外因・内因)	地質	断上・材質等	地質(外因・内因)	地質	
81-1	35	土器底・高周		35	余生・底・相	(8.0) /— 6.0	内訳しなまらき・くわらき・くわらき・くわらき	砂岩	好	含泥頁岩	にふる泥・	好	含泥頁岩	にふる泥・	砂岩
							底面は斜面で、底面は斜面で、斜面のミガキ。								SK155

S112出土遺物調査表

測量点名	測量点番号	器種	111F-東付（左）	111F-東付（右）	特徴（形態・方法等）	内訳（なまらき・くわらき・くわらき）	地質	断上・材質等	地質(外因・内因)	地質	断上・材質等	地質(外因・内因)	地質	
93-1	35	土器底・小切底	13.9 / (10.5) /— 7.3	小凹の口クロナメ。内縁部は丸く、外縁は内縁を持ち内縁側が外側に向る。体は内縁側に厚く、外縁側に薄い。底面には4つ穴があり、その内側にはなまらきがある。斜面は内縁側に厚く、外縁側に薄い。斜面には4つ穴があり、その内側にはなまらきがある。	砂岩	好	砂岩・長石・	砂岩	好	砂岩・長石・	砂岩	好	砂岩・長石・	砂岩
93-2	35	土器底・小切底	(4.2) /— /—	小凹の口クロナメ。内縁部は丸く、外縁は内縁を持ち内縁側が外側に向る。斜面は内縁側に厚く、外縁側に薄い。斜面には4つ穴があり、その内側にはなまらきがある。	砂岩	好	砂岩・長石・	砂岩	好	砂岩・長石・	砂岩	好	砂岩・長石・	砂岩
93-3	35	土器底・小切底	(8.8) / 10.3 /—	内縁部は丸く、外縁は内縁を持ち内縁側が外側に向る。斜面は内縁側に厚く、外縁側に薄い。斜面には4つ穴があり、その内側にはなまらきがある。	砂岩	好	砂岩・長石・	砂岩	好	砂岩・長石・	砂岩	好	砂岩・長石・	砂岩
93-4	35	土器底・異	(5.0) /— < 4.0 >	内縁部は丸く、外縁は内縁を持ち内縁側が外側に向る。内縁部は底面より低く、内縁部は底面より高く。底面は内縁側が高くなる。	砂岩	好	砂岩・長石・	砂岩	好	砂岩・長石・	砂岩	好	砂岩・長石・	砂岩
93-5	35	須恵器・直	(2.2) /— /—	底面に横溝を有し、内縁部と底面との間に斜面がある。斜面は内縁側が高くなる。	砂岩	好	砂岩・白粘土	砂岩	好	砂岩・白粘土	砂岩	好	砂岩・白粘土	砂岩
93-6	35	須恵器・斜	4.5 / 12.0 / 5.1	ロコ磨擦。内縁部にもに横溝がある。底面は右斜面で切り落とす形である。	砂岩	好	砂岩・白粘土	砂岩	好	砂岩・白粘土	砂岩	好	砂岩・白粘土	砂岩
93-7	35	須恵器・斜	4.6 / 12.0 / 4.5	ロコ磨擦。内縁部にもに横溝がある。底面は右斜面で切り落とす形である。	砂岩	好	砂岩・白粘土	砂岩	好	砂岩・白粘土	砂岩	好	砂岩・白粘土	砂岩
93-8	35	須恵器・斜	4.1 / 13.3 / 7.7	ロコ磨擦。内縁部にもに横溝がある。底面は右斜面で切り落とす形である。	砂岩	好	砂岩・白粘土	砂岩	好	砂岩・白粘土	砂岩	好	砂岩・白粘土	砂岩
93-9	35	須恵器・斜	3.9 / < 13.0 > / 5.6	ロコ磨擦。内縁部にもに横溝がある。底面は右斜面で切り落とす形である。	砂岩	好	砂岩・白粘土	砂岩	好	砂岩・白粘土	砂岩	好	砂岩・白粘土	砂岩
93-10	35	須恵器・斜	4.0 / < 12.7 > / 5.3	ロコ磨擦。内縁部にもに横溝がある。底面は右斜面で切り落とす形である。	砂岩	好	砂岩・白粘土	砂岩	好	砂岩・白粘土	砂岩	好	砂岩・白粘土	砂岩
93-11	35	須恵器・斜	4.4 / 13.4 / 5.7	ロコ磨擦。内縁部にもに横溝がある。底面は右斜面で切り落とす形である。	砂岩	好	砂岩・白粘土	砂岩	好	砂岩・白粘土	砂岩	好	砂岩・白粘土	砂岩
93-12	35	須恵器・底	(5.6) / < 15.6 > /—	内縁部は丸く、外縁部は底面より低く、内縁部は底面より高く。底面は内縁側が高くなる。	砂岩	好	砂岩・長石・	砂岩	好	砂岩・長石・	砂岩	好	砂岩・長石・	砂岩
93-13	35	須恵器・斜	4.5 / < 16.4 > /— 9.2	内縁部は丸く、外縁部は底面より低く、内縁部は底面より高く。底面は内縁側が高くなる。	砂岩	好	砂岩・長石・	砂岩	好	砂岩・長石・	砂岩	好	砂岩・長石・	砂岩
93-14	35	須恵器・底	(4.4) /— < 14.8 > /—	内縁部は丸く、外縁部は底面より低く、内縁部は底面より高く。底面は内縁側が高くなる。	砂岩	好	砂岩・長石・	砂岩	好	砂岩・長石・	砂岩	好	砂岩・長石・	砂岩
93-15	35	須恵器・底	5.2 / < 15.2 > /— 7.2	内縁部は丸く、外縁部は底面より低く、内縁部は底面より高く。底面は内縁側が高くなる。	砂岩	好	砂岩・長石・	砂岩	好	砂岩・長石・	砂岩	好	砂岩・長石・	砂岩
93-16	35	須恵器・底	5.1 / < 15.2 > /— 8.4 >	内縁部は丸く、外縁部は底面より低く、内縁部は底面より高く。底面は内縁側が高くなる。	砂岩	好	砂岩・長石・	砂岩	好	砂岩・長石・	砂岩	好	砂岩・長石・	砂岩
93-17	35	須恵器・底	5.2 / < 14.2 > /—	内縁部は丸く、外縁部は底面より低く、内縁部は底面より高く。底面は内縁側が高くなる。	砂岩	好	砂岩・長石・	砂岩	好	砂岩・長石・	砂岩	好	砂岩・長石・	砂岩
93-18	35	須恵器・底	6.2 / < 14.6 > /— 7.4 >	内縁部は丸く、外縁部は底面より低く、内縁部は底面より高く。底面は内縁側が高くなる。	砂岩	好	砂岩・長石・	砂岩	好	砂岩・長石・	砂岩	好	砂岩・長石・	砂岩
93-19	35	須恵器・底	< 4.8 > /— 15.0 > /—	内縁部は丸く、外縁部は底面より低く、内縁部は底面より高く。底面は内縁側が高くなる。	砂岩	好	砂岩・長石・	砂岩	好	砂岩・長石・	砂岩	好	砂岩・長石・	砂岩

S101出土遺物観察表

標印No.	法則(周高×口径×底径) (cm)	特徴(底面・手縫)	地質	断土・材質等	色調(外側/内側)	備考	
100. 1	37 火照器・焼 泥付	(1.8) /~< 5.2 > (3.1) /~<~	ロクロ型。内部は丸底で、外側に直角突出部なし。底面は楕円形ながら、直角突出部なし。外側には複数の縦溝がある。窓部の底面には複数の横溝がある。	地質 砂質	灰白・白色 灰白	底面～底付部25% 黄褐。 天井2号式。	S01 土上 S01 土上
100. 2	— 上部器・焼	(7.6) /~<~	外側は底面へテカズリ。内面は窓部へテカズ。	地質 砂質	灰白・白色 灰白	窓部・窓付部 灰白	S01 土上 S01 土上
100. 3	— 上部器・焼	(7.6) /~<~	外側は底面へテカズリ。内面は窓部へテカズ。	地質 砂質	灰白・白色 灰白	窓部・窓付部 灰白	S01 土上 S01 土上

S104出土遺物観察表

標印No.	法則(周高×口径×底径) (cm)	特徴(底面・手縫)	地質	断土・材質等	色調(外側/内側)	備考	
106. 1	37 上部器・焼	(10.7) /~< 24.4 >/~	直線部は丸底で、外側に直角突出部なし。窓部は底面にかけられ、内側に窓付部。いわゆる地元の窓付。直角突出部は、窓部と直角である。	地質 砂質	灰白・白色 灰白	直角突出部・底付部・内側 灰白	S04 カマド S04 土上
106. 2	37 上部器・焼	(4.2) /~< 21.0 >/~	ロクロ型。内面は窓部で、窓部は直角である。内面と底面にも窓部を有する。窓部下には直角突起がある。内面には直角突起がある。窓部下には直角突起がある。窓部下には直角突起がある。	地質 砂質	灰白・白色 灰白	直角突出部 (窓部) 窓付部 灰白	S04 土上 S04 土上
106. 3	37 上部器・焼	(5.9) /~<~ 13.4 >	ロクロ型。内面は窓部で、窓部は直角である。窓部下には直角突起がある。窓部下には直角突起がある。窓部下には直角突起がある。窓部下には直角突起がある。	地質 砂質	灰白・白色 灰白	直角突出部 直角 灰白	S04 土上 S04 土上
106. 4	— 直角器・焼	3.9 /~< 13.4 >/~ 6.4	ロクロ型。内面は窓部で、窓部は直角である。窓部下には直角突起がある。窓部下には直角突起がある。窓部下には直角突起がある。窓部下には直角突起がある。	地質 砂質	灰白・白色 灰白	直角突出部 直角 灰白	S04 カマド S04 土上
106. 5	37 直角器・焼	4.7 /~ 12.8 /~ 5.6	ロクロ型。内面は窓部で、窓部は直角である。窓部下には直角突起がある。窓部下には直角突起がある。窓部下には直角突起がある。窓部下には直角突起がある。	地質 砂質	灰白・白色 灰白	直角突出部 直角 灰白	S04 カマド S04 土上
106. 6	37 直角器・焼	12.8 /~ 4.0 /~ 6.7	ロクロ型。内面は窓部で、窓部は直角である。窓部下には直角突起がある。窓部下には直角突起がある。窓部下には直角突起がある。窓部下には直角突起がある。	地質 砂質	灰白・白色 灰白	直角突出部 直角 灰白	S04 土上 S04 土上
106. 7	37 直角器・焼	3.8 /~ 13.8 /~ 0.8	ロクロ型。内面は窓部で、窓部は直角である。窓部下には直角突起がある。窓部下には直角突起がある。窓部下には直角突起がある。窓部下には直角突起がある。	地質 砂質	灰白・白色 灰白	直角突出部 (窓部) 窓付部 直角 灰白	S04 土上 S04 土上
106. 8	37 直角器・焼	4.2 /~ 12.7 /~ 6.4	ロクロ型。内面は窓部で、窓部は直角である。窓部下には直角突起がある。窓部下には直角突起がある。窓部下には直角突起がある。窓部下には直角突起がある。	地質 砂質	灰白・白色 灰白	直角突出部 直角 灰白	S04 土上 S04 土上
106. 9	37 直角器・焼	(3.1) /~<~ 6.6	ロクロ型。内面は窓部で、窓部は直角である。窓部下には直角突起がある。窓部下には直角突起がある。窓部下には直角突起がある。窓部下には直角突起がある。	地質 砂質	灰白・白色 灰白	直角突出部 直角 灰白	S04 土上 S04 土上
106. 10	37 直角器・焼	(5.2) /~< 14.8 >/~	ロクロ型。内面は窓部で、窓部は直角である。窓部下には直角突起がある。窓部下には直角突起がある。窓部下には直角突起がある。窓部下には直角突起がある。	地質 砂質	灰白・白色 灰白	直角突出部 直角 灰白	S04 土上 S04 土上
106. 11	37 直角器・焼	5.4 /~ 14.4 /~ 6.9	ロクロ型。内面は窓部で、窓部は直角である。窓部下には直角突起がある。窓部下には直角突起がある。窓部下には直角突起がある。窓部下には直角突起がある。	地質 砂質	灰白・白色 灰白	直角突出部 直角 灰白	S04 土上 S04 土上
106. 12	37 直角器・焼	(2.1) /~<~ 8.2 >	ロクロ型。内面は窓部で、窓部は直角である。窓部下には直角突起がある。窓部下には直角突起がある。窓部下には直角突起がある。窓部下には直角突起がある。	地質 砂質	灰白・白色 灰白	直角突出部 直角 灰白	S04 土上 S04 土上
106. 13	37 直角器・14型	2.4 /~ 8.0 /~ 4.9	ロクロ型。内面は窓部で、窓部は直角である。窓部下には直角突起がある。窓部下には直角突起がある。窓部下には直角突起がある。窓部下には直角突起がある。	地質 砂質	灰白・白色 灰白	直角突出部 直角 灰白	S04 土上 S04 土上

S105出土遺物観察表

標印No.	法則(周高×口径×底径) (cm)	特徴(底面・手縫)	地質	断土・材質等	色調(外側/内側)	備考	
111. 1	37 上部器・焼	(10.2) /~< 19.2 >/~	ロクロ型。内面は窓部で、窓部は直角である。窓部下には直角突起がある。窓部下には直角突起がある。窓部下には直角突起がある。	地質 砂質	灰白・白色 灰白	直角突出部 直角 灰白	S05 カマド B S05 カマド B
111. 2	37 上部器・焼	(6.5) /~< 19.4 >/~	ロクロ型。内面は窓部で、窓部は直角である。窓部下には直角突起がある。窓部下には直角突起がある。窓部下には直角突起がある。	地質 砂質	灰白・白色 灰白	直角突出部 直角 灰白	S05 土上 S05 土上

111-3	37	上腹部・胸	(6.5) /- <4.0>	コガリ腰痛の症例と見られる。筋肉は半硬、筋膜は軽いタフタで、皮膚は柔軟。乳頭は少く触れる。	筋膜・脂肪組織、角質・白色筋、角質・白色筋、やや厚筋	筋膜	底筋25%硬筋。	S05 頸方
111-4	37	上腹部・胸・腹	(2.7) /- <6.8>	乳頭は硬、乳頭は柔軟。外見はクロロゲン。内見はほぼ全に丁寧なミダラを施して、少しある。	筋膜・白色筋、角質・白色筋、角質・白色筋、角質・白色筋	筋膜・黑色筋	底筋下位-底筋40%硬筋。 (浅部筋)	S05 頸上
111-5	37	頭面部・耳	(4.4) /- <15.3> /-	「頭部は自己」、手筋は常に頭部が頭部に手筋が付する。外見は頭部のナナメで、頭部は頭部へタフタ。	筋膜・白色筋、角質・白色筋、角質・白色筋、角質・白色筋	筋膜	に、よい筋膜・筋膜、筋膜・筋膜、筋膜・筋膜	S05 頭上
111-6	37	頭面部・耳	(15.0) /- <8.0>	「頭部が頭部自身」、手筋は常に頭部が頭部に手筋が付する。外見は頭部へタフタで、内見はヨコビマニアで指筋頭筋をう。	筋膜・白色筋、角質・白色筋、角質・白色筋、角質・白色筋	筋膜	に、よい筋膜・筋膜、筋膜・筋膜、筋膜・筋膜	S05 フカマト A
111-7	37	頭面部・耳	(2.1) /- <12.0>	「上部が上部自身」、手筋は常に頭部が頭部に手筋が付する。外見は頭部へタフタで、内見は頭部分筋が頭部をう。	筋膜・白色筋、角質・白色筋、角質・白色筋、角質・白色筋	筋膜	B+、頭上・頬り	S05 頭上
111-8	37	頭面部・耳	(0.8) /- <-/-	「頭部は自己」、手筋は常に頭部が頭部に手筋が付する。	筋膜・白色筋、角質・白色筋、角質・白色筋	筋膜	頭上25%硬筋。	S05 フカマト B
111-9	37	頭面部・耳	(1.8) /- <16.0>	「頭部は自己」、頭部に付された筋に筋膜が付する。	筋膜・白色筋、角質・白色筋、角質・白色筋	筋膜	頭上25%硬筋。	S05 頸上
111-10	37	頭面部・耳	4.0 /- <15.0> /- <8.1>	「頭部は自己」、頭部は右側硬、左切り。頭部は頭部が頭部へタフタ。	筋膜・白色筋、角質・白色筋、角質・白色筋	筋膜	頭上25%硬筋。	S05 フカマト D
111-11	37	頭面部・耳	3.8 /- <14.0> /- 7.8	「頭部は自己」、頭部と耳にもクロロゲン。頭部は右側硬、左切り。頭部は頭部が頭部へタフタ。	筋膜・白色筋、角質・白色筋、角質・白色筋	筋膜	頭上25%硬筋。	S05 頸方
111-12	37	頭面部・耳	4.1 /- <13.8> /- 8.0	「頭部は自己」、頭部と耳にもクロロゲン。頭部は右側硬、左切り。頭部は頭部が頭部へタフタ。	筋膜・白色筋、角質・白色筋、角質・白色筋	筋膜	頭上25%硬筋。	S05 頸上
111-13	37	頭面部・耳	5.8 /- <16.0> /- <7.8>	「頭部は自己」、頭部は右側硬、左切り。頭部は頭部が頭部へタフタ。	筋膜・白色筋、角質・白色筋、角質・白色筋	筋膜	頭上25%硬筋。	S05 頸上
111-14	37	頭面部・耳	(3.5) /- <6.6>	「頭部は自己」、頭部と耳にもクロロゲン。頭部は右側硬、左切り。頭部は頭部が頭部へタフタ。	筋膜・白色筋、角質・白色筋、角質・白色筋	筋膜	頭上25%硬筋。	S05 フカマト A 頭上・マツダ
111-15	37	頭面部・耳	3.0 /- <12.4> /- 6.5	「頭部は自己」、頭部と耳にもクロロゲン。頭部は右側硬、左切り。頭部は頭部が頭部へタフタ。	筋膜・白色筋、角質・白色筋、角質・白色筋	筋膜	頭上25%硬筋。	S05 頸方
111-16	37	从輪頭部・胸	(2.8) /- <13.6> /-	「頭部は自己」、頭部と耳にもクロロゲン。外見体部分は頭部はヘタタリである。内見頭部は外見頭部と似た構造であるが、外見頭部は頭部はヘタタリである。頭部は頭部に付された筋膜が打	筋膜・白色筋、角質・白色筋、角質・白色筋	筋膜	頭上25%硬筋。	S05 頸上
111-17	-	上腹部・胸	(3.2) /- /-	「頭部は自己」、頭部と耳にもクロロゲン。外見体部分は頭部はヘタタリである。頭部は頭部に付された筋膜が打	筋膜・白色筋、角質・白色筋、角質・白色筋	筋膜	大筋2.5%硬筋。	S05 頸上
111-18	37	頭面部・耳	(0.5) /- /-	「頭部は自己」、頭部と耳にもクロロゲン。外見は頭部は平筋ながらも少しうねりがある。頭部は頭部へタフタ。	筋膜・白色筋、角質・白色筋、角質・白色筋	筋膜	筋膜・筋膜 (1筋膜部-一部筋)	S05 フカマト A
111-19	37	頭面部・耳	(2.5) /- /-	「頭部は自己」、頭部と耳にもクロロゲン。	筋膜・白色筋、角質・白色筋、角質・白色筋	筋膜	筋膜・筋膜 (1筋膜部)	S05 頸上
111-21	-	从輪頭部・胸	(2.0) /- /-	「頭部は自己」、頭部と耳にもクロロゲン。外見は頭部はヘタタリである。頭部は頭部に付された筋膜が打	筋膜・白色筋、角質・白色筋、角質・白色筋	筋膜	大筋2.5%硬筋。	カマド A
111-22	-	从輪頭部・胸	(3.1) /- /-	「頭部は自己」、頭部と耳にもクロロゲン。外見は頭部はヘタタリである。頭部は頭部に付された筋膜が打	筋膜・白色筋、角質・白色筋、角質・白色筋	筋膜	大筋2.5%硬筋。	S05 頸上
111-23	37	頭面部・耳	(3.0) /- /-	「頭部は自己」、頭部と耳にもクロロゲン。外見は頭部はヘタタリである。頭部は頭部に付された筋膜が打	筋膜・白色筋、角質・白色筋、角質・白色筋	筋膜	大筋2.5%硬筋。	S05 頸上

S108 出土遺物観察表

番号	出所	名稱	法則	法則	特質 (形態・質等)	特質 (形態・質等)	特質 (形態・質等)	特質 (形態・質等)
114-1	37	土器器・窓	(5.3) /-/ -	外は黒皮のラクチで一面に網状ヘタリあり、内面はハサマテ形状。底面はヘアチー ナ付鏡、輪コロ切妻。窓はロコロナテ。輪コロナテのアーチがある。内面はミガ 子を削り、窓はミガが残る。輪コロナテのアーチがある。内面はミガ 子を削り、窓はミガが残る。	輪孔 窓孔	輪孔 窓孔	輪孔 窓孔	輪孔 窓孔
114-2	37	土器器・窓	4.9 / < 14.4 > / < 7.2 >	改めて黒皮が施された窓を有する。窓はロコロナテ。輪コロナテのアーチがある。内面はミガ 子を削り、窓はミガが残る。輪コロナテのアーチがある。内面はミガ 子を削り、窓はミガが残る。	輪孔 窓孔	輪孔 窓孔	輪孔 窓孔	輪孔 窓孔
114-3	37	土器器・窓	(2.8) / < 12.2 > / ~	窓孔高。ロコロ切妻。窓はロコロナテ。輪孔はミガが残され、黒色剥離される。第 二窓孔。窓は輪孔のヘタケツ。	輪孔 窓孔	輪孔 窓孔	輪孔 窓孔	輪孔 窓孔
114-4	37	土器器・窓	(1.0) / < - > 6.0 >	窓孔。窓は輪孔のヘタケツ。輪孔はミガが残され、黒色剥離される。底面はヘ タケツ。窓は輪孔のヘタケツ。輪孔はミガが残され、黒色剥離される。底面はヘ タケツ。	輪孔 窓孔	輪孔 窓孔	輪孔 窓孔	輪孔 窓孔
114-5	38	須恵器・判別	(1.77) / < 20.1 > / ~	輪孔高。底面は輪孔のヘタケツで、斜面下端まで削られた跡がある。窓はエゴ チー。窓は輪孔のヘタケツで、斜面下端まで削られた跡がある。窓はエゴ チー。窓は輪孔のヘタケツで、斜面下端まで削られた跡がある。	輪孔 窓孔	輪孔 窓孔	輪孔 窓孔	輪孔 窓孔
114-6	37	須恵器・环	(2.9) / < - > 9.2 >	ロコロ切妻。窓は輪孔のヘタケツで、斜面下端まで削られた跡がある。	輪孔 窓孔	輪孔 窓孔	輪孔 窓孔	輪孔 窓孔
114-7	37	須恵器・窓	(2.0) / < - > 8.0 >	ロコロ切妻。窓は輪孔のヘタケツで、斜面下端まで削られた跡がある。	輪孔 窓孔	輪孔 窓孔	輪孔 窓孔	輪孔 窓孔
114-8	-	灰被輪削・縦	(2.2) / < - > 8.0 >	ロコロ切妻。窓は輪孔のヘタケツで、斜面下端まで削られた跡がある。	輪孔 窓孔	輪孔 窓孔	輪孔 窓孔	輪孔 窓孔
114-9	-	須恵器・横穴	(1.4) / < - > 9.6 >	ロコロ切妻。窓は輪孔のヘタケツで、斜面下端まで削られた跡がある。	輪孔 窓孔	輪孔 窓孔	輪孔 窓孔	輪孔 窓孔
114-10	38	須恵器・大窓	(1.00) / < - > -	窓は平行開き。内面は平行開き。	輪孔 窓孔	輪孔 窓孔	輪孔 窓孔	輪孔 窓孔

S109 出土遺物観察表

番号	出所	名稱	法則	法則	特質 (形態・質等)	特質 (形態・質等)	特質 (形態・質等)	特質 (形態・質等)
118-1	38	土器器・窓	(4.9) / < 13.0 > / ~	輪孔上部、ロコロ切妻。外側は輪孔上部にロコロナテ。内側は輪孔上部に輪孔のヨガキで、下部 輪孔と窓ともロコロナテ。窓は輪孔のヘタケツ。	輪孔 窓孔	輪孔 窓孔	輪孔 窓孔	輪孔 窓孔
118-2	38	須恵器・窓	(22.5) / < 18.0 > / ~	輪孔上部、ロコロ切妻。外側は輪孔上部に輪孔のヨガキで、下部 輪孔と窓ともロコロナテ。窓は輪孔のヘタケツ。	輪孔 窓孔	輪孔 窓孔	輪孔 窓孔	輪孔 窓孔
118-3	38	須恵器・窓	3.7 / < 12.5 > / 6.2	ロコロ切妻。外側と窓ともロコロナテ。窓は輪孔のヘタケツ。	輪孔 窓孔	輪孔 窓孔	輪孔 窓孔	輪孔 窓孔
118-4	-	須恵器・窓	(1.6) / < - > 5.8 >	ロコロ切妻。外側と窓ともロコロナテ。窓は輪孔のヘタケツ。	輪孔 窓孔	輪孔 窓孔	輪孔 窓孔	輪孔 窓孔
118-5	38	須恵器・窓	(2.6) / < - > 8.0 >	ナカイケツ。輪孔は輪孔のヘタケツから、輪孔周辺は本体の輪孔上部に輪孔のヨガキで、下部 窓は輪孔のヘタケツ。	輪孔 窓孔	輪孔 窓孔	輪孔 窓孔	輪孔 窓孔
118-6	38	灰被輪削・縦	(6.5) / < 13.0 > / ~	ロコロ切妻。内側と窓ともロコロナテ。窓は輪孔のヘタケツ。	輪孔 窓孔	輪孔 窓孔	輪孔 窓孔	輪孔 窓孔
118-7	38	須恵器・縦	(3.5) / < - > -	ロコロ切妻。内側と窓ともロコロナテ。窓は輪孔のヘタケツ。	輪孔 窓孔	輪孔 窓孔	輪孔 窓孔	輪孔 窓孔
118-8	38	須恵器・縦窓	(5.8) / < - > -	月桂樹型羽目。内側と窓とも輪孔のヘタケツ。	輪孔 窓孔	輪孔 窓孔	輪孔 窓孔	輪孔 窓孔

S110 出土遺物觀察表

番号	名前	法則	法則断面 (1F/ 基材) (mm)	特徴 (形態・表面等)	特徴 (形態・表面等)	特徴 (形態・表面等)	特徴 (形態・表面等)	種類
123. 1	38	上端部・裏	(10.8) / < 19.4 >/ -	コガネミクロナ。1端部に凹出するくぼみ。周囲はやわらかい。1Fの内側面には、特に、ツバキの葉脈が複数ある。外側面には、特に、ツバキの葉脈が複数ある。外側面には、特に、ツバキの葉脈が複数ある。	横断面は中央部と外側部で、ツバキの葉脈が複数ある。外側部は外側面で、ツバキの葉脈が複数ある。外側部は外側面で、ツバキの葉脈が複数ある。	断上・横質	直線外縁・内面	S10底底・壁上
123. 2	38	上端部・裏	(7.2) / < 18.6 >/ -	ツバキ葉。外側面は、特に、ツバキの葉脈が複数ある。外側面は、特に、ツバキの葉脈が複数ある。外側面は、特に、ツバキの葉脈が複数ある。外側面は、特に、ツバキの葉脈が複数ある。	横断面は中央部と外側部で、ツバキの葉脈が複数ある。外側部は外側面で、ツバキの葉脈が複数ある。	直線外縁・内面	直線外縁・内面	S10底底・壁上
123. 3	38	上端部・裏	(5.6) / < 20.0 >/ -	ツバキ葉。外側面は、特に、ツバキの葉脈が複数ある。外側面は、特に、ツバキの葉脈が複数ある。外側面は、特に、ツバキの葉脈が複数ある。外側面は、特に、ツバキの葉脈が複数ある。	横断面は中央部と外側部で、ツバキの葉脈が複数ある。外側部は外側面で、ツバキの葉脈が複数ある。	直線外縁・内面	直線外縁・内面	S10壁上
123. 4	38	上端部・裏	(7.9) / < 11.8 >/ -	小葉葉。外側部の葉脈はもうろこ。葉脈は複数ある。外側部。葉脈がやわらかい。葉脈がやわらかい。葉脈がやわらかい。	横断面は中央部と外側部で、葉脈は複数ある。外側部。葉脈は複数ある。外側部。葉脈は複数ある。	直線外縁・内面	直線外縁・内面	S10壁上・ 底底
123. 5	38	上端部・裏	(11.0) / < 13.6 >/ -	ツバキ葉。外側部は、特に、ツバキの葉脈が複数ある。外側部は、特に、ツバキの葉脈が複数ある。外側部は、特に、ツバキの葉脈が複数ある。外側部は、特に、ツバキの葉脈が複数ある。	横断面は中央部と外側部で、葉脈は複数ある。外側部。葉脈は複数ある。外側部。葉脈は複数ある。	直線外縁・内面	直線外縁・内面	S10カマド
123. 6	38	直端部・裏	(5.0) / < -19.8 >	内側部。内側部には、特に、ツバキの葉脈が複数ある。内側部には、特に、ツバキの葉脈が複数ある。内側部には、特に、ツバキの葉脈が複数ある。	直線外縁・内面	直線外縁・内面	直線外縁・内面	S10壁上
123. 7	38	直端部・裏	5.3 / < 15.0 >/ < 6.8 >	ツバキ葉形。内外部ともにクロロナ。底面は右側を切り、体部は左側を切り。底部は左側を切り。底部は左側を切り。底部は左側を切り。	直線外縁・内面	直線外縁・内面	直線外縁・内面	S10軒窓六
123. 8	-	直端部・裏	3.6 / < -14.2 >/ < 7.6 >	ツバキ葉形。内外部ともにクロロナ。底面は右側を切り。体部は左側を切り。底部は左側を切り。外側部は、特に、ツバキの葉脈が複数ある。	直線外縁・内面	直線外縁・内面	直線外縁・内面	直線外縁・ 底底
123. 9	38	直端部・裏	3.9 / < 13.0 / 7.1	ツバキ葉形。内外部ともにクロロナ。底面は右側を切り。	直線外縁・内面	直線外縁・内面	直線外縁・内面	S10軒窓六
123. 10	38	直端部・裏	4.0 / < 12.6 / 6.6	ツバキ葉形。内外部ともにクロロナ。底面は右側を切り。左側。体部外側に「壁」の墨書き。左側。体部外側に「壁」の墨書き。	直線外縁・内面	直線外縁・内面	直線外縁・内面	S10壁上
123. 11	38	直端部・端か	(4.2) / < -15.8 >/ -	ツバキ葉形。内外部ともにクロロナ。内側部は左側を切り。外側部は右側を切り。底面は左側を切り。左側。体部外側に「壁」の墨書き。	直線外縁・内面	直線外縁・内面	直線外縁・内面	S10軒窓六
123. 12	38	直端部・端か	(4.2) / < -13.9 >/ -	ツバキ葉形。内外部ともにクロロナ。底面は右側を切り。	直線外縁・内面	直線外縁・内面	直線外縁・内面	S10軒窓六
123. 13	38	直端部・裏	(2.1) / < - / 6.8	ツバキ葉形。内外部ともにクロロナ。底面は右側を切り。左側。体部外側に「壁」の墨書き。	直線外縁・内面	直線外縁・内面	直線外縁・内面	S10壁上
123. 14	38	直端部・裏	(3.5) / < - / -	ツバキ葉形。内外部ともにクロロナ。底面は右側を切り。左側。体部外側に「壁」の墨書き。	直線外縁・内面	直線外縁・内面	直線外縁・内面	S10壁上
123. 15	38	直端部・裏	(1.7) / < - / 7.8	ツバキ葉形。内外部ともにクロロナ。底面は右側を切り。左側。体部外側に「壁」の墨書き。	直線外縁・内面	直線外縁・内面	直線外縁・内面	S10壁上
123. 16	38	直端部・裏	(3.5) / < - / 8.0	ツバキ葉形。内外部ともにクロロナ。底面は右側を切り。左側。体部外側に「壁」の墨書き。	直線外縁・内面	直線外縁・内面	直線外縁・内面	S10壁上
123. 17	-	直端部・裏	(2.5) / < - / 6.0	ツバキ葉形。内外部ともにクロロナ。底面は右側を切り。左側。体部外側に「壁」の墨書き。	直線外縁・内面	直線外縁・内面	直線外縁・内面	S10壁上
123. 18	38	直端部・大裏	(14.4) / < - / -	内側部などにナメ。内側部などにナメ。内側部などにナメ。内側部などにナメ。内側部などにナメ。	直線外縁・内面	直線外縁・内面	直線外縁・内面	S10カマド

S111 出土遺物觀察表

番号	名前	法則	法則断面 (1F/ 基材) (mm)	特徴 (形態・手法等)	特徴 (形態・手法等)	特徴 (形態・手法等)	特徴 (形態・手法等)	備考
127. 1	30	直端部・片	3.4 / < 13.6 >/ < 7.0 >	ロクロロ葉形。内外部ともにクロロナ。	直線外縁・内面	直線外縁・内面	直線外縁・内面	S11壁上

127. 2	39	灰褐色調・輪花斑	3.0 / 13.2 / 6.9	ロコロ植物、内外どちらにもクロロナ。外周のクロロ植物は薄い。口端部には4葉の外側から1枚葉で、内側から2枚葉で、輪花斑をつくる。輪花斑は白色で、輪花斑と輪花斑の中間に1枚葉付けており後方に輪花斑がある。輪花斑は白色で、輪花斑と輪花斑の中間に1枚葉付けており後方に輪花斑がある。輪花斑は白色で、輪花斑と輪花斑の中間に1枚葉付けており後方に輪花斑がある。	小穂・砂粒	S11 露上 ほほく実存 (1種群) 40%。 大株 2号 2号 大株。
127. 3	39	灰褐色調・輪花斑	(2.5) / - / < 7.4 >	ロコロ植物、内外どちらにもクロロナ。外周のクロロ植物は薄い。口端部には4葉の外側から1枚葉で、内側から2枚葉で、輪花斑をつくる。輪花斑は白色で、輪花斑と輪花斑の中間に1枚葉付けており後方に輪花斑がある。輪花斑は白色で、輪花斑と輪花斑の中間に1枚葉付けており後方に輪花斑がある。	白色粒	S11 露上 ほほく実存 (1種群) 30%。 大株 2号 2号 大株。
127. 4	39	灰褐色調・輪花斑	(3.9) / - / -	ロコロ植物、内外どちらにもクロロナ。口端部には4葉の外側から1枚葉で、内側から2枚葉で、輪花斑をつくる。輪花斑は白色で、輪花斑と輪花斑の中間に1枚葉付けており後方に輪花斑がある。輪花斑は白色で、輪花斑と輪花斑の中間に1枚葉付けており後方に輪花斑がある。	白色粒	S11 露上 ほほく実存 (1種群) 40%。 大株 2号 2号 大株。

S113 出土遺物観察表

番号No.	目録No.	表面	法面(断面) / 口径(直径)	特徴	断上・横質	断下・横質	参考
131. 1	39	上端直・輪	(1.6) / - / 5.2	ロコロ植物、外周の輪花斑が薄い。輪花斑は白色で、輪花斑と輪花斑の中間に1枚葉付けており後方に輪花斑がある。輪花斑は白色で、輪花斑と輪花斑の中間に1枚葉付けており後方に輪花斑がある。	砂粒・砂	砂粒・砂	S11 露上 ほほく実存 (1種群) 40%。
131. 2	39	直端直・輪	(2.7) / - / < 6.6 >	ロコロ植物、外周の輪花斑が薄い。輪花斑は白色で、輪花斑と輪花斑の中間に1枚葉付けており後方に輪花斑がある。	砂粒・砂	砂粒・砂	S11 露上 ほほく実存 (1種群) 10%。
131. 3	39	直端直・輪	4.5 / < 14.4 / - / 6.2	ロコロ植物、外周の輪花斑が薄い。輪花斑は白色で、輪花斑と輪花斑の中間に1枚葉付けており後方に輪花斑がある。輪花斑は白色で、輪花斑と輪花斑の中間に1枚葉付けており後方に輪花斑がある。	砂粒・砂	砂粒・砂	S11 露上 ほほく実存 (1種群) 50%。
131. 4	39	直端直・指進	(0.2) / - / -	ロコロ植物、外周の輪花斑が薄い。輪花斑は白色で、輪花斑と輪花斑の中間に1枚葉付けており後方に輪花斑がある。輪花斑は白色で、輪花斑と輪花斑の中間に1枚葉付けており後方に輪花斑がある。	砂粒・砂	砂粒・砂	S11 露上 ほほく実存 (1種群) 50%。
131. 5	-	直端直・裏	(0.4) / - / -	ロコロ植物、外周の輪花斑が薄い。輪花斑は白色で、輪花斑と輪花斑の中間に1枚葉付けており後方に輪花斑がある。輪花斑は白色で、輪花斑と輪花斑の中間に1枚葉付けており後方に輪花斑がある。	砂粒・砂	砂粒・砂	S11 露上 ほほく実存 (1種群) 40%。
131. 6	-	直端直・輪分	(3.6) / - / -	ロコロ植物、内外どちらにもクロロナ。外周のクロロ植物は薄い。輪分は3枚前後である。輪分は3枚前後である。	砂粒・砂	砂粒・砂	S11 露上 ほほく実存 (1種群) 40%。
131. 7	39	直端直・直	(12.7) / 0.5 / 7.07	直端直・直。輪分は3枚前後である。輪分は3枚前後である。	砂粒・砂	砂粒・砂	S11 露上 ほほく実存 (1種群) 40%。

S114 出土遺物観察表

番号No.	目録No.	表面	法面(断面) / 口径(直径)	特徴	断上・横質	断下・横質	参考
136. 1	39	上端直・裏	< 24.4 > / < 19.0 > / - / 4.2 >	コガリ植物、口端部は厚く黒い。輪花斑は白色で、輪花斑と輪花斑の中間に1枚葉付けており後方に輪花斑がある。輪花斑は白色で、輪花斑と輪花斑の中間に1枚葉付けており後方に輪花斑がある。輪花斑は白色で、輪花斑と輪花斑の中間に1枚葉付けており後方に輪花斑がある。	砂粒・砂	砂粒・砂	S11 露上 ほほく実存 (1種群) 40%。
136. 2	39	上端直・裏	(13.9) / < 18.0 > / -	コガリ植物、口端部は厚く黒い。輪花斑は白色で、輪花斑と輪花斑の中間に1枚葉付けており後方に輪花斑がある。輪花斑は白色で、輪花斑と輪花斑の中間に1枚葉付けており後方に輪花斑がある。	砂粒・砂	砂粒・砂	S11 露上 ほほく実存 (1種群) 40%。
136. 3	39	上端直・裏	(5.6) / < 19.6 > / -	コガリ植物、口端部は厚く黒い。輪花斑は白色で、輪花斑と輪花斑の中間に1枚葉付けており後方に輪花斑がある。輪花斑は白色で、輪花斑と輪花斑の中間に1枚葉付けており後方に輪花斑がある。	砂粒・砂	砂粒・砂	S11 露上 ほほく実存 (1種群) 30%。
136. 4	39	上端直・裏	(8.1) / < 20.0 > / -	コガリ植物、口端部は厚く黒い。輪花斑は白色で、輪花斑と輪花斑の中間に1枚葉付けており後方に輪花斑がある。輪花斑は白色で、輪花斑と輪花斑の中間に1枚葉付けており後方に輪花斑がある。	砂粒・砂	砂粒・砂	S11 露上 ほほく実存 (1種群) 15%。
136. 5	39	上端直・小切端	(6.4) / < 13.2 > / -	小切端・直。輪花斑は厚く黒い。輪花斑は白色で、輪花斑と輪花斑の中間に1枚葉付けており後方に輪花斑がある。	砂粒・砂	砂粒・砂	S11 露上 ほほく実存 (1種群) 20%。

S15 A 出土遺物観察表

測定No.	遺物名	基盤	法面・周縁・1HF・底面(1mm)	特徴(形態・手法)	測定	断上・横穿等	色調(外縫・内縫)	備考
143. 1	40	上端部・裏	(7.9) / < 20.6 > / ~	内縫は幅広で、外縫は幅狭く外側へ突出する。肩部の先端は鋸歯状。内縫と外縫ともに幅狭く、外縫の内縫との間に凹部がある。肩部の先端は鋸歯状。内縫は幅狭く外側へ突出する。肩部の先端は鋸歯状。	底面	斜基・内縫等 外縫	黒褐色～灰褐色 灰褐色	上端部～底面 25% 異形。 S15 8.6
143. 2	40	上端部・裏	(11.7) / < ~ / ~	内縫は幅広で、外縫は幅狭く外側へ突出する。肩部の先端は鋸歯状。内縫は幅狭く外側へ突出する。肩部の先端は鋸歯状。	底面	斜基・内縫等 外縫	灰褐色～ 白色	上端部～底面 25% 異形。 S15 7.1
143. 3	40	上端部・裏	(2.8) / < ~ / < 4.0 >	内縫は幅広で、外縫は幅狭く外側へ突出する。肩部の先端は鋸歯状。内縫は幅広で、外縫は幅狭く外側へ突出する。肩部の先端は鋸歯状。	底面	斜基・内縫等 外縫	灰褐色～ 白色	上端部～底面 25% 異形。 S15 7.1
143. 4	40	直端部・裏	(5.5) / < ~ / ~	内縫は幅広で、外縫は幅狭く外側へ突出する。肩部の先端は鋸歯状。内縫は幅広で、外縫は幅狭く外側へ突出する。肩部の先端は鋸歯状。	底面	斜基・内縫等 外縫	灰褐色～ 白色	上端部～底面 25% 異形。 S15 7.1
143. 5	40	直端部・横	3.8 / < 13.8 > / 6.4	口縫は横基。内縫は幅広で、外縫は幅狭く外側へ突出する。肩部の先端は鋸歯状。内縫は幅広で、外縫は幅狭く外側へ突出する。肩部の先端は鋸歯状。	底面	斜基・内縫等 外縫	灰褐色～ 白色	上端部～底面 50% 異形。 S15 8.6
143. 6	40	直端部・横	4.3 / < 15.0 > / < 8.0 >	口縫は横基。内縫は幅広で、外縫は幅狭く外側へ突出する。肩部の先端は鋸歯状。内縫は幅広で、外縫は幅狭く外側へ突出する。肩部の先端は鋸歯状。	底面	斜基・内縫等 外縫	灰褐色～ 白色	上端部～底面 30% 異形。 S15 7.1
143. 7	40	直端部・横	5.4 / < 17.4 > / 7.3	口縫は横基。内縫は幅広で、外縫は幅狭く外側へ突出する。肩部の先端は鋸歯状。内縫は幅広で、外縫は幅狭く外側へ突出する。肩部の先端は鋸歯状。	底面	斜基・内縫等 外縫	灰褐色～ 白色	上端部～底面 45% 異形。 S15 7.1
143. 8	-	直端部・横	(1.3) / < ~ / < 7.4 >	口縫は横基。内縫は幅広で、外縫は幅狭く外側へ突出する。肩部の先端は鋸歯状。内縫は幅広で、外縫は幅狭く外側へ突出する。肩部の先端は鋸歯状。	底面	斜基・内縫等 外縫	灰褐色～ 白色	底面 20% 異形。 S15 7.1
143. 9	40	上端部・裏	(7.3) / < ~ / ~	口縫は横基。内縫は幅広で、外縫は幅狭く外側へ突出する。肩部の先端は鋸歯状。内縫は幅広で、外縫は幅狭く外側へ突出する。肩部の先端は鋸歯状。	底面	斜基・内縫等 外縫	灰褐色～ 白色	上端部～ S15 7.1
143. 10	-	上端部・裏	(2.5) / < ~ / ~	口縫は横基。内縫は幅広で、外縫は幅狭く外側へ突出する。肩部の先端は鋸歯状。内縫は幅広で、外縫は幅狭く外側へ突出する。肩部の先端は鋸歯状。	底面	斜基・内縫等 外縫	灰褐色～ 白色	上端部～ S15 7.1
143. 11	40	直端部・大腰	(8.0) / < ~ / ~	内縫は幅広で、外縫は幅狭く外側へ突出する。肩部の先端は鋸歯状。内縫は幅広で、外縫は幅狭く外側へ突出する。肩部の先端は鋸歯状。	底面	斜基・内縫等 外縫	灰褐色～ 白色	上端部～ S15 7.1

S16 出土遺物観察表

測定No.	遺物名	基盤	法面・周縁・1HF・底面(1mm)	特徴(形態・手法)	測定	断上・横穿等	色調(外縫・内縫)	備考
148. 1	40	直端部・横	3.8 / < 13.1 > / 6.4	口縫は横基。内縫は幅広で、外縫は幅狭く外側へ突出する。肩部の先端は鋸歯状。内縫は幅広で、外縫は幅狭く外側へ突出する。肩部の先端は鋸歯状。	底面	斜基・内縫等 外縫	灰褐色～ 白色	上端部～底面 90% 異形。 S16 7.1
148. 2	40	直端部・横	3.9 / < 13.6 > / 6.0	口縫は横基。内縫は幅広で、外縫は幅狭く外側へ突出する。肩部の先端は鋸歯状。内縫は幅広で、外縫は幅狭く外側へ突出する。肩部の先端は鋸歯状。	底面	斜基・内縫等 外縫	灰褐色～ 白色	上端部～底面 90% 異形。 S16 7.1
148. 3	40	直端部・横	4.1 / < 13.2 > / 6.2	口縫は横基。内縫は幅広で、外縫は幅狭く外側へ突出する。肩部の先端は鋸歯状。内縫は幅広で、外縫は幅狭く外側へ突出する。肩部の先端は鋸歯状。	底面	斜基・内縫等 外縫	灰褐色～ 白色	上端部～底面 40% 異形。 S16 7.1
148. 4	40	直端部・横	3.8 / < 12.2 > / < 6.4 >	口縫は横基。内縫は幅広で、外縫は幅狭く外側へ突出する。肩部の先端は鋸歯状。内縫は幅広で、外縫は幅狭く外側へ突出する。肩部の先端は鋸歯状。	底面	斜基・内縫等 外縫	灰褐色～ 白色	上端部～底面 15% 異形。 S16 7.1
148. 5	40	直端部・横	5.1 / < 15.8 > / < ~ >	口縫は横基。内縫は幅広で、外縫は幅狭く外側へ突出する。肩部の先端は鋸歯状。内縫は幅広で、外縫は幅狭く外側へ突出する。肩部の先端は鋸歯状。	底面	斜基・内縫等 外縫	灰褐色～ 白色	上端部～底面 20% 異形。 S16 7.1
148. 6	40	直端部・横	(2.0) / < ~ / < 7.6 >	口縫は横基。内縫は幅広で、外縫は幅狭く外側へ突出する。肩部の先端は鋸歯状。内縫は幅広で、外縫は幅狭く外側へ突出する。肩部の先端は鋸歯状。	底面	斜基・内縫等 外縫	灰褐色～ 白色	上端部～底面 40% 異形。 S16 7.1
148. 7	40	直端部・横	2.4 / < 12.8 > / < 7.2 >	口縫は横基。内縫は幅広で、外縫は幅狭く外側へ突出する。肩部の先端は鋸歯状。内縫は幅広で、外縫は幅狭く外側へ突出する。肩部の先端は鋸歯状。	底面	斜基・内縫等 外縫	灰褐色～ 白色	上端部～底面 40% 異形。 S16 7.1
148. 8	40	末端部・横	5.8 / < 17.0 > / < 7.4 >	口縫は横基。内縫は幅広で、外縫は幅狭く外側へ突出する。肩部の先端は鋸歯状。内縫は幅広で、外縫は幅狭く外側へ突出する。肩部の先端は鋸歯状。	底面	斜基・内縫等 外縫	灰褐色～ 白色	上端部～底面 35% 異形。 S16 7.1

卷之三

種類(毛色・手形)	法則距離(1行程/実行)(cm)	距離感	距離感	直角距離感	距離感	直角距離感	直角距離感	直角距離感	直角距離感
黒斑(毛色)・手形A	(5.3) ~ / =	黒斑の範囲は広く多く、あるいは手形が手の外側に多く分布する。	黒斑は手の内側に多く分布する。	手の内側に多く分布する。	手の内側に多く分布する。	手の内側に多く分布する。	手の内側に多く分布する。	手の内側に多く分布する。	手の内側に多く分布する。
黒斑(毛色)・手形B	59.1	40	黒斑が	黒斑が	黒斑が	黒斑が	黒斑が	黒斑が	黒斑が
黒斑(毛色)・手形C	59.1	50	黒斑は	黒斑は	黒斑は	黒斑は	黒斑は	黒斑は	黒斑は

卷之三

試験 番号	試験 方法	試験 条件	試験 結果	特徴 (形態・手法等)	
				外観 (外側・内側)	形状・材質等 (外側・内側)
8.3.1	アダマツ (内皮剥離法)	高強 波長 周波数 (kHz)	400 400	直角端・異 形(4.7)~/-	直角端・異 形(4.7)~/-
8.3.2	アダマツ (内皮剥離法)	高強 波長 周波数 (kHz)	400 400	直角端・異 形(4.7)~/-	直角端・異 形(4.7)~/-

83-2 40 上端器・賣 (54)

品目	規格	原産地	販路	販売量
内面糊	85.3×3.5×40	国産	専門店	S105.7
外面糊	85.3×3.5×40	国産	専門店	S105.7
内面糊	85.3×3.5×40	国産	専門店	S105.7
外面糊	85.3×3.5×40	国産	専門店	S105.7

(127)

83.6	40	天板脚・ 脚	(28) /—/—	クロロゲン、内臓特に心臓に認められる。外因的刺激ではアルカリ性物質による。示例として、 たぬきの皮にアルカリ性物質を作用させると、その皮下組織が黒色となる。	薄板、 表面黒化 アルカリ 水素水素	白色地 黒色 水素水素	5953
83.6	40	天板脚・ 脚	(28) /—/—	上臓部に認められる。	薄板、 表面黒化 アルカリ 水素水素	黒化、 表面黒化 アルカリ 水素水素	5953

卷之三

卷之二

183.12	40	須地器・瓶か 豆足器・瓶か 豆足器・瓶か 豆足器・瓶か	(2.5) / < 10.8 > / -	ロクロ織目、内外側とともにロクロナガ。 直筒 (81.1) 高・部形高さは 1.5cm程度。底面が質しく、底面がかかるにいく。身は直腹の 直筒で、底面は浅い形。外底面は先端側になるとこなると、腰の木部が現 れる。斜らの上工作である。	直元高・ 6mm・白色釉 直元高・ 6mm・白色釉 直元高・ 6mm・白色釉 直元高・ 6mm・白色釉	-	-	直元高・ 6mm・白色釉 直元高・ 6mm・白色釉 直元高・ 6mm・白色釉 直元高・ 6mm・白色釉	直元高・ 6mm・白色釉 直元高・ 6mm・白色釉 直元高・ 6mm・白色釉 直元高・ 6mm・白色釉	SK 166 F 38
183.13	40	須地器・ 豆足器・ 豆足器・ 豆足器・瓶	(20.3) / 1.3 / < 9.7 >	直筒 (81.1) 高・部形高さは 1.5cm程度。底面が質しく、底面がかかるにいく。身は直腹の 直筒で、底面は浅い形。外底面は先端側になるとこなると、腰の木部が現 れる。斜らの上工作である。	直元高・ 6mm・ 6mm・ 6mm・ 6mm	-	-	直元高・ 6mm・ 6mm・ 6mm・ 6mm	直元高・ 6mm・ 6mm・ 6mm・ 6mm	SK 166
平安時代ビット出土遺物調査表										
相場No. 調査No. 高幅 法螺(高さ・口径・底径)(mm) 特徴(形態・手法等)										
184. 1	40	須地器・瓶か 豆足器・瓶か 豆足器・瓶か 豆足器・瓶か	(3.3) / - / -	ロクロ織目、内外面ともにロクロナガ。 内外面ともに輪郭ナガ。 内外面ともに輪郭ナガ。	直元高・ 6mm・ 6mm・ 6mm・ 6mm	-	-	直元高・ 6mm・ 6mm・ 6mm・ 6mm	直元高・ 6mm・ 6mm・ 6mm・ 6mm	P02
184. 2	40	須地器・ 豆足器・ 豆足器・ 豆足器・瓶	(1.7) / - / -	ロクロ織目、内外面ともに輪郭ナガ。 底面は斜め切ぎ。底面は斜め切ぎ。底面は斜め切ぎ。底面は斜め切ぎ。	直元高・ 6mm・ 6mm・ 6mm・ 6mm	-	-	直元高・ 6mm・ 6mm・ 6mm・ 6mm	直元高・ 6mm・ 6mm・ 6mm・ 6mm	P02
184. 3	40	須地器・ 豆足器・ 豆足器・ 豆足器・瓶	(1.5) / - / < 6.0 >	ロクロ織目、内外面ともに輪郭ナガ。 底面は斜め切ぎ。底面は斜め切ぎ。底面は斜め切ぎ。底面は斜め切ぎ。	直元高・ 6mm・ 6mm・ 6mm・ 6mm	-	-	直元高・ 6mm・ 6mm・ 6mm・ 6mm	直元高・ 6mm・ 6mm・ 6mm・ 6mm	P21
近世自然流路出土遺物調査表										
相場No. 調査No. 高幅 法螺(高さ・口径・底径)(mm) 特徴(形態・手法等)										
191. 1	41	須地器・ 豆足器・ 豆足器・ 豆足器・ 豆足器	(3.4) / - < 5.5 >	ロクロ織目、内外面ともに輪郭ナガ。 内外面ともに輪郭ナガ。内外面ともに輪郭ナガ。内外面ともに輪郭ナガ。内外面ともに輪郭ナガ。	直元高・ 6mm・ 6mm・ 6mm・ 6mm	-	-	直元高・ 6mm・ 6mm・ 6mm・ 6mm	直元高・ 6mm・ 6mm・ 6mm・ 6mm	S002
191. 2	41	須地器・ 豆足器・ 豆足器・ 豆足器・ 豆足器	(3.3) / - / -	内外面ともに輪郭ナガ。内外面ともに輪郭ナガ。内外面ともに輪郭ナガ。内外面ともに輪郭ナガ。内外面ともに輪郭ナガ。	直元高・ 6mm・ 6mm・ 6mm・ 6mm	-	-	直元高・ 6mm・ 6mm・ 6mm・ 6mm	直元高・ 6mm・ 6mm・ 6mm・ 6mm	S002
191. 3	41	須地器・ 豆足器・ 豆足器・ 豆足器・ 豆足器	(7.6) / - / -	内外面ともに輪郭ナガ。内外面ともに輪郭ナガ。内外面ともに輪郭ナガ。内外面ともに輪郭ナガ。内外面ともに輪郭ナガ。	直元高・ 6mm・ 6mm・ 6mm・ 6mm	-	-	直元高・ 6mm・ 6mm・ 6mm・ 6mm	直元高・ 6mm・ 6mm・ 6mm・ 6mm	S004
191. 4	-	須地器・ 豆足器・ 豆足器・ 豆足器	(2.4) / - / -	白磁の器。あるいは可能性もある。しかし口部は無形状で、いわゆる口吹きである。 中里。	直元高・ 6mm・ 6mm・ 6mm・ 6mm	-	-	直元高・ 6mm・ 6mm・ 6mm・ 6mm	直元高・ 6mm・ 6mm・ 6mm・ 6mm	S005
邊境外遺物出土遺物調査表										
相場No. 調査No. 高幅 法螺(高さ・口径・底径)(mm) 特徴(形態・手法等)										
226. 1	41	須地器・ 豆足器・ 豆足器・ 豆足器	< 30.0 > / - / 丸底	直筒と斜らの上工作。口部は斜らの上工作。底面は斜らの上工作。直筒には横筋がある。 直筒には横筋がある。直筒には横筋がある。直筒には横筋がある。	直元高・ 6mm・ 6mm・ 6mm・ 6mm	-	-	直元高・ 6mm・ 6mm・ 6mm・ 6mm	直元高・ 6mm・ 6mm・ 6mm・ 6mm	2.52 K 18
226. 2	41	須地器・ 豆足器・ 豆足器・ 豆足器	< 37.0 > / - / -	直筒と斜らの上工作。口部は斜らの上工作。底面は斜らの上工作。直筒には横筋がある。 直筒には横筋がある。直筒には横筋がある。直筒には横筋がある。	直元高・ 6mm・ 6mm・ 6mm・ 6mm	-	-	直元高・ 6mm・ 6mm・ 6mm・ 6mm	直元高・ 6mm・ 6mm・ 6mm・ 6mm	2.52 K 18
226. 3	41	須地器・ 豆足器・ 豆足器・ 豆足器	(12.4) / < 20.6 > / -	内面はいわゆる M 字ルーチー呼ばれる形態。両側面ともに横筋。 内面はいわゆる M 字ルーチー呼ばれる形態。両側面ともに横筋。	直元高・ 6mm・ 6mm・ 6mm・ 6mm	-	-	直元高・ 6mm・ 6mm・ 6mm・ 6mm	直元高・ 6mm・ 6mm・ 6mm・ 6mm	2.52 K 11
226. 4	41	須地器・ 豆足器・ 豆足器・ 豆足器	(2.4) / - < 10.6 >	無。内面に横筋があり。 内面はナダ。内面に横筋があり。	直元高・ 6mm・ 6mm・ 6mm・ 6mm	-	-	直元高・ 6mm・ 6mm・ 6mm・ 6mm	直元高・ 6mm・ 6mm・ 6mm・ 6mm	SK 26
226. 5	-	須地器・ 豆足器・ 豆足器・ 豆足器	(5.1) / - / -	内側から外側にかけて、わずかに内側が打ち抜かれて、外側が先端側にさかがっている。体部は直筒。腰部は斜らの上工作。内面は横筋ナダ。	直元高・ 6mm・ 6mm・ 6mm・ 6mm	-	-	直元高・ 6mm・ 6mm・ 6mm・ 6mm	直元高・ 6mm・ 6mm・ 6mm・ 6mm	2.53 K 17
227. 6	41	須地器・ 豆足器・ 豆足器・ 豆足器	(7.2) / - / -	内側から外側にかけて、体部は斜らの上工作。内面は横筋ナダ。内面は横筋ナダ。	直元高・ 6mm・ 6mm・ 6mm・ 6mm	-	-	直元高・ 6mm・ 6mm・ 6mm・ 6mm	直元高・ 6mm・ 6mm・ 6mm・ 6mm	2.53 K 17
227. 7	41	須地器・ 豆足器・ 豆足器・ 豆足器	(4.8) / - / -	口部は斜らの上工作する。直筒による文様。用字は斜らの上工作。内面は直筒による文様。	直元高・ 6mm・ 6mm・ 6mm・ 6mm	-	-	直元高・ 6mm・ 6mm・ 6mm・ 6mm	直元高・ 6mm・ 6mm・ 6mm・ 6mm	2.53 K 17
227. 8	41	須地器・ 豆足器・ 豆足器・ 豆足器	(6.2) / - / -	円筒状の突起を持つ直筒。外側に横筋がある。内面は横筋ナダ。	直元高・ 6mm・ 6mm・ 6mm・ 6mm	-	-	直元高・ 6mm・ 6mm・ 6mm・ 6mm	直元高・ 6mm・ 6mm・ 6mm・ 6mm	2.52 K 11
227. 9	41	須地器・ 豆足器・ 豆足器・ 豆足器	(8.2) / - / -	外側の横筋は、一輪の輪である。腰部を下で打ち抜く。外側は斜らの上工作。内面は横筋ナダ。	直元高・ 6mm・ 6mm・ 6mm・ 6mm	-	-	直元高・ 6mm・ 6mm・ 6mm・ 6mm	直元高・ 6mm・ 6mm・ 6mm・ 6mm	2.52 K 11
227. 10	41	須地器・ 豆足器・ 豆足器・ 豆足器	(8.2) / - / -	内面は横筋ナダ。	直元高・ 6mm・ 6mm・ 6mm・ 6mm	-	-	直元高・ 6mm・ 6mm・ 6mm・ 6mm	直元高・ 6mm・ 6mm・ 6mm・ 6mm	SK 005

227-11	-	網子上部*	(4.7) /~/-	外筋は斜めに引いた状態で曲がる。網子下部は交差して作り、内筋はとんぼ羽型で作る。外筋はナード。織子	良好	長尺・小筋織	端子間	端子間 (1端子)	表裏
227-12	41	網子上部*	(7.0) /~/-	外筋は斜めの筋目で、筋目が平行で作る。外筋はナード。織子	良好	斜筋多筋	にひら・網子	端子間 (1端子)	2-53区C-8
227-13	41	網子上部*	(10.3) /~/-	外筋は斜めの筋目で、筋目が平行で作る。外筋はナード。織子	良好	斜筋多筋	にひら・網子	端子間 (1端子)	SK135-P84
227-14	41	網子上部*	(11.3) /~/-	外筋は斜めに引いた状態で曲がる。外筋はナード。織子	良好	網子・斜筋・ 小筋	端子間	端子間 (1端子)	2-52-18/T19
227-15	41	網子上部*	(4.9) /~/-	端子及び側面は斜めに引いた状態で、内筋は横筋ナード。	良好	網子・斜筋	端子間	端子間 (1端子)	SH15-17
227-16	41	網子上部*	(4.2) /~/-	斜行筋織による筋目模様。外筋はナード。内筋は横筋ナード。	良好	内筋	端子間	端子間 (1端子)	5005
227-17	41	網子上部*	(4.5) (4.1) /~/-	斜行筋織による筋目模様で2通り。外筋はナード。内筋はナード。外筋は斜めに引いた状態で、内筋は直角で作る。外筋はナード。内筋はナード。	良好	内筋	端子間	端子間 (1端子)	SK104-111
227-18	41	網子上部*	(4.8) /~/-	外筋は斜めに引いた状態で、筋目を交叉。内筋はとんぼ羽型でナード。	良好	斜筋多筋	にひら・網子	端子間 (1端子)	2-53区D-5
227-19	41	網子上部*	(4.9) /~/-	斜行筋織による筋目模様で、外筋はナード。内筋は横筋ナード。	良好	斜筋	端子間	端子間 (1端子)	表裏
227-20	41	網子上部*	(5.5) /~/-	斜行筋織による筋目模様で、外筋はナード。内筋は横筋ナード。	良好	内筋	端子間	端子間 (1端子)	2-52区Q-12
227-21	-	網子上部*	(5.9) /~/-	外筋は斜めに引いた状態で2通りの筋目模様で、内筋は斜めのナード。	良好	小筋	端子間	端子間 (1端子)	2-52区Q-12
227-22	41	網子上部*	(4.4) /~/-	外筋は斜め引いた状態で2通りの筋目模様で2通りの筋目模様で、内筋はとんぼ羽型。	良好	内筋	端子間	端子間 (1端子)	表裏
227-23	-	網子上部*	(4.2) /~/-	外筋は斜めの筋目模様で筋目模様で2通りの筋目模様で、内筋はとんぼ羽型。	良好	斜筋多筋	にひら・網子	端子間 (1端子)	2-53区B-10
228-24	41	斜行筋織*	長1.9 /~長1.4 /~厚0.4	斜筋0.8g/m ² 、内筋0.5g/m ² 。	-	馬蹄筋	-	端子間 (1端子)	SH15-17
228-25	41	斜行筋織*	長1.9 /~長1.5 /~厚0.3	斜筋0.8g/m ² 、内筋0.5g/m ² 。	-	馬蹄筋	-	端子間 (1端子)	2-53区B-17
228-26	41	斜行筋織*	長2.8 /~長1.7 /~厚0.5	斜筋2.2g/m ² 、内筋。	-	黑色公認筋	-	端子間 (1端子)	SH15-17
228-27	41	斜行筋織*	長(2.2) /~長1.5 /~厚0.4	斜筋0.07 g/m ² 、内筋。	-	馬蹄筋	-	端子間 (1端子)	2-52区X-20
228-28	41	斜行筋織*	長(2.4) /~長1.8 /~厚0.5	斜筋0.13 g/m ² 、内筋。	-	馬蹄筋	-	端子間 (1端子)	2-53区E-10
228-29	41	斜行筋織*	長2.4 /~長2.4 /~厚0.8	斜筋4.2g/m ² 。	-	斜筋多筋	-	端子間 (1端子)	2-52区T-17
228-30	-	斜行筋織*	長(8.0) /~幅5.5 /~厚5.5	斜筋6.0g/m ² 、内筋2.0g/m ² 。	-	網子	-	端子間 (1端子)	2-53区A-19
228-31	41	斜行筋織*	長8.3 /~幅6.0 /~厚1.0	斜筋6.6g/m ² 、内筋2.0g/m ² 。	-	網子	-	端子間 (1端子)	5031
228-32	42	再生上部・側	(2.7) /~<5.6>	端子、外筋はナード。内筋は横筋。	良好	内筋	網子・側面	端子間 (1端子)	2-52区P-20
228-33	42	再生上部・側	(5.6) /~<~	内筋の筋目模様を文様する。内筋はとんぼ羽型。	良好	内筋	網子・側面	端子間 (1端子)	1区側面
228-34	42	再生上部・側	(10.1) /~<~	内筋の筋目模様が斜めに引いてある。外筋はナード。内筋は横筋。	良好	内筋	網子・側面	端子間 (1端子)	1区側面
228-35	42	再生上部・側	(3.4) /~<~	内筋は斜めに引いてある。外筋はナード。内筋は横筋。	良好	内筋	網子・側面	端子間 (1端子)	1区側面
228-36	42	再生上部・側	(4.7) /~<~	内筋は直角的に引いてある。外筋はナード。	良好	内筋	網子・側面	端子間 (1端子)	SH150

228-37	42	争生・奥・奥	(3.1) / - / -	外にはよく水蒸気、雨風は屋外を文庫、内にはナガフ。内には窓合ナダ。	良好	石高・中間	会場	織り/骨材 (44.5)	高見
228-38	-	争生・奥・奥	(4.3) / - / -	外には窓合ナダ。内にはナガフ。	良好	石高	織り/骨材 (44.5)	SK16	
228-39	42	争生・奥・奥	(6.8) / - / -	外には窓合ナダ。内にはナガフ。	良好	石高	織り/骨材 (44.5)	1.5調合区	
228-40	42	争生・奥・奥	(7.0) / - / -	外には窓合ナダ。内にはナガフ。	良好	角門石・片口	会場/会場	2-32 K P-20	
228-	42	争生・奥・奥	(6.0) / - / -	外には窓合ナダ。内にはナガフ。	良好	白色	織り/骨材 (44.5) / 細	S05	
41+ 48	42	争生・奥・奥	(6.0) / - / -	外には窓合ナダ。内にはナガフ。	良好	白色	織り/骨材 (44.5)	1.5調合区	
228-42	42	争生・上端・岩	(7.8) / - / -	外には窓合ナダ。内にはナガフ。	良好	砂粒/粗	相	織り/骨材 (44.5)	1.5調合区
228-43	42	争生・上端・奥	(3.4) / - / -	外には窓合ナダ。内にはナガフ。	良好	砂粒/粗	明示開	織り/骨材 (44.5)	1.5調合区
228-44	42	争生・上端・奥	(4.5) / - / -	外には窓合ナダ。内にはナガフ。	良好	チャート	異形・暗	SK1・SK62・ 2-62 K O-P-1	
228-45	42	争生・上端・奥	(5.3) / - / -	外には窓合ナダ。内にはナガフ。	良好	砂粒	織り/骨材 (44.5)	1.5調合区	
228-46	42	争生・上端・前	(4.3) / - / -	外にはよく水蒸気を含む。内にはナガフ。	良好	砂粒	明示・相	2-62 K O-P-1	
228-47	42	争生・上端・奥	(1.3) / - / -	外には窓合ナダ。内にはナガフ。	良好	砂粒	明示・相	SK106	
228-49	42	上端・奥	(11.9) / < 17.0 > / -	外には窓合ナダ。内にはナガフ。	少好	砂粒・石英	明示・相	1.5調合区	
228-50	42	上端・奥	(2.5) / < 14.2 > / -	外には窓合ナダ。内にはナガフ。	良好	砂粒・石英	明示・相	1.5調合区	
229-51	42	直通路・複合	(3.0) / < 13.0 > / -	外にはよく水蒸気があり、一見で窓合のように見える。 外には窓合があるが、内には無。	良好	砂粒・石英	明示・相	1.5調合区	
229-52	42	直通路・複合	4.2 / < 16.0 > / < 8.0 >	ロクロ野形。内外ともにロクロナダ。直通は直通野切り。	良好	砂粒・石英	明示・相	1.5調合区	
229-53	42	直通路・複合	4.2 / < 14.4 > / < 6.8 >	ロクロ野形。内外ともにロクロナダ。直通は直通野切り。	良好	砂粒・石英	明示・相	1.5調合区	
229-54	42	直通路・複合	3.4 / 13.2 / 7.2	ロクロ野形。内外ともにロクロナダ。外にはクロ野形の野形。	良好	砂粒・石英	明示・相	1.5調合区	
229-55	42	直通路・複合	(5.0) / < 13.4 > / -	ロクロ野形。内外ともにロクロナダ。直通は直通野切り。	良好	砂粒・石英	明示・相	1.5調合区	
229-56	42	直通路・複合	(4.4) / < 16.0 > / -	ロクロ野形。内外ともにロクロナダ。直通は直通野切り。	良好	砂粒・石英	明示・相	1.5調合区	
229-57	-	直通路・複合	(3.2) / < 14.0 > / -	ロクロ野形。内外ともにロクロナダ。直通は直通野切り。	良好	砂粒・石英	明示・相	1.5調合区	
229-58	42	直通路・複合	(2.0) / < < 4.6 >	外には窓合があるが、正直野が無い。	良好	砂粒・石英	明示・相	1.5調合区	
229-59	-	直通路・複合	(1.3) / < 7.4	外には窓合があるが、正直野が無い。	良好	長石	直通/50% W/H.	2-53 K A 11	
229-60	42	直通路・複合	(2.8) / < < 9.0 >	ロクロ野形。内外ともにロクロナダ。直通は直通野切り。直通は直通野。	良好	砂粒・石英	直通下位/高台部 40% W/H.	2-53 K C 9	
229-61	42	直通路・複合	(3.7) / < < 8.0 >	ロクロ野形。内外ともにロクロナダ。直通は直通野切り。直通は直通野。	良好	砂粒・石英	直通下位/高台部 40% W/H.	1.5調合区	
229-62	42	直通路・複合	(2.4) / < < 8.0 >	ロクロ野形。内外ともにロクロナダ。直通は直通野切り。	良好	砂粒・石英	直通下位/高台部 40% W/H.	2-53 K A 4	
229-63	42	直通路・複合	(1.9) / < < 8.0 >	ロクロ野形。内外ともにロクロナダ。直通は直通野切り。直通は直通野。	良好	石英・正石	直通下位/高台部 40% W/H.	2-53 K A 4	
229-64	-	直通路・複合	(2.3) / < < 8.0 >	ロクロ野形。内外ともにロクロナダ。直通は直通野切り。	良好	石英	直通下位/底層 20% W/H.	2-53 K A 12	
229-65	-	直通路・複合	(2.9) / < < 7.2 >	ロクロ野形。内外ともにロクロナダ。直通は直通野切り。	良好	石英	直通下位—底層 25% W/H.	2-43 K 区段	

